

平成30年度  
生駒市人権に関する  
市民意識調査結果報告書

2018（平成30）年12月

生 駒 市

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
2	人権問題等の考え方	11
	(1) 人権についての考え	11
	(2) 人権全般関心項目	30
	(3) 人権全般（感じ方）	42
	(4) 人権全般（人権尊重の意味）	45
	(5) 自分の人権侵害の有無	48
	(6) 人権侵害の内容	52
	(7) 対処方法	58
	(8) 対処しなかった理由	62

3	主な人権課題について .....	65
	(1) 女性に関する人権問題.....	65
	(2) 子どもに関する人権問題.....	69
	(3) 高齢者に関する人権問題.....	74
	(4) 障がい者に関する人権問題.....	80
	(5) 同和問題に関する人権問題.....	86
	(6) 在日外国人に関する人権問題.....	90
	(7) 犯罪被害者に関する人権問題.....	95
	(8) インターネットに関する人権問題.....	98
	(9) L G B Tなどの性的少数者に関する人権問題.....	102
	(10) 東日本大震災や福島第1原子力発電所事故に関する人権問題.....	106
4	人権学習や行政への要望等 .....	109
	(1) 人権問題の講演会や研修会への参加状況.....	109
	(2) 最近1年間の参加状況.....	112
	(3) 今まで参加した講演会の内容.....	115
	(4) 最近1年間に参加した講演会の内容.....	118
	(5) 今までに参加した回数.....	121
	(6) 参加しての印象や感想.....	123
	(7) 見聞きしたことがある人権啓発活動.....	125
	(8) 人権問題に関する読書や学習の意向.....	128
	(9) 特に理解を深めたい人権問題.....	130
	(10) 意向がない人の理由.....	136
	(11) 人権学習を深めるための支援.....	138
	(12) 人権が尊重される社会実現のための取り組み.....	142
	(13) 人権に関する宣言や法律等の認知状況.....	146

Ⅲ	アンケート調査のまとめ.....	163
Ⅳ	自由意見.....	168
Ⅴ	調査票.....	193

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、人権問題の解決を図るための啓発や教育等施策を一層推進するための基礎資料を得ることを目的として実施したものです。

## 2 調査対象

生駒市在住の16歳以上の市民を、住民基本台帳より無作為抽出

## 3 調査期間

平成30年5月10日から平成30年5月31日

## 4 調査方法

郵送配布・郵送回収による郵便調査法。

## 5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
3,000通	1,333通	44.4%

## 6 調査結果の表示方法

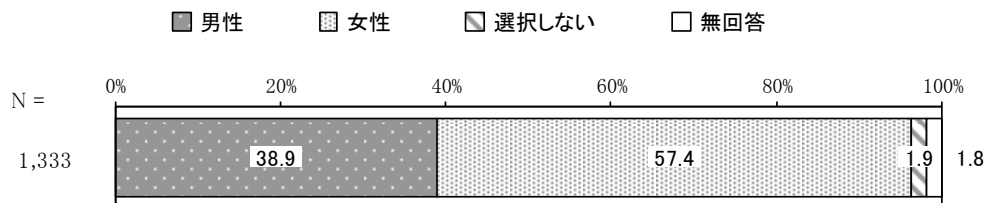
- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。（無回答を除く）
- ・内閣府調査とは、「平成29年度内閣府人権擁護に関する世論調査」のことです。
- ・奈良県調査とは、「平成29年度奈良県人権に関する県民意識調査」のことです。
- ・自由意見については、差別を助長するものなどを除いて記載しています。

## II 調査結果

### 1 回答者属性

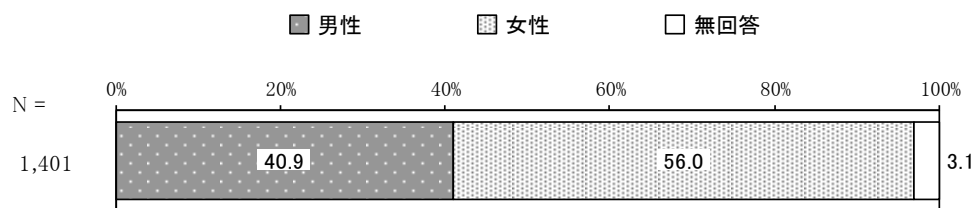
#### 性別

「女性」の割合が57.4%と最も高く、次いで「男性」の割合が38.9%となっています。

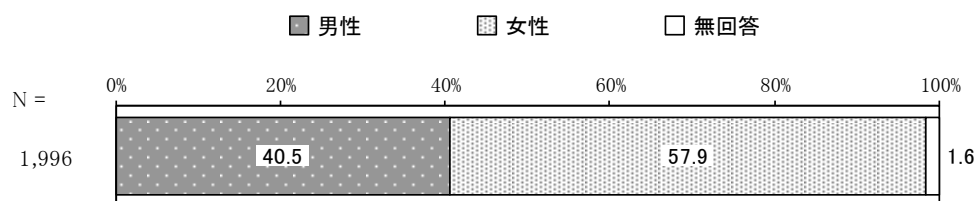


#### ※参考

##### 【平成 25 年度調査】

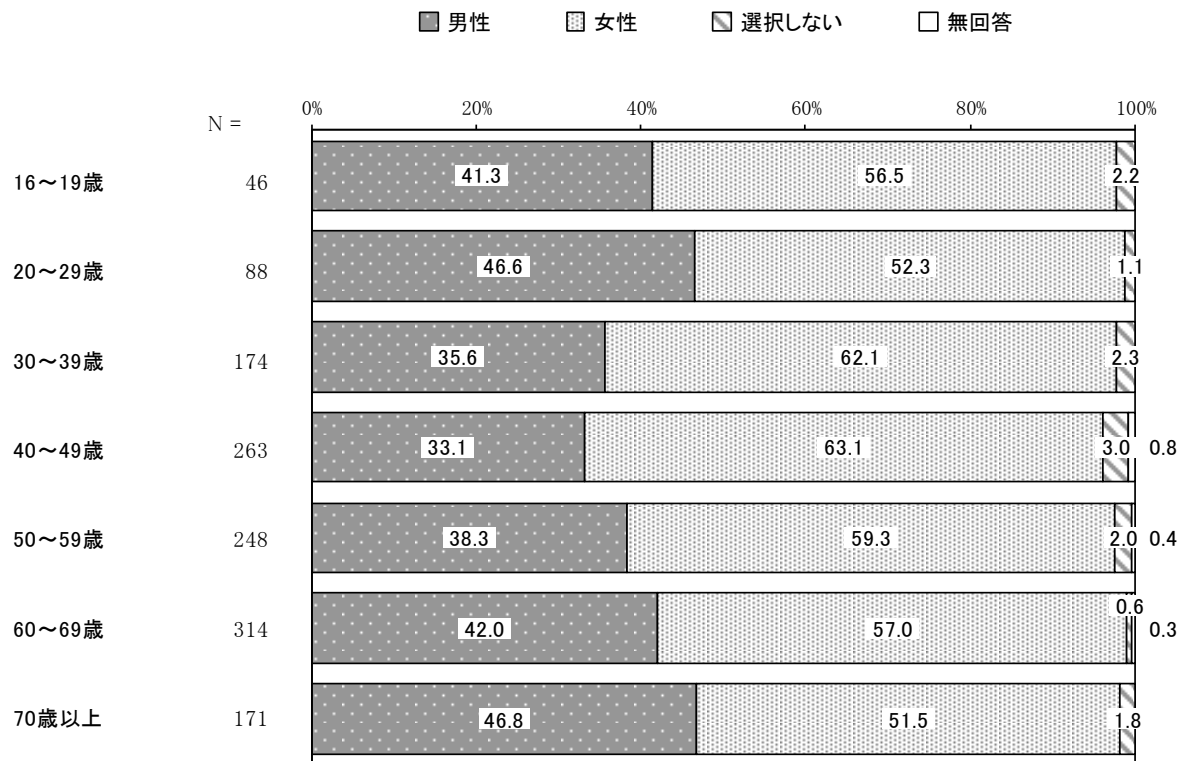


##### 【平成 16 年度調査】



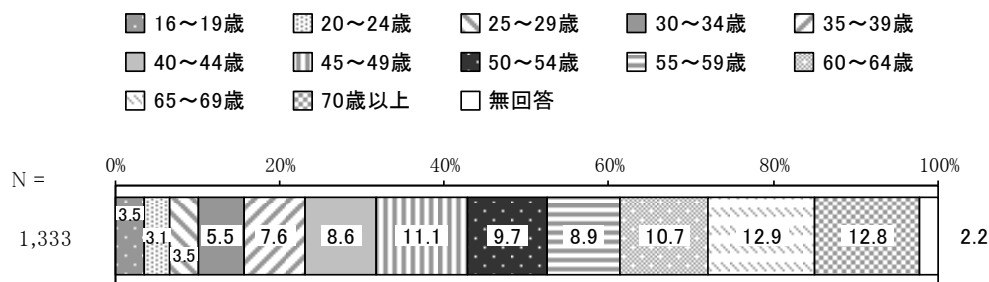
【年齢別】

年齢別でみると、すべての年齢で「男性」より「女性」の割合が高くなっています。



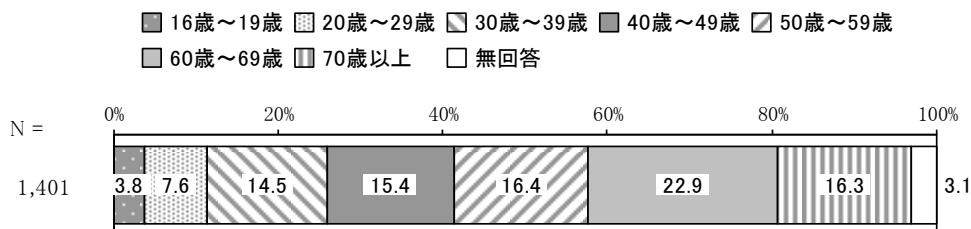
# 年齢

「65～69歳」の割合が12.9%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が12.8%、「45～49歳」の割合が11.1%となっています。

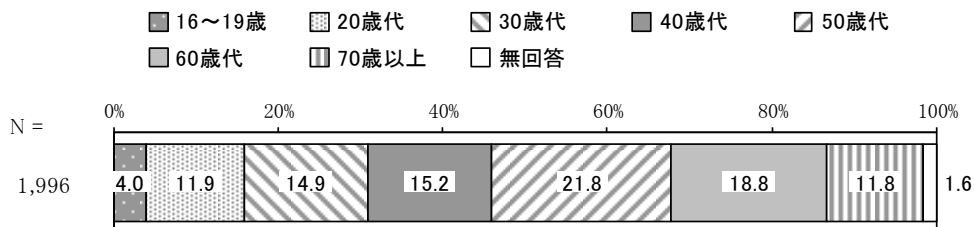


## ※参考

### 【平成 25 年度調査】

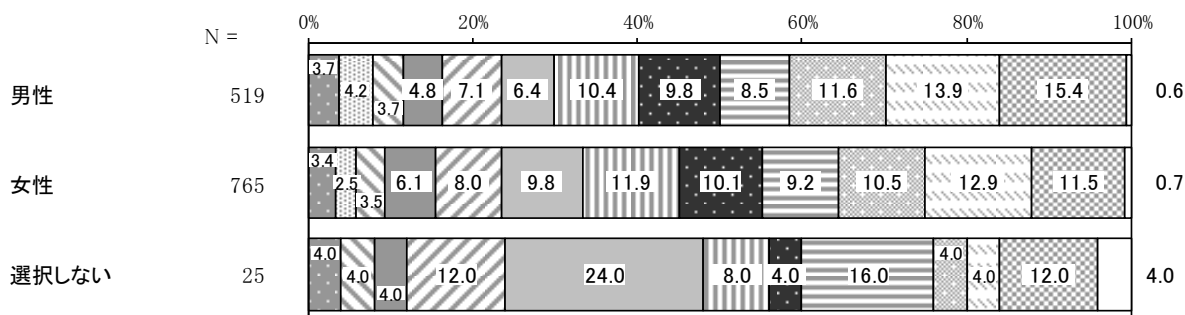


### 【平成 16 年度調査】



## 【性 別】

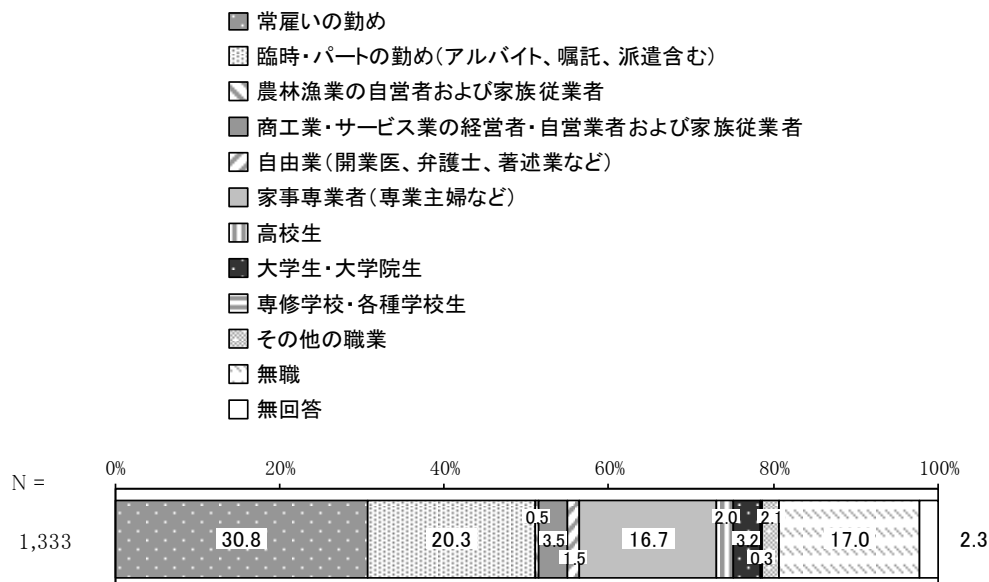
性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。





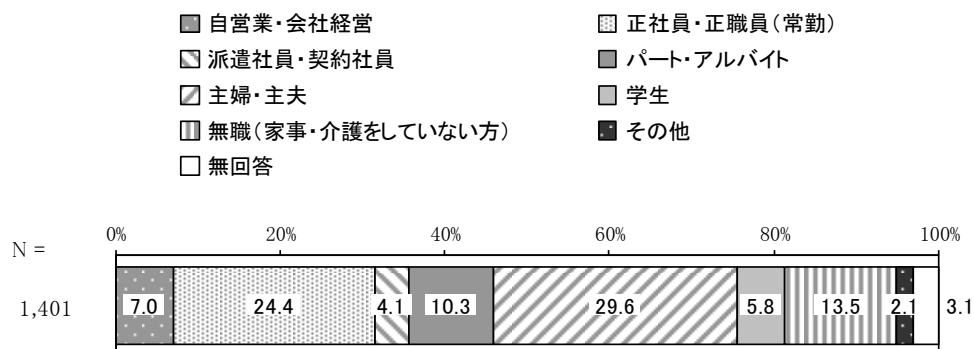
## 職業

「常雇いの勤め」の割合が30.8%と最も高く、次いで「臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）」の割合が20.3%、「無職」の割合が17.0%となっています。

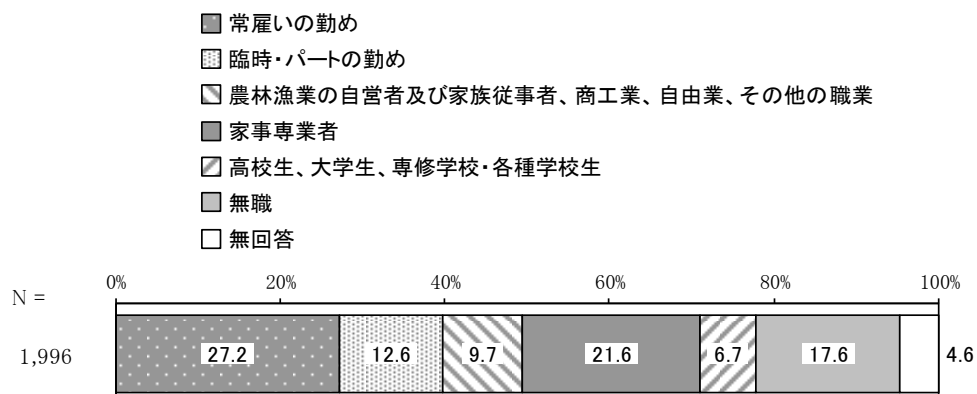


### ※参考

#### 【平成 25 年度調査】

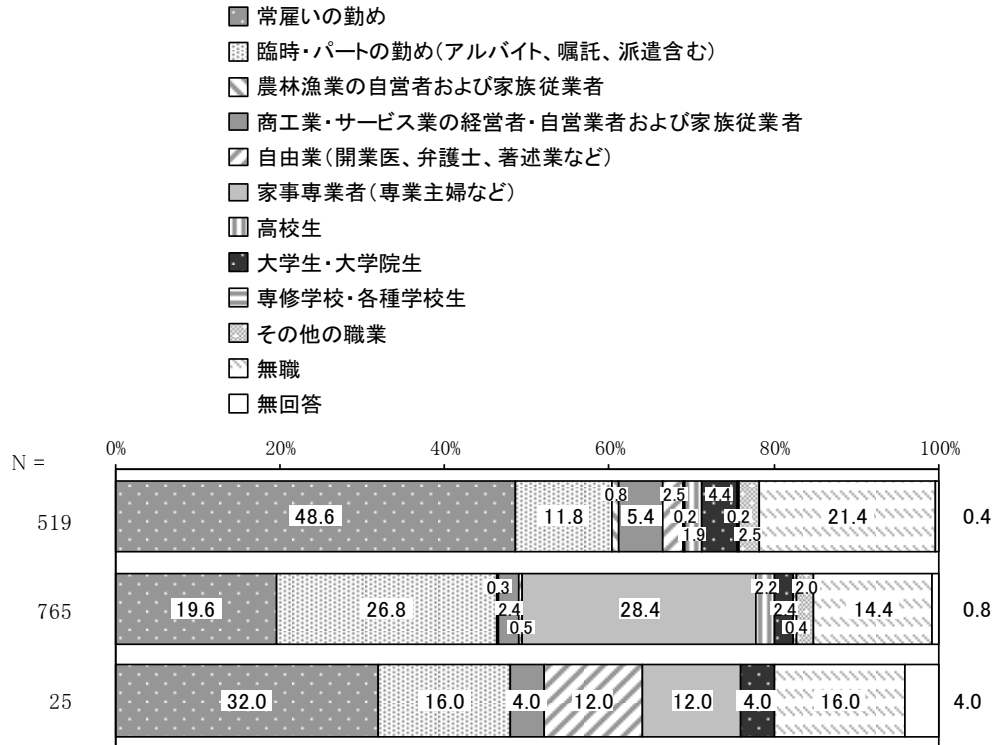


#### 【平成 16 年度調査】



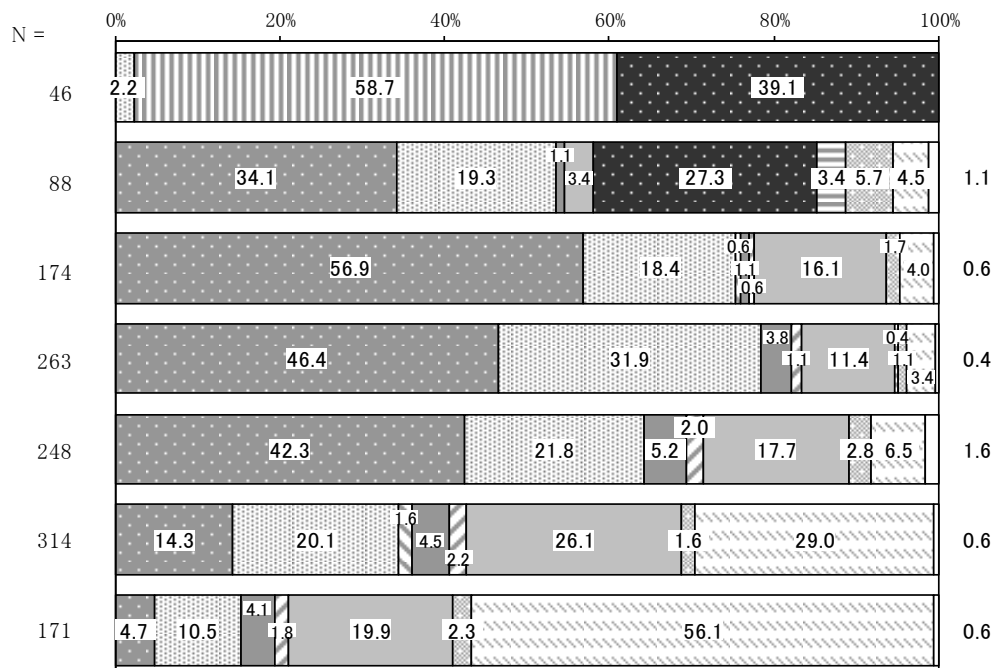
【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「常雇いの勤め」「無職」の割合が高くなっています。また、女性で「臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）」「家事専業者（専業主婦など）」の割合が高くなっています。



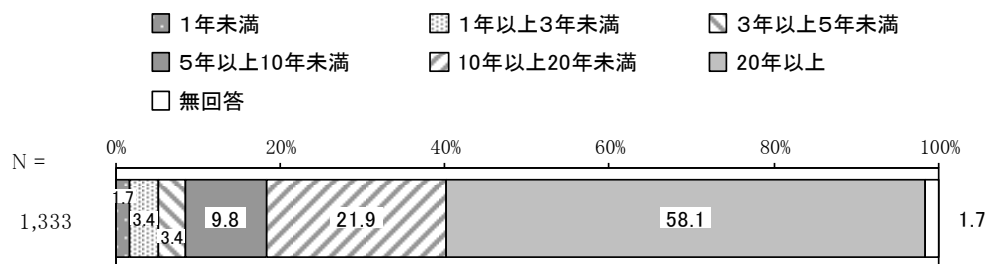
【年齢別】

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「無職」の割合が高くなっています。また、他に比べ、30～39歳で「常雇いの勤め」の割合が、40～49歳で「臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）」の割合が高くなっています。



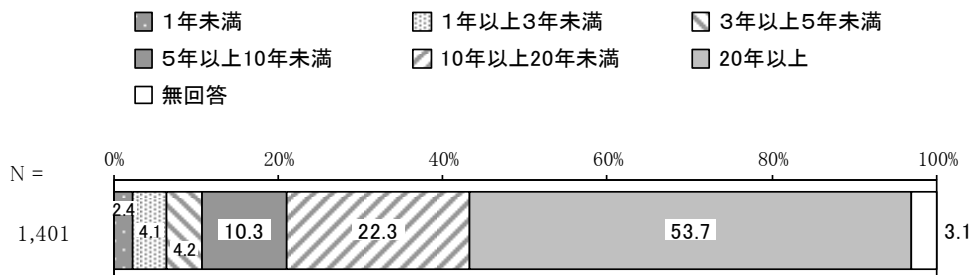
## 生駒市での居住年数

「20年以上」の割合が58.1%と最も高く、次いで「10年以上20年未満」の割合が21.9%となっています。

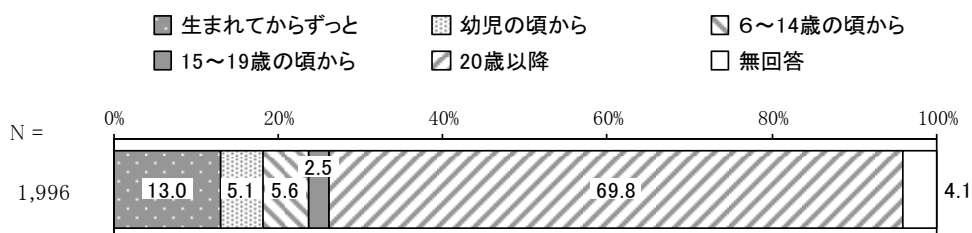


### ※参考

#### 【平成25年度調査】

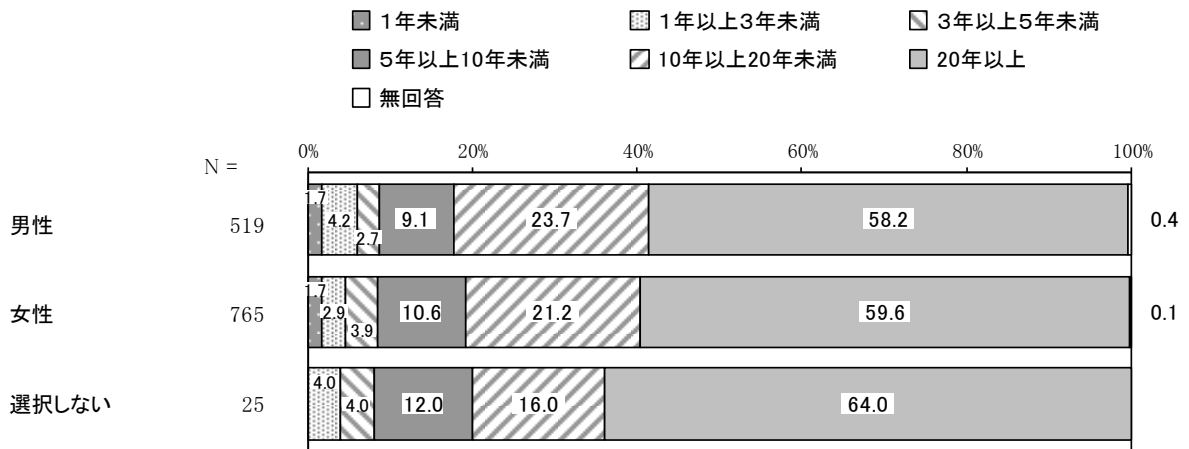


#### 【平成16年度調査】



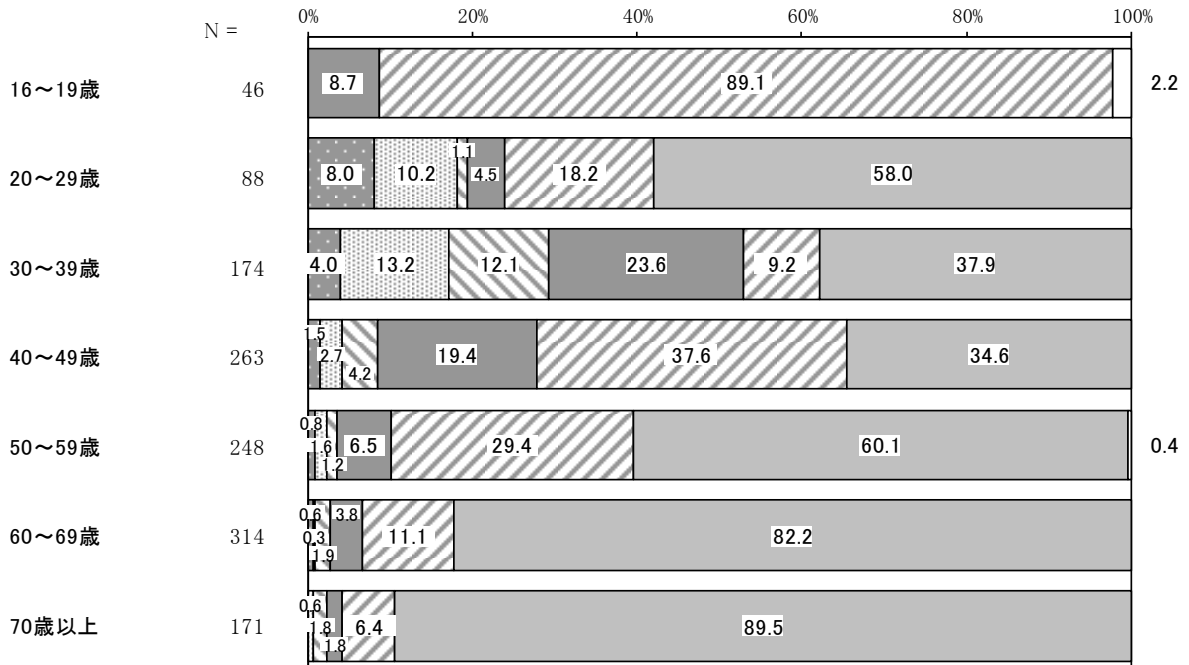
### 【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



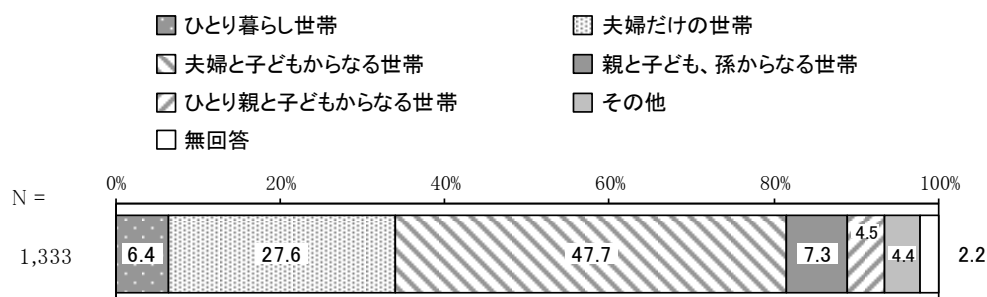
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～49歳で「20年以上」の割合が低く、「5年以上10年未満」の割合が高くなっています。また、40～49歳で「10年以上20年未満」の割合が、30～39歳で「3年以上5年未満」の割合が高くなっています。



## 世帯構成

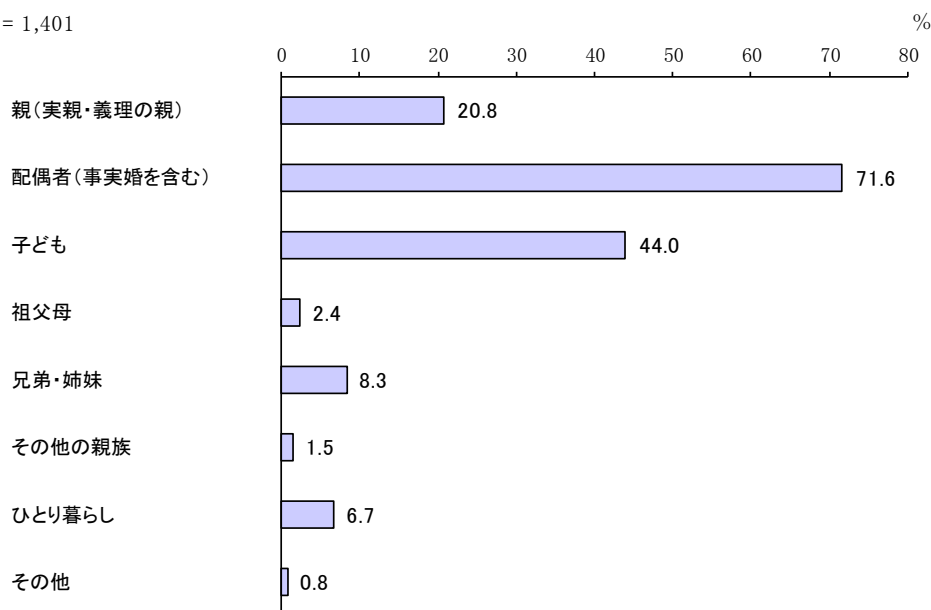
「夫婦と子どもからなる世帯」の割合が47.7%と最も高く、次いで「夫婦だけの世帯」の割合が27.6%となっています。



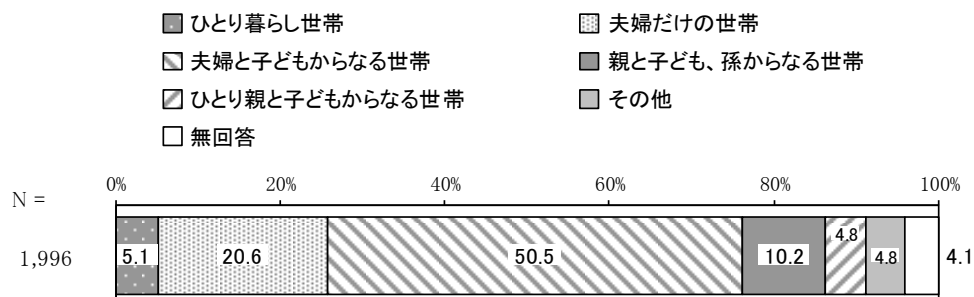
## ※参考

### 【平成 25 年度調査】

N = 1,401

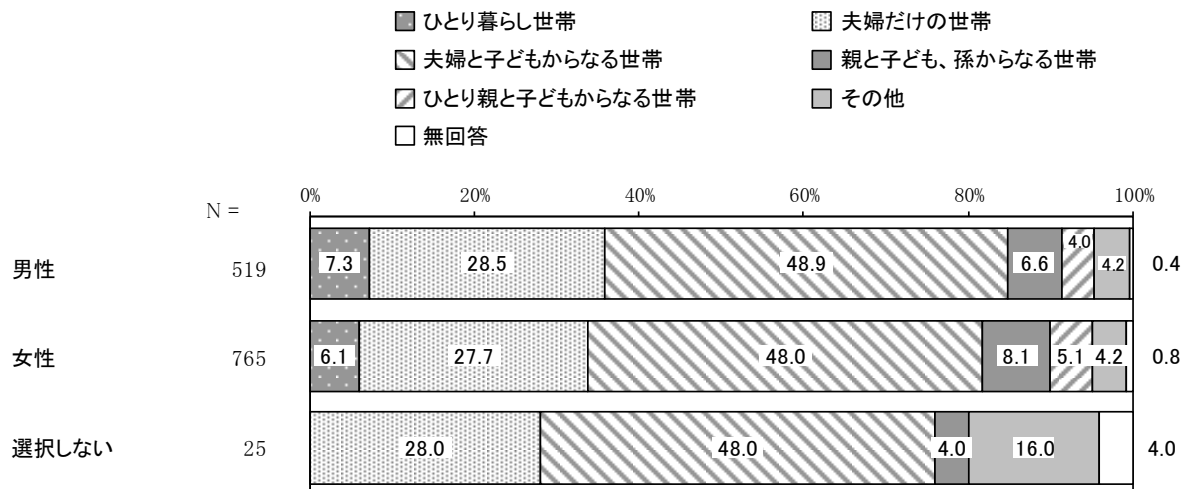


### 【平成 16 年度調査】



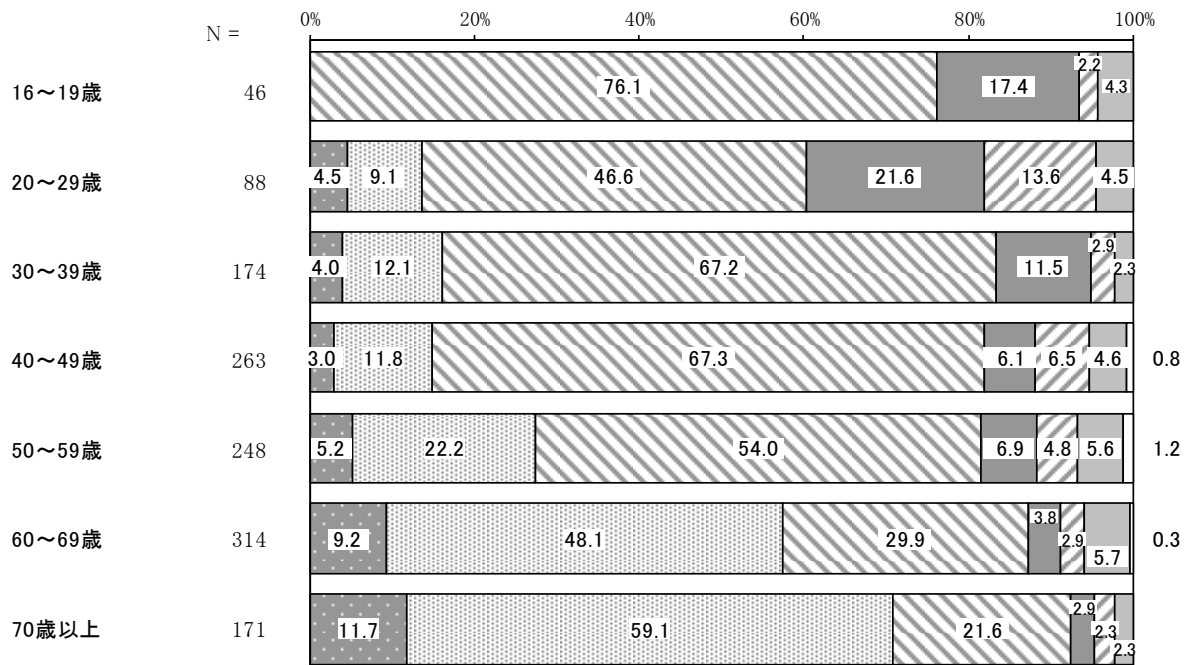
## 【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



## 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「ひとり暮らし世帯」「夫婦だけの世帯」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、16～19歳で「夫婦と子どもからなる世帯」の割合が、16～29歳で「親と子ども、孫からなる世帯」の割合が高くなっています。



## 2 人権問題等の考え方

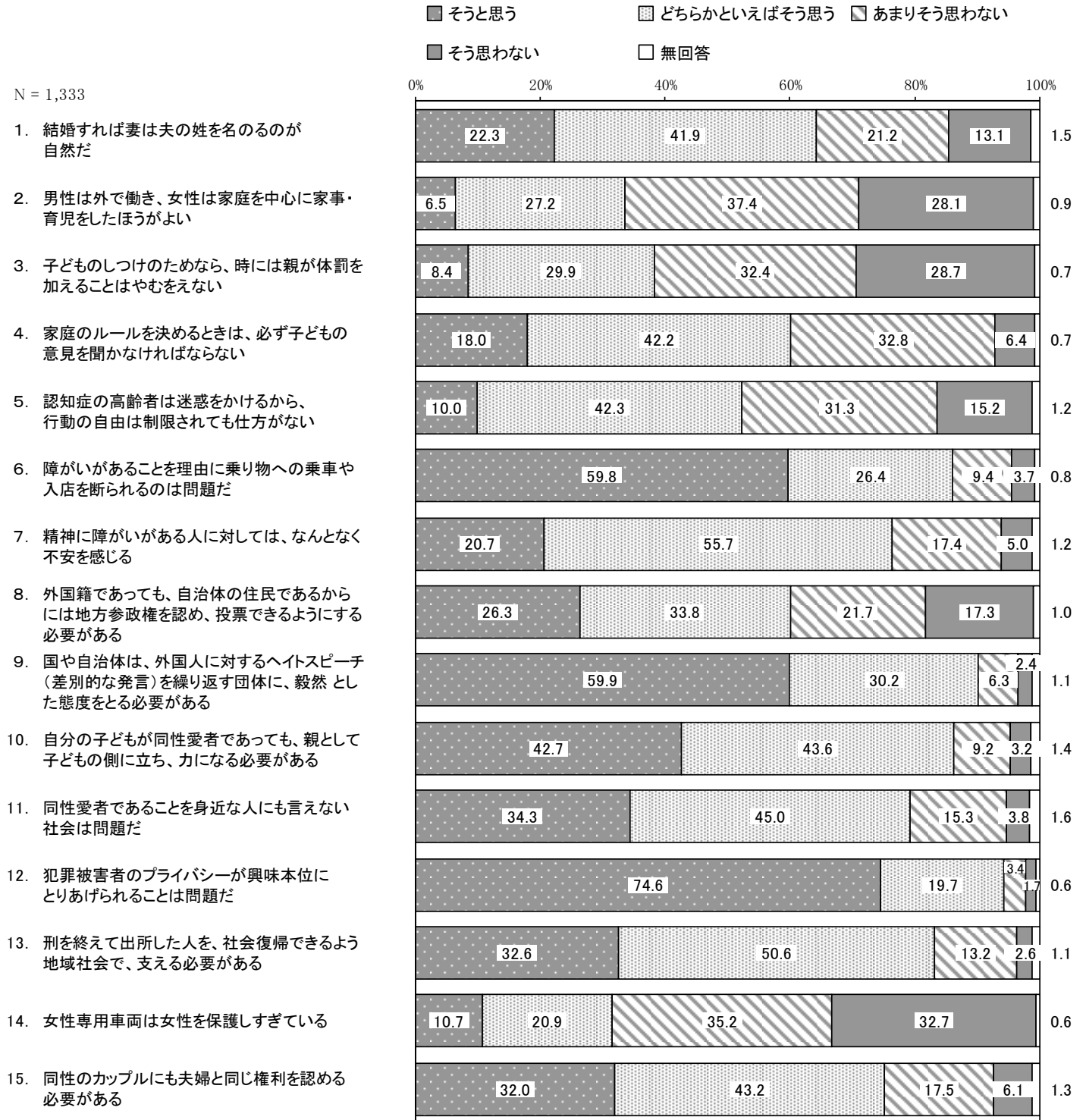
### (1) 人権についての考え

問1 次のような考え方について、あなたはどのように思いますか。1.～15.のそれぞれについて選んでください。(それぞれ1つに○)

「9. 国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチ（差別的な発言）を繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある」「12. 犯罪被害者のプライバシーが興味本位にとりあげられることは問題だ」で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、9割以上となっています。また、「14. 女性専用車両は女性を保護しすぎている」で「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた“そう思わない”の割合が高く、約7割となっています。

平成29年度奈良県人権に関する県民意識調査（奈良県調査）と比較すると、県に比べ、9. 国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチ（差別的な発言）を繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある、10. 自分の子どもが同性愛者であっても、親として子どもの側に立ち、力になる必要がある、11. 同性愛者であることを身近な人にも言えない社会は問題だ、15. 同性のカップルにも夫婦と同じ権利を認める必要があるで“そう思う”の割合が高くなっています。また、4. 家庭のルールを決めるときは、必ず子どもの意見を聞かなければならない、7. 精神に障がいがある人に対しては、なんとなく不安を感じる、14. 女性専用車両は女性を保護しすぎているで“そう思わない”の割合が高くなっています。

N = 1,333



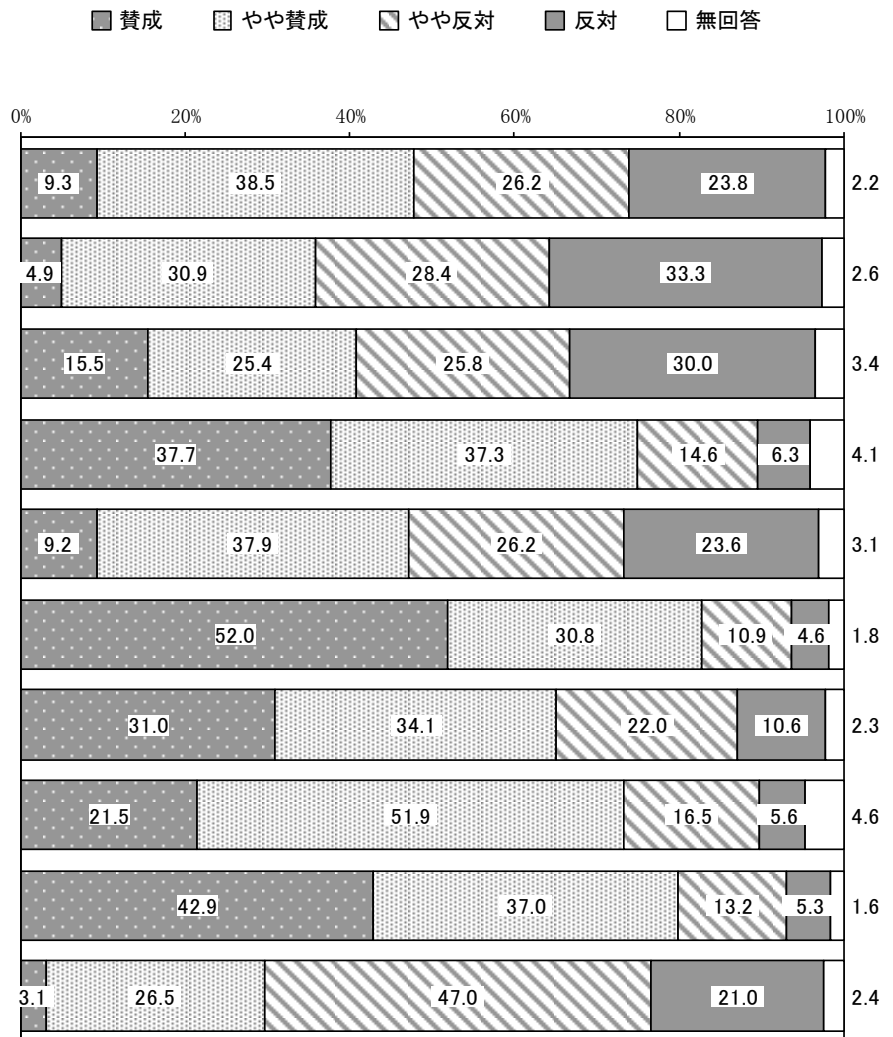


※参考

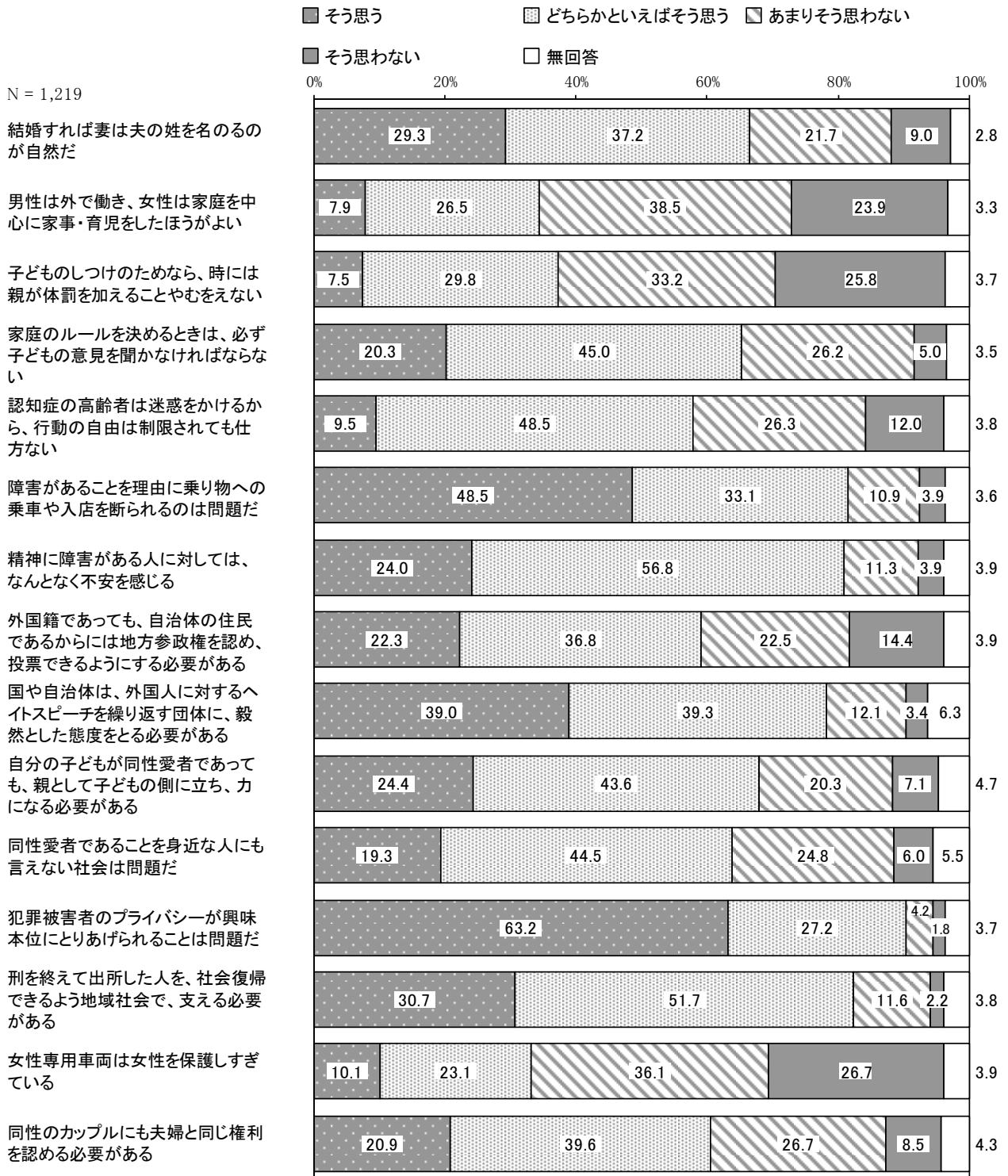
【平成 16 年度調査】

N = 1,996

- (1) 親が子どもにしつけのために体罰を行うこと
- (2) 教師が児童・生徒に体罰を行うこと
- (3) 結婚しても夫婦別姓のままであるということ
- (4) 人を差別することは犯罪であるという意見
- (5) いじめはいじめられる側にも原因があることが少なくないという意見
- (6) 少年犯罪を減らすには、少年法をもっと厳しくする必要があるという意見
- (7) 年齢に関係なく、犯罪は実名報道をしたほうがよいという意見
- (8) 人権を強調しすぎると、権利に伴う義務や責任がおろそかになってしまうという意見
- (9) 子どもが小さいうちは、母親が子育てに専念することはよいことだという意見
- (10) 家族が寝たきりの高齢者の希望に反して施設に入所させること



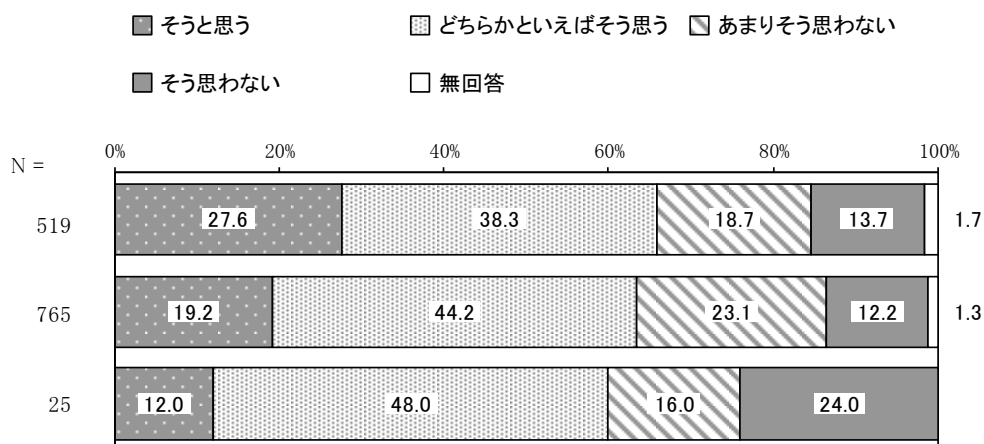
【平成 29 年度奈良県人権に関する県民意識調査（奈良県調査）】



# 1. 結婚すれば妻は夫の姓を名のるのが自然だ

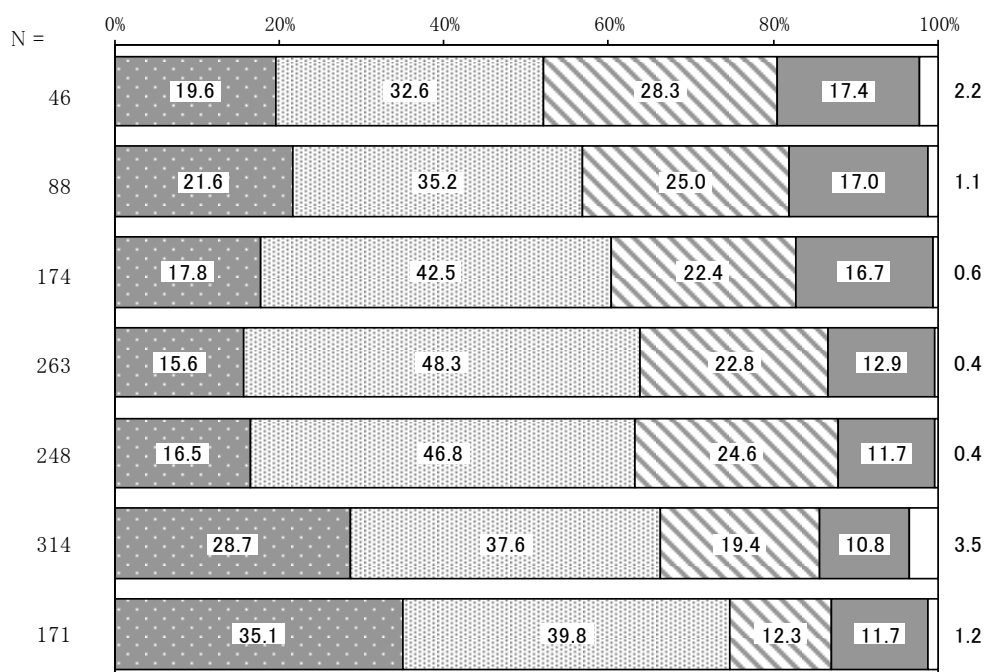
## 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「そう思う」の割合が高くなっています。



## 【年齢別】

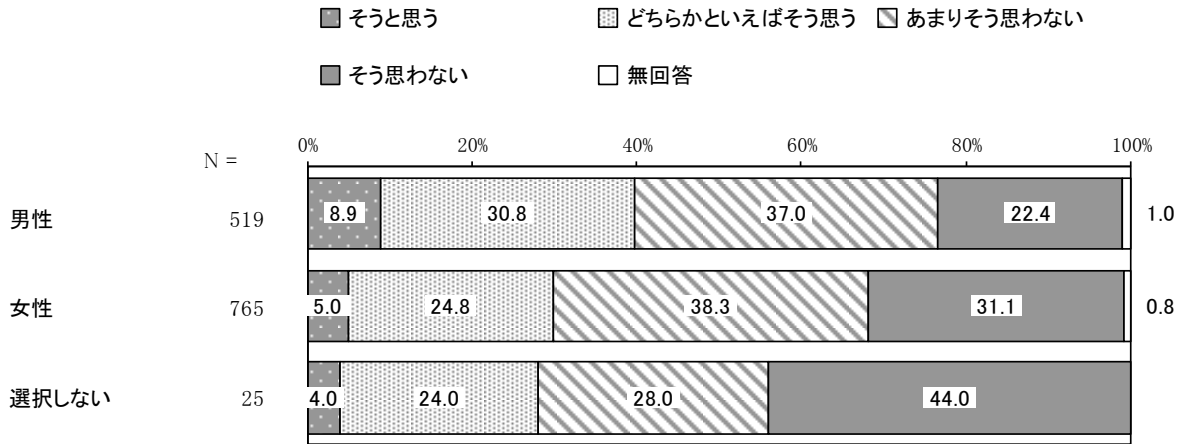
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられます。



## 2. 男性は外で働き、女性は家庭を中心に家事・育児をしたほうがよい

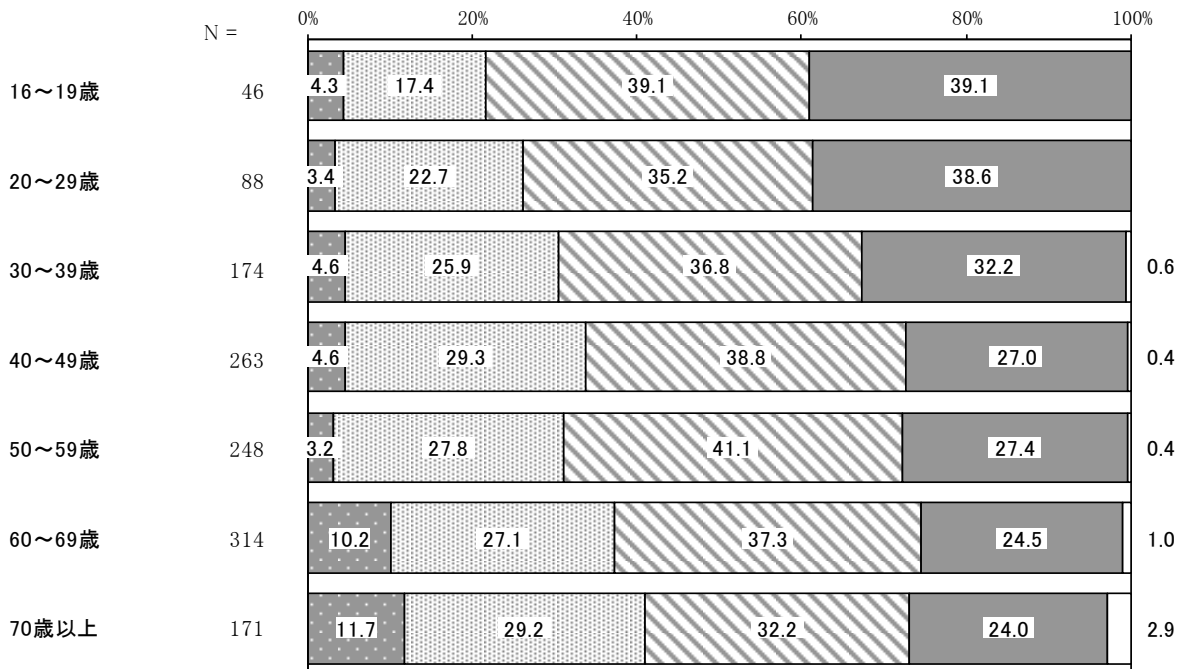
### 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。



### 【年齢別】

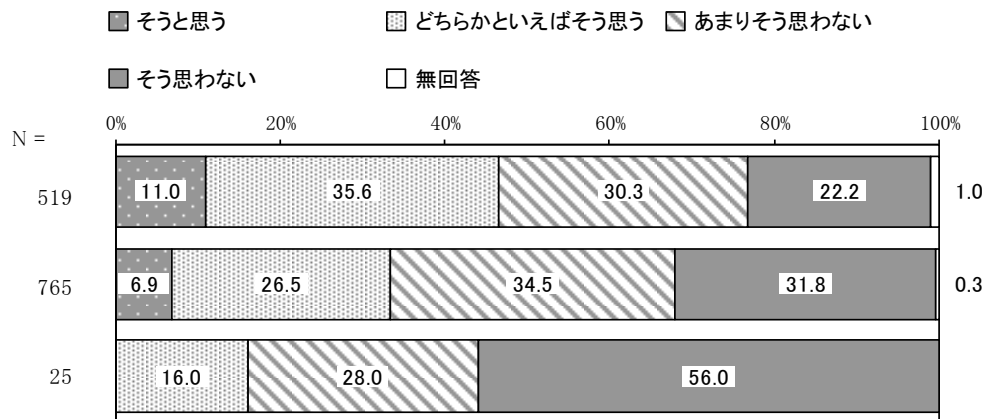
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられます。



### 3. 子どものしつけのためなら、時には親が体罰を加えることはやむをえない

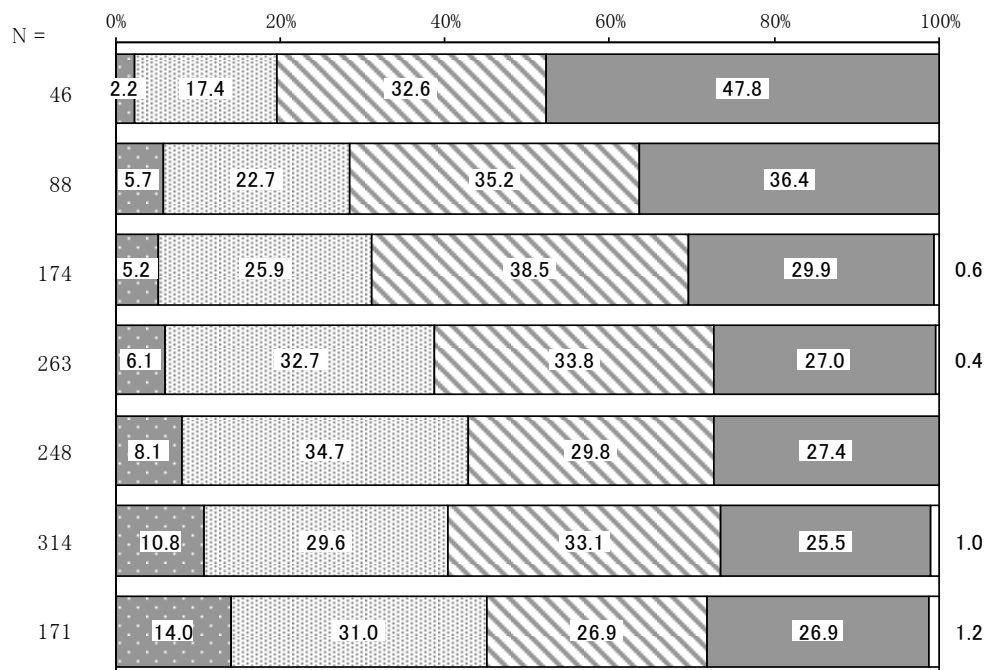
#### 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、4割台半ばとなっています。



#### 【年齢別】

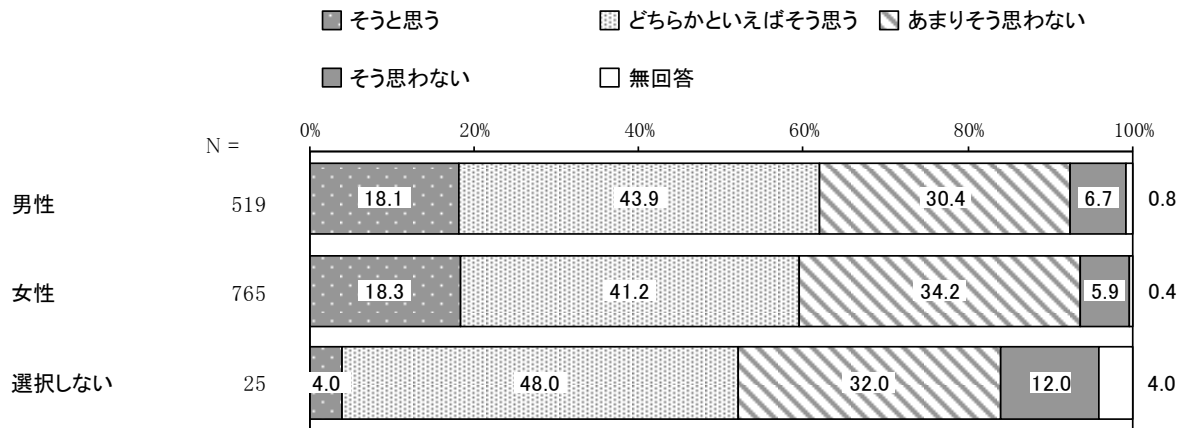
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられます。



#### 4. 家庭のルールを決めるときは、必ず子どもの意見を聞かなければならない

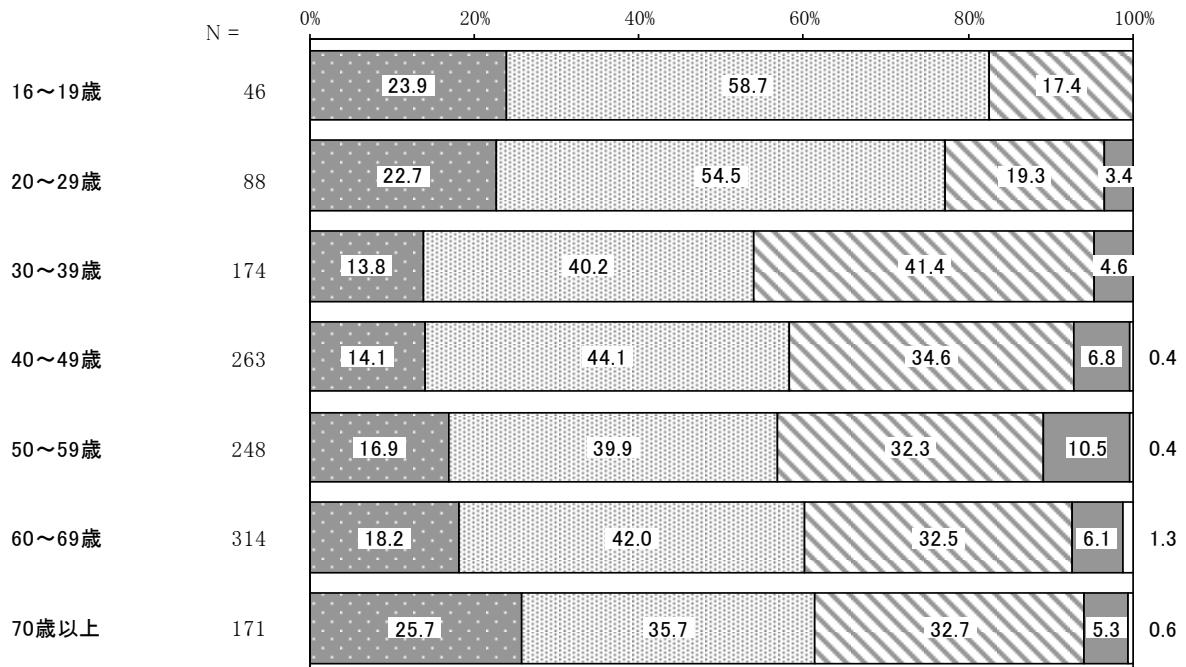
##### 【性別】

性別で見ると、男性と女性で大きな差異はみられません。



##### 【年齢別】

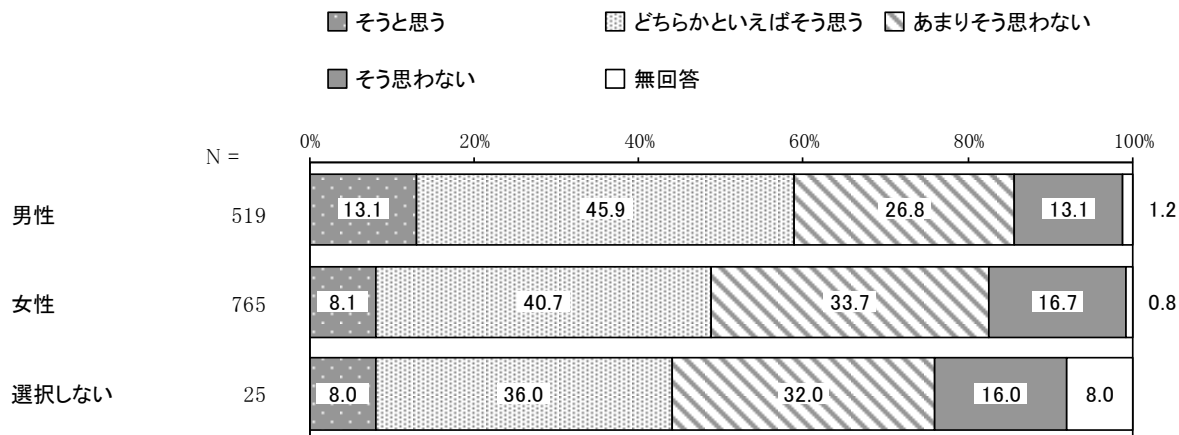
年齢別で見ると、他に比べ、16～29歳で“そう思う”の割合が高く、約8割となっています。また、30～39歳で“そう思わない”の割合が高く、4割台半ばとなっています。



## 5. 認知症の高齢者は迷惑をかけるから、行動の自由は制限されても仕方がない

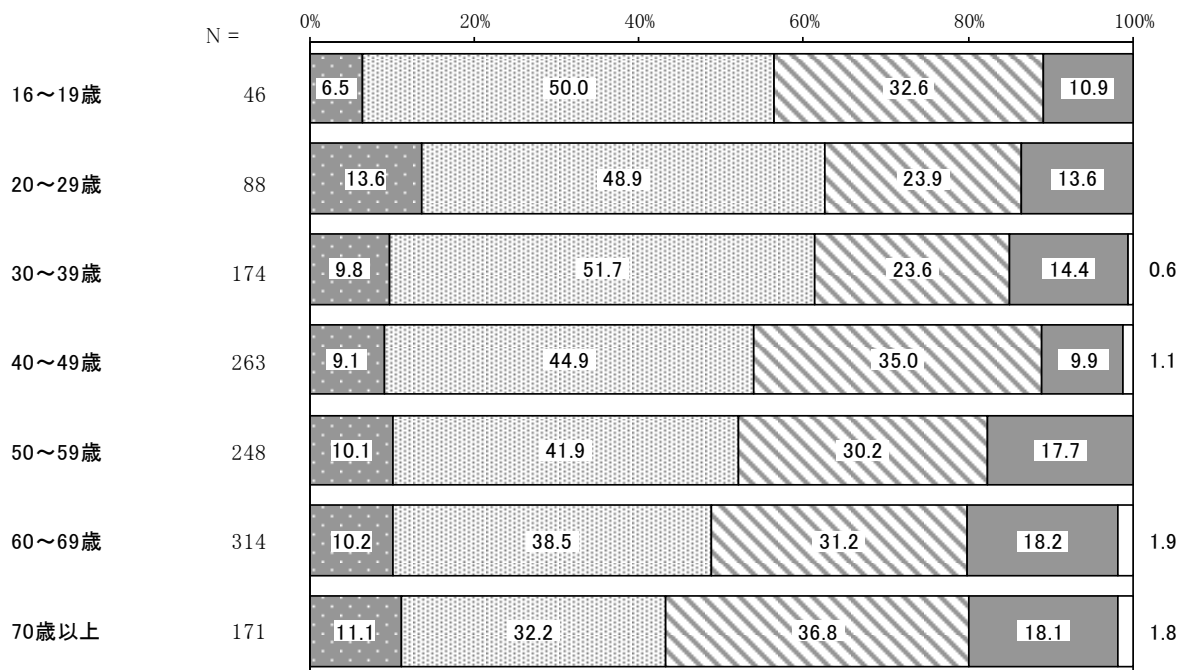
### 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約6割となっています。



### 【年齢別】

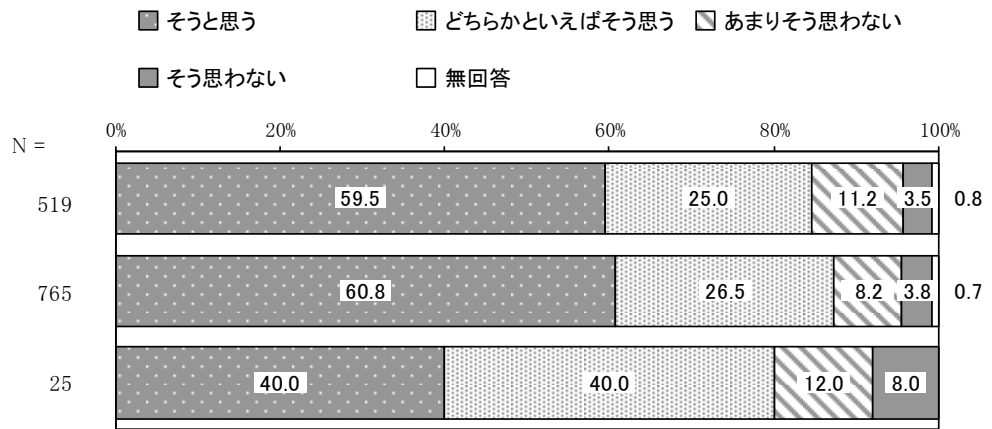
年齢別でみると、他に比べ、20～39歳で“そう思う”の割合が高く、約6割となっています。また、70歳以上で“そう思わない”の割合が高く、5割台半ばとなっています。



## 6. 障がいがあることを理由に乗り物への乗車や入店を断られるのは問題だ

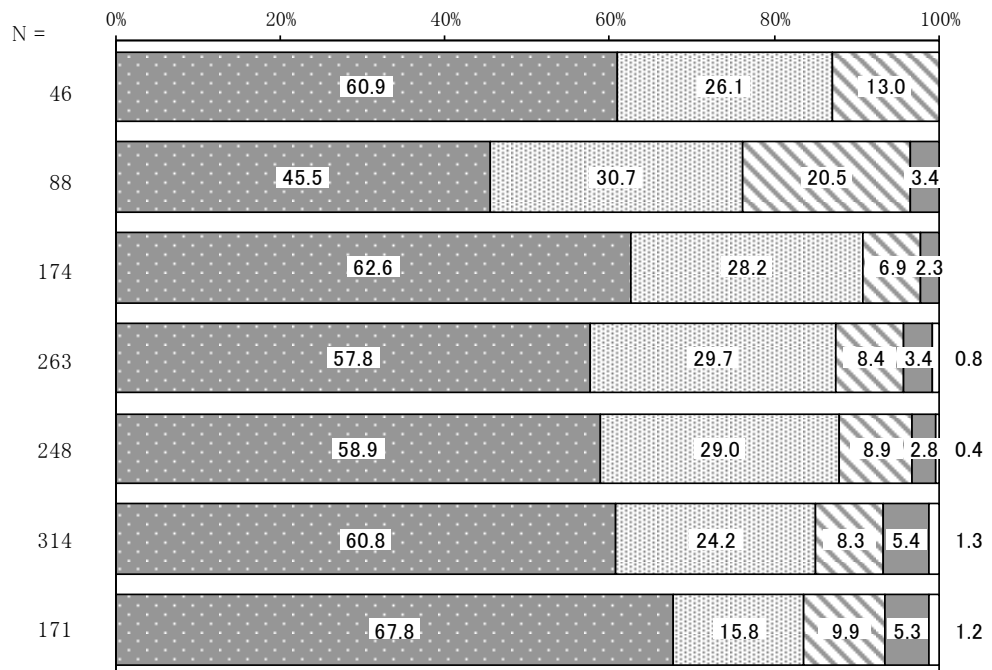
### 【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「あまりそう思わない」の割合が高く、約2割となっています。

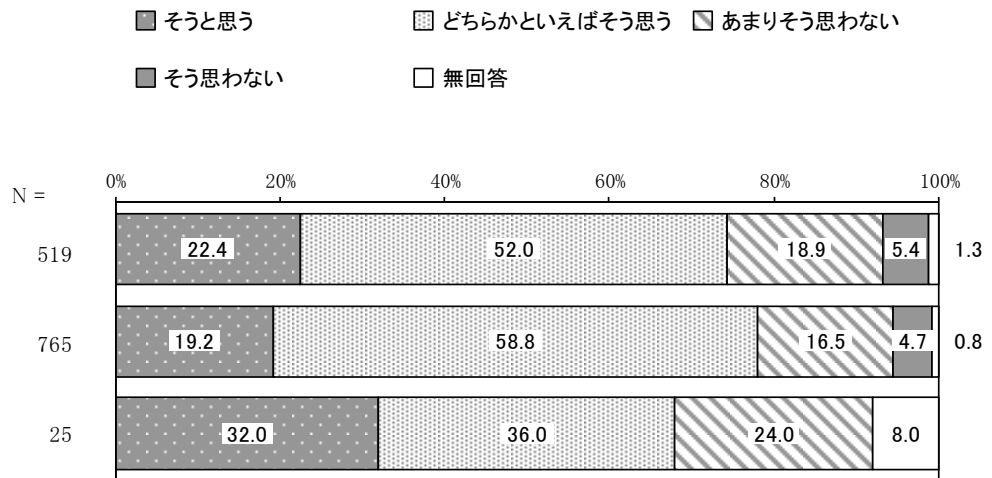




## 7. 精神に障がいがある人に対しては、なんとなく不安を感じる

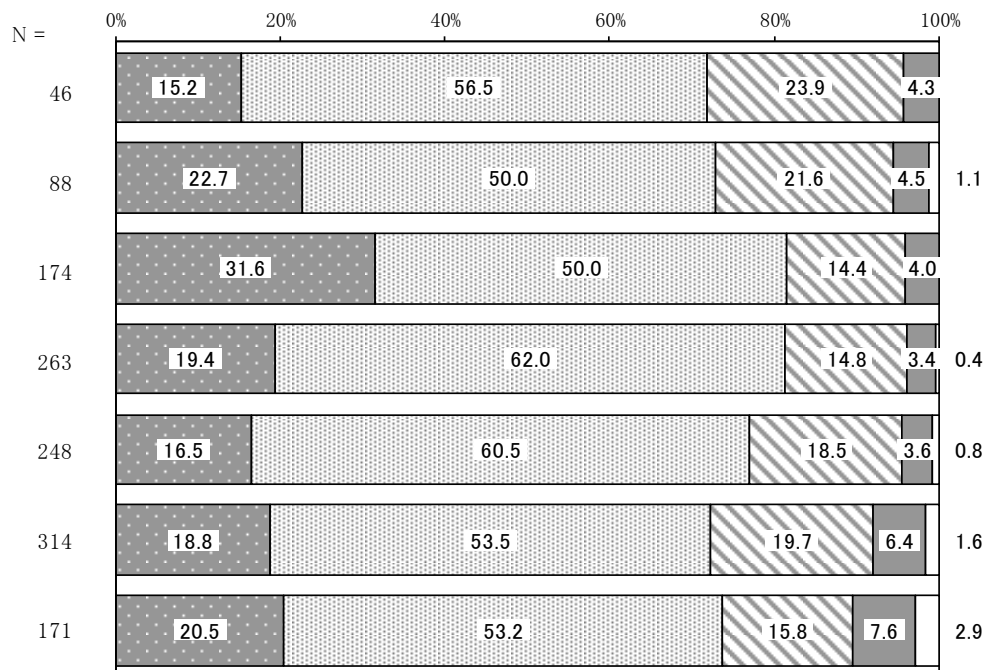
### 【性別】

性別で見ると、他に比べ、女性で「どちらかといえばそう思う」の割合が高く、約6割となっています。



### 【年齢別】

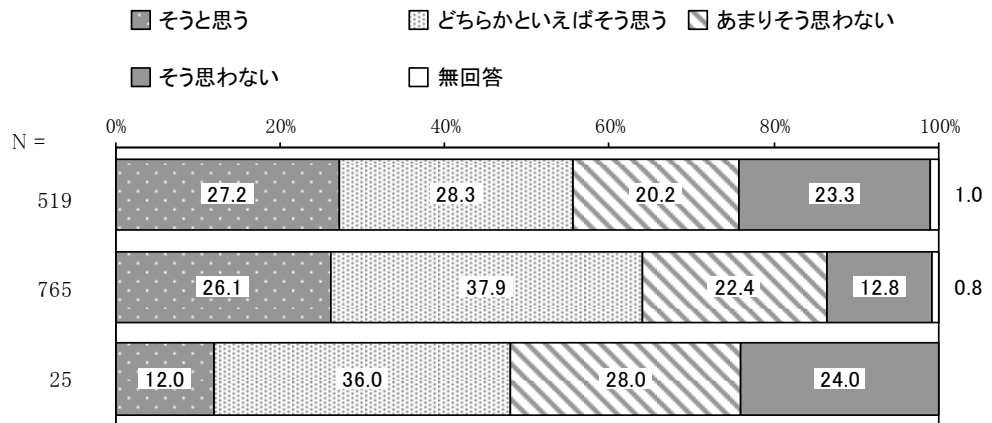
年齢別で見ると、他に比べ、30～59歳で“そう思う”の割合が高く、約8割となっています。



8. 外国籍であっても、自治体の住民であるからには地方参政権を認め、投票できるようにする必要がある

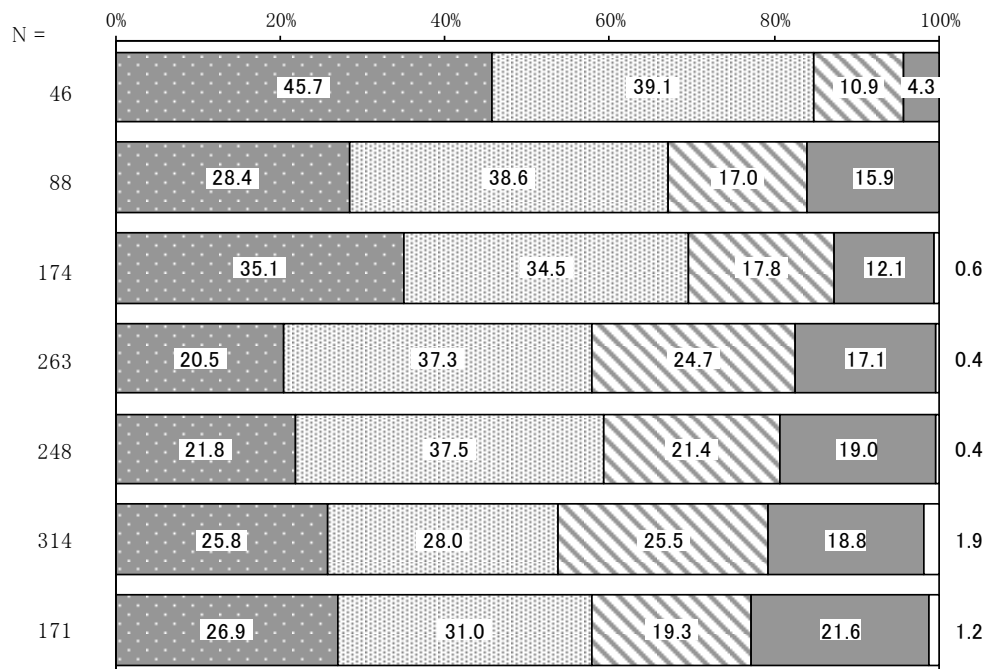
【性別】

性別でみると、他に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、6割台半ばとなっています。



【年齢別】

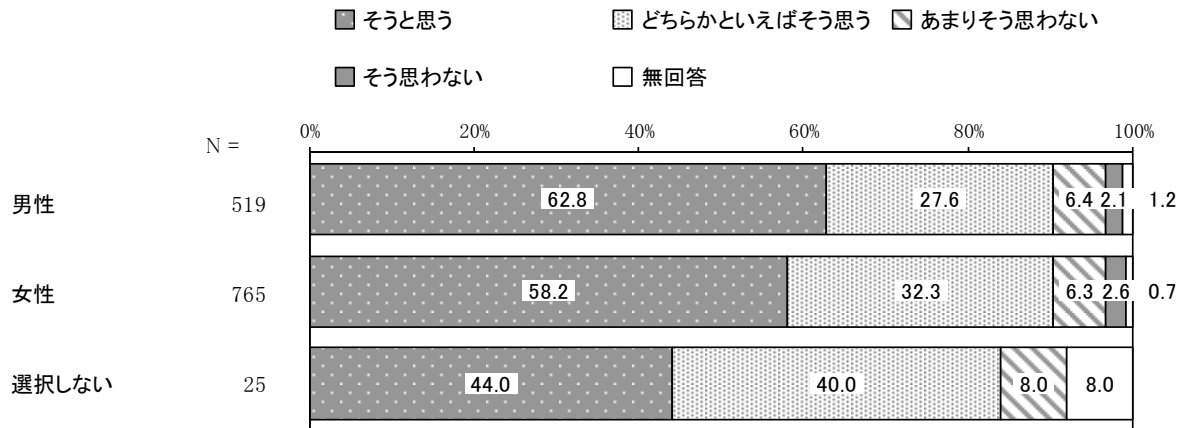
年齢別でみると、年齢が下がるにつれ“そう思う”の割合が高くなる傾向がみられ、16～19歳で8割台半ばとなっています。



9. 国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチ（差別的な発言）を繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある

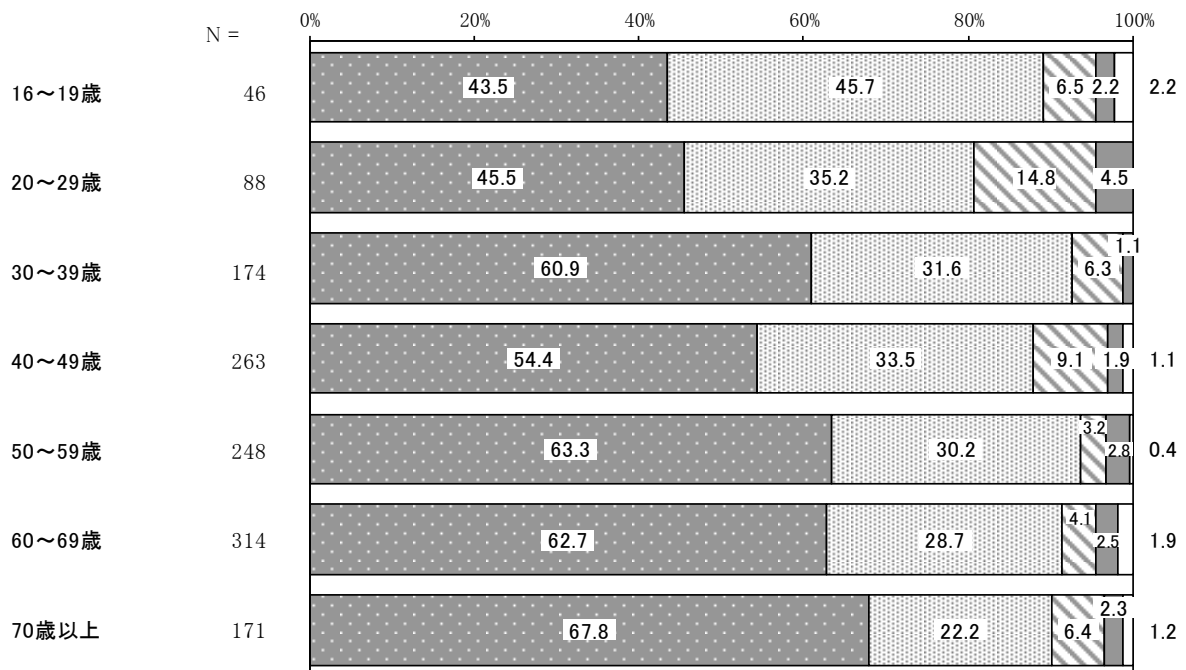
【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



【年齢別】

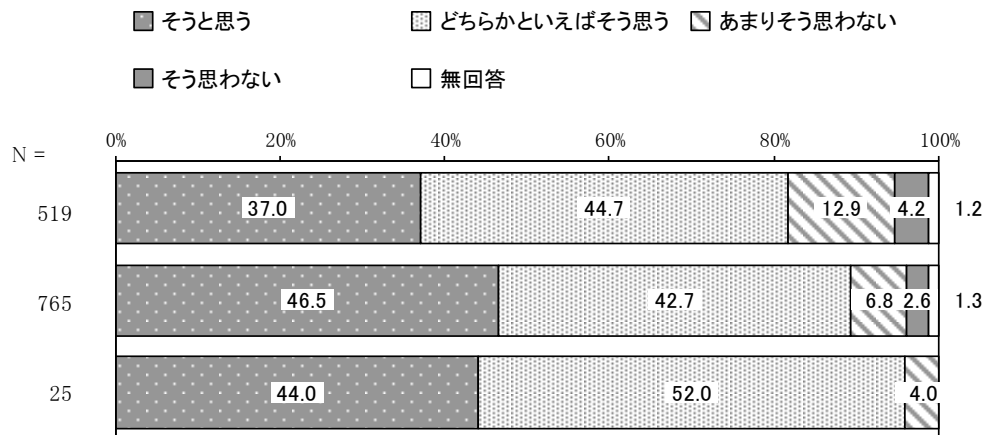
年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で“そう思わない”の割合が高く、約2割となっています。



10. 自分の子どもが同性愛者であっても、親として子どもの側に立ち、力になる必要がある

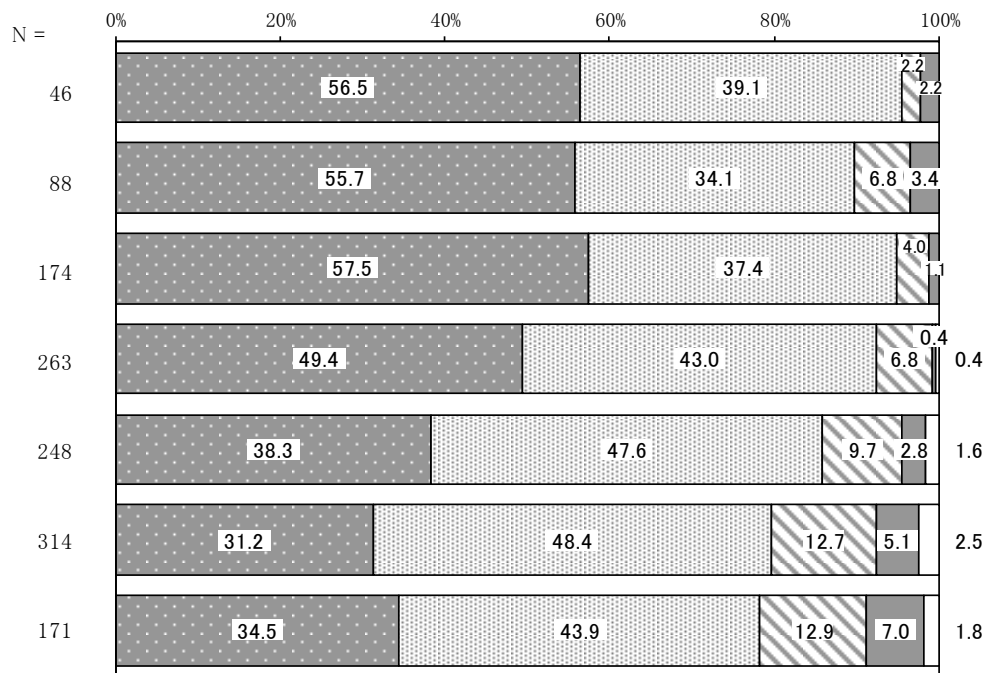
【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で“そう思わない”の割合が高く、約2割となっています。



【年齢別】

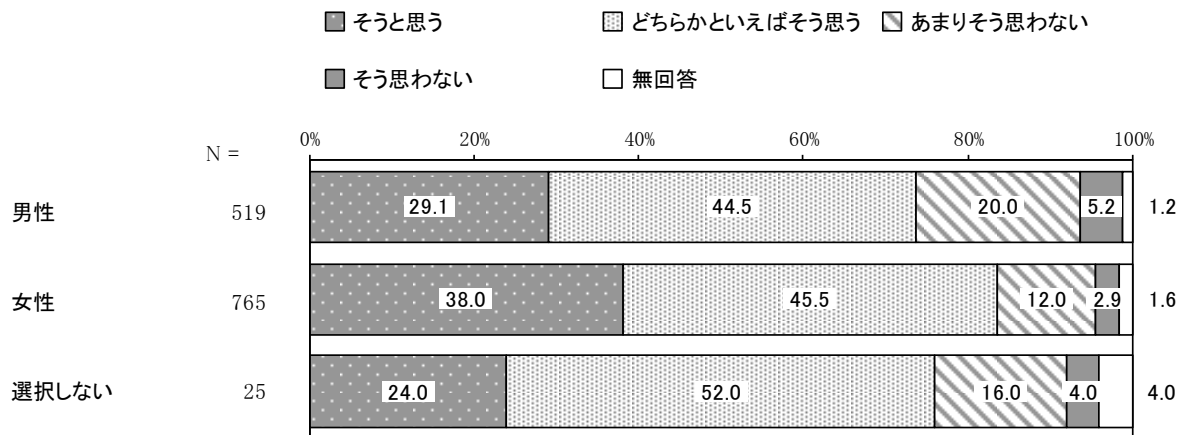
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ“そう思う”の割合が低くなる傾向がみられます。



## 11. 同性愛者であることを身近な人にも言えない社会は問題だ

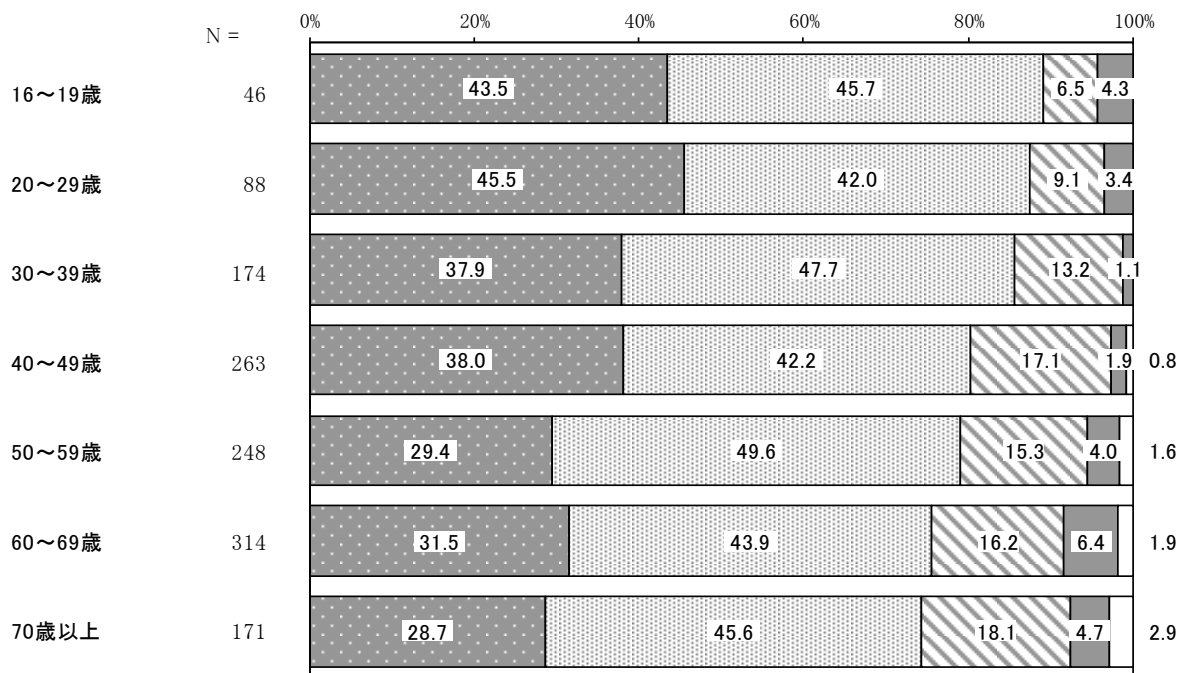
### 【性別】

性別でみると、他に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、約8割となっています。



### 【年齢別】

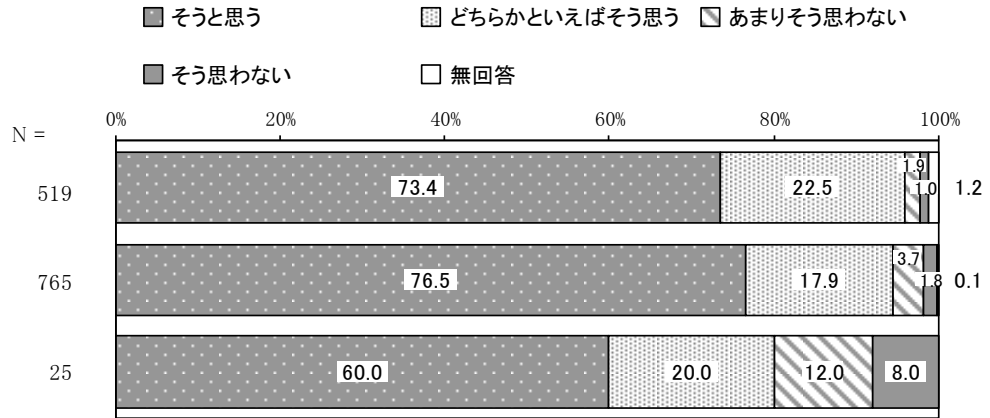
年齢別でみると、年齢が上がるにつれ“そう思わない”の割合が高くなっています。



## 12. 犯罪被害者のプライバシーが興味本位にとりあげられることは問題だ

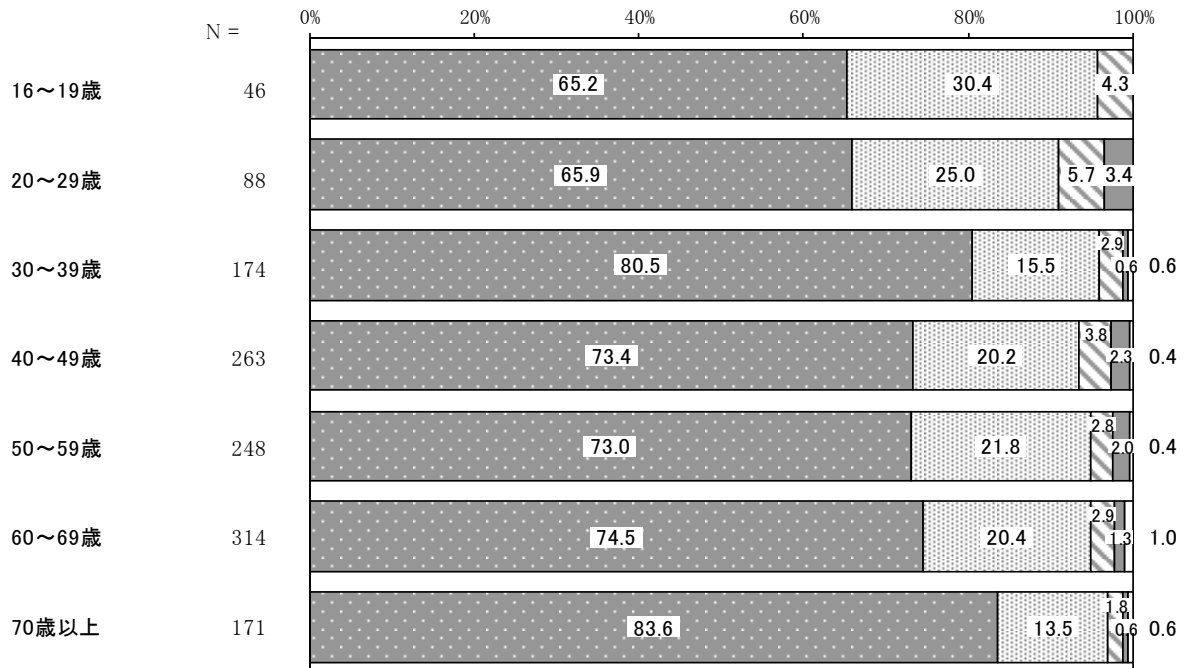
### 【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



### 【年齢別】

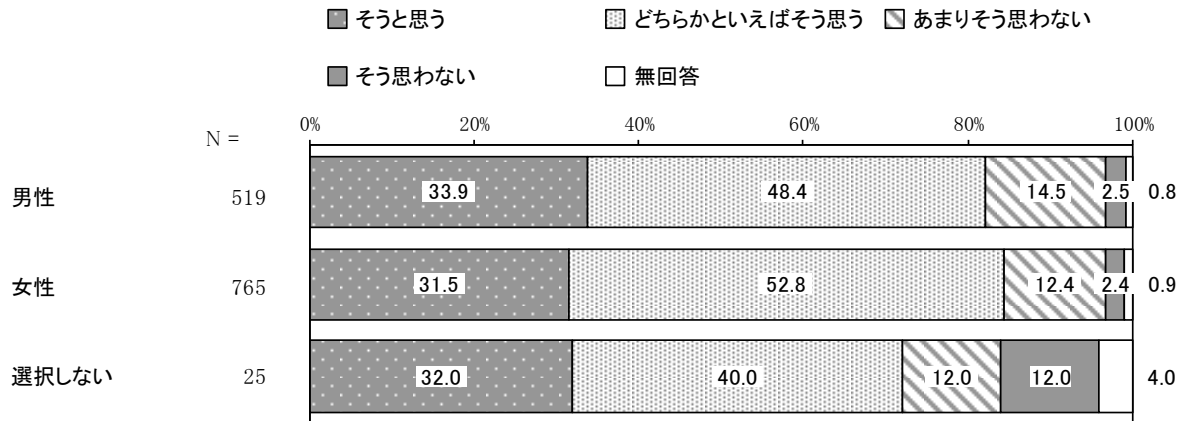
年齢別でみると、他に比べ、16～29歳で「そう思う」の割合が低く、6割台半ばとなっています。



### 13. 刑を終えて出所した人を、社会復帰できるよう地域社会で、支える必要がある

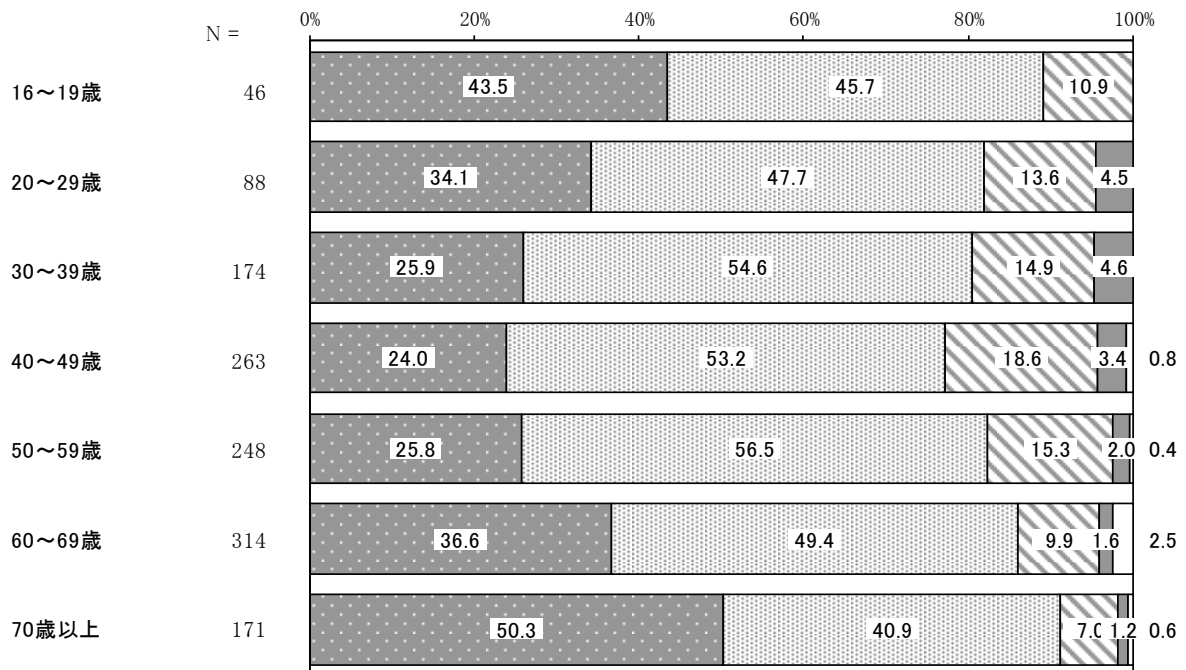
#### 【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



#### 【年齢別】

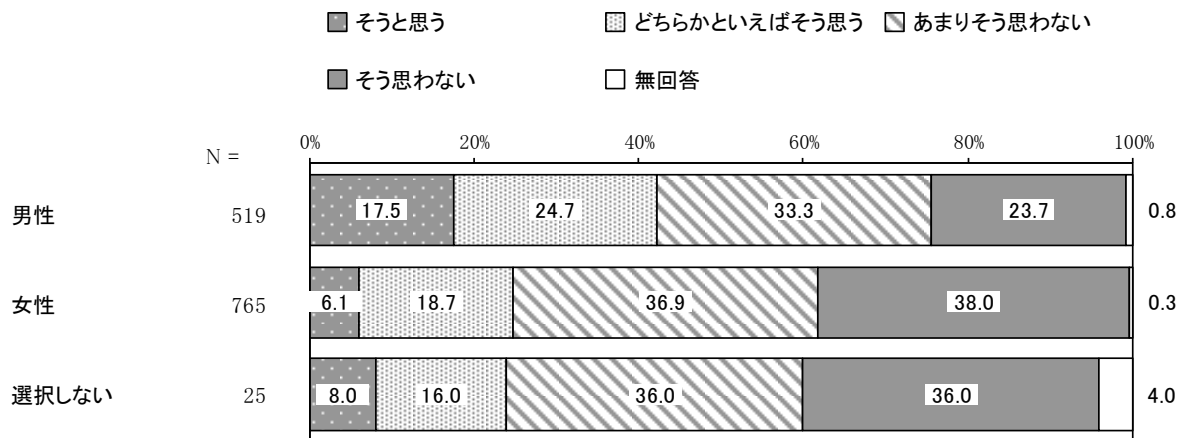
年齢別でみると、他に比べ、16～19歳、70歳以上で“そう思う”の割合が高く、約9割となっています。また、40～49歳で“そう思わない”の割合が高く、2割を超えています。



## 14. 女性専用車両は女性を保護しすぎている

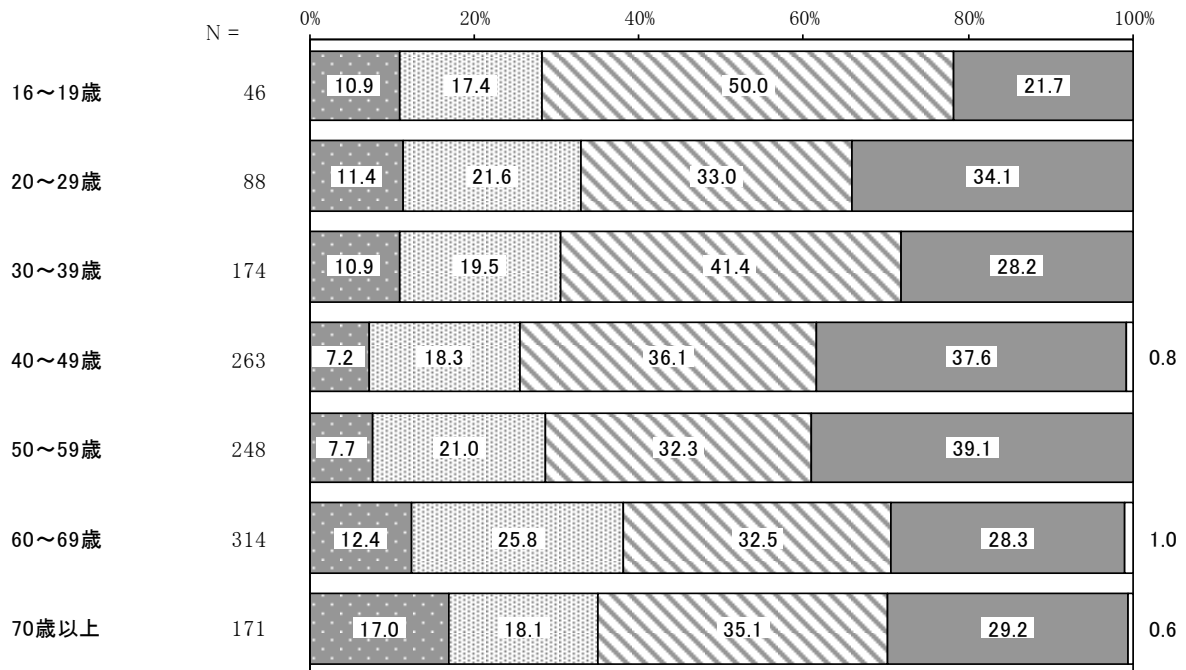
### 【性別】

性別で見ると、他に比べ、男性で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。



### 【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、60～69歳で“そう思う”の割合が高く、約4割となっています。

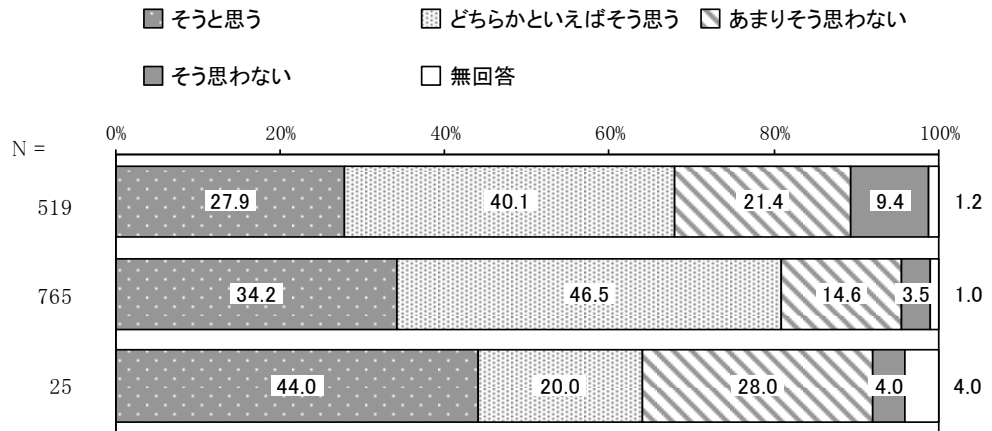




## 15. 同性のカップルにも夫婦と同じ権利を認める必要がある

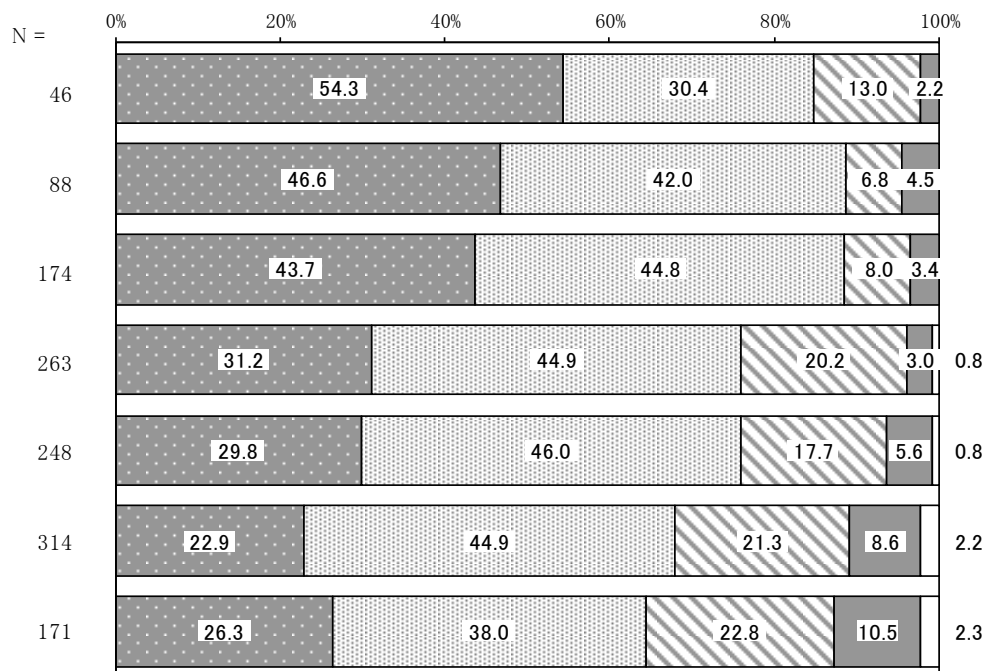
### 【性別】

性別で見ると、他に比べ、女性で“そう思う”の割合が高く、約8割となっています。



### 【年齢別】

年齢別で見ると、年齢が上がるにつれ“そう思う”の割合が低くなる傾向がみられます。



## (2) 人権全般関心項目

問2 次の人権問題で、あなたが関心のあるものは何ですか。また、あなたの身近にはどのような人権問題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

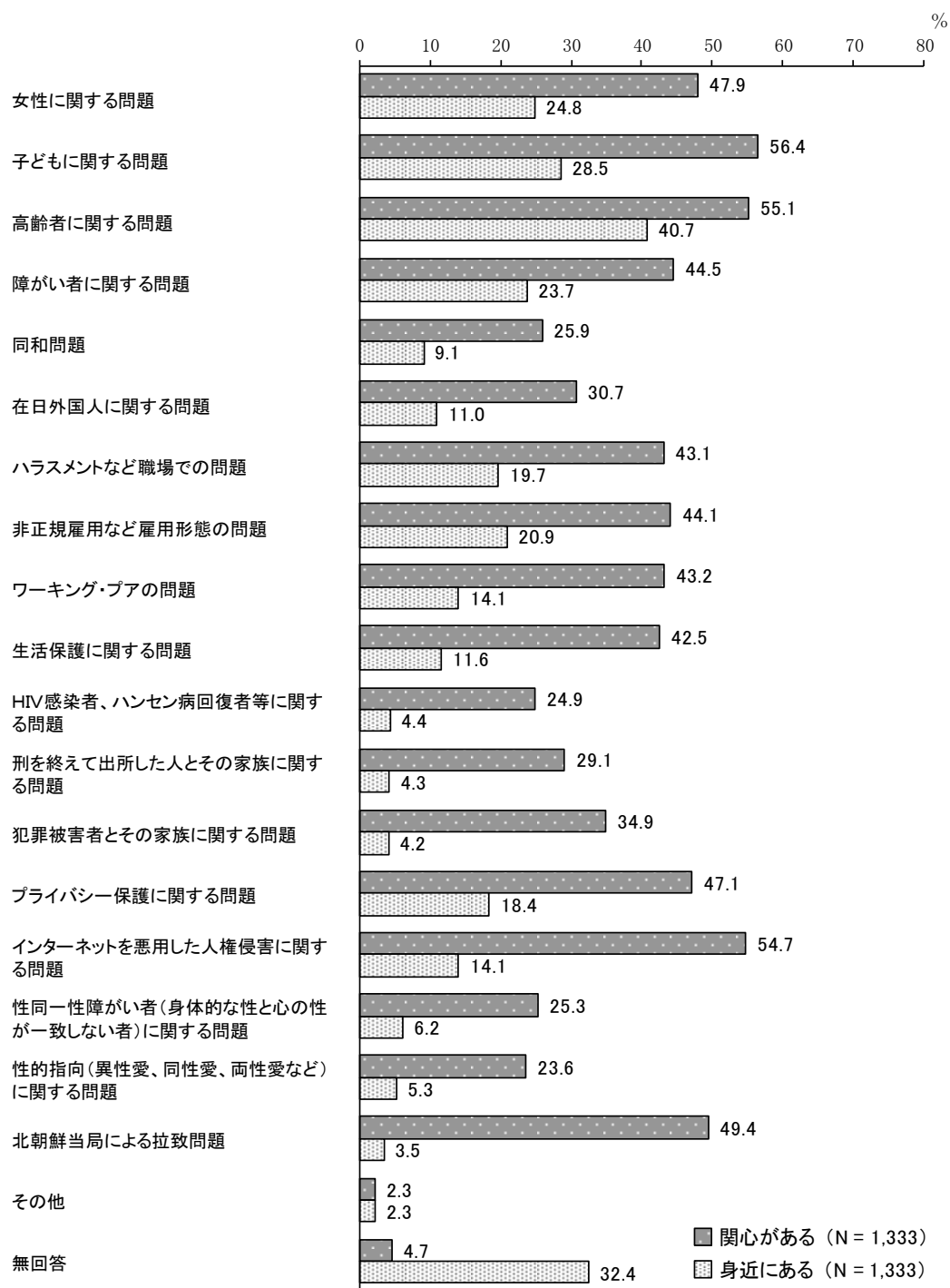
関心があるものについては、「子どもに関する問題」の割合が56.4%と最も高く、次いで「高齢者に関する問題」の割合が55.1%、「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」の割合が54.7%となっています。

平成25年度調査と比較すると、すべての項目で割合が増加しています。

平成29年度内閣府人権擁護に関する世論調査(内閣府調査)と比較すると、「女性に関する問題」「子どもに関する問題」「高齢者に関する問題」「同和問題」「在日外国人に関する問題」「性同一性障がい者(身体的な性と心の性が一致しない者)に関する問題」「性的指向(異性愛、同性愛、両性愛など)に関する問題」「北朝鮮当局による拉致問題」の割合が高く、「障がい者に関する問題」の割合が低くなっています。

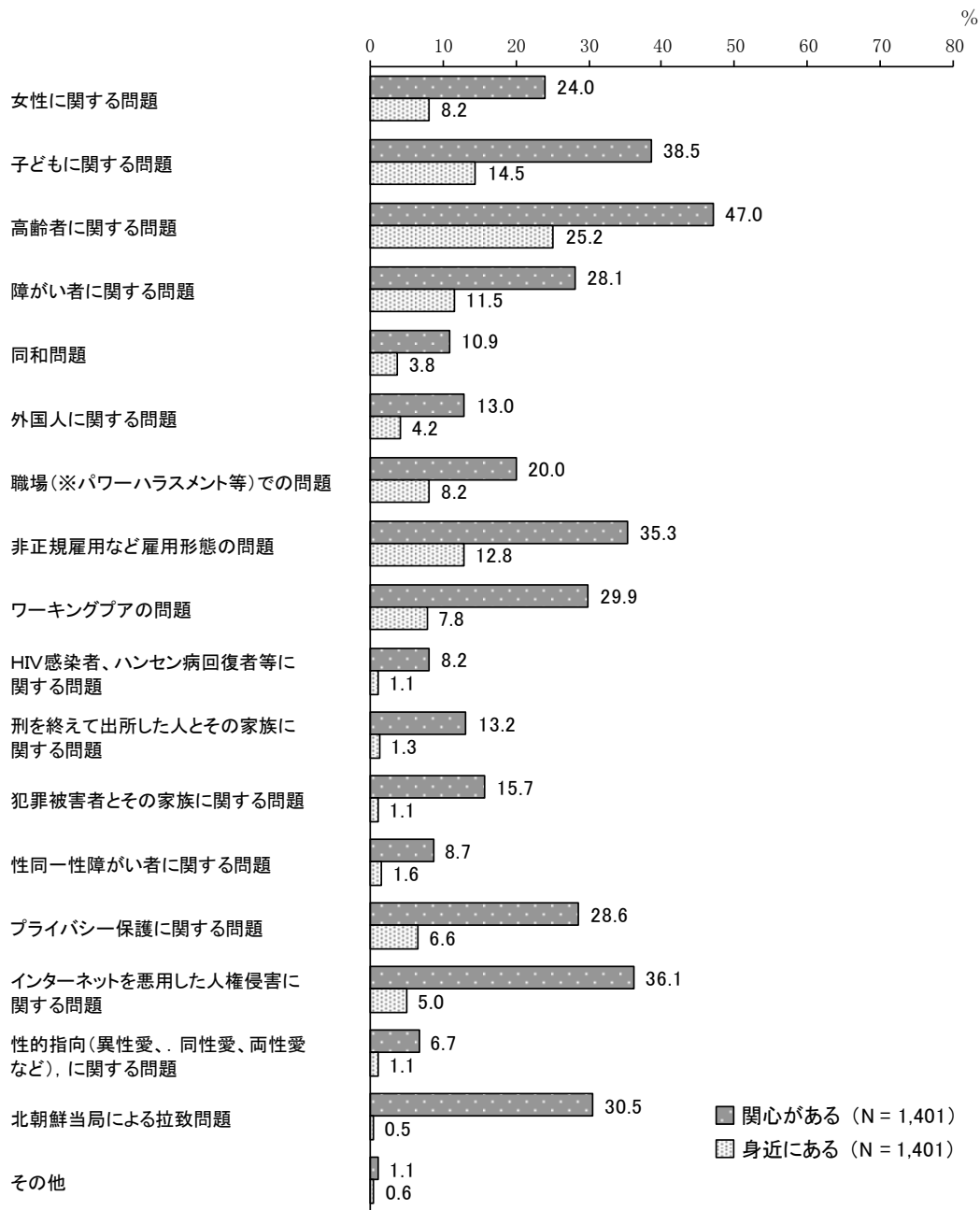
身近にあるものについては、「高齢者に関する問題」の割合が40.7%と最も高く、次いで「子どもに関する問題」の割合が28.5%、「女性に関する問題」の割合が24.8%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「女性に関する問題」「子どもに関する問題」「高齢者に関する問題」「障がい者に関する問題」「同和問題」「在日外国人に関する問題」「ハラスメントなど職場での問題」「非正規雇用など雇用形態の問題」「ワーキング・プアの問題」「プライバシー保護に関する問題」「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」の割合が増加しています。



※「生活保護に関する問題」は平成 25 年度調査にはありません。

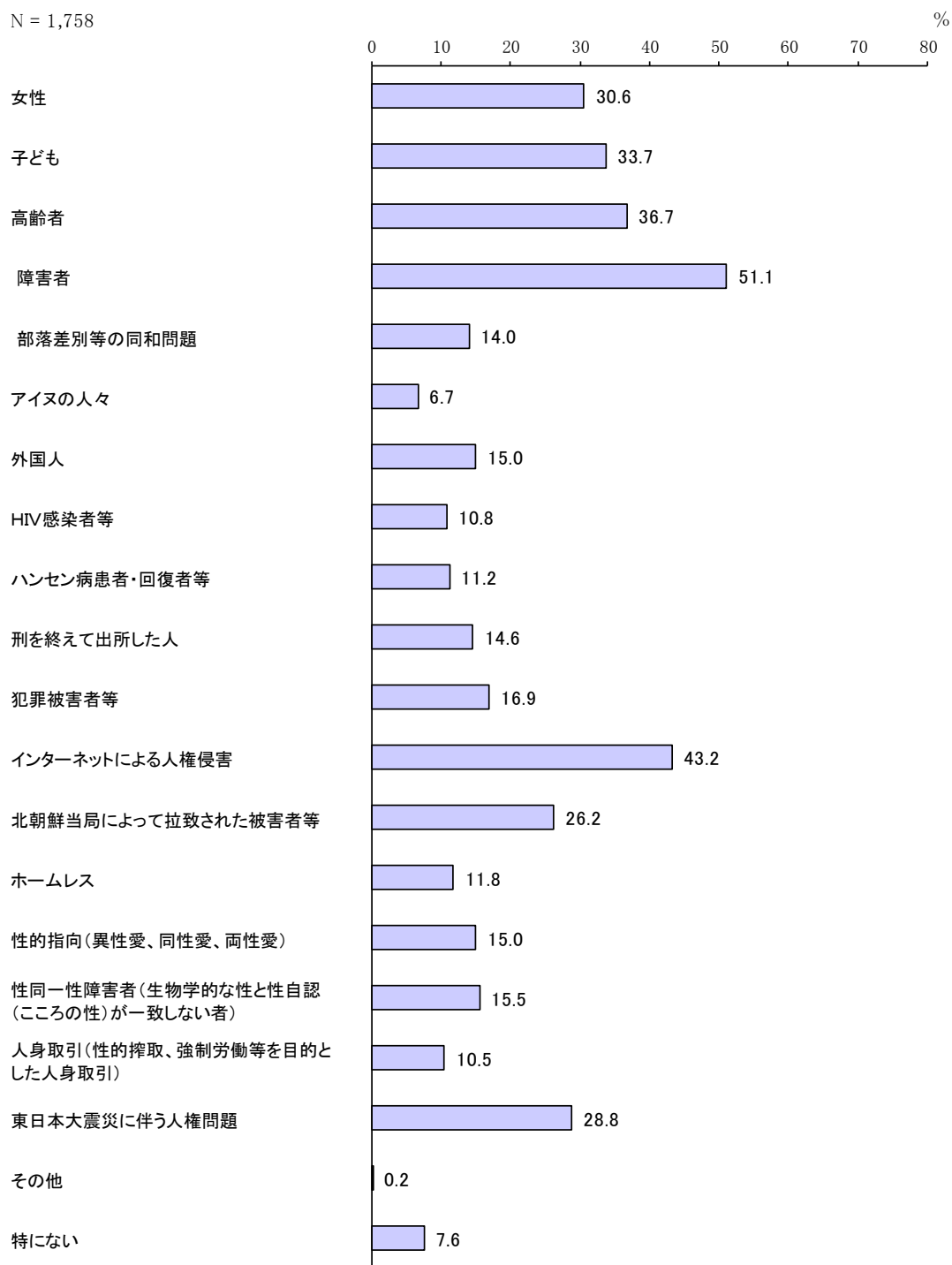
【平成 25 年度調査】



①関心があるもの

【平成 29 年度内閣府人権擁護に関する世論調査（内閣府調査）】

N = 1,758



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「同和問題」「在日外国人に関する問題」の割合が、女性で「女性に関する問題」「子どもに関する問題」の割合が高くなっています。また、選択しないで「ワーキング・プアの問題」「性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がい者に関する問題	同和問題	在日外国人に関する問題	ハラスメントなど職場での問題	非正規雇用など雇用形態の問題	ワーキング・プアの問題	生活保護に関する問題
男性	519	38.2	53.8	54.1	45.3	30.1	35.6	44.7	45.5	43.5	44.7
女性	765	54.4	59.0	55.9	43.3	22.5	27.2	41.6	43.3	42.5	40.7
選択しない	25	44.0	44.0	48.0	48.0	24.0	20.0	44.0	44.0	48.0	44.0

区分	HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	プライバシー保護に関する問題	インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	性同一性障がい者（身体的な性と心の性が一致しない者）に関する問題	性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題	北朝鮮当局による拉致問題	その他	無回答
男性	26.4	30.3	37.2	47.8	56.3	23.7	22.9	49.9	2.9	5.0
女性	23.7	28.8	33.9	46.4	53.5	26.1	23.7	49.3	2.0	4.4
選択しない	16.0	20.0	20.0	48.0	56.0	24.0	28.0	48.0	—	4.0

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「高齢者に関する問題」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上で約7割となっています。また、他に比べ、20～39歳で「女性に関する問題」「子どもに関する問題」の割合が、50～59歳で「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」の割合が、70歳以上で「同和問題」「北朝鮮当局による拉致問題」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がい者に関する問題	同和問題	在日外国人に関する問題	問題 ハラスメントなど職場での	問題 非正規雇用など雇用形態の	ワーキング・プアの問題	生活保護に関する問題
16～19歳	46	32.6	39.1	28.3	26.1	13.0	32.6	32.6	32.6	21.7	13.0
20～29歳	88	56.8	64.8	44.3	39.8	30.7	42.0	53.4	48.9	47.7	43.2
30～39歳	174	54.0	66.1	52.9	44.8	24.7	25.9	48.9	43.1	44.8	36.2
40～49歳	263	49.8	61.6	55.9	46.0	22.4	26.6	44.5	41.4	43.7	40.7
50～59歳	248	41.5	48.4	53.6	41.9	27.0	30.2	46.0	46.4	43.1	45.6
60～69歳	314	46.2	54.5	57.6	44.9	22.9	29.9	35.4	42.4	43.0	43.6
70歳以上	171	49.7	56.7	67.3	51.5	35.1	36.3	40.9	49.1	43.3	50.9

区分	復者等に関する問題 HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	プライバシー保護に関する問題	インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	性同一性障がい者(身体的な性と心の性が一致しない者)に関する問題	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛など)に関する問題	北朝鮮当局による拉致問題	その他	無回答
16～19歳	19.6	26.1	30.4	39.1	45.7	26.1	26.1	28.3	2.2	8.7
20～29歳	31.8	36.4	44.3	51.1	54.5	43.2	43.2	42.0	4.5	3.4
30～39歳	24.1	34.5	39.1	47.7	55.2	30.5	26.4	37.9	1.7	4.6
40～49歳	20.9	25.1	31.9	43.3	49.0	22.1	20.9	37.3	2.3	4.9
50～59歳	26.6	28.2	33.9	48.4	63.3	21.0	19.4	46.0	2.0	4.0
60～69歳	22.0	24.2	30.6	43.6	52.2	19.1	18.5	58.0	1.9	6.1
70歳以上	30.4	37.4	41.5	56.7	57.3	32.7	28.7	78.4	2.9	1.8

## 【職業別】

職業別でみると、他に比べ、臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）、商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者、家事専業者（専業主婦など）で「子どもに関する問題」の割合が、家事専業者（専業主婦など）、その他の職業、無職で「高齢者に関する問題」の割合が、商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者、大学生・大学院生で「ハラスメントなど職場での問題」の割合が、商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者、自由業（開業医、弁護士、著述業など）、大学生・大学院生で「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」の割合が、自由業（開業医、弁護士、著述業など）、無職で「北朝鮮当局による拉致問題」の割合が高くなっています。また、自由業（開業医、弁護士、著述業など）で「同和問題」「非正規雇用など雇用形態の問題」「ワーキング・プアの問題」の割合が、大学生・大学院生で「在日外国人に関する問題」、「性同一性障がい者（身体的な性と心の性が一致しない者）に関する問題」「性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がい者に関する問題	同和問題	在日外国人に関する問題	問題 ハラスメントなど職場での	問題 非正規雇用など雇用形態の	ワーキング・プアの問題	生活保護に関する問題
常雇いの勤め	407	43.5	53.1	53.3	44.0	26.8	31.7	46.7	41.0	45.2	41.0
臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）	269	52.0	62.1	50.9	41.6	20.1	24.2	41.3	44.6	44.2	41.6
農林漁業の自営業者および家族従業者	6	—	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3
商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者	47	53.2	61.7	55.3	46.8	34.0	40.4	55.3	46.8	44.7	42.6
自由業（開業医、弁護士、著述業など）	20	50.0	55.0	55.0	45.0	50.0	40.0	45.0	70.0	60.0	40.0
家事専業者（専業主婦など）	220	54.5	61.8	60.9	48.6	25.0	27.7	43.2	43.2	44.1	42.3
高校生	26	34.6	53.8	34.6	34.6	15.4	34.6	30.8	34.6	15.4	11.5
大学生・大学院生	42	50.0	47.6	40.5	35.7	21.4	50.0	57.1	47.6	40.5	42.9
専修学校・各種学校生	4	75.0	75.0	75.0	75.0	25.0	25.0	50.0	25.0	25.0	50.0
その他の職業	27	48.1	59.3	63.0	48.1	40.7	29.6	48.1	44.4	48.1	51.9
無職	226	44.2	52.2	64.2	45.1	27.0	32.3	32.7	48.2	39.8	49.1



【職業別（つづき）】

単位：％

区分	HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	刑を終えて出所した人との家族に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	プライバシー保護に関する問題	インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	性同一性障がい者（身体的な性と心の性が一致しない者）に関する問題	性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題	北朝鮮当局による拉致問題	その他	無回答
常雇いの勤め	23.3	28.0	34.6	46.2	53.6	22.4	22.6	38.6	2.0	4.2
臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）	22.3	24.9	33.5	43.1	54.6	24.5	21.2	49.8	1.1	4.1
農林漁業の自営者および家族従業者	16.7	33.3	33.3	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7	—	16.7
商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者	40.4	27.7	31.9	40.4	61.7	27.7	17.0	55.3	2.1	4.3
自由業（開業医、弁護士、著述業など）	25.0	40.0	45.0	55.0	60.0	25.0	25.0	65.0	5.0	—
家事専業者（専業主婦など）	25.5	31.8	37.3	49.1	57.3	28.6	26.4	55.5	1.4	4.5
高校生	23.1	34.6	34.6	34.6	42.3	26.9	23.1	23.1	3.8	7.7
大学生・大学院生	28.6	33.3	42.9	57.1	61.9	40.5	45.2	50.0	4.8	9.5
専修学校・各種学校生	25.0	75.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0	—	—	25.0
その他の職業	33.3	37.0	40.7	48.1	55.6	33.3	33.3	48.1	—	11.1
無職	22.6	29.2	32.7	51.8	53.1	22.6	19.9	65.0	4.4	4.4

②身近にあるもの

【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「ハラスメントなど職場での問題」の割合が高くなっています。また、女性で「女性に関する問題」の割合が高く、約3割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がい者に関する問題	同和問題	在日外国人に関する問題	ハラスメントなど職場での問題	非正規雇用など雇用形態の問題	ワーキング・プアの問題	生活保護に関する問題
男性	519	18.9	25.8	39.7	23.1	9.6	11.6	22.7	21.2	14.6	12.9
女性	765	28.8	30.5	41.3	24.2	8.6	10.3	17.4	20.8	13.6	11.0
選択しない	25	28.0	28.0	40.0	24.0	8.0	12.0	28.0	16.0	12.0	4.0

区分	HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	プライバシー保護に関する問題	インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	性同一性障がい者(身体的な性と心の性が一致しない者)に関する問題	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛など)に関する問題	北朝鮮当局による拉致問題	その他	無回答
男性	4.4	4.0	3.5	18.7	13.7	6.4	5.2	3.9	2.9	34.1
女性	4.3	4.2	4.6	18.2	14.5	5.8	5.0	3.1	1.7	30.8
選択しない	4.0	4.0	4.0	24.0	20.0	12.0	16.0	—	4.0	40.0

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」の割合が高くなっており、16～19歳で約3割となっています。また、他に比べ、30～39歳で「女性に関する問題」「子どもに関する問題」「ハラスメントなど職場での問題」の割合が、16～19歳で「障がい者に関する問題」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がい者に関する問題	同和問題	在日外国人に関する問題	問題 ハラスメントなど職場での	問題 非正規雇用など雇用形態の	ワーキング・プアの問題	生活保護に関する問題
16～19歳	46	28.3	37.0	43.5	45.7	6.5	19.6	13.0	15.2	15.2	17.4
20～29歳	88	29.5	25.0	35.2	25.0	10.2	11.4	22.7	27.3	21.6	12.5
30～39歳	174	39.1	44.3	42.5	24.7	13.2	10.9	28.7	26.4	20.7	10.9
40～49歳	263	33.5	40.7	44.9	25.5	6.8	13.3	24.3	26.2	16.7	9.5
50～59歳	248	23.8	26.2	45.2	25.0	4.8	5.6	21.8	19.4	13.7	11.7
60～69歳	314	15.0	17.5	39.2	18.8	11.1	12.4	14.6	18.2	9.6	11.8
70歳以上	171	14.0	16.4	31.0	19.9	10.5	9.4	9.9	11.7	7.0	12.3

区分	復者等に関する問題 HIV感染者、ハンセン病回	刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	プライバシー保護に関する問題	インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	性同一性障がい者(身体的な性と心の性が一致しない者)に関する問題	性的指向(異性愛、同性愛、両性愛など)に関する問題	北朝鮮当局による拉致問題	その他	無回答
16～19歳	6.5	4.3	6.5	30.4	30.4	15.2	13.0	6.5	4.3	21.7
20～29歳	8.0	6.8	3.4	25.0	25.0	13.6	10.2	5.7	3.4	26.1
30～39歳	4.6	4.6	4.6	23.0	18.4	8.0	8.6	6.9	2.3	23.6
40～49歳	2.7	3.8	2.7	18.6	16.3	4.9	3.0	1.9	1.9	25.5
50～59歳	3.2	2.8	3.6	18.5	10.9	4.4	4.0	2.4	2.8	31.0
60～69歳	6.4	5.7	4.8	15.3	10.8	5.7	4.5	2.2	1.6	38.5
70歳以上	2.3	2.3	5.3	12.9	7.6	2.9	3.5	2.3	1.8	46.8

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、高校生、大学生・大学院生で「性同一性障がい者（身体的な性と心の性が一致しない者）に関する問題」「性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題」の割合が高くなっています。また、常雇いの勤めで「ハラスメントなど職場での問題」の割合が、臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）で「非正規雇用など雇用形態の問題」の割合が、自由業（開業医、弁護士、著述業など）で「高齢者に関する問題」「ワーキング・プアの問題」の割合が、高校生で「障がい者に関する問題」「在日外国人に関する問題」「生活保護に関する問題」の割合が、大学生・大学院生で「同和問題」「プライバシー保護に関する問題」の割合が、その他の職業で「北朝鮮当局による拉致問題」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性に関する問題	子どもに関する問題	高齢者に関する問題	障がい者に関する問題	同和問題	在日外国人に関する問題	ハラスメントなど職場での問題	非正規雇用など雇用形態の問題	ワーキング・プアの問題	生活保護に関する問題
常雇いの勤め	407	29.5	32.9	43.5	23.6	9.8	12.0	31.0	21.4	15.2	13.5
臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）	269	28.6	32.3	43.9	24.5	7.4	10.0	22.7	33.1	18.2	10.0
農林漁業の自営者および家族従業者	6	33.3	50.0	50.0	16.7	—	—	16.7	16.7	—	16.7
商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者	47	25.5	21.3	44.7	25.5	4.3	12.8	8.5	19.1	19.1	14.9
自由業（開業医、弁護士、著述業など）	20	25.0	25.0	55.0	25.0	10.0	10.0	25.0	20.0	25.0	15.0
家事専業者（専業主婦など）	220	21.8	24.1	40.0	20.5	9.1	10.5	9.1	16.4	8.6	8.6
高校生	26	23.1	34.6	46.2	42.3	3.8	26.9	19.2	11.5	11.5	19.2
大学生・大学院生	42	31.0	33.3	35.7	35.7	16.7	11.9	14.3	21.4	19.0	14.3
専修学校・各種学校生	4	25.0	25.0	—	—	—	—	25.0	25.0	25.0	—
その他の職業	27	22.2	37.0	33.3	25.9	3.7	3.7	18.5	22.2	14.8	7.4
無職	226	14.2	19.0	31.9	20.8	9.7	8.4	8.8	11.1	9.3	10.6

【職業別（つづき）】

単位：％

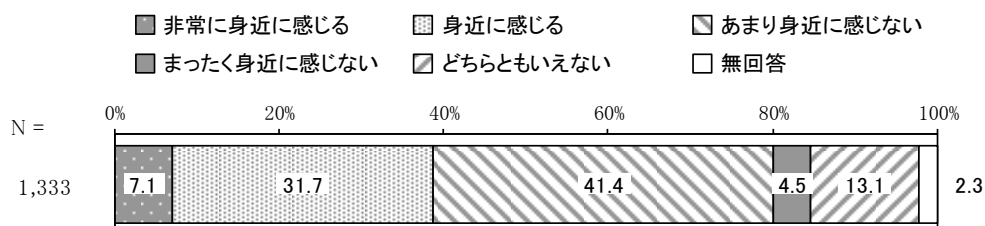
区分	HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	犯罪被害者とその家族に関する問題	プライバシー保護に関する問題	インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	性同一性障がい者（身体的な性と心の性が一致しない者）に関する問題	性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題	北朝鮮当局による拉致問題	その他	無回答
常雇いの勤め	4.9	4.9	3.4	20.1	12.5	6.4	4.7	3.4	1.7	28.3
臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）	4.1	4.1	4.8	20.8	16.0	6.3	5.9	3.0	3.7	26.4
農林漁業の自営者および家族従業者	—	—	—	50.0	16.7	—	—	—	—	33.3
商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者	2.1	2.1	4.3	10.6	12.8	8.5	6.4	4.3	—	36.2
自由業（開業医、弁護士、著述業など）	—	—	—	15.0	10.0	—	—	—	10.0	25.0
家事専業者（専業主婦など）	4.5	3.2	4.5	17.3	14.1	5.9	5.5	2.3	1.4	33.2
高校生	7.7	3.8	3.8	23.1	26.9	15.4	11.5	7.7	3.8	23.1
大学生・大学院生	7.1	9.5	7.1	35.7	40.5	14.3	11.9	9.5	—	26.2
専修学校・各種学校生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	75.0
その他の職業	7.4	3.7	3.7	22.2	18.5	7.4	—	14.8	3.7	29.6
無職	3.5	3.5	4.0	11.1	8.8	3.5	4.9	2.2	2.2	47.3

### (3) 人権全般（感じ方）

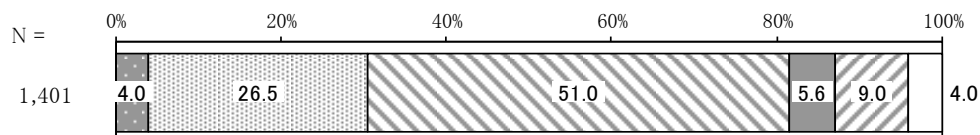
問3 あなたは、「人権」ということをどの程度身近に感じておられますか。  
（いずれか1つに○）

「非常に身近に感じる」と「身近に感じる」をあわせた“身近に感じる”の割合が38.8%、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」をあわせた“身近に感じない”の割合が45.9%となっています。

平成25年度調査と比較すると、“身近に感じる”の割合が増加しています。

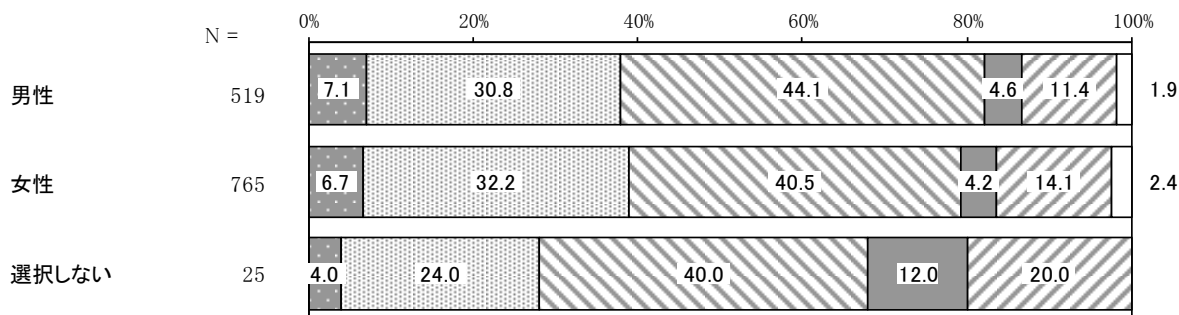


#### 【平成25年度調査】



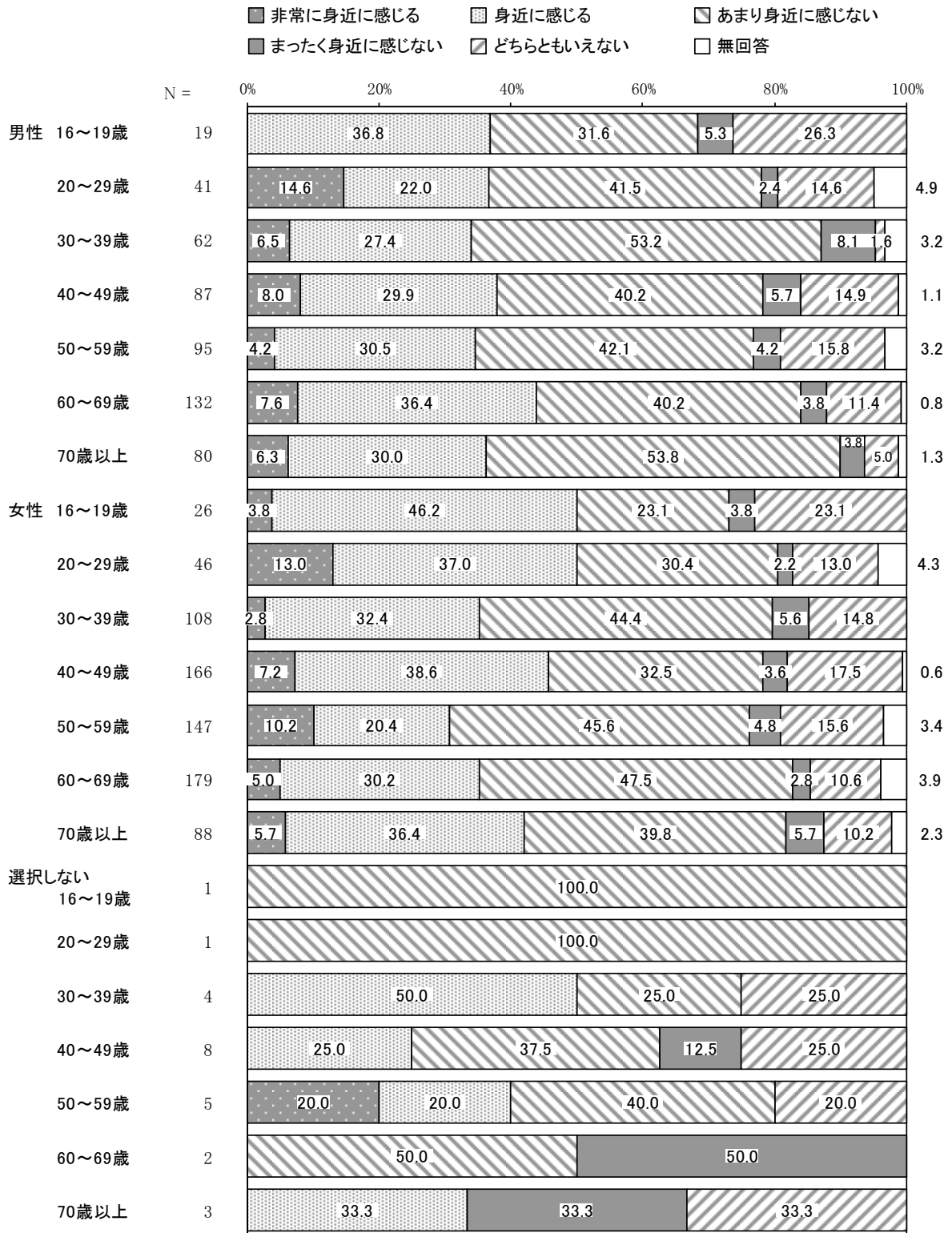
#### 【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



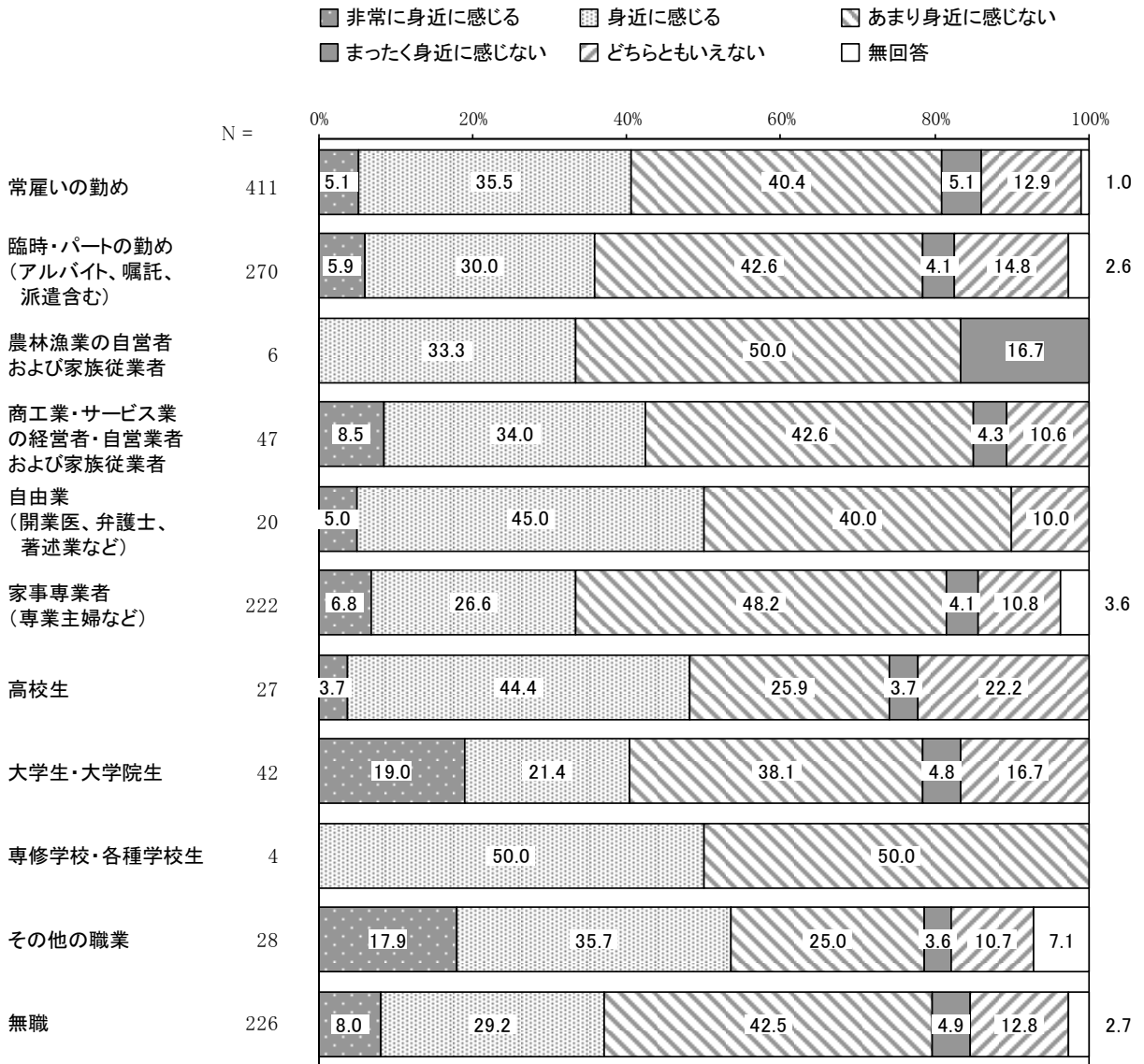
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の16～29歳で“身近に感じる”の割合が高く、5割となっています。また、男性の30～39歳で“身近に感じない”の割合が高く、約6割となっています。



【職業別】

職業別でみると、他に比べ、自由業（開業医、弁護士、著述業など）、高校生で“身近に感じる”の割合が高く、約5割となっています。また、家事専業者（専業主婦など）、無職で“身近に感じない”の割合が高く、約5割となっています。



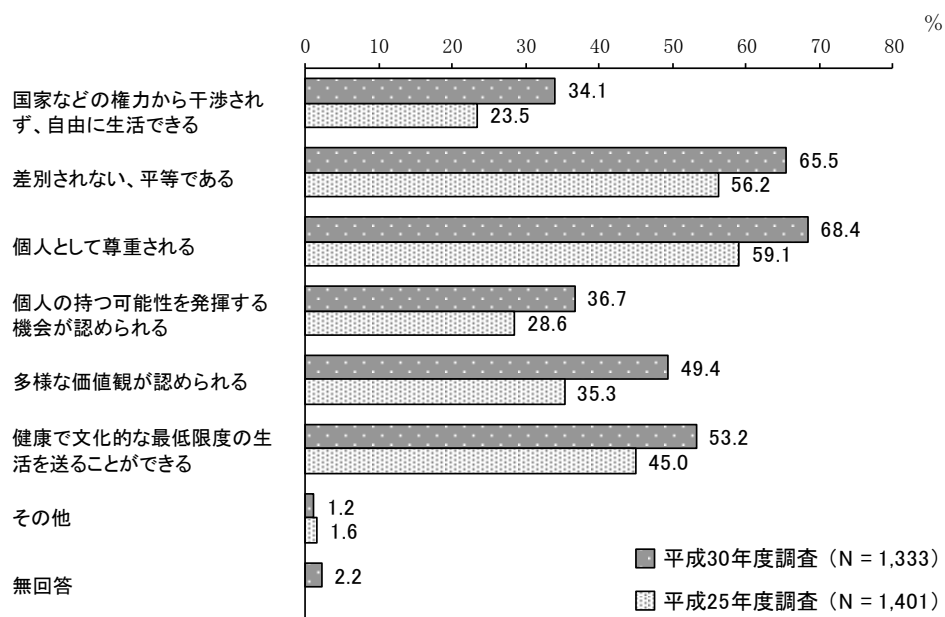


#### (4) 人権全般 (人権尊重の意味)

問4 「人権が尊重される」ということは、どういうことだと思いますか。  
(あてはまるものすべてに○)

「個人として尊重される」の割合が68.4%と最も高く、次いで「差別されない、平等である」の割合が65.5%、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」の割合が53.2%となっています。

平成25年度調査と比較すると、すべての項目の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「個人の持つ可能性を発揮する機会が認められる」の割合が高く、約4割となっています。また、女性で「差別されない、平等である」「個人として尊重される」の割合が高く、約7割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	国家などの権力から干渉されず、自由に生活できる	差別されない、平等である	個人として尊重される	個人の持つ可能性を発揮する機会が認められる	多様な価値観が認められる	健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる	その他	無回答
男性	519	37.4	62.4	65.7	40.5	48.7	50.7	2.3	1.9
女性	765	32.5	67.5	71.0	33.6	49.4	54.5	0.3	1.8
選択しない	25	24.0	64.0	56.0	44.0	52.0	68.0	4.0	8.0

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、女性の16～19歳、30～39歳で「個人として尊重される」の割合が高く、約8割となっています。また、女性の20～49歳で「多様な価値観が認められる」の割合が、男性の20～29歳、50～59歳で「個人の持つ可能性を發揮する機会が認められる」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	国家などの権力から干渉されず、自由に生活できる	差別されない、平等である	個人として尊重される	個人の持つ可能性を發揮する機会が認められる	多様な価値観が認められる	健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる	その他	無回答
男性 16～19歳	19	31.6	63.2	73.7	42.1	52.6	47.4	—	—
20～29歳	41	43.9	63.4	68.3	48.8	51.2	43.9	4.9	4.9
30～39歳	62	25.8	66.1	67.7	32.3	56.5	48.4	1.6	3.2
40～49歳	87	32.2	60.9	59.8	35.6	48.3	44.8	3.4	1.1
50～59歳	95	35.8	61.1	72.6	50.5	47.4	41.1	1.1	2.1
60～69歳	132	42.4	61.4	65.2	37.1	43.9	57.6	3.0	0.8
70歳以上	80	42.5	63.8	60.0	40.0	50.0	62.5	1.3	1.3
女性 16～19歳	26	34.6	57.7	80.8	26.9	34.6	30.8	—	—
20～29歳	46	30.4	60.9	73.9	39.1	58.7	54.3	—	2.2
30～39歳	108	22.2	75.0	77.8	36.1	62.0	45.4	—	0.9
40～49歳	166	33.1	70.5	75.3	36.7	57.8	56.0	0.6	0.6
50～59歳	147	33.3	63.9	70.7	32.0	44.9	51.0	—	1.4
60～69歳	179	35.2	65.9	65.4	31.3	44.1	62.0	0.6	3.9
70歳以上	88	38.6	69.3	62.5	31.8	36.4	61.4	—	1.1
選択しない 16～19歳	1	—	—	100.0	—	—	100.0	—	—
20～29歳	1	—	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—	—
30～39歳	4	—	75.0	75.0	50.0	75.0	75.0	—	—
40～49歳	8	—	50.0	37.5	25.0	37.5	37.5	12.5	25.0
50～59歳	5	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	100.0	—	—
60～69歳	2	—	50.0	50.0	—	100.0	50.0	—	—
70歳以上	3	33.3	66.7	—	33.3	—	100.0	—	—

## (5) 自己的人権侵害の有無

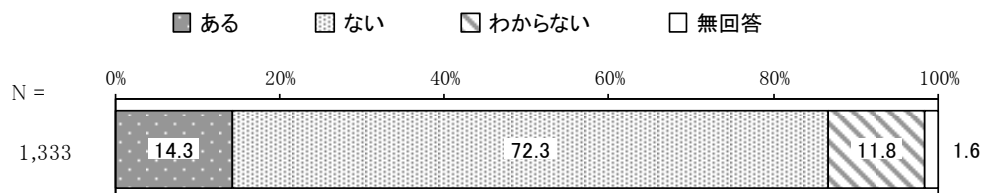
問5 あなたは、ここ5年ぐらいの間に、自己的人権が侵害されたと思われたことがありますか。(いずれか1つに○)

「ない」の割合が72.3%と最も高く、次いで「ある」の割合が14.3%、「わからない」の割合が11.8%となっています。

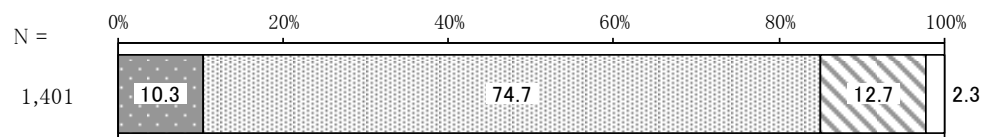
平成25年度調査と比較すると「ある」の割合が4.0%増加しています。

奈良県調査との比較は、選択肢が異なるため参考とします。

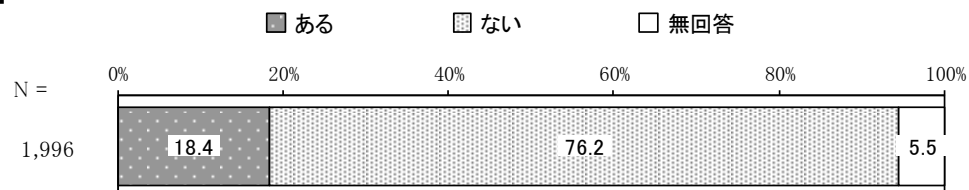
内閣府調査と比較すると、大きな差異はみられません。



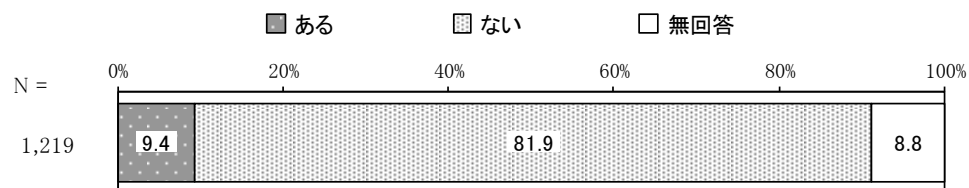
### 【平成25年度調査】



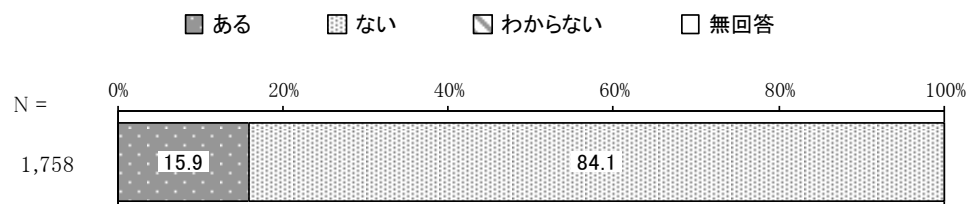
### 【平成16年度調査】



### 【奈良県調査】

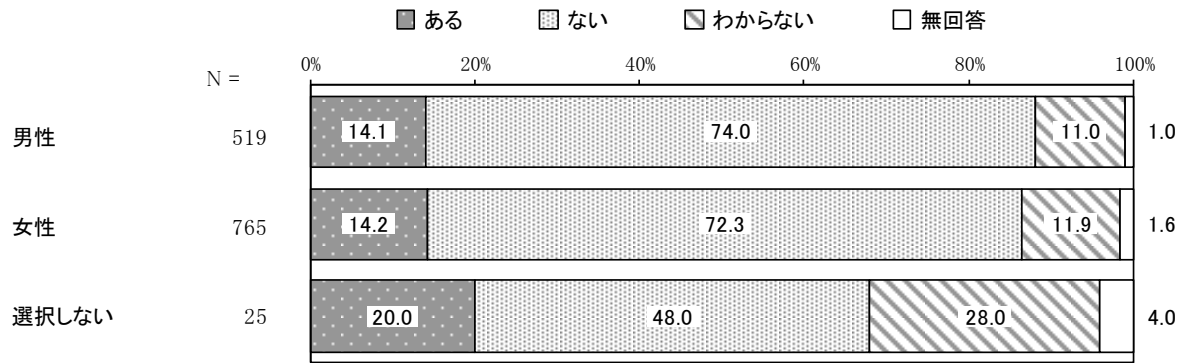


### 【内閣府調査】



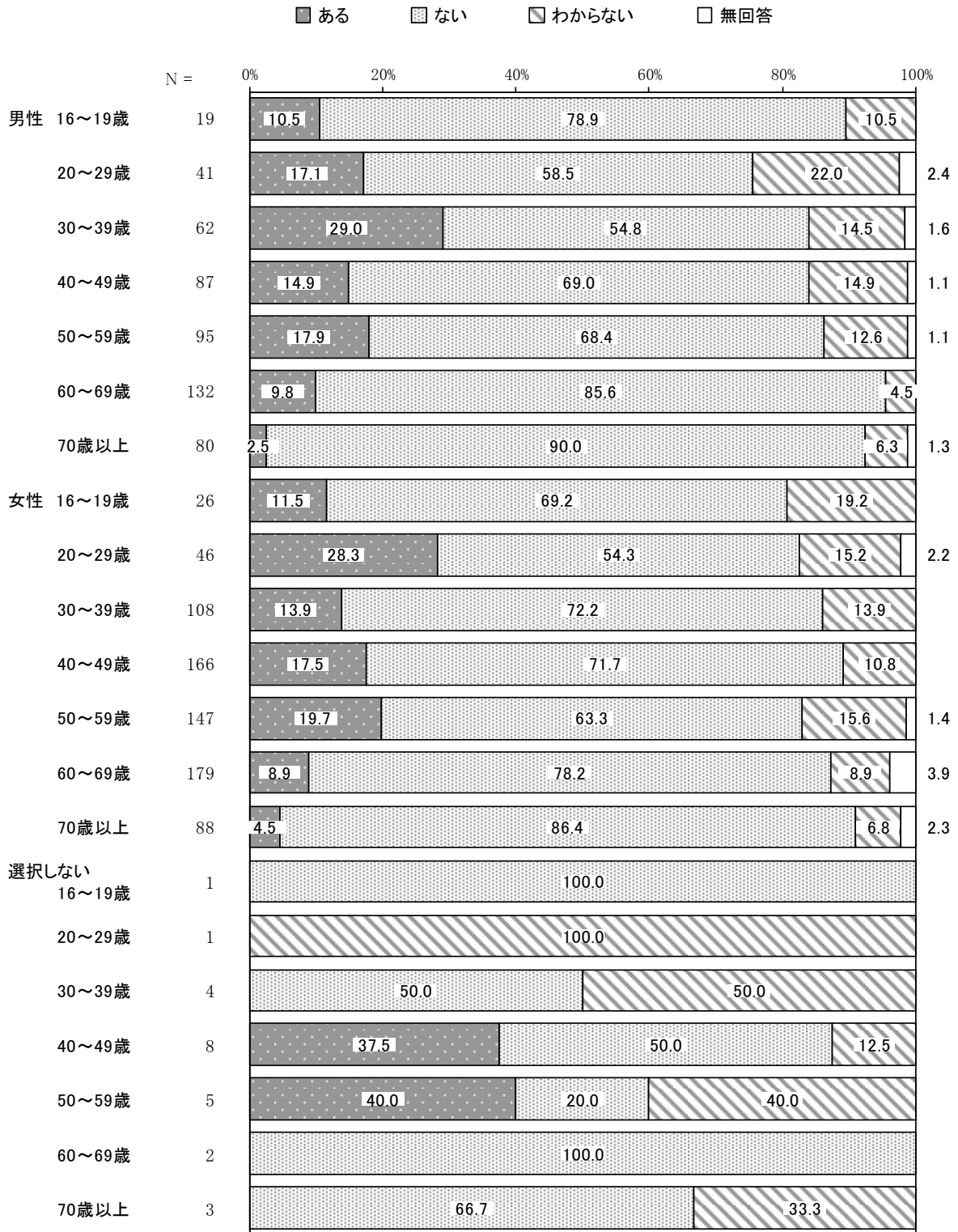
【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



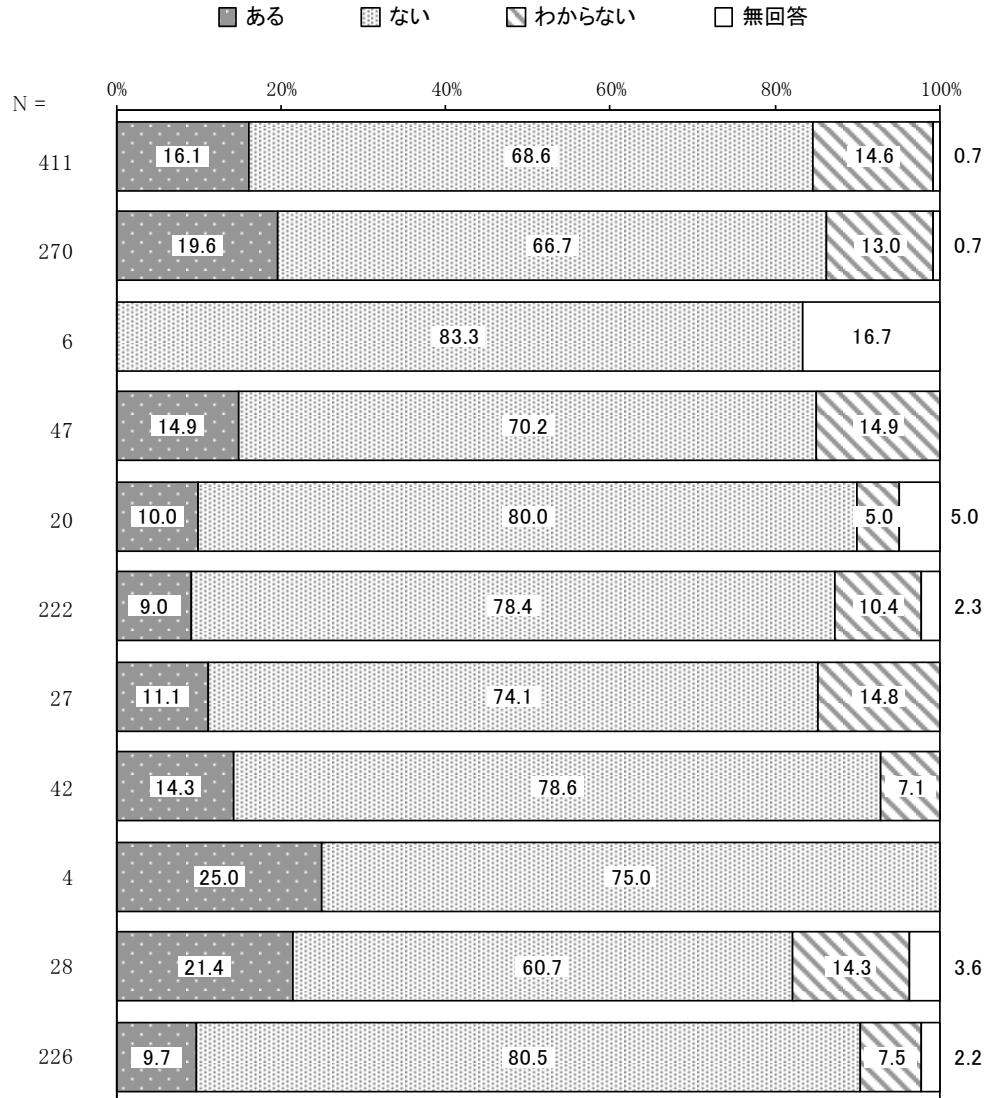
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男性の30～39歳、女性の20～29歳で「ある」の割合が高く、約3割と  
なっています。



【職業別】

職業別でみると、他に比べ、臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）で「ある」の割合が高く、約2割となっています。



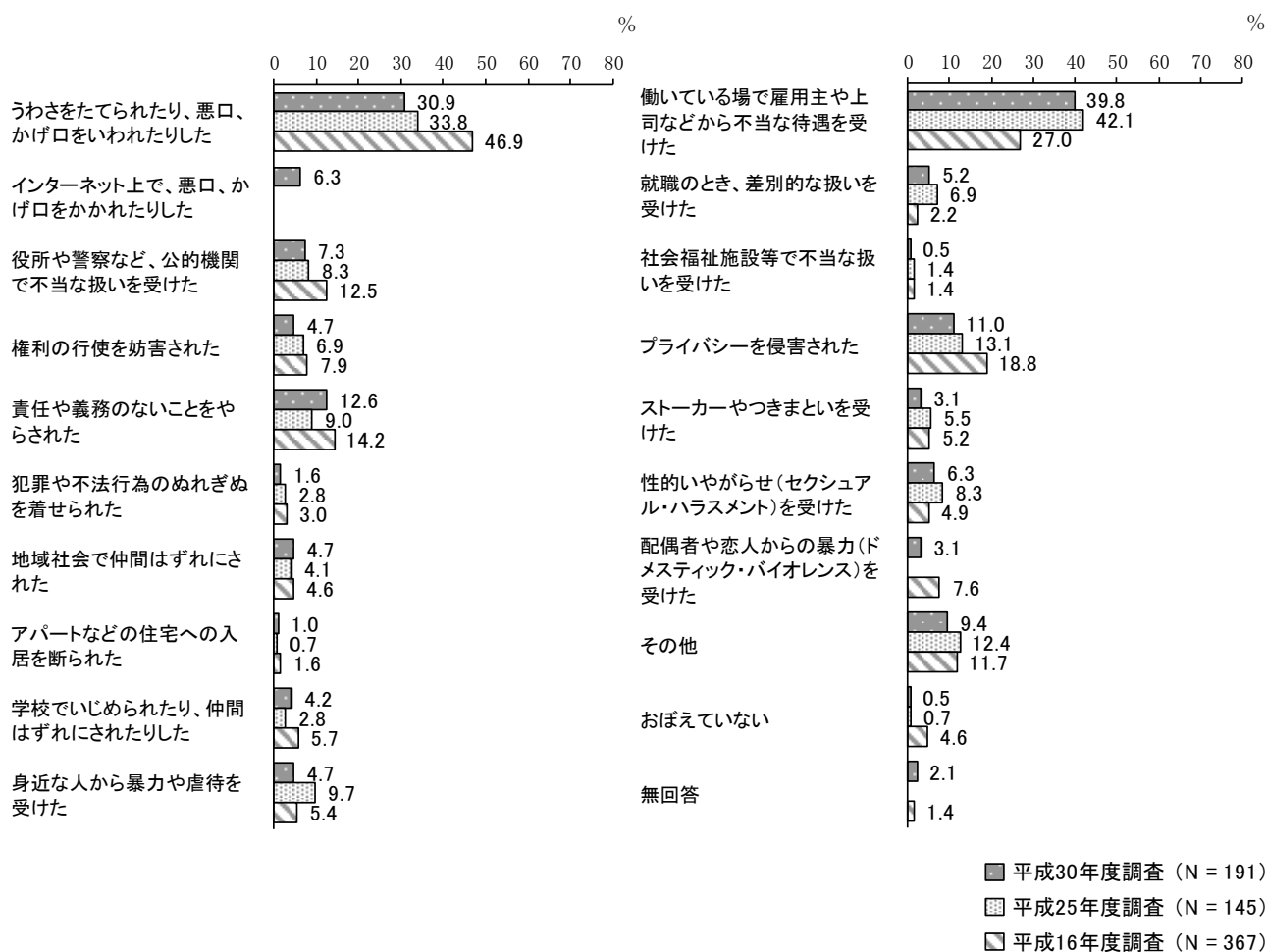
## (6) 人権侵害の内容

問5で「1 ある」と答えた方におうかがいします。

### 問6－(1) それほどのような内容でしたか。(〇はいくつでも)

「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」の割合が39.8%と最も高く、次いで「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」の割合が30.9%、「責任や義務のないことをやらされた」の割合が12.6%となっています。

平成25年度調査と比較すると、「身近な人から暴力や虐待を受けた」の割合が減少しています。また、平成16年度調査と比較すると、「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」の割合が増加し、「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」「役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた」「プライバシーを侵害された」が減少しています。

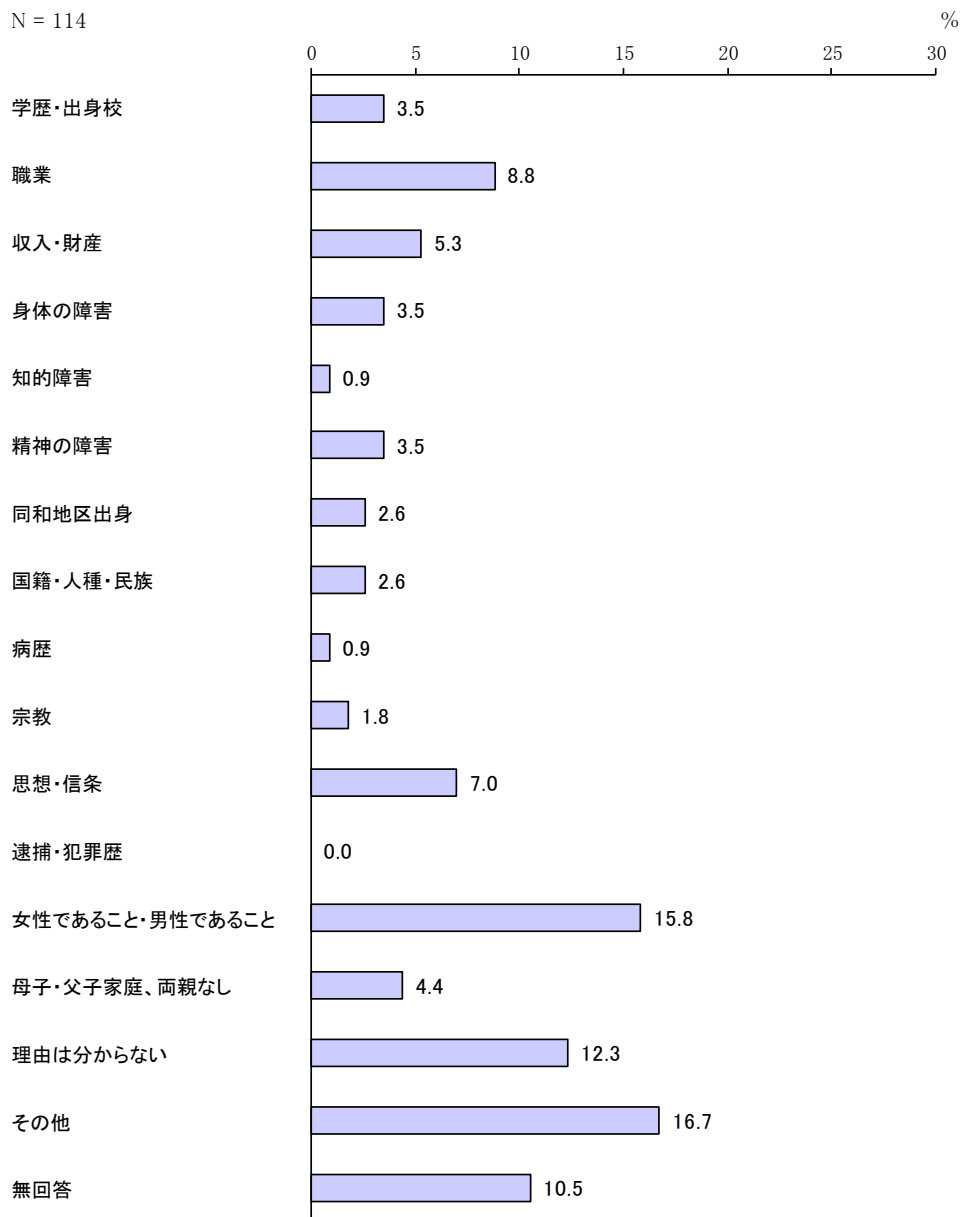




※参考

【奈良県調査】

N = 114



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」「役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた」「権利の行使を妨害された」「就職のとき、差別的な扱いを受けた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした	インターネット上で、悪口、かげ口をかかれたりした	役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた	権利の行使を妨害された	責任や義務のないことをやらされた	犯罪や不法行為のぬれぎぬを着せられた	地域社会で仲間はずれにされた	アパートなどの住宅への入居を断られた	学校でいじめられたり、仲間はずれにされたりした	身近な人から暴力や虐待を受けた
男性	73	34.2	8.2	11.0	9.6	15.1	4.1	5.5	1.4	5.5	2.7
女性	109	28.4	5.5	5.5	0.9	11.9	—	4.6	0.9	3.7	5.5
選択しない	5	20.0	—	—	20.0	—	—	—	—	—	20.0

区分	働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた	就職のとき、差別的な扱いを受けた	社会福祉施設等で不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	ストーカーやつきまといを受けた	性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた	配偶者や恋人からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた	その他	おぼえていない	無回答
男性	41.1	9.6	—	9.6	1.4	4.1	1.4	8.2	—	—
女性	37.6	2.8	0.9	11.9	4.6	8.3	4.6	11.0	0.9	3.7
選択しない	40.0	—	—	20.0	—	—	—	—	—	—

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～69歳で「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」の割合が高く、約4割となっています。また、20～39歳で「インターネット上で、悪口、かげ口をかかれたりした」の割合が、20～29歳で「性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした	インターネット上で、悪口、かげ口をかかれたりした	役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた	権利の行使を妨害された	責任や義務のないことをやらされた	犯罪や不法行為のぬれぎぬを着せられた	地域社会で仲間はずれにされた	アパートなどの住宅への入居を断られた	学校でいじめられたり、仲間はずれにされたりした	身近な人から暴力や虐待を受けた
16～19歳	5	60.0	40.0	—	—	20.0	20.0	—	—	60.0	—
20～29歳	20	20.0	10.0	5.0	10.0	15.0	—	—	—	—	10.0
30～39歳	33	33.3	12.1	9.1	9.1	15.2	6.1	6.1	—	3.0	6.1
40～49歳	45	33.3	4.4	13.3	2.2	13.3	—	2.2	—	4.4	2.2
50～59歳	48	20.8	4.2	6.3	2.1	8.3	—	8.3	2.1	2.1	6.3
60～69歳	29	37.9	—	—	3.4	17.2	—	6.9	3.4	—	—
70歳以上	6	50.0	—	—	—	—	—	—	—	16.7	16.7

区分	働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた	就職のとき、差別的な扱いを受けた	社会福祉施設等で不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	ストーカーやつきまといを受けた	性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	その他	おぼえていない	無回答
16～19歳	—	—	—	40.0	—	—	—	20.0	—	—
20～29歳	45.0	10.0	—	5.0	—	15.0	5.0	15.0	—	10.0
30～39歳	42.4	12.1	—	12.1	6.1	9.1	6.1	9.1	—	—
40～49歳	46.7	2.2	—	13.3	2.2	4.4	—	11.1	2.2	—
50～59歳	41.7	—	2.1	6.3	6.3	6.3	4.2	2.1	—	4.2
60～69歳	27.6	3.4	—	10.3	—	3.4	—	13.8	—	—
70歳以上	—	16.7	—	33.3	—	—	16.7	16.7	—	—

【職業別】

職業別でみると、他に比べ、臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）で「役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた」「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」の割合が、家事専業者（専業主婦など）で「地域社会で仲間はずれにされた」「身近な人から暴力や虐待を受けた」の割合が、無職で「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」「インターネット上で、悪口、かげ口をかかれたりした」「学校でいじめられたり、仲間はずれにされたりした」「プライバシーを侵害された」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした	インターネット上で、悪口、かげ口をかかれたりした	役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた	権利の行使を妨害された	責任や義務のないことをやらされた	犯罪や不法行為のぬれぎぬを着せられた	地域社会で仲間はずれにされた	アパートなどの住宅への入居を断られた	学校でいじめられたり、仲間はずれにされたりした	身近な人から暴力や虐待を受けた
常雇いの勤め	66	25.8	6.1	6.1	4.5	15.2	—	1.5	—	—	3.0
臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）	52	26.9	5.8	11.5	3.8	7.7	3.8	—	—	5.8	1.9
農林漁業の自営者および家族従業者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者	7	28.6	—	14.3	28.6	14.3	—	14.3	—	—	—
自由業（開業医、弁護士、著述業など）	2	—	—	50.0	—	—	—	50.0	—	—	—
家事専業者（専業主婦など）	20	45.0	—	5.0	—	15.0	—	15.0	—	—	20.0
高校生	2	100.0	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
大学生・大学院生	6	—	—	—	—	16.7	—	—	—	—	16.7
専修学校・各種学校生	1	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—
その他の職業	6	16.7	—	—	—	—	—	16.7	—	—	—
無職	22	50.0	18.2	—	4.5	18.2	4.5	9.1	9.1	13.6	4.5

【職業別（つづき）】

単位：%

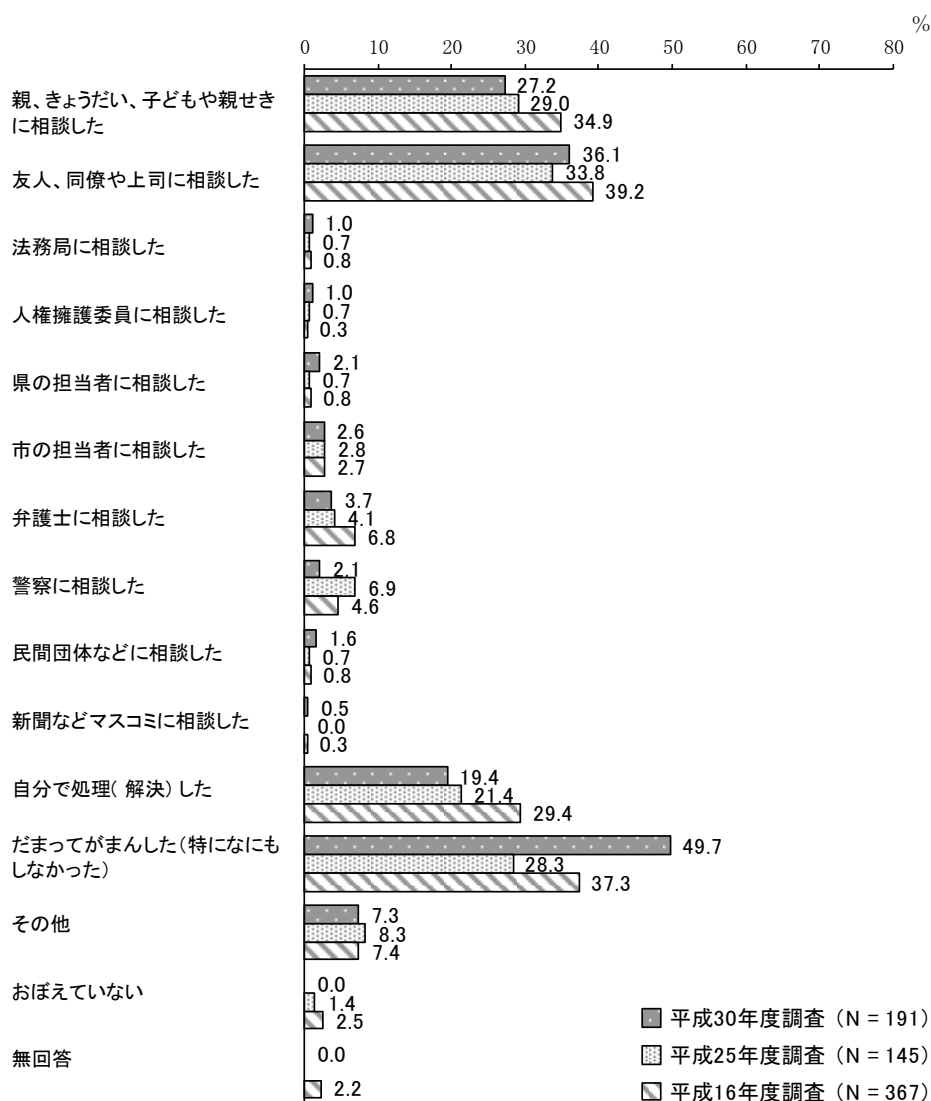
区分	働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた	就職のとき、差別的な扱いを受けた	社会福祉施設等で不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	ストーカーやつきまといを受けた	性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	その他	おぼえていない	無回答
常雇いの勤め	40.9	7.6	1.5	4.5	1.5	7.6	4.5	12.1	—	1.5
臨時・パートの勤め（アルバイト、嘱託、派遣含む）	50.0	5.8	—	11.5	5.8	9.6	1.9	3.8	1.9	3.8
農林漁業の自営者および家族従業者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
商工業・サービス業の経営者・自営業者および家族従業者	42.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自由業（開業医、弁護士、著述業など）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
家事専業者（専業主婦など）	10.0	—	—	20.0	—	5.0	5.0	15.0	—	—
高校生	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大学生・大学院生	50.0	16.7	—	16.7	—	—	—	33.3	—	16.7
専修学校・各種学校生	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—	—	—
その他の職業	50.0	—	—	—	16.7	—	—	50.0	—	—
無職	27.3	4.5	—	27.3	4.5	4.5	4.5	—	—	—

## (7) 対処方法

### 問6－(2) そのとき、どうされましたか。(〇はいくつでも)

「だまっていた(特になにもしなかった)」の割合が49.7%と最も高く、次いで「友人、同僚や上司に相談した」の割合が36.1%、「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」の割合が27.2%となっています。

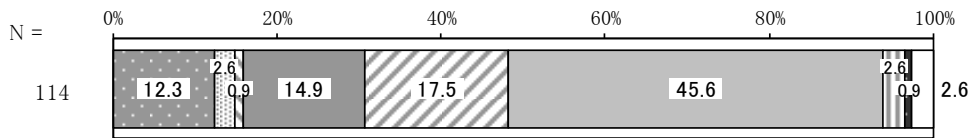
平成16年度調査、平成25年度調査と比較すると、「だまっていた(特になにもしなかった)」が増加している。また、平成16年度調査と比較すると、「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」「自分で処理(解決)した」の割合が減少しています。



※参考

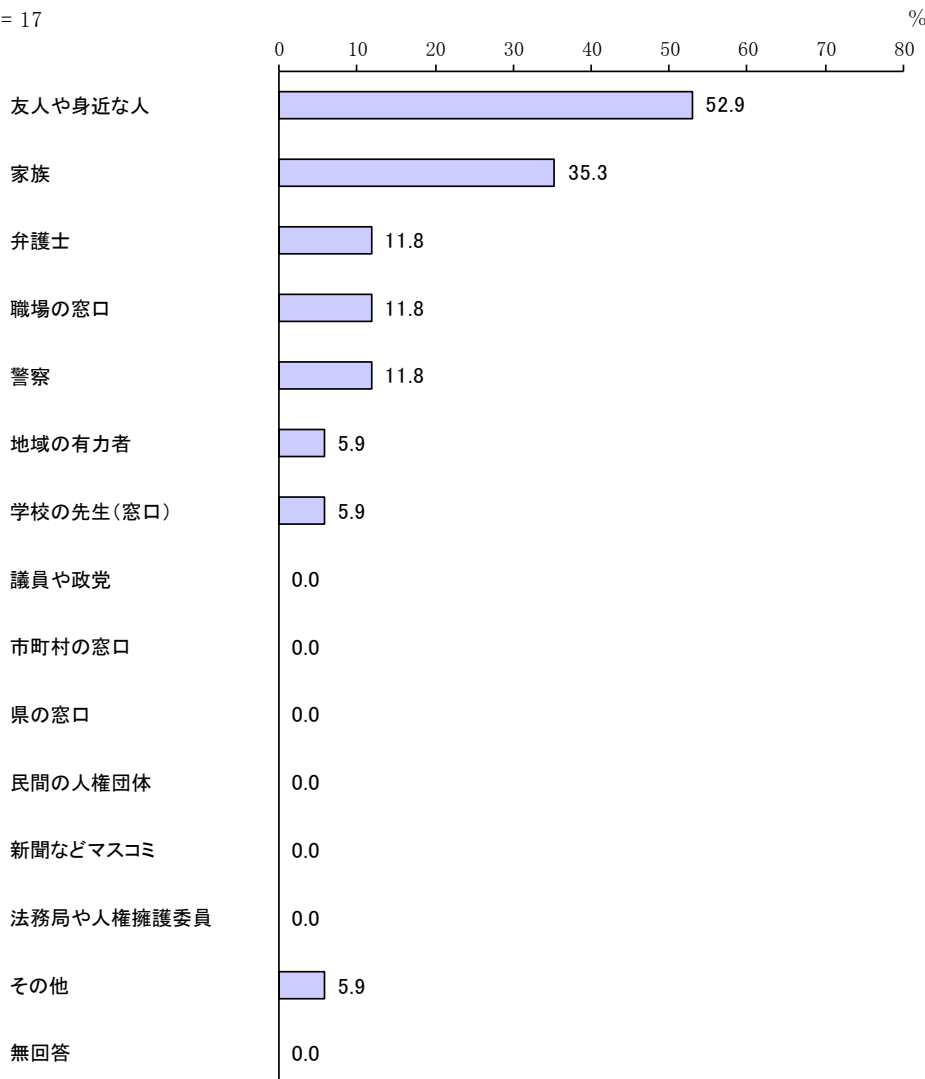
【奈良県調査】  
人権侵害の対応

- 相手に直接抗議した
- 相手に対抗措置をした(やりかえし等)
- 訴えた(マスコミや行政、裁判、警察)
- 相談した
- 無視した
- 黙って我慢した
- 逃げた
- その他
- 無回答



相談相手

N = 17



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「自分で処理(解決)した」「だまっがまんした(特になにもしなかった)」の割合が高くなっています。また、女性で「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」「友人、同僚や上司に相談した」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	親、きょうだい、子どもや親せきに相談した	友人、同僚や上司に相談した	法務局に相談した	人権擁護委員に相談した	県の担当者に相談した	市の担当者に相談した	弁護士に相談した
男性	73	12.3	20.5	2.7	2.7	1.4	4.1	4.1
女性	109	38.5	45.9	—	—	1.8	1.8	3.7
選択しない	5	—	60.0	—	—	—	—	—

区分	警察に相談した	民間団体などに相談した	新聞などマスコミに相談した	自分で処理(解決)した	だまっがまんした(特になにもしなかった)	その他	おぼえていない	無回答
男性	2.7	1.4	1.4	24.7	57.5	6.8	—	—
女性	1.8	1.8	—	12.8	45.9	8.3	—	—
選択しない	—	—	—	40.0	20.0	—	—	—



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～69歳で「だまっがまんした（特になにもしなかった）」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、20～29歳で「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」「友人、同僚や上司に相談した」の割合が高く、4割台半ばとなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	親、きょうだい、子どもや親せきに相談した	友人、同僚や上司に相談した	法務局に相談した	人権擁護委員に相談した	県の担当者に相談した	市の担当者に相談した	弁護士に相談した
16～19歳	5	40.0	40.0	—	—	—	—	—
20～29歳	20	45.0	45.0	—	—	—	5.0	—
30～39歳	33	33.3	39.4	3.0	—	—	6.1	3.0
40～49歳	45	33.3	40.0	—	—	—	2.2	4.4
50～59歳	48	14.6	37.5	—	—	4.2	—	2.1
60～69歳	29	20.7	24.1	3.4	3.4	3.4	3.4	6.9
70歳以上	6	16.7	—	—	—	—	—	—

区分	警察に相談した	民間団体などに相談した	新聞などマスコミに相談した	自分で処理（解決）した	だまっがまんした（特になにもしなかった）	その他	おぼえていない	無回答
16～19歳	—	—	—	20.0	60.0	20.0	—	—
20～29歳	—	—	—	10.0	35.0	—	—	—
30～39歳	3.0	—	—	15.2	51.5	—	—	—
40～49歳	4.4	—	—	20.0	48.9	6.7	—	—
50～59歳	—	4.2	—	22.9	47.9	10.4	—	—
60～69歳	—	—	—	20.7	55.2	17.2	—	—
70歳以上	16.7	—	—	—	83.3	—	—	—

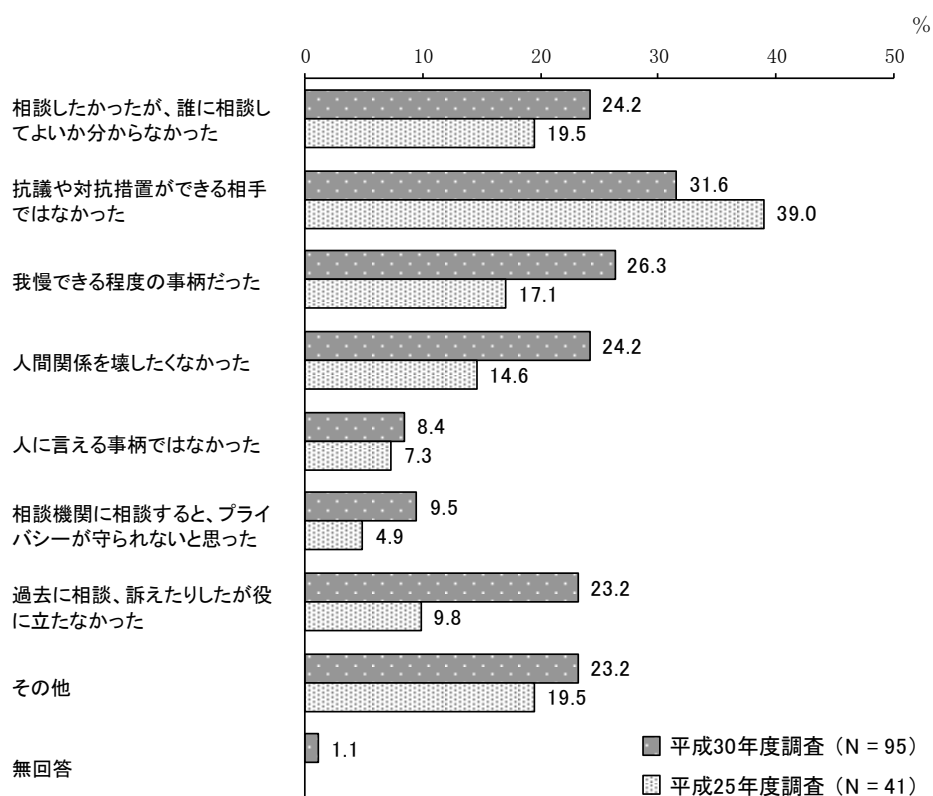
## (8) 対処しなかった理由

問6-(2)で「12 だまってがまんした(特になにもしなかった)」と答えられた方におたずねします。

### 問6-(3) その理由はなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」の割合が31.6%と最も高く、次いで「我慢できる程度の事柄だった」の割合が26.3%、「相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった」「人間関係を壊したくなかった」の割合が24.2%となっています。

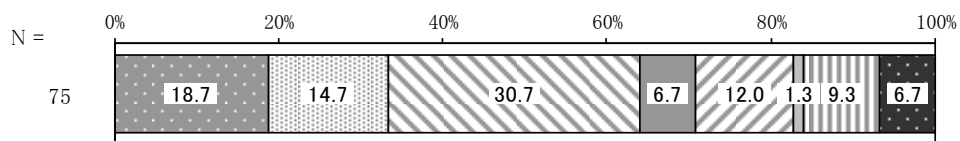
平成25年度調査と比較すると、「我慢できる程度の事柄だった」「人間関係を壊したくなかった」「過去に相談、訴えたりしたが役に立たなかった」の割合が増加し、「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」の割合が減少しています。



※参考

【奈良県調査】

- 我慢できる程度の事柄だった
- 人間関係をこわしたくなかった
- 抗議や対抗措置ができる相手ではなかった
- 人に言える事柄ではなかった
- 相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった
- 相談機関に相談するとプライバシーが守られない
- 過去に相談したり、訴えたりしたが、役に立たなかった
- その他
- 無回答



## 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」「人に言える事柄ではなかった」「過去に相談、訴えたりしたが役に立たなかった」の割合が高くなっています。また、女性で「人間関係を壊したくなかった」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった	抗議や対抗措置ができる相手ではなかった	我慢できる程度の事柄だった	人間関係を壊したくなかった	人に言える事柄ではなかった	相談機関に相談すると、プライバシーが守られないと思った	過去に相談、訴えたりしたが役に立たなかった	その他	無回答
男性	42	26.2	42.9	26.2	14.3	11.9	9.5	28.6	26.2	2.4
女性	50	22.0	22.0	28.0	32.0	6.0	10.0	18.0	20.0	—
選択しない	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—

## 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、60～69歳で「我慢できる程度の事柄だった」の割合が高く、約4割となっています。また、40～49歳で「相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった」の割合が、30～39歳で「相談機関に相談すると、プライバシーが守られないと思った」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった	抗議や対抗措置ができる相手ではなかった	我慢できる程度の事柄だった	人間関係を壊したくなかった	人に言える事柄ではなかった	相談機関に相談すると、プライバシーが守られないと思った	過去に相談、訴えたりしたが役に立たなかった	その他	無回答
16～19歳	3	33.3	—	33.3	33.3	33.3	33.3	—	33.3	—
20～29歳	7	14.3	42.9	42.9	14.3	—	—	—	28.6	—
30～39歳	17	29.4	29.4	23.5	11.8	17.6	29.4	29.4	29.4	5.9
40～49歳	22	36.4	40.9	13.6	27.3	4.5	4.5	31.8	22.7	—
50～59歳	23	21.7	26.1	26.1	34.8	8.7	4.3	13.0	21.7	—
60～69歳	16	—	43.8	43.8	6.3	6.3	—	31.3	6.3	—
70歳以上	5	40.0	—	20.0	60.0	—	20.0	20.0	40.0	—

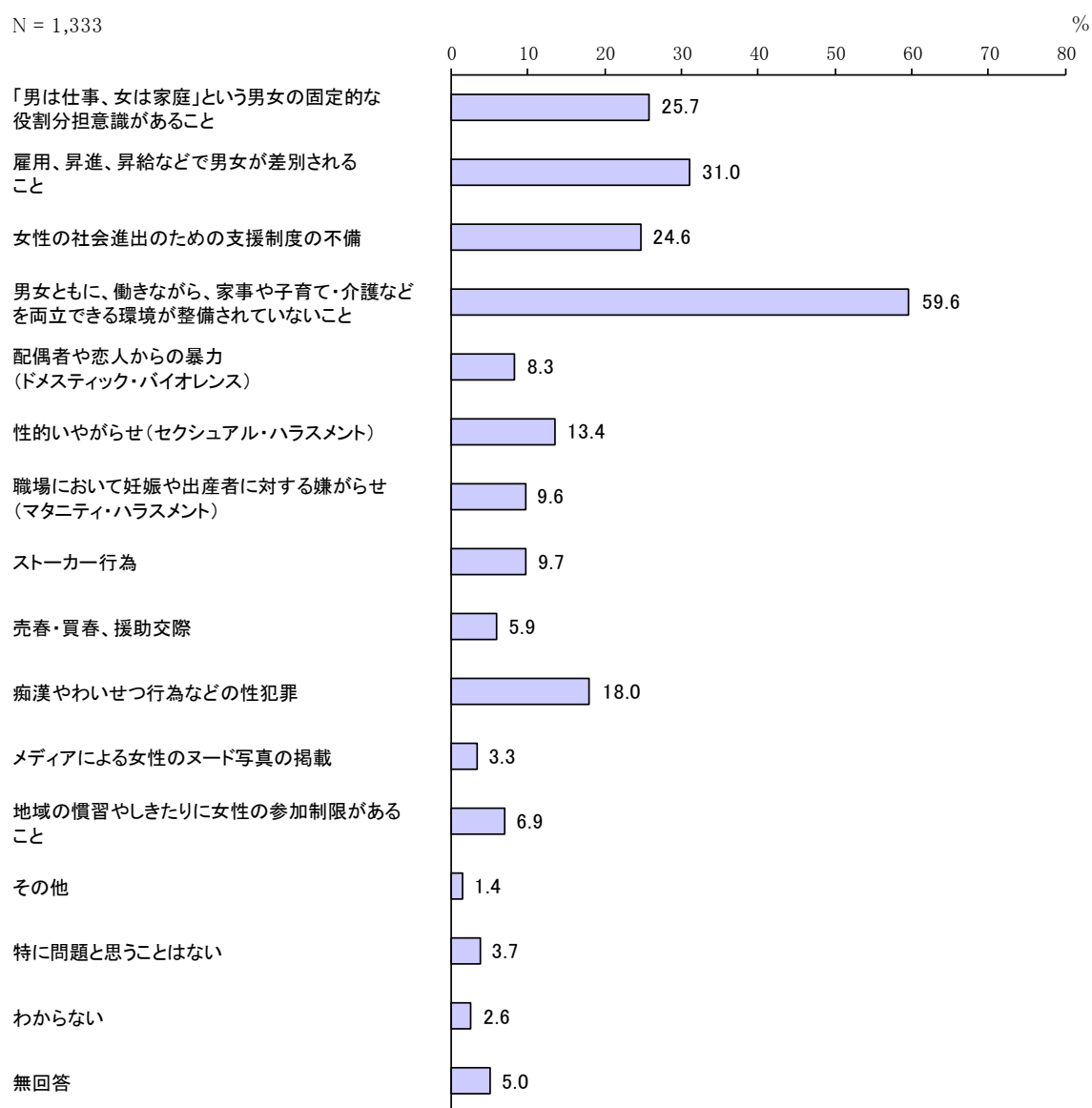
### 3 主な人権課題について

#### (1) 女性に関する人権問題

問7 あなたは、女性に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」の割合が59.6%と最も高く、次いで「雇用、昇進、昇給などで男女が差別されること」の割合が31.0%、「男は仕事、女は家庭」という男女の固定的な役割分担意識があること」の割合が25.7%となっています。

N = 1,333



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）」「ストーカー行為」の割合が高くなっています。また、女性で「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	「男は仕事、女は家庭」という男女の固定的な役割分担意識があること	雇用、昇進、昇給などで男女が差別されること	女性の社会進出のための支援制度の不備	男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと	配偶者や恋人からの暴力（ドメスティック・バイオレンス）	性的いやがらせ（セクシュアル・ハラスメント）	職場において妊娠や出産者に対する嫌がらせ（マタニティ・ハラスメント）	ストーカー行為
男性	519	26.0	29.9	23.3	53.2	8.7	16.6	10.4	13.1
女性	765	25.9	32.0	25.8	64.3	7.8	11.2	9.2	7.7
選択しない	25	20.0	28.0	16.0	48.0	8.0	16.0	12.0	4.0

区分	売春・買春、援助交際	痴漢やわいせつ行為などの性犯罪	メディアによる女性のヌード写真の掲載	地域の慣習やしきたりに女性の参加制限があること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	7.1	16.6	2.5	9.6	2.1	3.3	2.9	4.0
女性	4.6	18.2	3.5	5.1	1.0	3.9	2.4	5.5
選択しない	8.0	36.0	4.0	8.0	—	8.0	4.0	4.0

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30～39歳で「男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと」の割合が高く、7割台半ばとなっています。また、男性の16～19歳で「男は仕事、女は家庭」という男女の固定的な役割分担意識があること」の割合が、女性の16～19歳で「雇用、昇進、昇給などで男女が差別されること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	「男は仕事、女は家庭」という男女の固定的な役割分担意識があること	雇用、昇進、昇給などで男女が差別されること	女性の社会進出のための支援制度の不備	男女ともに、働きながら、家事や子育て・介護などを両立できる環境が整備されていないこと	配偶者や恋人からの暴力(ドメスティック・バイオレンス)	性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)	職場において妊娠や出産者に対する嫌がらせ(マタニティ・ハラスメント)	ストーカー行為
男性 16～19 歳	19	47.4	26.3	—	21.1	5.3	26.3	5.3	10.5
20～29 歳	41	29.3	22.0	29.3	51.2	9.8	14.6	12.2	17.1
30～39 歳	62	32.3	14.5	21.0	48.4	11.3	16.1	22.6	14.5
40～49 歳	87	27.6	20.7	20.7	51.7	11.5	17.2	11.5	11.5
50～59 歳	95	27.4	25.3	25.3	56.8	14.7	18.9	6.3	21.1
60～69 歳	132	18.9	43.9	28.8	61.4	1.5	18.2	6.8	10.6
70 歳以上	80	22.5	40.0	17.5	50.0	7.5	10.0	10.0	7.5
女性 16～19 歳	26	26.9	46.2	11.5	57.7	7.7	11.5	11.5	19.2
20～29 歳	46	30.4	30.4	32.6	63.0	4.3	15.2	15.2	19.6
30～39 歳	108	24.1	28.7	33.3	74.1	3.7	13.9	15.7	7.4
40～49 歳	166	23.5	29.5	19.9	62.0	11.4	16.9	9.6	7.8
50～59 歳	147	21.1	33.3	27.9	64.6	6.8	9.5	11.6	7.5
60～69 歳	179	29.6	31.8	26.3	64.8	6.7	5.6	3.4	4.5
70 歳以上	88	30.7	35.2	23.9	60.2	10.2	9.1	4.5	4.5
選択しない 16～19 歳	1	—	—	—	100.0	—	—	—	—
20～29 歳	1	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39 歳	4	25.0	25.0	50.0	75.0	25.0	25.0	—	—
40～49 歳	8	12.5	37.5	12.5	37.5	—	25.0	25.0	—
50～59 歳	5	20.0	40.0	20.0	60.0	20.0	—	20.0	20.0
60～69 歳	2	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	3	—	—	—	33.3	—	—	—	—

【性・年齢別】（つづき）

単位：％

区分	売春・買春、援助交際	痴漢やわいせつ行為などの 性犯罪	メディアによる女性の ヌード写真の掲載	地域の慣習やしきたりに女性の 参加制限があること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	15.8	15.8	—	15.8	—	5.3	5.3	10.5
20～29 歳	14.6	22.0	2.4	7.3	2.4	2.4	4.9	2.4
30～39 歳	8.1	14.5	6.5	4.8	6.5	—	4.8	6.5
40～49 歳	—	23.0	—	9.2	2.3	2.3	3.4	4.6
50～59 歳	8.4	16.8	4.2	11.6	1.1	1.1	2.1	—
60～69 歳	6.1	10.6	2.3	10.6	1.5	3.8	2.3	2.3
70 歳以上	7.5	17.5	1.3	10.0	1.3	8.8	1.3	8.8
女性 16～19 歳	3.8	23.1	—	11.5	—	—	11.5	—
20～29 歳	—	17.4	2.2	4.3	—	2.2	6.5	—
30～39 歳	2.8	21.3	2.8	2.8	0.9	1.9	0.9	3.7
40～49 歳	6.6	24.1	3.0	3.0	1.8	5.4	1.8	5.4
50～59 歳	3.4	18.4	3.4	8.2	2.0	2.7	1.4	6.8
60～69 歳	3.9	12.3	3.9	6.7	—	4.5	2.2	8.4
70 歳以上	9.1	13.6	6.8	2.3	1.1	6.8	2.3	4.5
選択しない 16～19 歳	—	100.0	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	—	75.0	—	—	—	—	—	—
40～49 歳	12.5	25.0	—	12.5	—	12.5	—	—
50～59 歳	20.0	40.0	—	—	—	—	—	—
60～69 歳	—	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	33.3	—	33.3

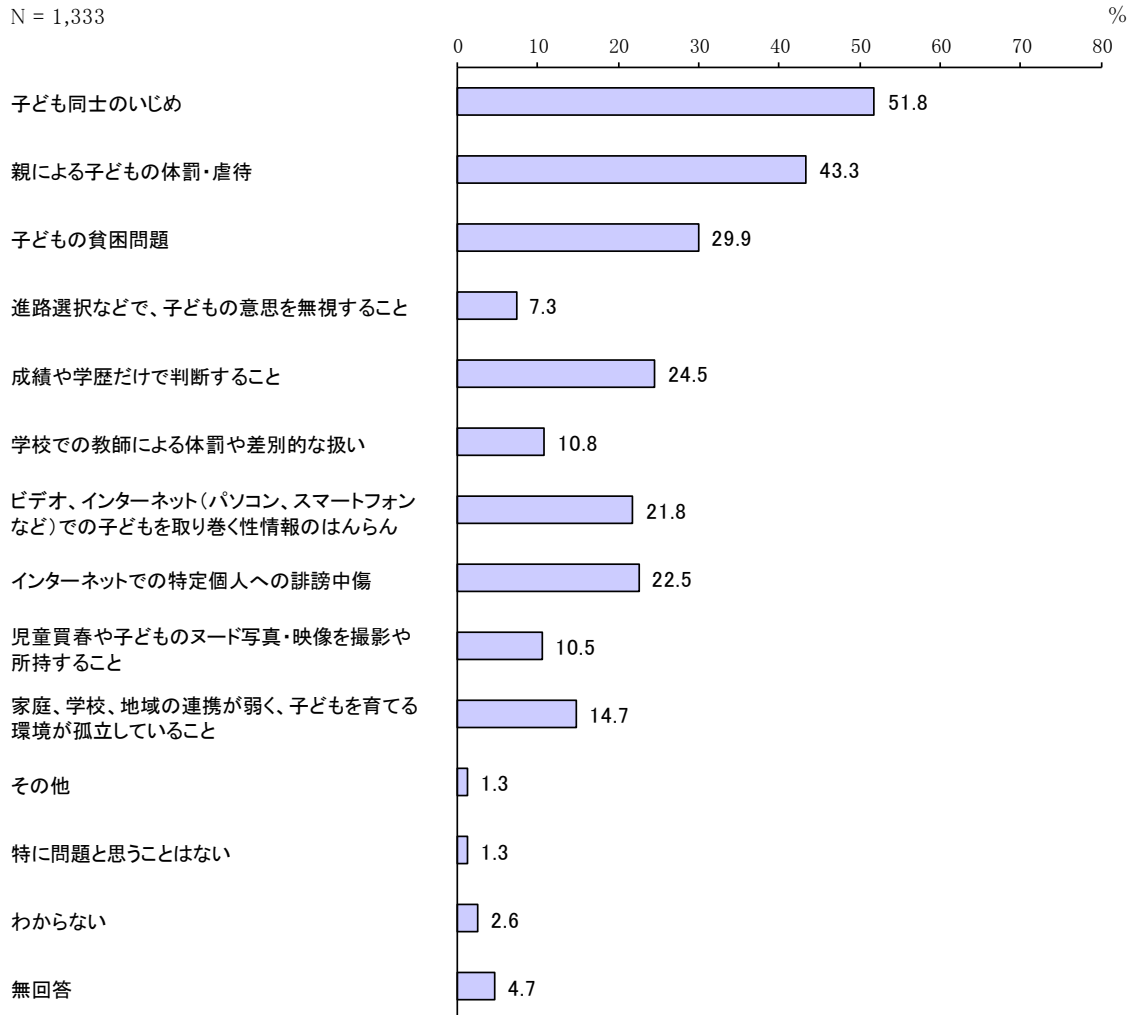


## (2) 子どもに関する人権問題

問8 あなたは、子どもに関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「子ども同士のいじめ」の割合が51.8%と最も高く、次いで「親による子どもの体罰・虐待」の割合が43.3%、「子どもの貧困問題」の割合が29.9%となっています。

N = 1,333



【性別】

性別でみると、他に比べ、女性で「ビデオ、インターネット（パソコン、スマートフォンなど）での子どもを取り巻く性情報のはんらん」「児童買春や子どものヌード写真・映像を撮影や所持すること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	子ども同士のいじめ	親による子どもの体罰・虐待	子どもの貧困問題	進路選択などで、子どもの意思を無視すること	成績や学歴だけで判断すること	学校での教師による体罰や差別的な扱い	ビデオ、インターネット（パソコン、スマートフォンなど）での子どもを取り巻く性情報のはんらん
男性	519	51.8	42.4	31.2	7.9	25.6	10.4	18.3
女性	765	52.3	43.9	29.3	6.8	24.1	10.7	24.2
選択しない	25	40.0	56.0	24.0	12.0	20.0	20.0	16.0

区分	誹謗中傷 インターネットでの特定個人への	児童買春や子どものヌード写真・映像を撮影や所持すること	家庭、学校、地域の連携が弱く、子どもを育てる環境が孤立していること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	21.0	7.1	16.6	1.9	1.7	2.5	3.3
女性	23.1	12.7	13.9	0.9	1.0	2.5	5.4
選択しない	28.0	8.0	12.0	—	—	4.0	—

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の16～19歳で「成績や学歴だけで判断すること」の割合が高く、約4割となっています。また、男性の16～19歳で「進路選択などで、子どもの意思を無視すること」の割合が、女性の30～39歳で「インターネットでの特定個人への誹謗中傷」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	子ども同士のいじめ	親による子どもの体罰・虐待	子どもの貧困問題	進路選択などで、子どもの意思を無視すること	成績や学歴だけで判断すること	学校での教師による体罰や差別的な扱い	ビデオ、インターネット(パソコン、スマートフォンなど)での子どもを取り巻く性情報のはんらん
男性 16～19 歳	19	57.9	47.4	5.3	26.3	31.6	21.1	—
20～29 歳	41	48.8	53.7	19.5	17.1	36.6	12.2	19.5
30～39 歳	62	56.5	46.8	37.1	4.8	19.4	8.1	16.1
40～49 歳	87	52.9	43.7	29.9	4.6	17.2	9.2	11.5
50～59 歳	95	57.9	36.8	37.9	7.4	22.1	8.4	21.1
60～69 歳	132	48.5	41.7	29.5	6.8	28.0	10.6	22.0
70 歳以上	80	45.0	38.8	36.3	7.5	33.8	11.3	22.5
女性 16～19 歳	26	46.2	46.2	26.9	19.2	42.3	19.2	—
20～29 歳	46	56.5	32.6	26.1	17.4	23.9	19.6	21.7
30～39 歳	108	58.3	49.1	31.5	5.6	12.0	15.7	25.9
40～49 歳	166	53.6	43.4	32.5	4.8	19.3	10.2	27.1
50～59 歳	147	50.3	46.3	33.3	7.5	22.4	4.8	26.5
60～69 歳	179	50.3	41.3	25.7	4.5	28.5	8.4	22.3
70 歳以上	88	50.0	45.5	22.7	6.8	36.4	11.4	26.1
選択しない								
16～19 歳	1	100.0	100.0	—	—	—	—	—
20～29 歳	1	—	—	—	—	—	—	—
30～39 歳	4	50.0	75.0	—	25.0	—	25.0	25.0
40～49 歳	8	12.5	50.0	25.0	—	25.0	25.0	12.5
50～59 歳	5	20.0	60.0	40.0	40.0	20.0	20.0	20.0
60～69 歳	2	50.0	50.0	50.0	—	50.0	—	50.0
70 歳以上	3	100.0	33.3	33.3	—	33.3	33.3	—

【性・年齢別】（つづき）

単位：％

区分	インターネットでの特定個人への 誹謗中傷	児童買春や子どものヌード写真・ 映像を撮影や所持すること	家庭、学校、地域の連携が弱く、 子どもを育てる環境が孤立してい ること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	15.8	—	—	—	—	—	10.5
20～29 歳	19.5	4.9	14.6	9.8	—	4.9	4.9
30～39 歳	21.0	4.8	22.6	6.5	—	3.2	4.8
40～49 歳	25.3	9.2	9.2	—	3.4	3.4	3.4
50～59 歳	27.4	9.5	15.8	—	1.1	1.1	—
60～69 歳	14.4	6.8	22.0	0.8	3.0	3.0	3.0
70 歳以上	21.3	6.3	15.0	1.3	1.3	1.3	3.8
女性 16～19 歳	11.5	3.8	11.5	—	—	7.7	—
20～29 歳	21.7	13.0	19.6	—	—	2.2	2.2
30～39 歳	30.6	10.2	13.9	3.7	—	1.9	4.6
40～49 歳	23.5	16.3	12.0	1.2	1.8	1.2	5.4
50～59 歳	25.2	15.0	10.9	0.7	0.7	2.0	5.4
60～69 歳	19.0	12.3	13.4	—	1.1	3.9	7.8
70 歳以上	21.6	9.1	21.6	—	1.1	2.3	4.5
選択しない 16～19 歳	100.0	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	50.0	—	—	—	—	—	—
40～49 歳	37.5	12.5	12.5	—	—	—	—
50～59 歳	20.0	20.0	—	—	—	—	—
60～69 歳	—	—	50.0	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—

## 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、ひとり暮らし世帯、夫婦だけの世帯、ひとり親と子どもからなる世帯で「子どもの貧困問題」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	子ども同士のいじめ	親による子どもの体罰・虐待	子どもの貧困問題	進路選択などで、子どもの意思を無視すること	成績や学歴だけで判断すること	学校での教師による体罰や差別的な扱い	ビデオ、インターネット(パソコン、スマートフォンなど)での子どもを取り巻く性情報のはんらん
ひとり暮らし世帯	85	45.9	45.9	34.1	4.7	22.4	8.2	20.0
夫婦だけの世帯	368	50.0	42.1	34.0	6.3	27.7	12.0	21.5
夫婦と子どもからなる世帯	636	55.7	45.0	26.6	8.2	21.9	9.9	23.0
親と子ども、孫からなる世帯	97	42.3	44.3	26.8	8.2	29.9	13.4	19.6
ひとり親と子どもからなる世帯	60	53.3	43.3	35.0	11.7	30.0	8.3	16.7
その他	58	48.3	31.0	34.5	3.4	20.7	10.3	19.0

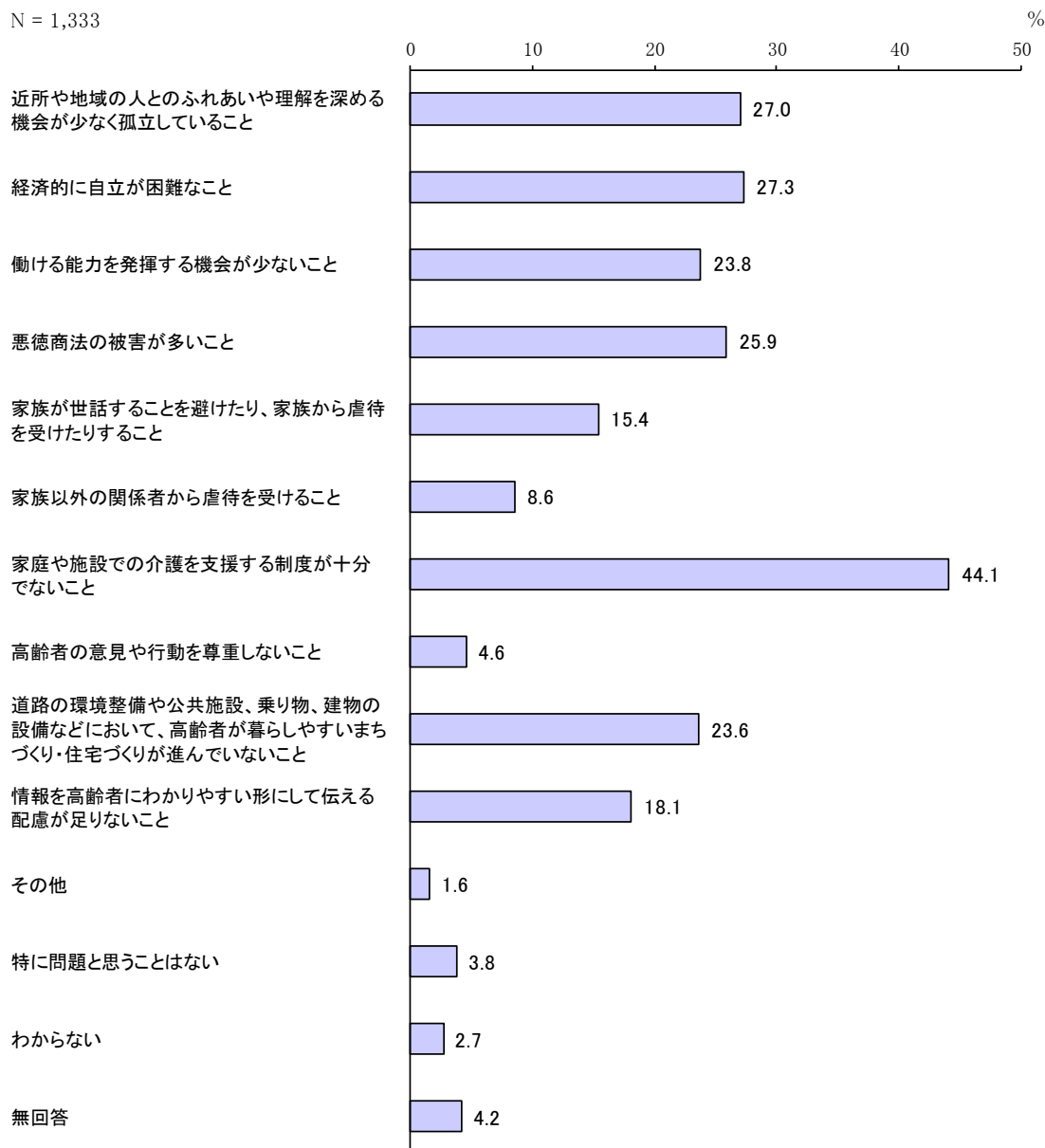
区分	誹謗中傷 インターネットでの特定個人への	児童買春や子どものヌード写真・映像を撮影や所持すること	家庭、学校、地域の連携が弱く、子どもを育てる環境が孤立していること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
ひとり暮らし世帯	17.6	9.4	17.6	—	3.5	3.5	9.4
夫婦だけの世帯	19.6	10.6	16.8	0.5	1.1	2.7	4.9
夫婦と子どもからなる世帯	24.4	11.3	13.2	1.7	1.1	1.6	3.8
親と子ども、孫からなる世帯	21.6	11.3	16.5	2.1	2.1	4.1	4.1
ひとり親と子どもからなる世帯	21.7	10.0	11.7	1.7	—	1.7	6.7
その他	27.6	3.4	17.2	1.7	—	8.6	1.7

### (3) 高齢者に関する人権問題

問9 あなたは、高齢者に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

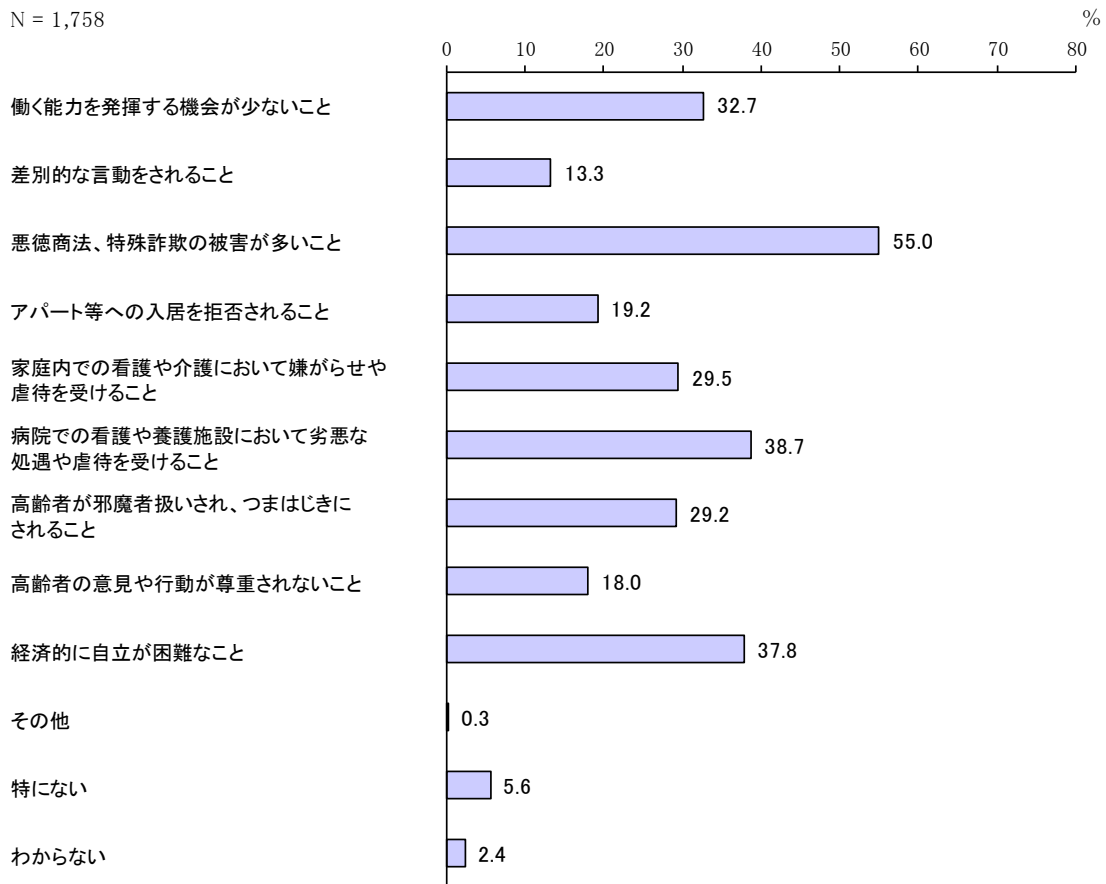
「家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと」の割合が44.1%と最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」の割合が27.3%、「近所や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」の割合が27.0%となっています。

内閣府調査との比較は、選択肢が異なることと回答数が異なることから参考とします。



## 【内閣府調査】

N = 1,758



【性別】

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	近所や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	経済的に自立が困難なこと	働ける能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法の被害が多いこと	家族が世話することを避けたり、家族から虐待を受けたりすること	家族以外の関係者から虐待を受けること	家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
男性	519	28.9	28.5	24.3	23.9	16.4	7.7	41.6
女性	765	26.4	27.2	23.3	27.2	15.2	8.9	46.0
選択しない	25	8.0	16.0	32.0	24.0	12.0	12.0	36.0

区分	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	道路の環境整備や公共施設、乗り物、建物の設備などにおいて、高齢者が暮らしやすいまちづくり・住宅づくりが進んでいないこと	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	3.9	20.8	15.2	2.1	5.4	3.3	2.9
女性	5.0	24.7	20.0	1.0	2.9	2.2	4.7
選択しない	4.0	40.0	20.0	4.0	—	8.0	8.0



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、女性の30～39歳で「近所や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること」「働ける能力を発揮する機会が少ないこと」の割合が高くなっています。また、女性の60～69歳で「道路の環境整備や公共施設、乗り物、建物の設備などにおいて、高齢者が暮らしやすいまちづくり・住宅づくりが進んでいないこと」の割合が、女性の70歳以上で「情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	近所や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	経済的に自立が困難なこと	働ける能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法の被害が多いこと	家族が世話をすることを避けたり、家族から虐待を受けたこと	家族以外の関係者から虐待を受けること	家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
男性 16～19歳	19	31.6	10.5	10.5	26.3	5.3	15.8	15.8
20～29歳	41	24.4	17.1	26.8	22.0	12.2	7.3	31.7
30～39歳	62	35.5	37.1	24.2	14.5	24.2	12.9	38.7
40～49歳	87	24.1	33.3	18.4	31.0	17.2	6.9	49.4
50～59歳	95	30.5	34.7	23.2	31.6	14.7	8.4	51.6
60～69歳	132	30.3	25.8	28.8	18.2	14.4	4.5	43.2
70歳以上	80	26.3	23.8	25.0	23.8	20.0	6.3	32.5
女性 16～19歳	26	26.9	19.2	19.2	30.8	23.1	7.7	46.2
20～29歳	46	23.9	21.7	15.2	32.6	19.6	8.7	54.3
30～39歳	108	40.7	29.6	33.3	20.4	13.9	8.3	50.0
40～49歳	166	27.1	32.5	27.1	26.5	15.7	7.2	50.0
50～59歳	147	27.9	27.2	21.1	28.6	14.3	10.9	48.3
60～69歳	179	17.9	26.3	19.6	26.8	14.5	8.4	40.8
70歳以上	88	23.9	21.6	21.6	30.7	13.6	9.1	36.4
選択しない 16～19歳	1	—	—	100.0	100.0	—	—	100.0
20～29歳	1	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	4	—	25.0	—	75.0	—	—	75.0
40～49歳	8	—	—	37.5	12.5	25.0	12.5	25.0
50～59歳	5	—	40.0	20.0	—	20.0	40.0	60.0
60～69歳	2	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—
70歳以上	3	—	—	66.7	—	—	—	—

【性・年齢別（つづき）】

単位：％

区分	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	道路の環境整備や公共施設、乗り物、建物の設備などにおいて、高齢者が暮らしやすいまちづくり・住宅づくりが進んでいないこと	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	10.5	—	15.8	5.3	10.5	10.5	10.5
20～29 歳	7.3	34.1	9.8	4.9	12.2	4.9	2.4
30～39 歳	4.8	14.5	11.3	4.8	3.2	1.6	8.1
40～49 歳	2.3	11.5	11.5	2.3	5.7	3.4	1.1
50～59 歳	2.1	22.1	12.6	—	2.1	2.1	1.1
60～69 歳	3.0	23.5	18.9	1.5	6.1	3.8	1.5
70 歳以上	5.0	27.5	21.3	1.3	5.0	2.5	3.8
女性 16～19 歳	11.5	23.1	3.8	—	—	7.7	—
20～29 歳	2.2	23.9	13.0	—	6.5	2.2	2.2
30～39 歳	4.6	13.9	15.7	1.9	2.8	3.7	4.6
40～49 歳	3.0	24.1	21.1	1.8	1.8	1.8	3.6
50～59 歳	4.8	23.1	22.4	—	2.0	0.7	6.1
60～69 歳	5.6	33.5	18.4	1.1	3.4	2.2	6.1
70 歳以上	6.8	26.1	30.7	1.1	4.5	2.3	4.5
選択しない 16～19 歳	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	25.0	25.0	25.0	—	—	—	—
40～49 歳	—	50.0	25.0	12.5	—	12.5	12.5
50～59 歳	—	60.0	—	—	—	—	—
60～69 歳	—	—	—	—	—	—	50.0
70 歳以上	—	66.7	33.3	—	—	—	—

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、親と子ども、孫からなる世帯で「経済的に自立が困難なこと」の割合が高く、3割台半ばとなっています。また、夫婦だけの世帯で「道路の環境整備や公共施設、乗り物、建物の設備などにおいて、高齢者が暮らしやすいまちづくり・住宅づくりが進んでいないこと」の割合が、ひとり暮らし世帯で「特に問題と思うことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	近所や地域の人のふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	経済的に自立が困難なこと	働ける能力を発揮する機会が少ないこと	悪徳商法の被害が多いこと	家族が世話をしたり、家族から虐待を受けたりすること	家族以外の関係者から虐待を受けること	家庭や施設での介護を支援する制度が十分でないこと
ひとり暮らし世帯	85	27.1	28.2	25.9	27.1	18.8	8.2	32.9
夫婦だけの世帯	368	28.5	24.2	24.7	24.7	13.6	8.4	43.2
夫婦と子どもからなる世帯	636	27.4	26.6	24.2	27.5	16.0	9.0	46.4
親と子ども、孫からなる世帯	97	26.8	35.1	19.6	23.7	17.5	7.2	41.2
ひとり親と子どもからなる世帯	60	21.7	31.7	18.3	25.0	16.7	3.3	43.3
その他	58	19.0	39.7	25.9	17.2	13.8	10.3	44.8

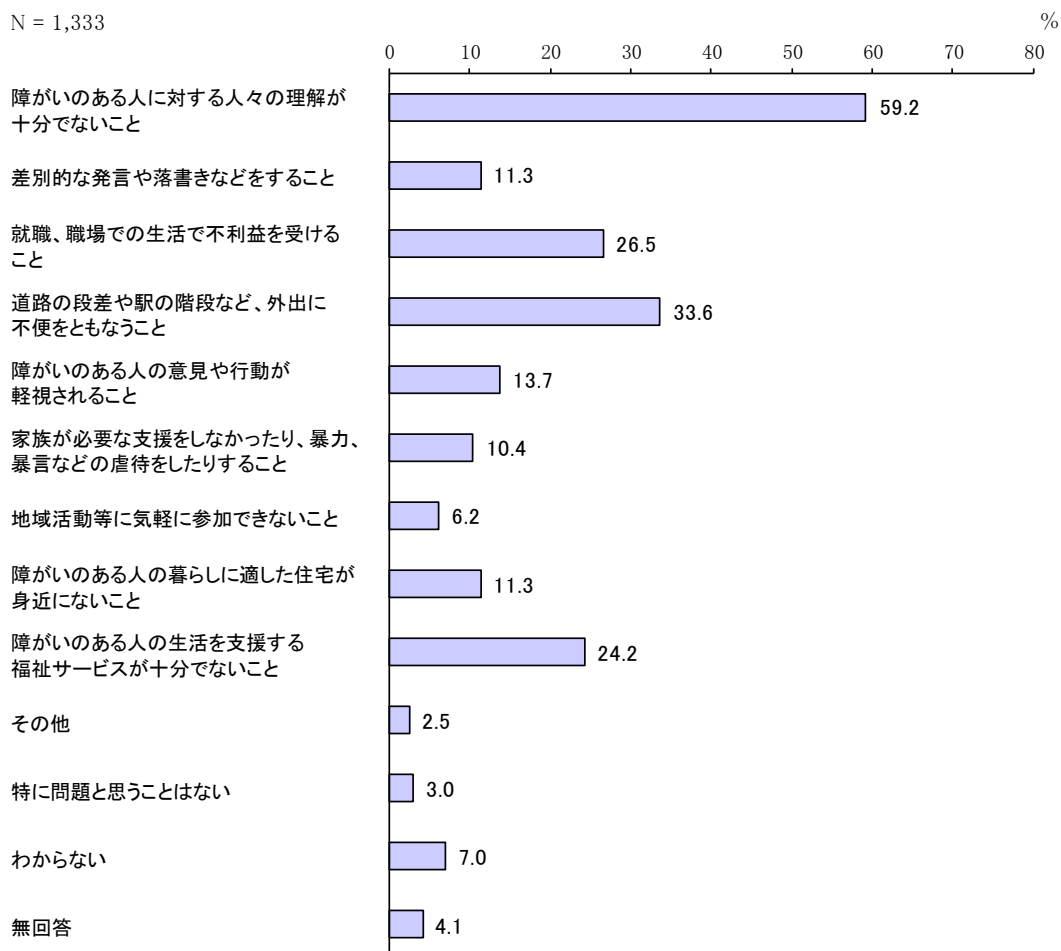
区分	高齢者の意見や行動を尊重しないこと	道路の環境整備や公共施設、乗り物、建物の設備などにおいて、高齢者が暮らしやすいまちづくり・住宅づくりが進んでいないこと	情報を高齢者にわかりやすい形にして伝える配慮が足りないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
ひとり暮らし世帯	8.2	18.8	12.9	—	9.4	2.4	4.7
夫婦だけの世帯	4.1	27.7	21.5	1.6	3.0	2.2	4.6
夫婦と子どもからなる世帯	4.9	21.4	16.5	1.6	3.5	3.1	3.3
親と子ども、孫からなる世帯	3.1	22.7	15.5	2.1	4.1	2.1	5.2
ひとり親と子どもからなる世帯	3.3	21.7	23.3	—	6.7	3.3	6.7
その他	1.7	27.6	15.5	5.2	1.7	3.4	5.2

#### (4) 障がい者に関する人権問題

問10 あなたは、障がいのある人に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

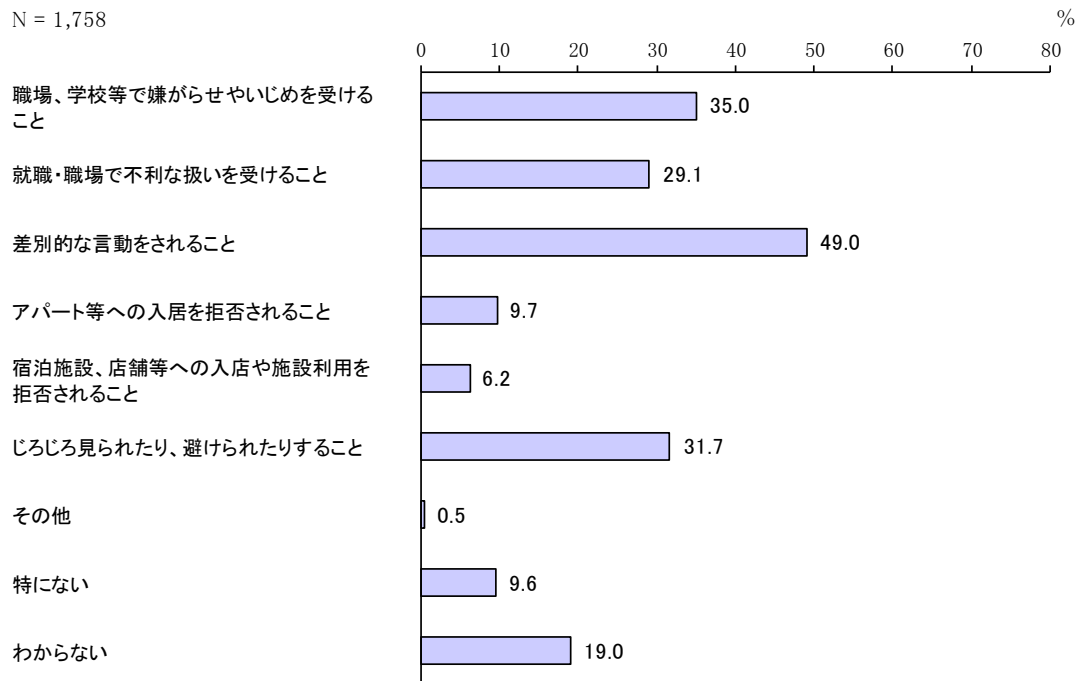
「障がいのある人に対する人々の理解が十分でないこと」の割合が59.2%と最も高く、次いで「道路の段差や駅の階段など、外出に不便をとまなうこと」の割合が33.6%、「就職、職場での生活で不利益を受けること」の割合が26.5%となっています。

内閣府調査との比較は、選択肢が異なることと回答数が異なることから参考とします。



## 【内閣府調査】

N = 1,758



【性別】

性別でみると、他に比べ、女性で「道路の段差や駅の階段など、外出に不便をとまなうこと」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	障がいのある人に対する人々の理解が十分でないこと	差別的な発言や落書きなどをすること	就職、職場での生活で不利益を受けること	道路の段差や駅の階段など、外出に不便をとまなうこと	障がいのある人の意見や行動が軽視されること	家族が必要な支援をしなかったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること
男性	519	59.0	12.5	25.4	29.1	13.1	10.2
女性	765	59.6	10.8	27.5	36.5	14.2	10.5
選択しない	25	60.0	4.0	20.0	44.0	12.0	8.0

区分	地域活動等に気軽に参加できないこと	障がいのある人の暮らしに適した住宅が身近にないこと	障がいのある人の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	7.1	11.2	25.4	3.5	3.3	6.6	3.3
女性	5.8	11.0	23.4	1.8	2.9	7.3	4.4
選択しない	8.0	16.0	16.0	4.0	—	12.0	—

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、男性の50～59歳、女性の30～39歳で「障がいのある人に対する人々の理解が十分でないこと」の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、男性の60～69歳で「障がいのある人の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと」の割合が高く、3割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数 (件)	障がいのある人に対する 人々の理解が十分でない こと	差別的な発言や落書きな どをすること	就職、職場での生活で不利 益を受けること	道路の段差や駅の階段な ど、外出に不便をともなう こと	障がいのある人の意見や 行動が軽視されること	家族が必要な支援をしな かったり、暴力、暴言など の虐待をしたりすること
男性 16～19 歳	19	47.4	21.1	15.8	10.5	26.3	—
20～29 歳	41	58.5	22.0	24.4	19.5	14.6	9.8
30～39 歳	62	64.5	8.1	30.6	22.6	16.1	11.3
40～49 歳	87	60.9	10.3	14.9	27.6	13.8	9.2
50～59 歳	95	64.2	16.8	24.2	34.7	13.7	10.5
60～69 歳	132	57.6	9.1	25.8	34.1	9.1	9.1
70 歳以上	80	52.5	12.5	35.0	28.8	12.5	15.0
女性 16～19 歳	26	61.5	26.9	34.6	7.7	19.2	19.2
20～29 歳	46	56.5	15.2	32.6	32.6	19.6	10.9
30～39 歳	108	65.7	13.9	32.4	31.5	22.2	13.0
40～49 歳	166	58.4	20.5	30.1	38.0	12.0	13.9
50～59 歳	147	61.2	6.1	22.4	42.2	12.2	8.2
60～69 歳	179	59.8	3.9	27.4	38.0	13.4	5.6
70 歳以上	88	52.3	2.3	21.6	37.5	10.2	12.5
選択しない 16～19 歳	1	—	—	—	100.0	—	100.0
20～29 歳	1	—	—	—	—	—	—
30～39 歳	4	50.0	25.0	—	100.0	—	—
40～49 歳	8	62.5	—	12.5	37.5	12.5	—
50～59 歳	5	80.0	—	20.0	40.0	—	20.0
60～69 歳	2	50.0	—	50.0	50.0	—	—
70 歳以上	3	66.7	—	33.3	—	33.3	—

【性・年齢別（つづき）】

単位：％

区分	地域活動等に気軽に参加できないこと	障がいのある人の暮らしに適した住宅が身近にないこと	障がいのある人の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	その他	い特に問題と思うことはな	わからない	無回答
男性 16～19 歳	10.5	5.3	5.3	10.5	—	15.8	10.5
20～29 歳	9.8	17.1	12.2	4.9	4.9	7.3	4.9
30～39 歳	9.7	4.8	24.2	4.8	—	4.8	6.5
40～49 歳	6.9	10.3	21.8	6.9	3.4	8.0	2.3
50～59 歳	6.3	11.6	27.4	4.2	3.2	4.2	1.1
60～69 歳	5.3	12.1	34.8	—	4.5	6.8	2.3
70 歳以上	6.3	13.8	23.8	1.3	3.8	6.3	3.8
女性 16～19 歳	7.7	11.5	3.8	3.8	3.8	11.5	—
20～29 歳	4.3	13.0	17.4	6.5	6.5	2.2	—
30～39 歳	5.6	6.5	23.1	0.9	0.9	5.6	3.7
40～49 歳	7.2	7.8	22.9	2.4	1.8	6.0	3.6
50～59 歳	6.8	12.9	20.4	1.4	3.4	6.8	4.8
60～69 歳	3.9	11.7	29.1	—	2.2	10.1	6.7
70 歳以上	5.7	17.0	28.4	3.4	4.5	9.1	5.7
選択しない 16～19 歳	—	100.0	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	25.0	25.0	25.0	—	—	—	—
40～49 歳	—	25.0	12.5	12.5	—	12.5	—
50～59 歳	—	—	40.0	—	—	—	—
60～69 歳	50.0	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	33.3	—



【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、親と子ども、孫からなる世帯で「障がいのある人に対する人々の理解が十分でないこと」の割合が高く、約7割となっています。また、夫婦だけの世帯で「道路の段差や駅の階段など、外出に不便をとまうこと」の割合が高く、約4割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	障がいのある人に対する人々の理解が十分でないこと	差別的な発言や落書きなどをすること	就職、職場での生活で不利益を受けること	道路の段差や駅の階段など、外出に不便をとまうこと	障がいのある人の意見や行動が軽視されること	家族が必要な支援をしなかったり、暴力、暴言などの虐待をしたりすること
ひとり暮らし世帯	85	54.1	11.8	25.9	32.9	14.1	12.9
夫婦だけの世帯	368	55.2	9.0	25.5	37.8	11.7	9.2
夫婦と子どもからなる世帯	636	62.9	13.1	28.1	32.2	14.8	9.1
親と子ども、孫からなる世帯	97	67.0	11.3	22.7	29.9	14.4	16.5
ひとり親と子どもからなる世帯	60	48.3	11.7	28.3	31.7	15.0	18.3
その他	58	55.2	8.6	19.0	31.0	12.1	8.6

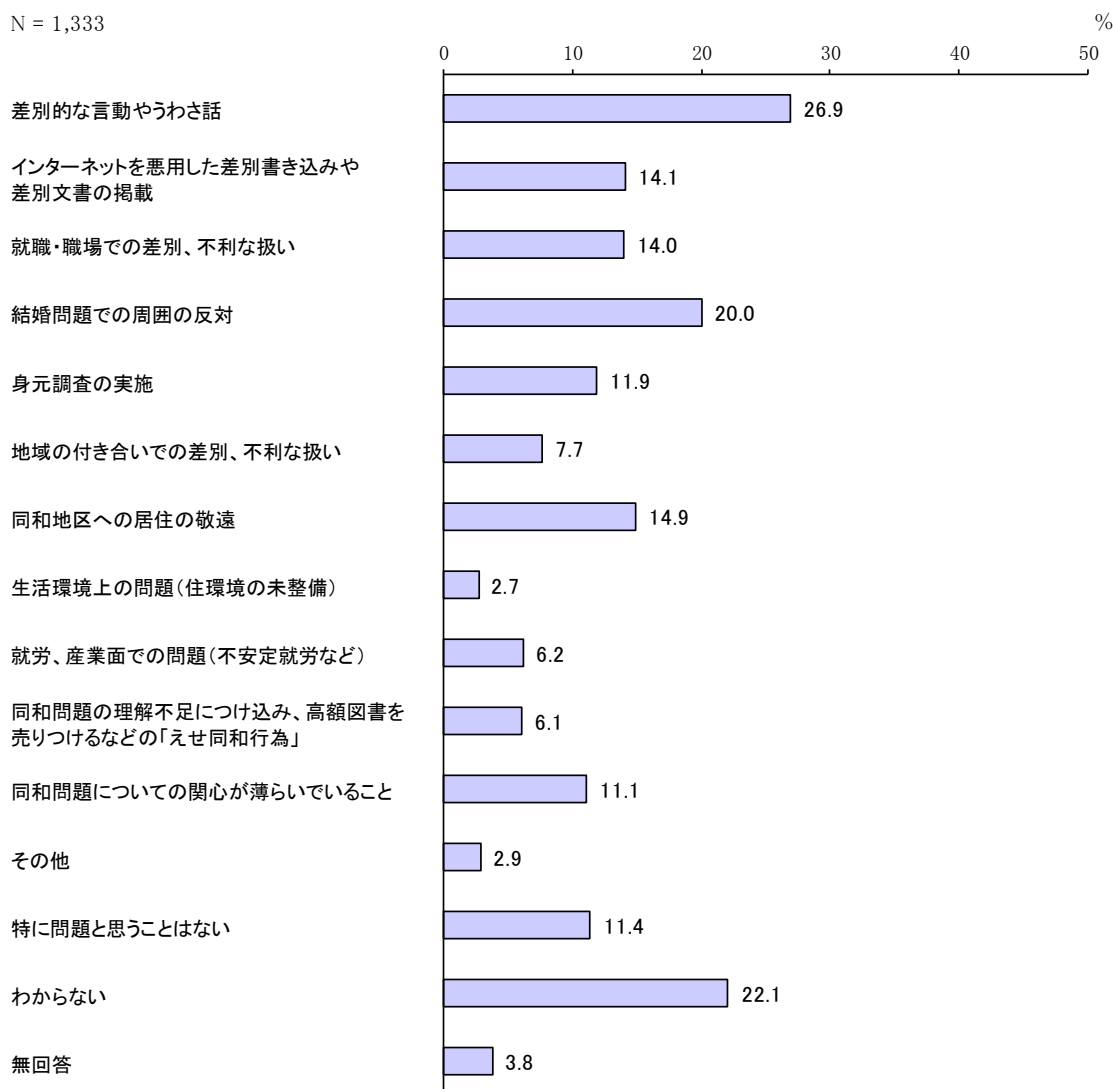
区分	地域活動等に気軽に参加できないこと	障がいのある人の暮らしに適した住宅が身近にないこと	障がいのある人の生活を支援する福祉サービスが十分でないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
ひとり暮らし世帯	5.9	12.9	23.5	2.4	8.2	5.9	4.7
夫婦だけの世帯	6.3	13.3	28.5	1.6	1.9	6.5	4.1
夫婦と子どもからなる世帯	6.9	10.1	22.8	3.1	2.4	7.1	3.6
親と子ども、孫からなる世帯	7.2	10.3	21.6	1.0	2.1	6.2	4.1
ひとり親と子どもからなる世帯	5.0	5.0	11.7	3.3	6.7	11.7	5.0
その他	1.7	13.8	24.1	3.4	5.2	10.3	5.2

## (5) 同和問題に関する人権問題

問 11 あなたは、同和問題に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「差別的な言動やうわさ話」の割合が26.9%と最も高く、次いで「わからない」の割合が22.1%、「結婚問題での周囲の反対」の割合が20.0%となっています。

N = 1,333



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「同和問題の理解不足につけ込み、高額図書を売りつけるなどの「えせ同和行為」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	差別的な言動やうわさ話	インターネットを悪用した差別書き込みや差別文書の掲載	就職・職場での差別、不利な扱い	結婚問題での周囲の反対	身元調査の実施	地域の付き合いでの差別、不利な扱い	同和地区への居住の敬遠
男性	519	26.6	15.6	14.1	18.3	10.8	10.4	14.5
女性	765	28.4	12.9	14.4	21.4	12.8	5.9	14.9
選択しない	25	8.0	20.0	8.0	12.0	4.0	8.0	12.0

区分	生活環境上の問題(住環境の未整備)	就労、産業面での問題(不安定就労など)	同和問題の理解不足につけ込み、高額図書を売りつけるなどの「えせ同和行為」	同和問題についての関心が薄らいでいること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	3.5	6.9	9.4	10.4	4.2	13.5	17.5	2.9
女性	2.2	6.0	3.8	11.5	2.0	10.1	25.2	3.9
選択しない	—	4.0	4.0	8.0	4.0	12.0	40.0	—

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の16～19歳、女性の30～39歳で「差別的な言動やうわさ話」の割合が高く、約4割となっています。また、男性の30～39歳、女性の40～49歳で「就職・職場での差別、不利な扱い」の割合が、男性の40～59歳で「同和問題の理解不足につけ込み、高額図書を売りつけるなどの「えせ同和行為」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	差別的な言動やうわさ話	インターネットを悪用した差別書き込みや差別文書の掲載	就職・職場での差別、不利な扱い	結婚問題での周囲の反対	身元調査の実施	地域の付き合いでの差別、不利な扱い	同和地区への居住の敬遠
男性 16～19歳	19	42.1	21.1	15.8	15.8	—	—	10.5
20～29歳	41	26.8	24.4	7.3	7.3	12.2	17.1	9.8
30～39歳	62	33.9	19.4	25.8	19.4	8.1	12.9	9.7
40～49歳	87	26.4	10.3	12.6	13.8	12.6	8.0	11.5
50～59歳	95	27.4	22.1	17.9	17.9	12.6	9.5	13.7
60～69歳	132	22.7	12.1	10.6	21.2	9.8	12.9	16.7
70歳以上	80	23.8	11.3	10.0	22.5	11.3	7.5	21.3
女性 16～19歳	26	11.5	7.7	7.7	15.4	7.7	3.8	—
20～29歳	46	28.3	8.7	19.6	21.7	17.4	13.0	10.9
30～39歳	108	39.8	22.2	15.7	23.1	15.7	10.2	17.6
40～49歳	166	34.3	15.1	22.3	27.1	16.3	9.0	14.5
50～59歳	147	27.9	10.9	16.3	17.7	8.8	4.1	19.0
60～69歳	179	25.1	10.6	8.9	19.6	12.8	2.8	12.8
70歳以上	88	17.0	10.2	5.7	21.6	9.1	1.1	15.9
選択しない								
16～19歳	1	—	100.0	—	—	—	—	—
20～29歳	1	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	4	—	25.0	25.0	—	25.0	—	—
40～49歳	8	12.5	12.5	12.5	12.5	—	—	12.5
50～59歳	5	—	20.0	—	20.0	—	40.0	20.0
60～69歳	2	—	50.0	—	—	—	—	50.0
70歳以上	3	33.3	—	—	—	—	—	—

【性・年齢別（つづき）】

単位：％

区分	生活環境上の問題（住環境の未整備）	就労、産業面での問題（不安定就労など）	同和問題の理解不足につけ込み、高額図書を売りつけるなどの「えせ同和行為」	同和問題についての関心が薄らぐとされること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	—	10.5	5.3	10.5	10.5	10.5	21.1	—
20～29 歳	7.3	12.2	2.4	7.3	2.4	12.2	26.8	—
30～39 歳	—	12.9	4.8	9.7	4.8	9.7	16.1	3.2
40～49 歳	4.6	1.1	14.9	10.3	10.3	6.9	21.8	2.3
50～59 歳	5.3	6.3	16.8	9.5	2.1	11.6	14.7	2.1
60～69 歳	3.0	3.0	8.3	10.6	1.5	22.0	12.9	4.5
70 歳以上	2.5	12.5	5.0	13.8	2.5	13.8	20.0	3.8
女性 16～19 歳	—	3.8	3.8	11.5	3.8	3.8	50.0	—
20～29 歳	6.5	6.5	4.3	8.7	2.2	17.4	21.7	—
30～39 歳	4.6	9.3	2.8	9.3	1.9	7.4	15.7	2.8
40～49 歳	1.2	5.4	6.0	12.7	3.6	7.8	18.7	3.0
50～59 歳	2.7	5.4	4.8	12.9	1.4	9.5	29.3	2.7
60～69 歳	—	5.0	1.7	7.8	1.1	11.7	32.4	5.6
70 歳以上	3.4	6.8	3.4	19.3	1.1	12.5	21.6	8.0
選択しない								
16～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	—	—	—	—	—	25.0	50.0	—
40～49 歳	—	—	—	12.5	—	—	62.5	—
50～59 歳	—	20.0	20.0	—	—	20.0	20.0	—
60～69 歳	—	—	—	—	—	50.0	—	—
70 歳以上	—	—	—	33.3	—	—	33.3	—

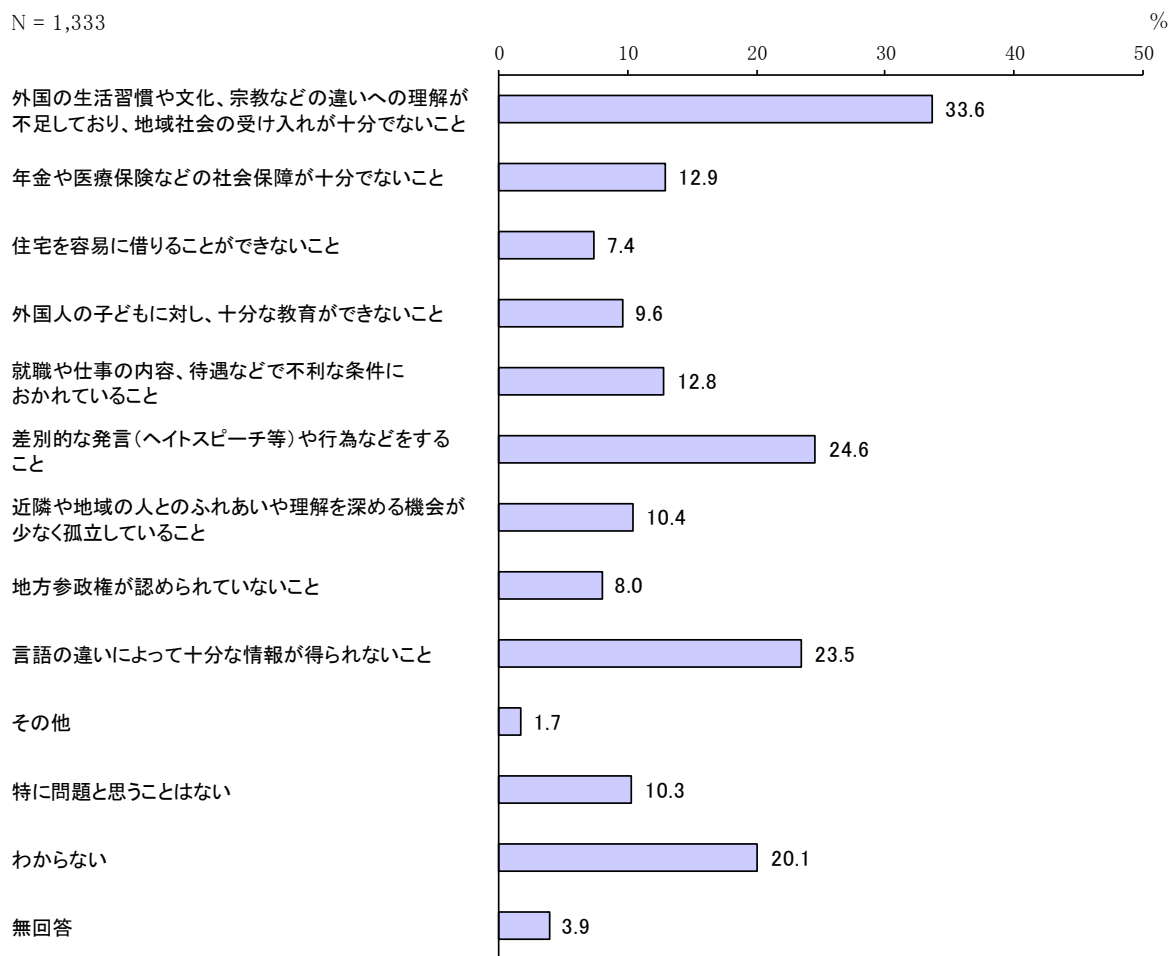
## (6) 在日外国人に関する人権問題

問12 あなたは、在日外国人に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「外国の生活習慣や文化、宗教などの違いへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合が33.6%と最も高く、次いで「差別的な発言(ヘイトスピーチ等)や行為などをする事」の割合が24.6%、「言語の違いによって十分な情報が得られないこと」の割合が23.5%となっています。

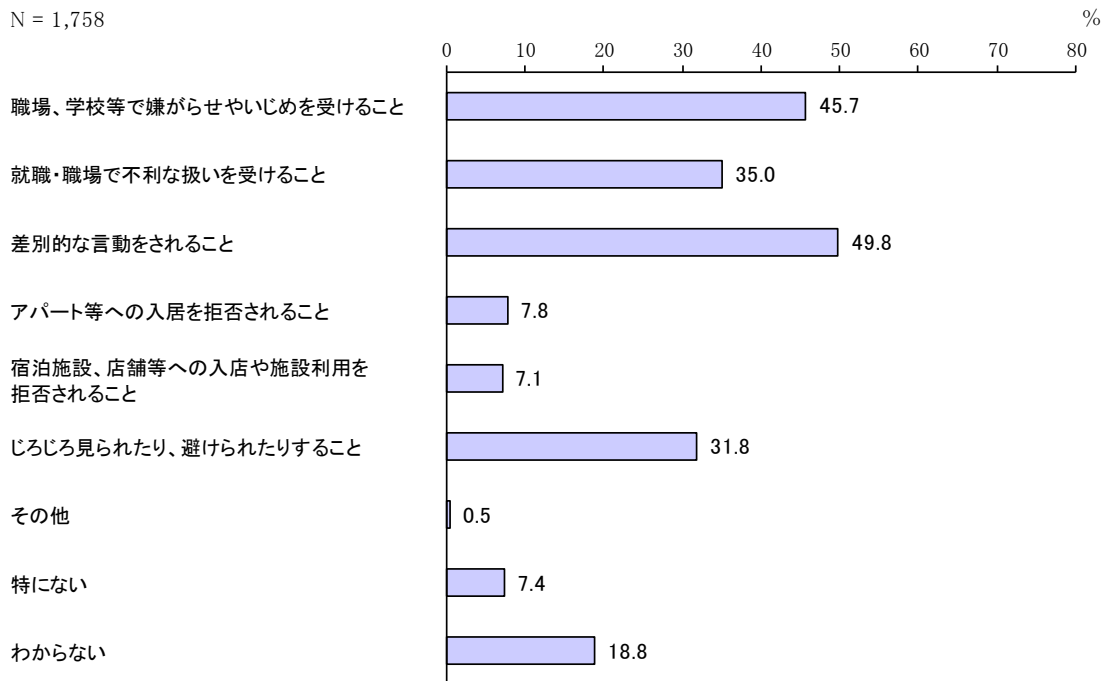
内閣府調査との比較は、選択肢が異なることと回答数が異なることから参考とします。

N = 1,333



## 【内閣府調査】

N = 1,758



【性別】

性別でみると、男性と女性とで大きな差異はみられません。

単位：%

区分	有効回答数(件)	外国の生活習慣や文化、宗教などの違いへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと	年金や医療保険などの社会保障が十分でないこと	住宅を容易に借りることができないこと	外国人の子どもに対し、十分な教育ができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること	差別的な発言(ヘイトスピーチ等)や行為などをすること
男性	519	36.4	12.1	7.5	10.2	14.3	24.5
女性	765	32.2	13.6	7.2	9.0	12.2	25.2
選択しない	25	24.0	4.0	12.0	12.0	4.0	20.0

区分	近隣や地域のひととのふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	地方参政権が認められていないこと	言語の違いによって十分な情報が得られないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	13.1	8.7	23.3	2.7	12.9	13.5	3.1
女性	8.6	7.6	23.8	1.0	8.1	24.7	3.9
選択しない	4.0	8.0	20.0	—	16.0	36.0	—



【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の16～19歳で「外国の生活習慣や文化、宗教などの違いへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合が、男性の50～59歳で「差別的な発言（ヘイトスピーチ等）や行為などをする事」の割合が高く、約4割となっています。また、男性の20～29歳、60～69歳で「特に問題と思うことはない」の割合が高く、約2割となっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	外国の生活習慣や文化、宗教などの違いへの理解が不足しており、地域社会の受け入れが十分でないこと	年金や医療保険などの社会保障が十分でないこと	住宅を容易に借りることができないこと	外国人の子どもに対し、十分な教育ができないこと	就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること	差別的な発言（ヘイトスピーチ等）や行為などをする事
男性 16～19 歳	19	42.1	10.5	—	—	26.3	36.8
20～29 歳	41	34.1	12.2	2.4	7.3	14.6	19.5
30～39 歳	62	35.5	14.5	11.3	12.9	17.7	25.8
40～49 歳	87	32.2	8.0	5.7	5.7	13.8	25.3
50～59 歳	95	36.8	15.8	9.5	17.9	15.8	38.9
60～69 歳	132	37.9	11.4	6.8	10.6	9.8	14.4
70 歳以上	80	38.8	11.3	8.8	6.3	15.0	21.3
女性 16～19 歳	26	34.6	19.2	7.7	11.5	7.7	34.6
20～29 歳	46	39.1	13.0	8.7	8.7	23.9	26.1
30～39 歳	108	36.1	17.6	8.3	11.1	13.0	25.0
40～49 歳	166	31.3	12.7	9.0	7.2	15.7	28.3
50～59 歳	147	33.3	16.3	6.1	12.9	10.2	26.5
60～69 歳	179	30.2	8.9	7.3	6.7	9.5	22.3
70 歳以上	88	26.1	14.8	3.4	8.0	8.0	21.6
選択しない							
16～19 歳	1	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	1	—	—	—	—	—	—
30～39 歳	4	—	—	—	25.0	—	25.0
40～49 歳	8	—	12.5	25.0	12.5	12.5	—
50～59 歳	5	60.0	—	20.0	20.0	—	20.0
60～69 歳	2	—	—	—	—	—	50.0
70 歳以上	3	66.7	—	—	—	—	33.3

【性・年齢別（つづき）】

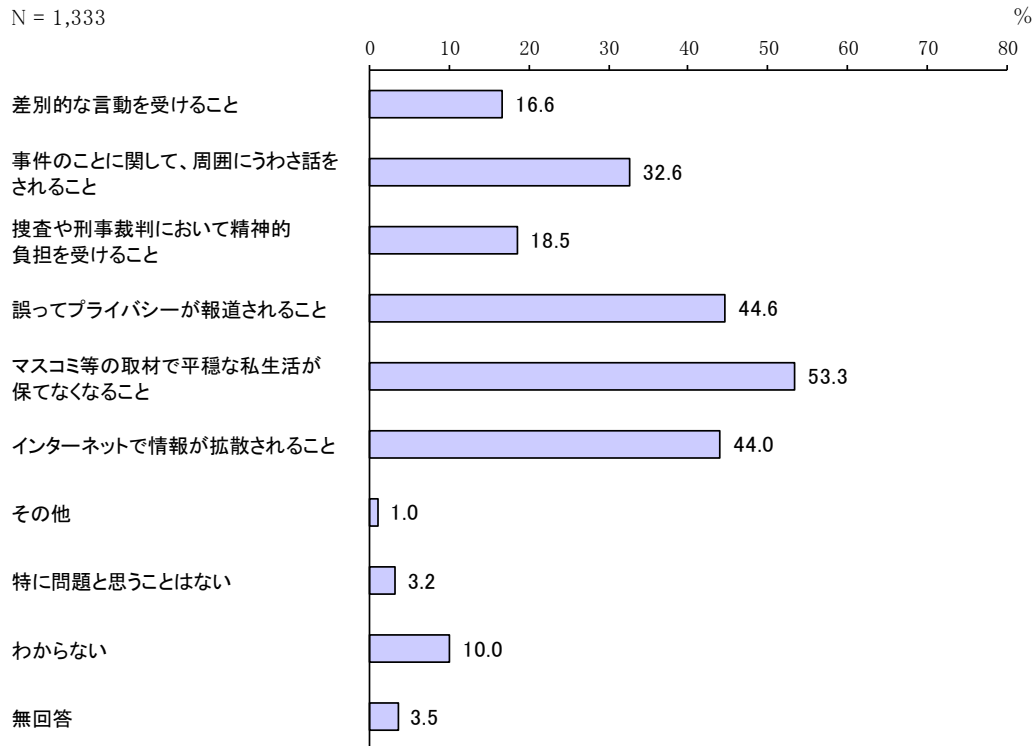
単位：％

区分	近隣や地域の人のふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	地方参政権が認められていないこと	言語の違いによって十分な情報が得られないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	—	21.1	21.1	—	15.8	10.5	5.3
20～29 歳	14.6	2.4	29.3	4.9	22.0	12.2	—
30～39 歳	12.9	6.5	17.7	4.8	8.1	14.5	4.8
40～49 歳	10.3	11.5	20.7	4.6	12.6	18.4	1.1
50～59 歳	12.6	9.5	23.2	2.1	9.5	7.4	1.1
60～69 歳	16.7	4.5	30.3	1.5	18.2	11.4	4.5
70 歳以上	13.8	13.8	16.3	1.3	7.5	20.0	5.0
女性 16～19 歳	11.5	15.4	19.2	—	3.8	23.1	—
20～29 歳	10.9	8.7	19.6	2.2	15.2	15.2	2.2
30～39 歳	8.3	9.3	21.3	—	5.6	25.0	3.7
40～49 歳	10.2	6.6	21.1	1.2	8.4	19.9	4.2
50～59 歳	8.8	6.1	24.5	1.4	9.5	25.2	1.4
60～69 歳	6.7	8.9	25.7	1.1	6.1	31.3	4.5
70 歳以上	6.8	4.5	29.5	1.1	9.1	25.0	9.1
選択しない	—	—	—	—	—	100.0	—
16～19 歳	—	—	—	—	—	100.0	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	—	25.0	25.0	—	25.0	25.0	—
40～49 歳	—	—	12.5	—	25.0	50.0	—
50～59 歳	20.0	—	40.0	—	—	20.0	—
60～69 歳	—	—	—	—	50.0	—	—
70 歳以上	—	—	33.3	—	—	33.3	—

## (7) 犯罪被害者に関する人権問題

問 13 あなたは、犯罪被害者の方やその家族に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「マスコミ等の取材で平穏な私生活が保てなくなること」の割合が 53.3%と最も高く、次いで「誤ってプライバシーが報道されること」の割合が 44.6%、「インターネットで情報が拡散されること」の割合が 44.0%となっています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、女性で「インターネットで情報が拡散されること」の割合が高く、約5割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	差別的な言動を受けること	事件のことに關して、周囲にうわさ話をされること	捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること	誤ってプライバシーが報道されること	マスコミ等の取材で平穩な私生活が保てなくなること	インターネットで情報が拡散されること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	519	18.7	32.8	19.7	43.7	52.8	39.7	1.7	5.2	9.1	2.3
女性	765	15.3	33.2	17.5	45.6	54.1	47.2	0.5	2.0	10.7	3.5
選択しない	25	8.0	24.0	24.0	44.0	40.0	44.0	—	4.0	16.0	8.0

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の50～59歳、女性の20～29歳で「誤ってプライバシーが報道されること」の割合が、男性の20～29歳、50～59歳、女性の20～29歳で「マスコミ等の取材で平穏な私生活が保てなくなること」の割合が高く、約6割となっています。また、女性の30～59歳で「インターネットで情報が拡散されること」の割合が高く、5割台半ばとなっています。

単位：%

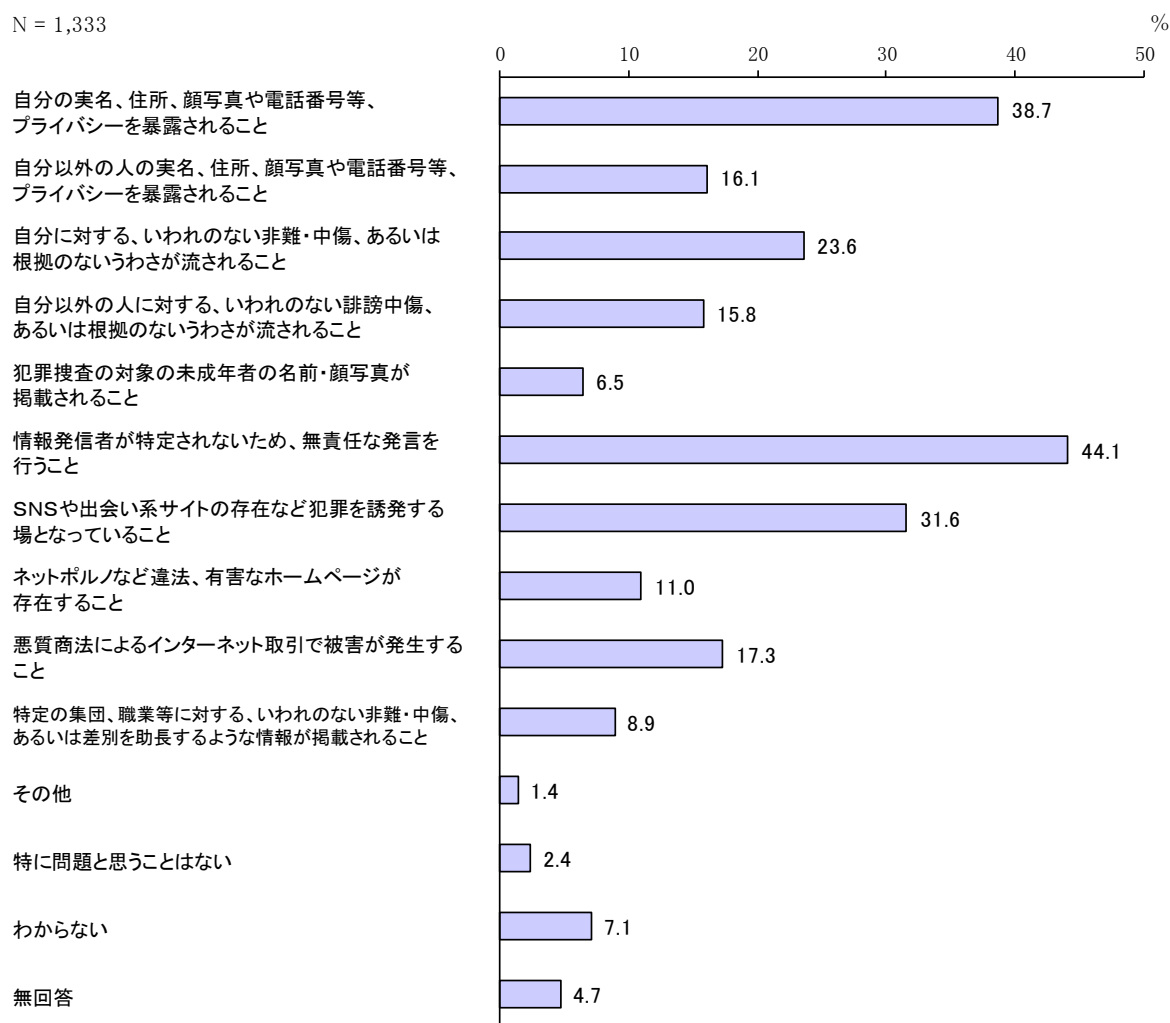
区分	有効回答数(件)	差別的な言動を受けること	事件のことにに関して、周囲にうわさ話をされること	捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること	誤ってプライバシーが報道されること	マスコミ等の取材で平穏な私生活が保てなくなること	インターネットで情報が拡散されること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19歳	19	15.8	42.1	10.5	36.8	47.4	47.4	5.3	5.3	5.3	5.3
20～29歳	41	29.3	31.7	14.6	53.7	63.4	36.6	2.4	2.4	12.2	—
30～39歳	62	21.0	43.5	14.5	45.2	58.1	41.9	1.6	1.6	6.5	1.6
40～49歳	87	19.5	35.6	23.0	41.4	51.7	42.5	2.3	2.3	9.2	3.4
50～59歳	95	14.7	23.2	23.2	58.9	61.1	46.3	1.1	4.2	3.2	1.1
60～69歳	132	16.7	32.6	18.2	36.4	45.5	33.3	0.8	9.8	11.4	3.8
70歳以上	80	18.8	30.0	21.3	36.3	48.8	38.8	1.3	6.3	13.8	1.3
女性 16～19歳	26	7.7	50.0	15.4	30.8	53.8	34.6	—	—	15.4	—
20～29歳	46	19.6	41.3	23.9	60.9	63.0	34.8	2.2	—	2.2	4.3
30～39歳	108	24.1	33.3	17.6	52.8	54.6	54.6	—	1.9	6.5	3.7
40～49歳	166	15.1	33.7	13.9	48.8	53.0	56.0	0.6	4.2	7.2	4.2
50～59歳	147	12.2	32.7	17.0	48.3	57.8	53.7	1.4	—	10.2	1.4
60～69歳	179	14.0	30.2	16.2	38.0	52.0	41.3	—	0.6	15.6	5.6
70歳以上	88	13.6	31.8	26.1	40.9	50.0	34.1	—	3.4	15.9	2.3
選択しない											
16～19歳	1	—	—	—	100.0	100.0	100.0	—	—	—	—
20～29歳	1	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39歳	4	—	25.0	25.0	50.0	50.0	50.0	—	—	—	25.0
40～49歳	8	25.0	25.0	25.0	25.0	37.5	50.0	—	—	25.0	—
50～59歳	5	—	20.0	40.0	40.0	20.0	40.0	—	20.0	20.0	—
60～69歳	2	—	50.0	50.0	100.0	50.0	—	—	—	—	—
70歳以上	3	—	33.3	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—	33.3

## (8) インターネットに関する人権問題

問 14 あなたは、インターネットに関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと」の割合が44.1%と最も高く、次いで「自分の実名、住所、顔写真や電話番号等、プライバシーを暴露されること」の割合が38.7%、「SNSや出会い系サイトの存在など犯罪を誘発する場となっていること」の割合が31.6%となっています。

N = 1,333



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「自分に対する、いわれのない非難・中傷、あるいは根拠のないうわさが流されること」「自分以外の人に対する、いわれのない誹謗中傷、あるいは根拠のないうわさが流されること」の割合が高くなっています。また、女性で「SNSや出会い系サイトの存在など犯罪を誘発する場となっていること」「ネットポルノなど違法、有害なホームページが存在すること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	自分以外の人の実名、住所、写真や電話番号等、プライバシーを暴露されること	自分以外の人の実名、住所、写真や電話番号等、プライバシーを暴露されること	自分に対する、いわれのない非難・中傷、あるいは根拠のないうわさが流されること	自分以外の人に対する、いわれのない誹謗中傷、あるいは根拠のないうわさが流されること	犯罪捜査の対象の未成年者の名前・顔写真が掲載されること	情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと	SNSや出会い系サイトの存在など犯罪を誘発する場となっていること
男性	519	40.7	16.2	27.0	19.5	5.8	43.9	24.3
女性	765	38.3	15.7	21.8	13.7	7.2	44.3	36.3
選択しない	25	28.0	20.0	16.0	12.0	—	44.0	40.0

区分	ネットポルノなど違法、有害なホームページが存在すること	悪質商法によるインターネット取引で被害が発生すること	特定の集団、職業等に対する、いわれのない非難・中傷、あるいは差別を助長するような情報が掲載されること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	6.2	17.7	10.0	1.7	4.0	6.9	3.3
女性	13.9	17.1	8.1	1.0	1.4	7.2	5.1
選択しない	12.0	16.0	8.0	4.0	—	16.0	—

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の16～19歳、女性の20～39歳で「自分の実名、住所、顔写真や電話番号等、プライバシーを暴露されること」の割合が、男性の50～59歳、女性の40～59歳で「情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと」の割合が、女性の50～59歳で「SNSや出会い系サイトの存在など犯罪を誘発する場となっていること」の割合が高く、約5割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	自分の実名、住所、顔写真や電話番号等、プライバシーを暴露されること	自分以外の人の実名、住所、顔写真や電話番号等、プライバシーを暴露されること	自分に対する、いわれのない非難・中傷、あるいは根拠のないうわさが流されること	自分以外の人に対する、いわれのない誹謗中傷、あるいは根拠のないうわさが流されること	犯罪捜査の対象の未成年者の名前・顔写真が掲載されること	情報発信者が特定されないため、無責任な発言を行うこと	SNSや出会い系サイトの存在など犯罪を誘発する場となっていること
男性 16～19歳	19	52.6	15.8	31.6	15.8	5.3	31.6	10.5
20～29歳	41	46.3	31.7	12.2	31.7	4.9	39.0	22.0
30～39歳	62	43.5	19.4	33.9	17.7	11.3	46.8	16.1
40～49歳	87	49.4	19.5	27.6	23.0	5.7	40.2	23.0
50～59歳	95	41.1	15.8	36.8	23.2	7.4	55.8	21.1
60～69歳	132	34.1	12.1	22.7	12.9	3.8	40.9	29.5
70歳以上	80	32.5	10.0	22.5	18.8	3.8	41.3	32.5
女性 16～19歳	26	46.2	7.7	23.1	11.5	15.4	30.8	34.6
20～29歳	46	52.2	23.9	28.3	8.7	6.5	32.6	21.7
30～39歳	108	50.9	33.3	24.1	18.5	8.3	42.6	35.2
40～49歳	166	44.6	18.1	32.5	17.5	4.8	51.8	28.9
50～59歳	147	31.3	17.7	18.4	17.0	8.2	49.0	47.6
60～69歳	179	27.9	5.6	16.2	8.9	8.4	43.0	37.4
70歳以上	88	33.0	5.7	12.5	9.1	4.5	38.6	40.9
選択しない								
16～19歳	1	100.0	—	—	—	—	—	100.0
20～29歳	1	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	4	50.0	50.0	50.0	25.0	—	50.0	25.0
40～49歳	8	25.0	37.5	—	—	—	62.5	25.0
50～59歳	5	20.0	—	20.0	20.0	—	60.0	40.0
60～69歳	2	50.0	—	50.0	—	—	—	100.0
70歳以上	3	—	—	—	—	—	33.3	33.3



【性・年齢別】

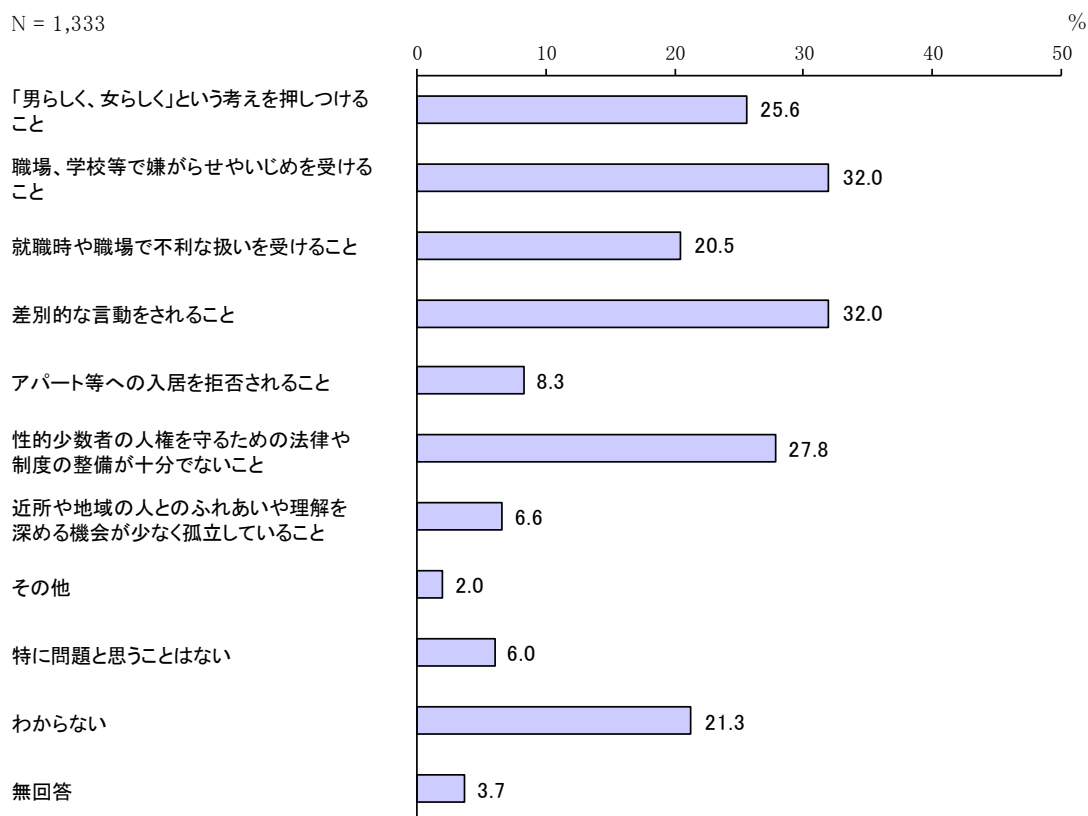
単位：％

区分	ネットポルノなど違法、有害なホームページが存在すること	悪質商法によるインターネット取引で被害が発生すること	特定の集団、職業等に対する、いわれのない非難・中傷、あるいは差別を助長するような情報が掲載されること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	5.3	5.3	5.3	—	—	5.3	5.3
20～29 歳	2.4	7.3	22.0	4.9	—	7.3	—
30～39 歳	6.5	19.4	6.5	—	4.8	3.2	6.5
40～49 歳	1.1	16.1	5.7	2.3	2.3	6.9	3.4
50～59 歳	7.4	17.9	12.6	1.1	4.2	1.1	1.1
60～69 歳	6.8	18.9	10.6	3.0	7.6	8.3	3.0
70 歳以上	10.0	23.8	7.5	—	2.5	15.0	5.0
女性 16～19 歳	3.8	23.1	3.8	—	—	3.8	3.8
20～29 歳	10.9	13.0	13.0	—	2.2	6.5	4.3
30～39 歳	13.0	6.5	9.3	0.9	—	1.9	4.6
40～49 歳	19.3	13.3	5.4	0.6	1.2	2.4	5.4
50～59 歳	10.9	23.8	7.5	2.0	—	5.4	3.4
60～69 歳	14.0	21.8	11.2	0.6	1.1	14.0	6.1
70 歳以上	14.8	18.2	4.5	2.3	5.7	12.5	6.8
選択しない 16～19 歳	—	100.0	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	25.0	—	—	—	—	—	—
40～49 歳	12.5	12.5	12.5	—	—	12.5	—
50～59 歳	20.0	—	20.0	—	—	20.0	—
60～69 歳	—	100.0	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	33.3	—

## (9) LGBTなどの性的少数者に関する人権問題

問15 あなたは、LGBT（異性愛、同性愛、両性愛、性同一性障がいなど）などの性的少数者に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。（〇は3つまで）

「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「差別的な言動をされること」の割合が32.0%と最も高く、次いで「性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でないこと」の割合が27.8%となっています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「特に問題と思うことはない」の割合が高くなっています。また、女性で「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること」「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」「就職時や職場で不利な扱いを受けること」「差別的な言動をされること」の割合が高くなっています。

区分	有効回答数(件)	「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	就職時や職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	アパート等への入居を拒否されること
男性	519	22.2	28.5	17.3	28.7	6.0
女性	765	27.6	34.9	23.3	34.4	9.8
選択しない	25	24.0	20.0	12.0	28.0	12.0

区分	性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でないこと	近所や地域の人のふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	27.2	8.3	2.7	11.2	20.4	3.1
女性	28.9	5.5	1.6	2.5	22.1	3.4
選択しない	20.0	—	4.0	—	32.0	4.0

【性・年齢別】

性・年齢別でみると、他に比べ、男性の16～19歳、女性の30～39歳で「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」の割合が高く、約5割となっています。また、女性の30～39歳で「差別的な言動をされること」の割合が、女性の20～29歳で「性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でないこと」の割合が高く、4割台半ばとなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	「男らしく、女らしく」という考えを押しつけること	職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること	就職時や職場で不利な扱いを受けること	差別的な言動をされること	アパート等への入居を拒否されること
男性 16～19歳	19	21.1	52.6	15.8	42.1	5.3
20～29歳	41	36.6	36.6	17.1	43.9	12.2
30～39歳	62	27.4	37.1	24.2	32.3	8.1
40～49歳	87	24.1	24.1	8.0	13.8	5.7
50～59歳	95	21.1	31.6	16.8	32.6	7.4
60～69歳	132	15.9	24.2	17.4	26.5	3.0
70歳以上	80	18.8	20.0	22.5	30.0	3.8
女性 16～19歳	26	34.6	38.5	26.9	38.5	15.4
20～29歳	46	34.8	39.1	17.4	43.5	13.0
30～39歳	108	32.4	50.0	23.1	46.3	13.0
40～49歳	166	37.3	35.5	24.1	35.5	14.5
50～59歳	147	23.8	38.8	24.5	34.0	10.9
60～69歳	179	20.1	26.3	22.9	30.7	3.9
70歳以上	88	19.3	22.7	23.9	20.5	3.4
選択しない 16～19歳	1	—	—	—	—	—
20～29歳	1	—	—	—	—	—
30～39歳	4	50.0	25.0	—	75.0	25.0
40～49歳	8	12.5	12.5	—	12.5	12.5
50～59歳	5	40.0	60.0	20.0	—	20.0
60～69歳	2	—	—	50.0	50.0	—
70歳以上	3	—	—	33.3	33.3	—

【性・年齢別】

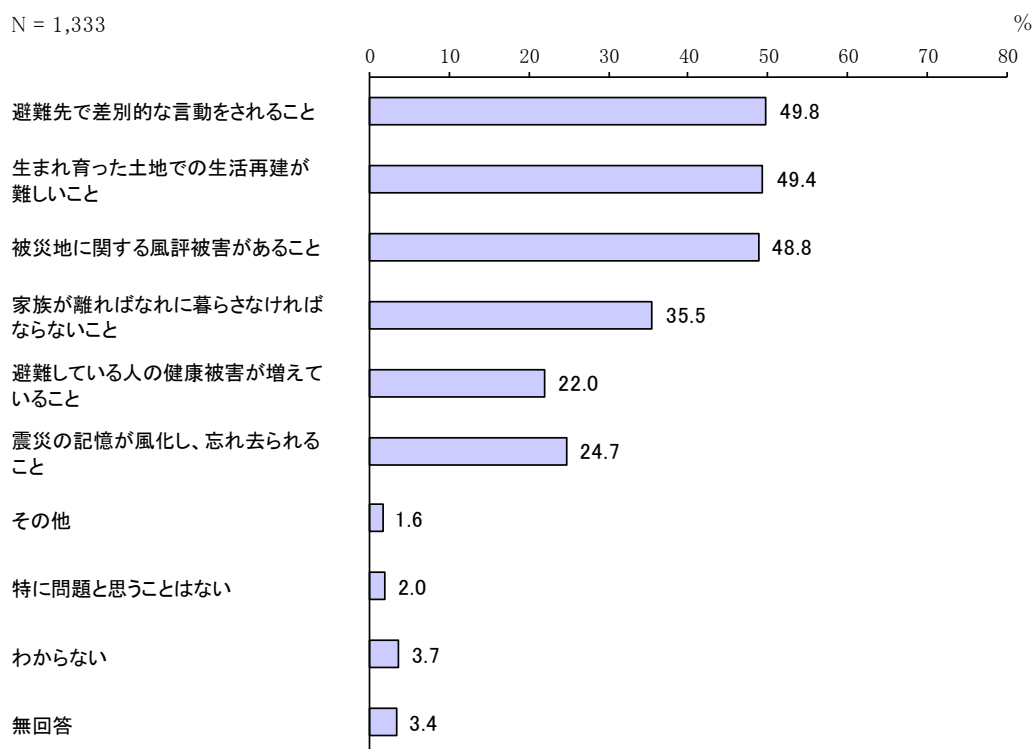
単位：%

区分	性的少数者の人権を守るための法律や制度の整備が十分でないこと	近所や地域の人のふれあいや理解を深める機会が少なく孤立していること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	21.1	5.3	5.3	—	15.8	5.3
20～29 歳	39.0	7.3	—	4.9	14.6	—
30～39 歳	29.0	11.3	3.2	4.8	19.4	3.2
40～49 歳	23.0	3.4	3.4	12.6	27.6	2.3
50～59 歳	28.4	9.5	4.2	11.6	12.6	3.2
60～69 歳	23.5	8.3	1.5	17.4	20.5	3.8
70 歳以上	31.3	11.3	—	10.0	27.5	3.8
女性 16～19 歳	30.8	3.8	3.8	3.8	11.5	—
20～29 歳	45.7	6.5	6.5	4.3	8.7	—
30～39 歳	35.2	5.6	1.9	—	10.2	1.9
40～49 歳	24.7	5.4	2.4	1.2	19.9	3.0
50～59 歳	28.6	4.1	0.7	2.0	22.4	1.4
60～69 歳	28.5	6.7	—	2.8	28.5	6.7
70 歳以上	22.7	5.7	1.1	5.7	36.4	5.7
選択しない 16～19 歳	—	—	—	—	100.0	—
20～29 歳	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	—	—	—	—	—	—
40～49 歳	37.5	—	12.5	—	37.5	—
50～59 歳	20.0	—	—	—	40.0	—
60～69 歳	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	33.3	33.3

## (10) 東日本大震災や福島第1原子力発電所事故に関する人権問題

問16 あなたは、東日本大震災や福島第1原子力発電所事故に関する人権問題について、現時点で特に問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

「避難先で差別的な言動をされること」の割合が49.8%と最も高く、次いで「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」の割合が49.4%、「被災地に関する風評被害があること」の割合が48.8%となっています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、女性で「避難先で差別的な言動をされること」「家族が離ればなれに暮らさなければならぬこと」「避難している人の健康被害が増えていること」「震災の記憶が風化し、忘れ去られること」の割合が高くなっています。また、男女ともに「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」「被災地に関する風評被害があること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	避難先で差別的な言動をされること	生まれ育った土地での生活再建が難しいこと	被災地に関する風評被害があること	家族が離ればなれに暮らさなければならぬこと	避難している人の健康被害が増えていること	震災の記憶が風化し、忘れ去られること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性	519	45.3	50.5	50.9	31.6	18.9	21.8	3.1	3.3	4.4	2.3
女性	765	53.3	49.7	48.0	38.4	24.6	26.9	0.7	1.2	2.5	3.5
選択しない	25	52.0	16.0	40.0	32.0	20.0	20.0	—	—	28.0	—

【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の40～49歳で「避難先で差別的な言動をされること」の割合が高く、6割台半ばとなっています。また、男性の60～69歳、女性の50～59歳で「生まれ育った土地での生活再建が難しいこと」の割合が、男性の60～69歳で「被災地に関する風評被害があること」の割合が高く、約6割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	避難先で差別的な言動をされること	生まれ育った土地での生活再建が難しいこと	被災地に関する風評被害があること	家族が離ればなれに暮らさなければならぬこと	避難している人の健康被害が増えていること	震災の記憶が風化し、忘れ去られること	その他	特に問題と思うことはない	わからない	無回答
男性 16～19 歳	19	26.3	31.6	26.3	36.8	—	10.5	5.3	5.3	10.5	5.3
20～29 歳	41	41.5	41.5	48.8	34.1	14.6	22.0	7.3	4.9	7.3	—
30～39 歳	62	40.3	43.5	40.3	25.8	19.4	30.6	4.8	6.5	9.7	3.2
40～49 歳	87	46.0	41.4	54.0	19.5	14.9	17.2	6.9	2.3	4.6	2.3
50～59 歳	95	48.4	51.6	55.8	29.5	20.0	30.5	1.1	2.1	3.2	2.1
60～69 歳	132	46.2	62.1	57.6	37.9	21.2	13.6	0.8	3.0	1.5	2.3
70 歳以上	80	48.8	55.0	46.3	36.3	23.8	25.0	1.3	2.5	3.8	2.5
女性 16～19 歳	26	46.2	30.8	38.5	19.2	19.2	38.5	—	3.8	7.7	—
20～29 歳	46	52.2	43.5	41.3	34.8	26.1	34.8	2.2	2.2	6.5	—
30～39 歳	108	53.7	52.8	55.6	37.0	20.4	17.6	—	—	1.9	4.6
40～49 歳	166	66.3	42.2	47.0	34.9	27.1	23.5	0.6	1.8	1.8	4.2
50～59 歳	147	51.0	57.1	51.0	42.9	25.2	25.2	0.7	—	1.4	2.7
60～69 歳	179	44.7	52.5	46.9	41.3	25.1	31.3	—	1.7	2.2	5.0
70 歳以上	88	52.3	52.3	46.6	42.0	25.0	33.0	2.3	—	2.3	2.3
選択しない 16～19 歳	1	100.0	—	—	100.0	100.0	—	—	—	—	—
20～29 歳	1	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—
30～39 歳	4	50.0	—	25.0	50.0	—	50.0	—	—	25.0	—
40～49 歳	8	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	12.5	—	—	25.0	—
50～59 歳	5	40.0	—	40.0	—	20.0	40.0	—	—	40.0	—
60～69 歳	2	50.0	50.0	—	50.0	—	—	—	—	50.0	—
70 歳以上	3	66.7	33.3	100.0	66.7	—	—	—	—	—	—



## 4. 人権学習や行政への要望等

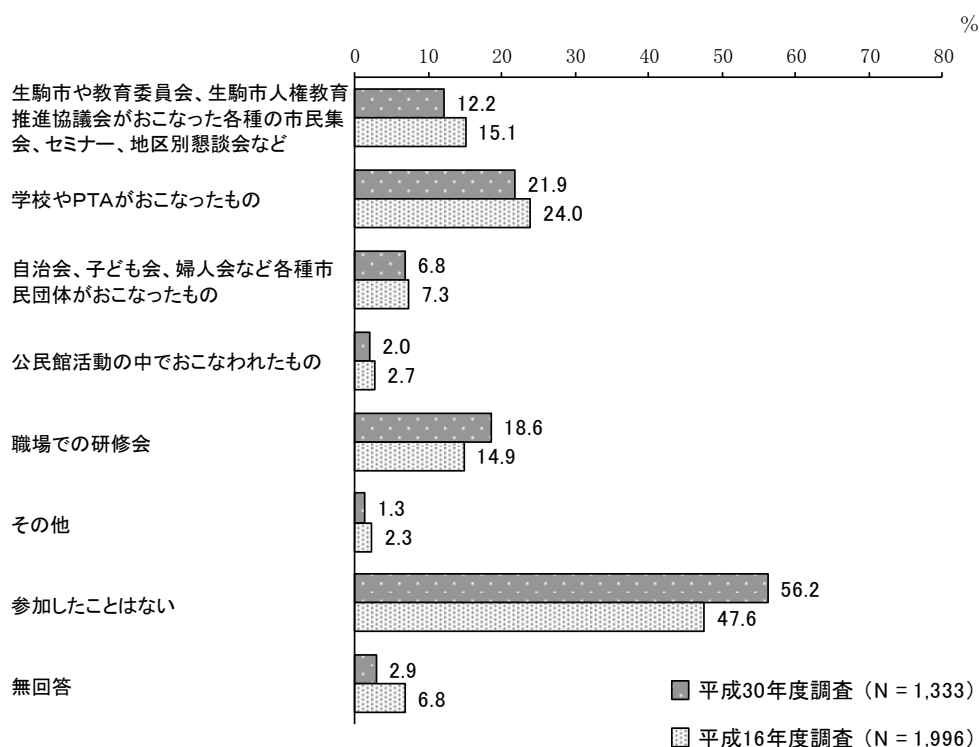
### (1) 人権問題の講演会や研修会への参加状況

問 17 あなたは、人権問題の講演会や研修会のうち、どのようなものに参加しましたか。今までとこの1年間のそれぞれについてお答えください。

問 17- (1) 今までに参加したものはどのようなものですか。(〇はいくつでも)

「参加したことはない」の割合が56.2%と最も高く、次いで「学校やPTAがおこなったもの」の割合が21.9%、「職場での研修会」の割合が18.6%となっています。

平成16年度調査と比較すると、「参加したことはない」の割合が増加しています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「職場での研修会」「参加したことはない」の割合が高くなっています。また、女性で「職場での研修会」「生駒市や教育委員会、生駒市人権教育推進協議会がおこなった各種の市民集会、セミナー、地区別懇談会など」「学校やPTAがおこなったもの」「参加したことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	生駒市や教育委員会、生駒市人権教育推進協議会がおこなった各種の市民集会、セミナー、地区別懇談会など	学校やPTAがおこなったもの	自治会、子ども会、婦人会など各種市民団体がおこなったもの	公民館活動の中でおこなわれたもの	職場での研修会	その他	参加したことはない	無回答
男性	519	8.1	12.1	5.2	1.7	23.3	1.2	62.0	1.7
女性	765	15.6	28.6	7.8	2.0	15.7	1.3	52.3	3.7
選択しない	25	—	24.0	4.0	4.0	12.0	4.0	60.0	—

## 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「生駒市や教育委員会、生駒市人権教育推進協議会がおこなった各種の市民集会、セミナー、地区別懇談会など」の割合が高くなっています。また、他に比べ、16～19歳で「学校やPTAがおこなったもの」の割合が、20～39歳で「参加したことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

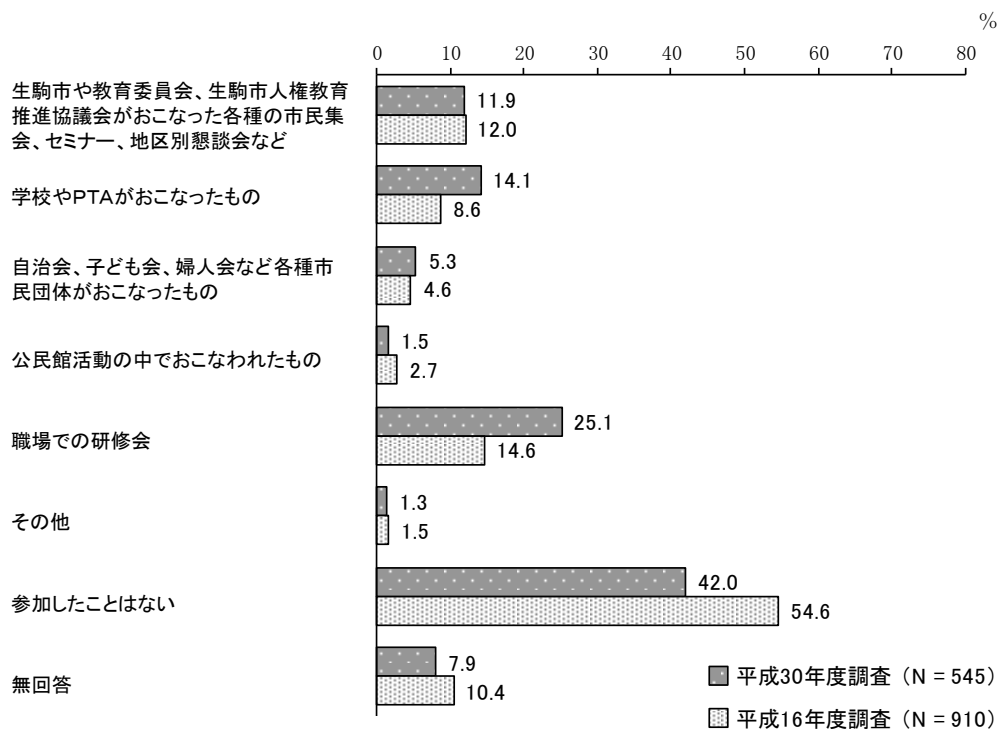
区分	有効回答数(件)	生駒市や教育委員会、生駒市人権教育推進協議会がおこなった各種の市民集会、セミナー、地区別懇談会など	学校やPTAがおこなったもの	自治会、子ども会、婦人会など各種市民団体がおこなったもの	公民館活動の中でおこなわれたもの	職場での研修会	その他	参加したことはない	無回答
16～19歳	46	4.3	60.9	6.5	—	—	2.2	30.4	—
20～29歳	88	4.5	21.6	2.3	1.1	18.2	1.1	65.9	2.3
30～39歳	174	4.6	14.9	2.9	0.6	21.3	1.1	67.2	1.1
40～49歳	263	8.7	25.5	3.8	0.8	19.4	1.9	56.3	1.5
50～59歳	248	10.1	25.0	6.9	2.0	25.8	0.4	53.2	2.4
60～69歳	314	19.7	19.4	10.5	2.9	19.1	1.9	52.5	4.1
70歳以上	171	21.1	15.2	9.9	4.1	8.8	0.6	57.3	5.8

## (2) 最近1年間の参加状況

問17- (2) そのうち、この1年間に参加したものはどのようなものですか。  
(〇はいくつでも)

「参加したことはない」の割合が42.0%と最も高く、次いで「職場での研修会」の割合が25.1%、「学校やPTAがおこなったもの」の割合が14.1%となっています。

平成16年度調査と比較すると、「学校やPTAがおこなったもの」「職場での研修会」の割合が増加しています。また、「参加したことはない」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「職場での研修会」の割合が高くなっています。また、女性で「学校やPTAがおこなったもの」「参加したことはない」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	生駒市や教育委員会、生駒市人権教育推進協議会がおこなった各種の市民集会、セミナー、地区別懇談会など	学校やPTAがおこなったもの	自治会、子ども会、婦人会など各種市民団体がおこなったもの	公民館活動の中でおこなわれたもの	職場での研修会	その他	参加したことはない	無回答
男性	188	13.8	8.0	5.9	1.1	36.2	1.1	36.7	4.3
女性	337	11.3	17.2	4.7	1.8	19.0	1.2	45.4	10.1
選択しない	10	—	30.0	—	—	10.0	10.0	40.0	10.0

【年齢別】

年齢別で見ると、他に比べ、16～19歳で「学校やPTAがおこなったもの」の割合が高く、7割台半ばとなっています。また、30～39歳、50～59歳で「職場での研修会」の割合が、60～69歳で「参加したことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	生駒市や教育委員会、生駒市人権教育推進協議会がおこなった各種の市民集会、セミナー、地区別懇談会など	学校やPTAがおこなったもの	自治会、子ども会、婦人会など各種市民団体がおこなったもの	公民館活動の中でおこなわれたもの	職場での研修会	その他	参加したことはない	無回答
16～19歳	32	3.1	75.0	—	—	3.1	3.1	15.6	—
20～29歳	28	7.1	17.9	7.1	—	32.1	—	35.7	7.1
30～39歳	55	7.3	20.0	1.8	—	41.8	—	30.9	5.5
40～49歳	111	6.3	18.0	3.6	—	32.4	1.8	37.8	9.0
50～59歳	110	6.4	10.0	1.8	1.8	40.9	0.9	40.9	6.4
60～69歳	136	15.4	1.5	5.9	2.9	12.5	2.2	57.4	10.3
70歳以上	63	34.9	4.8	15.9	3.2	4.8	—	46.0	9.5

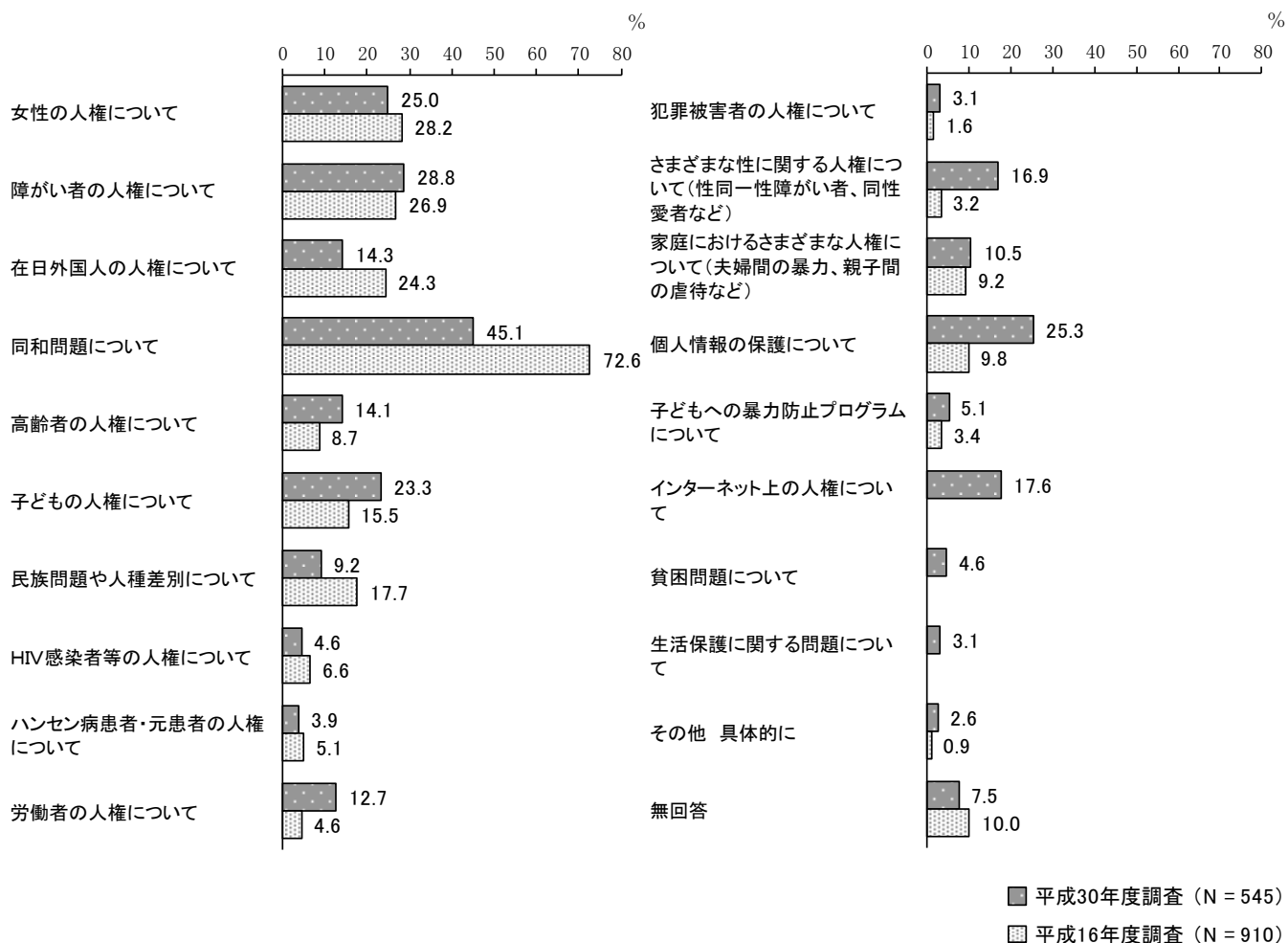
### (3) 今まで参加した講演会の内容

問17で今までに参加したことがあると答えた方におうかがいします。

問18- (1) 今までに参加した講演会や研修会の内容は、どのようなものでしたか。  
(〇はいくつでも)

「同和問題について」の割合が45.1%と最も高く、次いで「障がい者の人権について」の割合が28.8%、「個人情報の保護について」の割合が25.3%となっています。

平成16年度調査と比較すると、「高齢者の人権について」「子どもの人権について」「労働者の人権について」「さまざまな性に関する人権について(性同一性障がい者、同性愛者など)」「個人情報の保護について」の割合が増加し、「在日外国人の人権について」「同和問題について」「民族問題や人種差別について」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「労働者の人権について」「個人情報の保護について」の割合が高くなっています。また、女性で「子どもの人権について」「家庭におけるさまざまな人権について（夫婦間の暴力、親子間の虐待など）」の割合が高くなっています。また、男女ともに「同和問題について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
男性	188	23.9	29.8	14.9	44.7	13.8	16.5	11.7	5.9	4.3	19.1
女性	337	26.1	28.8	14.5	45.7	15.1	27.3	8.3	3.9	3.6	9.5
選択しない	10	10.0	10.0	—	30.0	—	10.0	—	10.0	—	—

区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について（性同一性障がい者、同性愛者など）	家庭におけるさまざまな人権について（夫婦間の暴力、親子間の虐待など）	個人情報の保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
男性	2.1	17.6	5.9	30.9	2.1	18.6	1.6	3.2	2.1	6.4
女性	3.6	16.6	12.2	22.8	6.5	17.8	5.9	3.0	2.7	8.3
選択しない	10.0	20.0	10.0	10.0	—	10.0	—	—	—	10.0



【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「障がい者の人権について」の割合が、60歳以上で「同和問題について」の割合が、16～19歳で「インターネット上の人権について」の割合が高く、約6割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
16～19歳	32	28.1	56.3	34.4	37.5	6.3	18.8	31.3	12.5	12.5	9.4
20～29歳	28	21.4	60.7	25.0	53.6	17.9	17.9	14.3	14.3	7.1	14.3
30～39歳	55	21.8	27.3	10.9	45.5	12.7	40.0	5.5	5.5	1.8	25.5
40～49歳	111	25.2	28.8	13.5	27.9	10.8	30.6	6.3	1.8	0.9	9.0
50～59歳	110	26.4	23.6	12.7	40.0	10.9	22.7	8.2	2.7	1.8	18.2
60～69歳	136	27.9	25.0	14.7	58.1	19.1	16.2	8.8	4.4	3.7	8.1
70歳以上	63	20.6	20.6	6.3	57.1	20.6	15.9	6.3	4.8	9.5	9.5

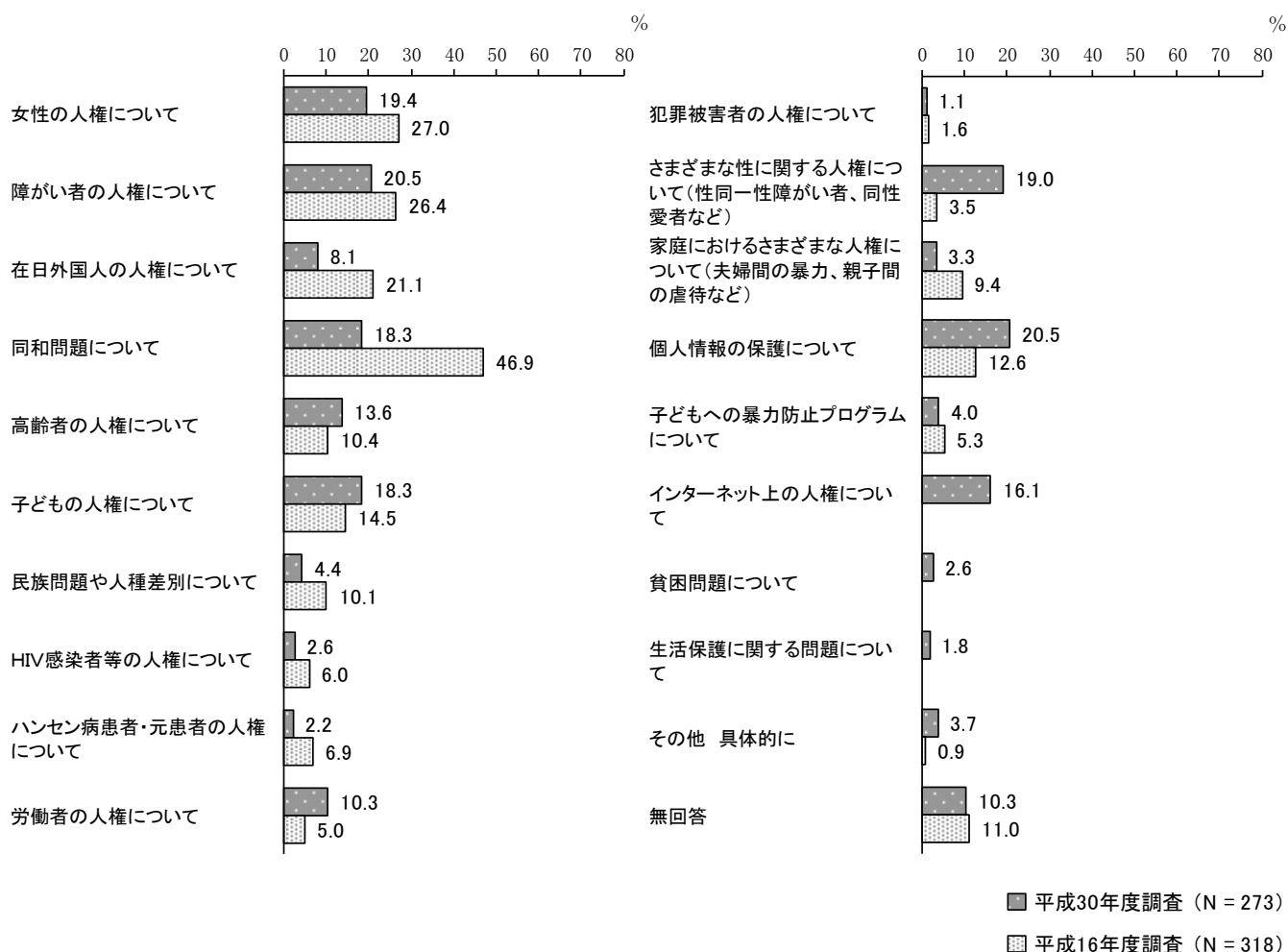
区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について(性同一性障がい者、同性愛者など)	親子間の虐待など)	家庭におけるさまざまな人権について(夫婦間の暴力、)	個人情報保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
16～19歳	6.3	34.4	15.6	28.1	3.1	59.4	3.1	6.3	—	3.1	
20～29歳	10.7	32.1	14.3	32.1	7.1	17.9	21.4	—	3.6	10.7	
30～39歳	1.8	27.3	10.9	32.7	5.5	25.5	3.6	1.8	5.5	7.3	
40～49歳	1.8	14.4	9.0	25.2	8.1	23.4	2.7	3.6	3.6	8.1	
50～59歳	1.8	18.2	13.6	30.0	5.5	18.2	4.5	2.7	2.7	3.6	
60～69歳	5.1	11.8	6.6	19.9	3.7	5.9	2.2	3.7	0.7	9.6	
70歳以上	—	6.3	6.3	17.5	—	6.3	4.8	1.6	1.6	9.5	

#### (4) 最近1年間に参加した講演会の内容

問18- (2) そのうち、この1年間に参加した講演会や研修会の内容は、どのようなものでしたか。(〇はいくつでも)

「障がい者の人権について」「個人情報の保護について」の割合が20.5%と最も高く、次いで「女性の人権について」の割合が19.4%となっています。

平成16年度調査と比較すると、「労働者の人権について」「さまざまな性に関する人権について(性同一性障がい者、同性愛者など)」「個人情報の保護について」の割合が増加し、「女性の人権について」「障がい者の人権について」「在日外国人の人権について」「同和問題について」「民族問題や人種差別について」「家庭におけるさまざまな人権について(夫婦間の暴力、親子間の虐待など)」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「労働者の人権について」「個人情報の保護について」の割合が高くなっています。また、女性で「インターネット上の人権について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
男性	111	19.8	19.8	7.2	17.1	14.4	15.3	5.4	1.8	2.7	15.3
女性	150	20.0	21.3	9.3	19.3	14.0	20.0	4.0	2.7	2.0	6.7
選択しない	5	—	—	—	20.0	—	—	—	20.0	—	—

区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について(性同一性障がい者、同性愛者など)	家庭におけるさまざまな人権について(夫婦間の暴力、親子間の虐待など)	個人情報の保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
男性	1.8	18.9	0.9	24.3	1.8	12.6	0.9	1.8	2.7	9.9
女性	0.7	19.3	4.7	18.0	4.7	19.3	2.7	1.3	4.0	8.7
選択しない	—	20.0	—	—	—	20.0	—	—	—	40.0

【年齢別】

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「インターネット上の人権について」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、16～19歳で「障がい者の人権について」「さまざまな性に関する人権について（性同一性障がい者、同性愛者など）」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
16～19歳	27	22.2	29.6	18.5	25.9	7.4	11.1	14.8	7.4	7.4	7.4
20～29歳	16	6.3	18.8	6.3	25.0	12.5	6.3	—	12.5	12.5	6.3
30～39歳	35	22.9	20.0	2.9	31.4	14.3	31.4	2.9	—	—	14.3
40～49歳	59	15.3	22.0	8.5	11.9	10.2	23.7	5.1	1.7	—	5.1
50～59歳	58	13.8	19.0	10.3	12.1	8.6	10.3	3.4	1.7	1.7	22.4
60～69歳	44	34.1	18.2	6.8	13.6	20.5	18.2	2.3	—	—	4.5
70歳以上	28	17.9	14.3	3.6	25.0	28.6	14.3	3.6	3.6	3.6	3.6

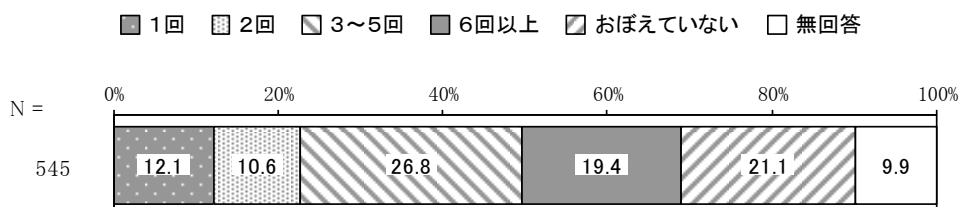
区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について（性同一性障がい者、同性愛者など）	親子間の虐待など	家庭におけるさまざまな人権について（夫婦間の暴力、	個人情報の保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
16～19歳	3.7	37.0	3.7	22.2	—	29.6	3.7	3.7	—	3.7	
20～29歳	—	12.5	12.5	25.0	—	25.0	—	—	6.3	6.3	
30～39歳	2.9	20.0	—	34.3	2.9	17.1	—	—	2.9	14.3	
40～49歳	—	15.3	1.7	15.3	6.8	18.6	1.7	—	6.8	8.5	
50～59歳	1.7	22.4	3.4	20.7	3.4	15.5	—	3.4	1.7	8.6	
60～69歳	—	13.6	4.5	15.9	4.5	9.1	4.5	2.3	2.3	15.9	
70歳以上	—	14.3	—	14.3	—	7.1	3.6	—	3.6	10.7	

## (5) 今までに参加した回数

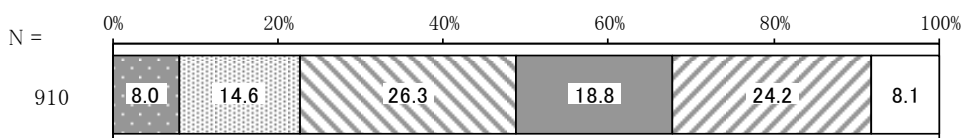
問 18- (3) 講演会や研修会には、今までに何回ぐらい参加しましたか。  
(〇は1つだけ)

「3～5回」の割合が26.8%と最も高く、次いで「おぼえていない」の割合が21.1%、「6回以上」の割合が19.4%となっています。

平成16年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

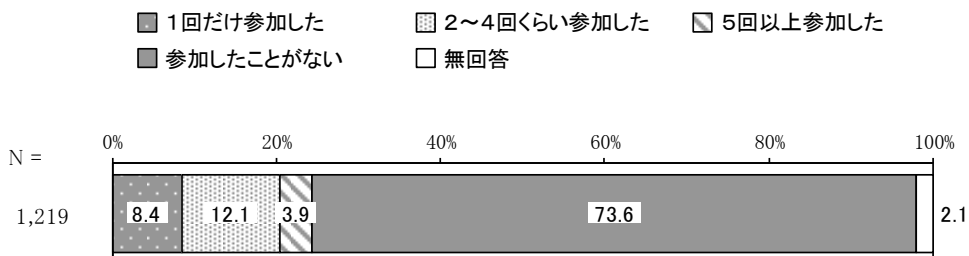


### 【平成16年度調査】



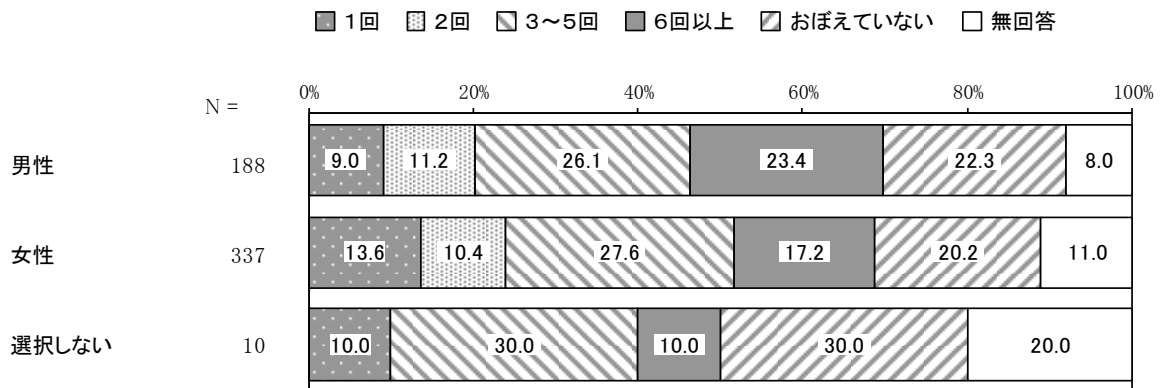
### ※参考

#### 【奈良県調査】



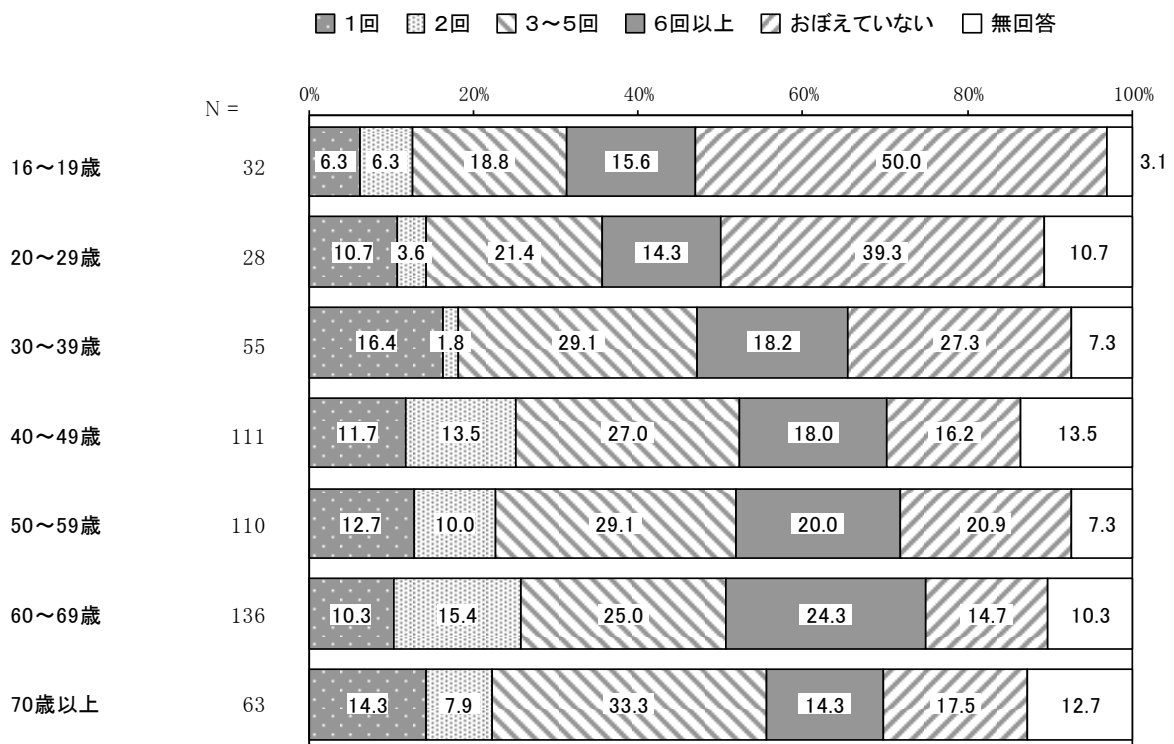
### 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「6回以上」の割合が高くなっています。



### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で「3~5回」の割合が高く、3割を超えています。

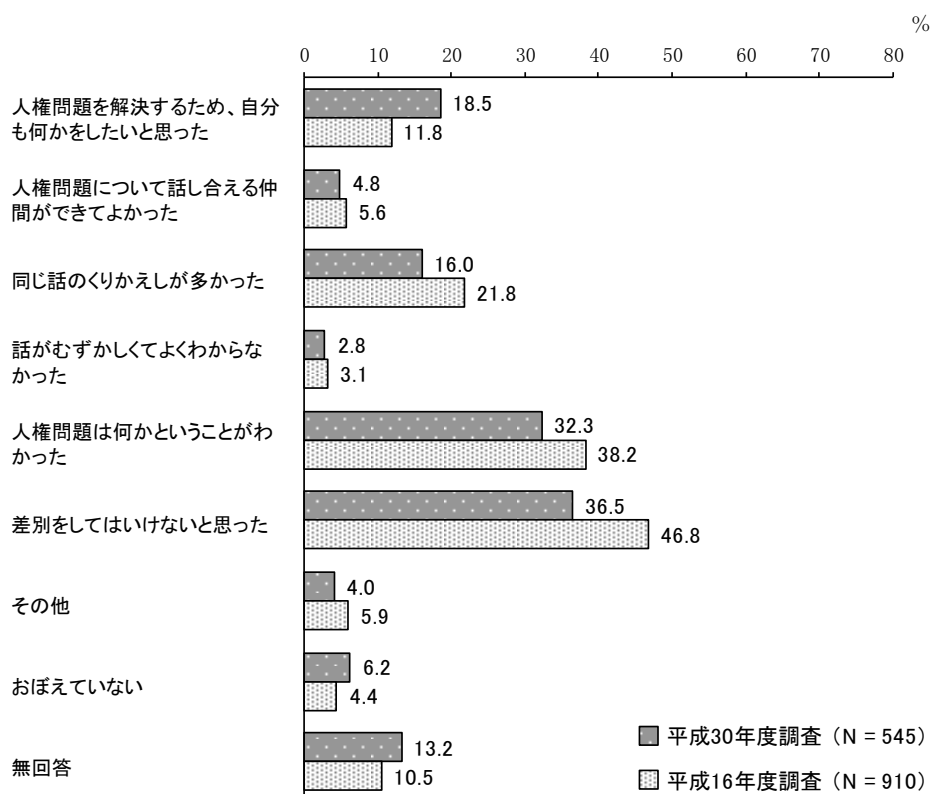


## (6) 参加しての印象や感想

### 問 18ー (4) 参加してどのような印象や感想を持ちましたか。(〇はいくつでも)

「差別をしてはいけないと思った」の割合が 36.5%と最も高く、次いで「人権問題は何かということがわかった」の割合が 32.3%、「人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った」の割合が 18.5%となっています。

平成 16 年度調査と比較すると、「人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った」の割合が増加し、「同じ話のくりかえしが多かった」「人権問題は何かということがわかった」「差別をしてはいけないと思った」の割合が減少しています。



## 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「同じ話のくりかえしが多かった」の割合が高く、約2割となっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った	人権問題について話し合える仲間ができてよかった	同じ話のくりかえしが多かった	話がむずかしくてよくわからなかった	人権問題は何かというところがわかった	差別をしてはいけないと思った	その他	おぼえていない	無回答
男性	188	20.2	3.2	22.9	1.6	35.6	34.0	4.3	2.7	12.2
女性	337	17.8	5.3	11.9	2.7	31.5	38.9	3.9	8.0	13.9
選択しない	10	—	20.0	20.0	10.0	20.0	30.0	—	—	20.0

## 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、70歳以上で「差別をしてはいけないと思った」の割合が高く、4割台半ばとなっています。また、60～69歳で「同じ話のくりかえしが多かった」の割合が高く、約2割となっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った	人権問題について話し合える仲間ができてよかった	同じ話のくりかえしが多かった	話がむずかしくてよくわからなかった	人権問題は何かというところがわかった	差別をしてはいけないと思った	その他	おぼえていない	無回答
16～19歳	32	25.0	—	12.5	—	34.4	37.5	3.1	9.4	3.1
20～29歳	28	28.6	10.7	14.3	3.6	35.7	28.6	—	—	10.7
30～39歳	55	18.2	1.8	12.7	1.8	38.2	36.4	3.6	1.8	18.2
40～49歳	111	17.1	4.5	9.9	1.8	30.6	38.7	6.3	6.3	16.2
50～59歳	110	22.7	4.5	16.4	0.9	31.8	33.6	5.5	5.5	9.1
60～69歳	136	16.2	5.1	22.1	5.1	29.4	36.8	3.7	6.6	14.7
70歳以上	63	11.1	7.9	15.9	1.6	38.1	46.0	—	9.5	14.3

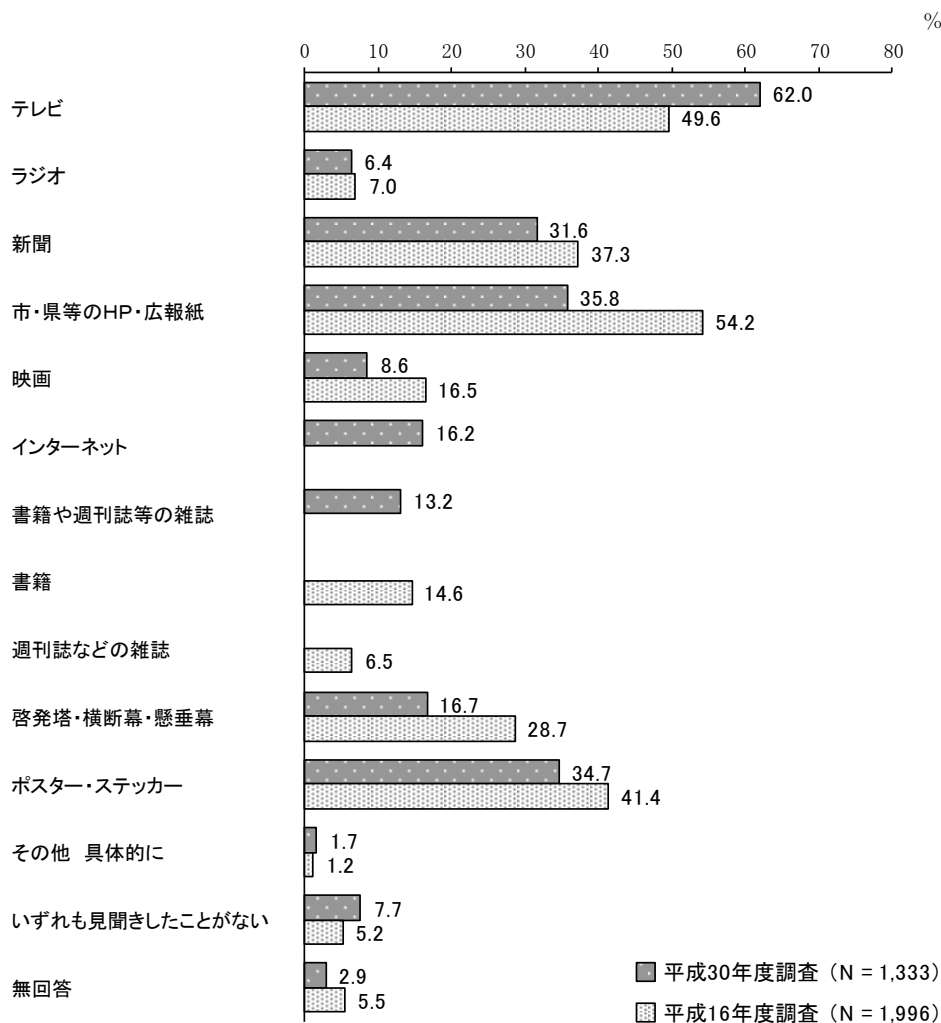


## (7) 見聞きしたことがある人権啓発活動

問 19 人権問題について次のようなもので啓発活動がおこなわれていますが、あなたは、どのようなもので見聞きされましたか。(〇はいくつでも)

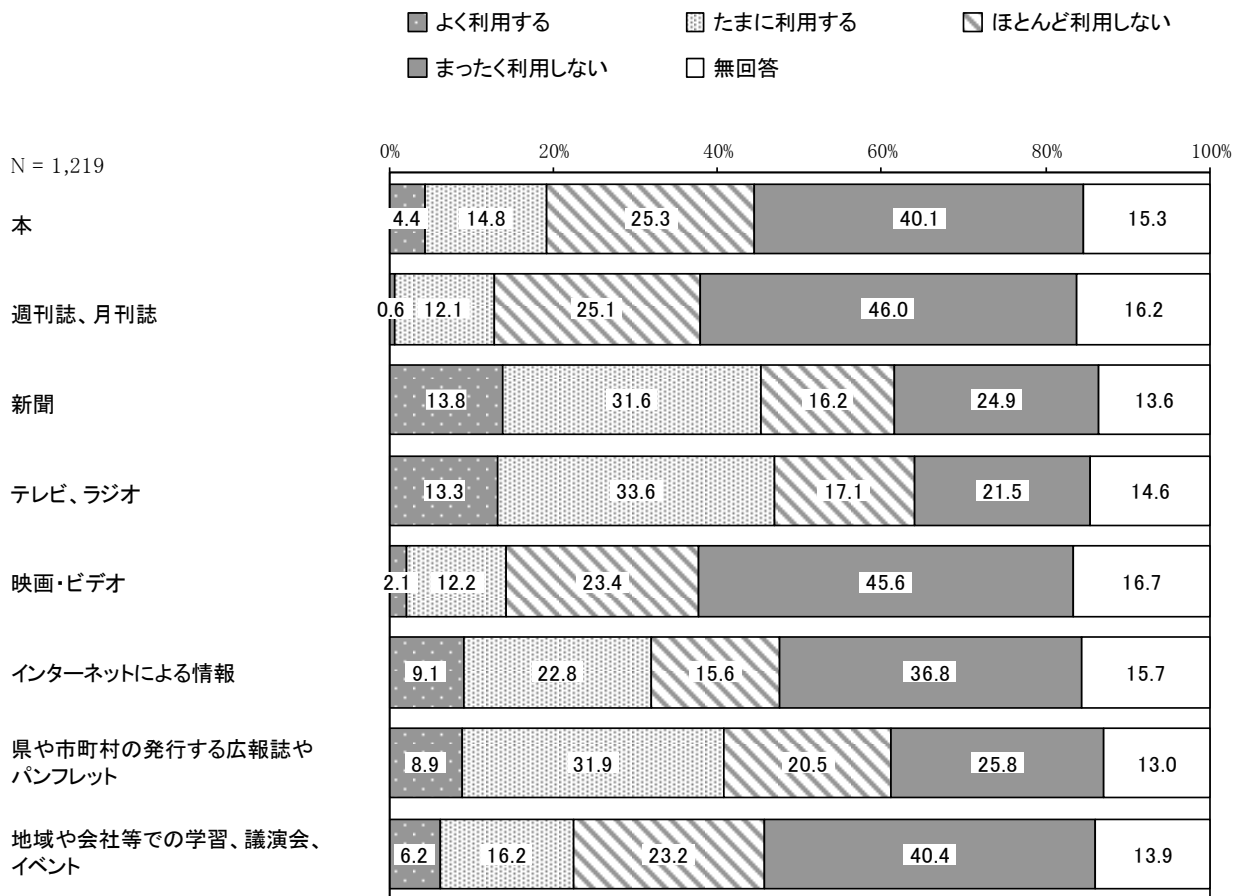
「テレビ」の割合が62.0%と最も高く、次いで「市・県等のHP・広報紙」の割合が35.8%、「ポスター・ステッカー」の割合が34.7%となっています。

平成16年度調査と比較すると、「テレビ」の割合が増加し、「新聞」「市・県等のHP・広報紙」「映画」「啓発塔・横断幕・懸垂幕」「ポスター・ステッカー」の割合が減少しています。



※参考

【奈良県調査】



### 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「新聞」「啓発塔・横断幕・懸垂幕」の割合が高くなっています。また、女性で「市・県等のHP・広報紙」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	テレビ	ラジオ	新聞	市・県等のHP・広報紙	映画	インターネット	書籍や週刊誌等の雑誌	啓発塔・横断幕・懸垂幕	ポスター・ステッカー	その他 具体的に	いずれも見聞きしたことがない	無回答
男性	519	61.5	9.1	35.3	32.9	6.7	18.1	11.2	20.2	32.9	1.9	10.2	1.7
女性	765	62.2	4.6	28.9	38.0	9.9	14.9	14.2	14.1	35.6	1.4	5.9	3.3
選択しない	25	60.0	4.0	28.0	20.0	8.0	16.0	16.0	20.0	44.0	—	12.0	8.0

### 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「新聞」の割合が高く、20歳以上で年齢が下がるにつれ「インターネット」の割合が高くなっています。また、他に比べ、50歳以上で「市・県等のHP・広報紙」の割合が高く、約4割となっています。

単位：％

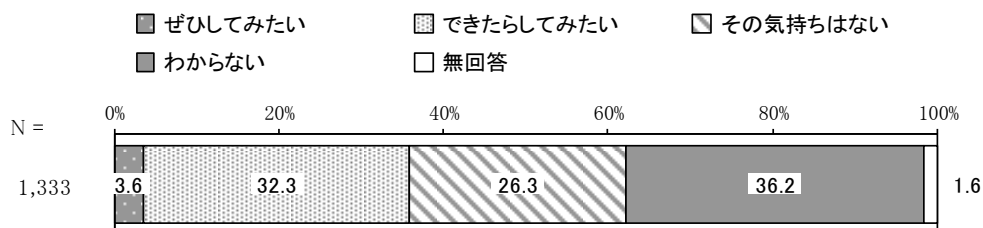
区分	有効回答数(件)	テレビ	ラジオ	新聞	市・県等のHP・広報紙	映画	インターネット	書籍や週刊誌等の雑誌	啓発塔・横断幕・懸垂幕	ポスター・ステッカー	その他 具体的に	いずれも見聞きしたことがない	無回答
16～19歳	46	41.3	—	10.9	10.9	10.9	17.4	10.9	15.2	43.5	4.3	13.0	2.2
20～29歳	88	60.2	4.5	15.9	15.9	15.9	37.5	6.8	10.2	33.0	1.1	14.8	1.1
30～39歳	174	64.4	6.3	20.1	30.5	6.9	31.0	12.1	14.4	39.7	1.1	10.9	0.6
40～49歳	263	62.7	3.4	24.0	36.1	3.8	14.4	9.5	16.0	40.7	1.9	9.1	3.0
50～59歳	248	61.7	5.2	30.6	40.7	9.3	17.7	14.9	19.4	38.3	2.0	4.8	2.4
60～69歳	314	63.4	8.0	41.7	39.8	10.5	7.6	15.9	19.4	28.0	1.6	5.7	2.9
70歳以上	171	61.4	10.5	49.7	42.1	8.2	5.3	14.6	13.5	25.7	0.6	5.3	5.8

## (8) 人権問題に関する読書や学習の意向

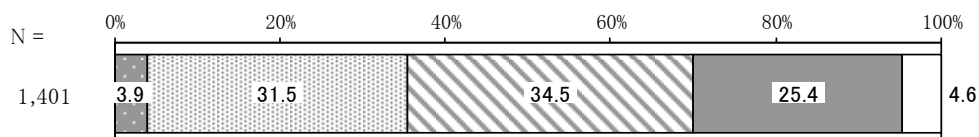
問 20 あなたは、人権問題の理解を深めるために、今後読書や学習（講演会や研修会の参加を含む）をしてみたいと思いますか。（1つに○）

「わからない」の割合が36.2%と最も高く、次いで「できたらしてみたい」の割合が32.3%、「その気持ちはない」の割合が26.3%となっています。

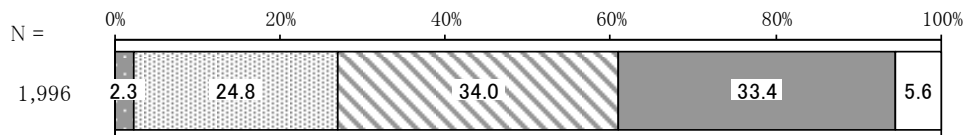
平成16年度調査、平成25年度調査と比較すると、「その気持ちはない」の割合が減少しています。また、平成16年度調査と比較すると、「できたらしてみたい」の割合が増加しています。



### 【平成25年度調査】

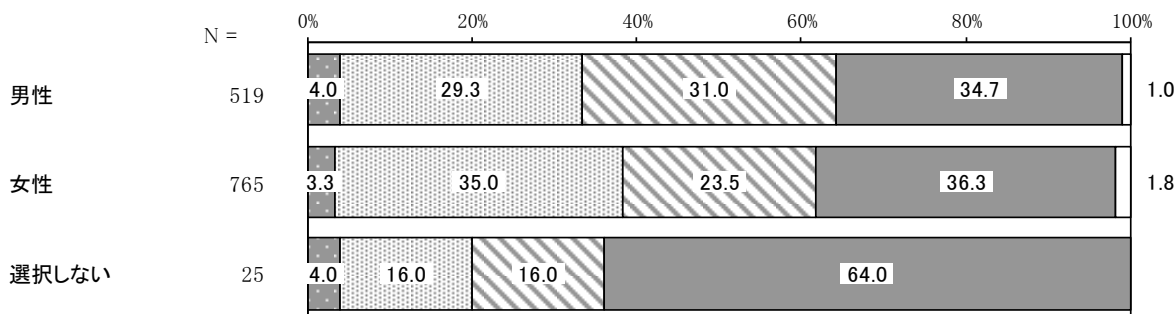


### 【平成16年度調査】



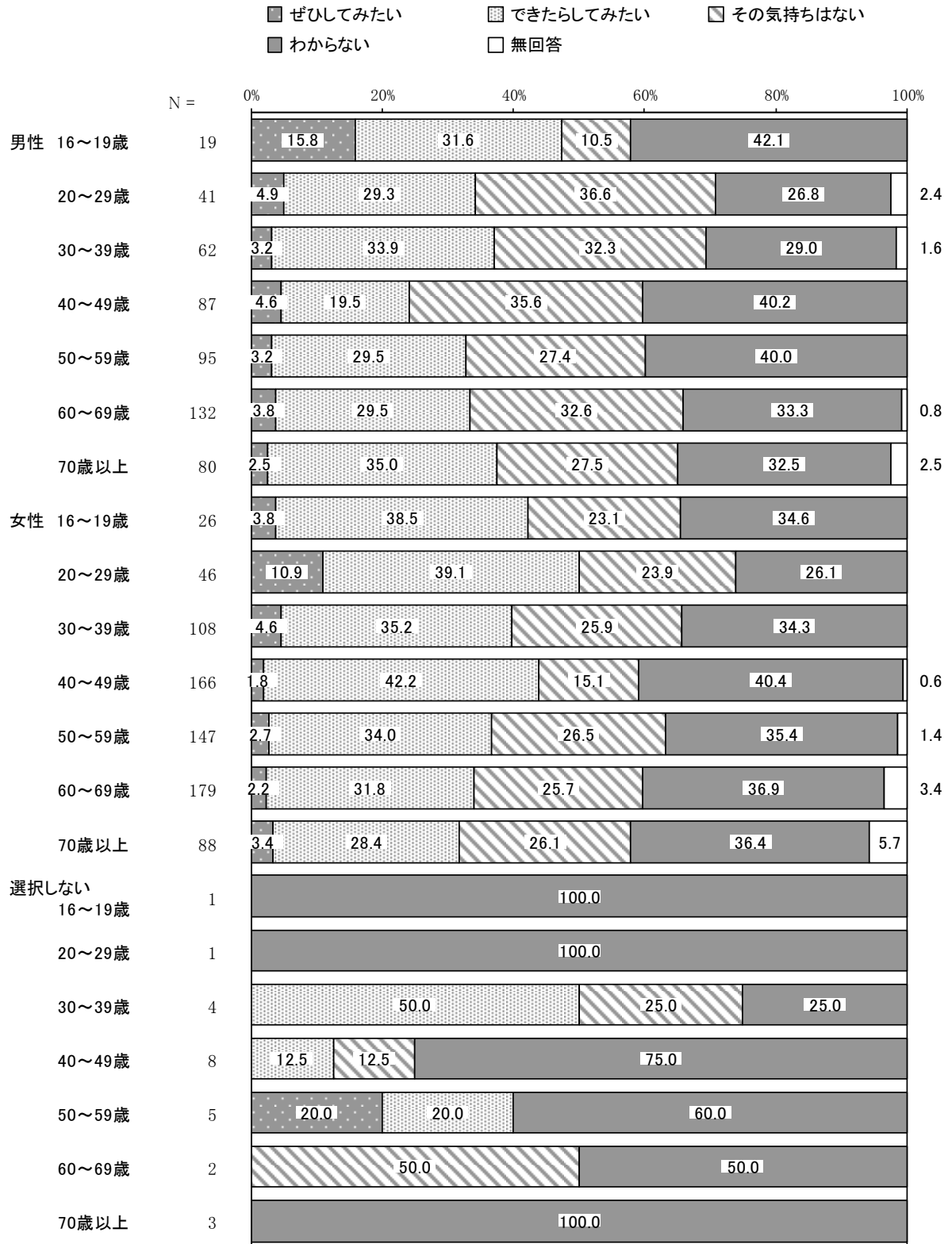
### 【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「その気持ちはない」の割合が高くなっています。また、女性で「できたらしてみたい」の割合が高くなっています。



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、男性の20～49歳で「その気持ちはない」の割合が高く、3割を超えています。また、男性の16～19歳で「ぜひしてみたい」の割合が高くなっています。



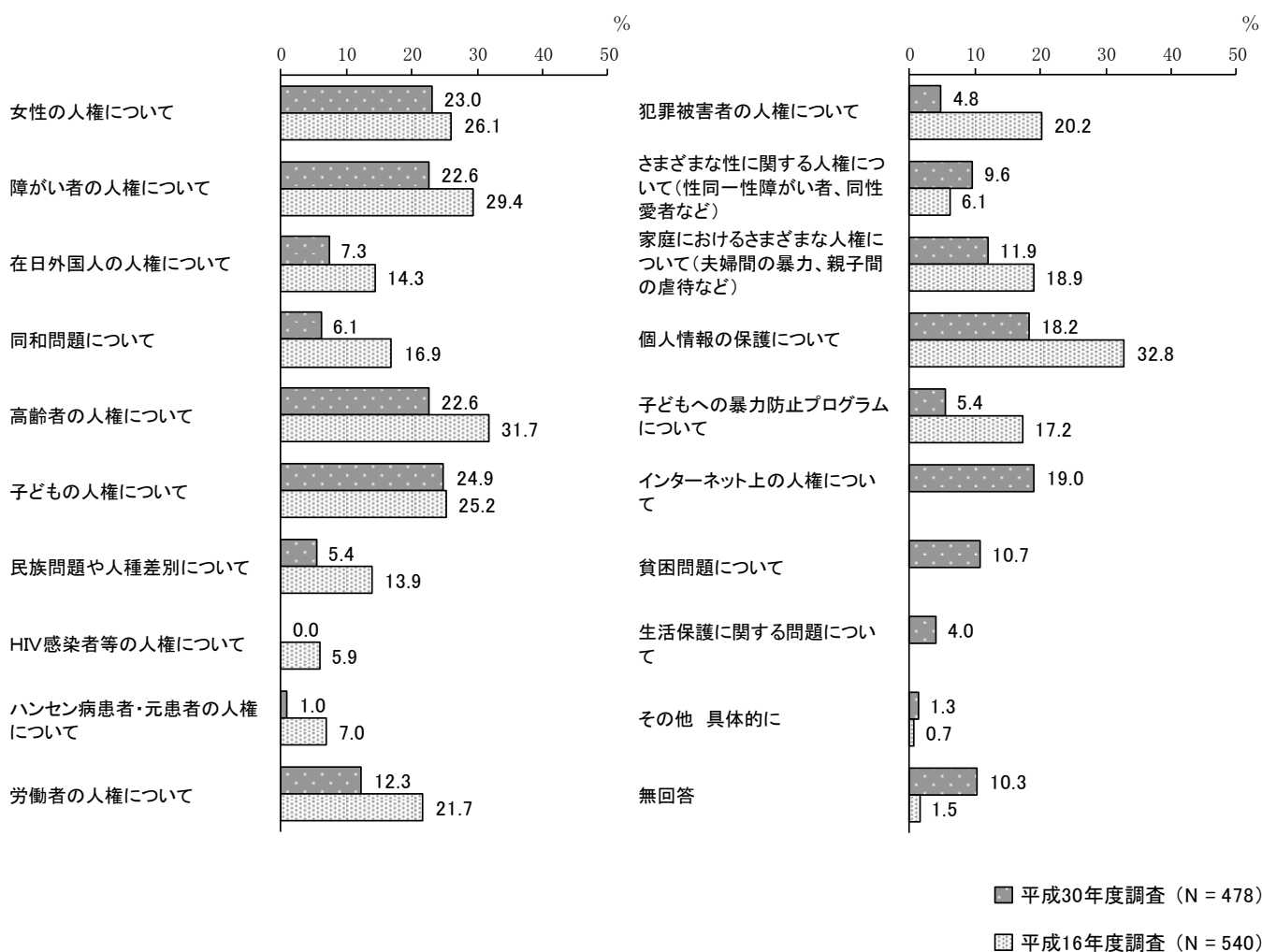
## (9) 特に理解を深めたい人権問題

問20で「1 ぜひしてみたい」または「2 できたらしてみたい」と答えた方におうかがいします。

### 問 21－(1) 特に理解を深めたいと思う問題はなんですか。(○は3つまで)

「子どもの人権について」の割合が24.9%と最も高く、次いで「女性の人権について」の割合が23.0%、「障がい者の人権について」「高齢者の人権について」の割合が22.6%となっています。

平成16年度調査と比較すると、「障がい者の人権について」「在日外国人の人権について」「同和問題について」「高齢者の人権について」「民族問題や人種差別について」「HIV感染者等の人権について」「ハンセン病患者・元患者の人権について」「労働者の人権について」「犯罪被害者の人権について」「家庭におけるさまざまな人権について(夫婦間の暴力、親子間の虐待など)」「個人情報の保護について」「子どもへの暴力防止プログラムについて」の割合が減少しています。



## ※参考

### 【奈良県調査】

具体的なご意見をいただいた方（特になし等は除く）は249名、性別の割合は男性38.5%、女性52.2%、回答しない0.8%、無回答が7.2%であった。年齢別での割合は18～19歳0.8%、20～24歳3.2%、25～29歳2.4%、30～34歳4.8%、35～39歳7.6%、40～44歳8.4%、45～49歳6.8%、50～54歳6.8%、55～59歳6.4%、60～64歳6.4%、65～69歳10.8%、70歳以上27.7%、無回答6.4%となっている。

主なご意見としては、249名の方から計296件いただいた。

分野別の代表的な意見として「同和問題」では、『同和地区の優遇・逆差別についての意見』が11件、『同和地区出身者の就職・結婚差別についての意見』が6件、「女性」では、『職場での男女差別・女性の活躍の場についての意見』が7件、『社会の男女差別・女性の権利についての意見』が3件、「子ども」では、『子どもの人権問題（虐待・貧困等）に関する意見』が8件、『子どもの学校における人権、学習の機会についての意見』が2件、「高齢者」では、『高齢者問題・認知症・介護についての意見』が13件、『高齢者の就労の機会についての意見』が1件、「障害者」では、『障害者と共生できる・差別や偏見のない社会の実現、理解の促進に関する意見』が14件、『障害者の雇用問題・就労の場の確保についての意見』が7件、「外国人」では、『外国人と共生できる社会の実現、外国人への配慮についての意見』が5件、「犯罪被害者等」では、『犯罪被害者の人権保護についての意見』が4件、「LGBT」では、『性的マイノリティに対する差別についての意見』が4件などがあつた。

【性別】

性別で見ると、他に比べ、男性で「障がい者の人権について」「インターネット上の人権について」の割合が高くなっています。また、女性で「女性の人権について」「子どもの人権について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
男性	173	13.3	24.3	8.1	9.2	22.5	17.3	7.5	—	1.2	14.5
女性	293	28.0	22.2	7.2	4.4	22.5	28.7	4.4	—	1.0	11.3
選択しない	5	40.0	—	—	—	—	20.0	—	—	—	—

区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について（性同一性障がい者、同性愛者など）	家庭におけるさまざまな人権について（夫婦間の暴力、親子間の虐待など）	個人情報の保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
男性	6.4	10.4	13.3	20.2	5.8	22.5	9.8	5.8	1.2	8.7
女性	3.8	9.2	11.3	17.1	5.1	17.1	11.6	3.1	1.4	10.6
選択しない	—	20.0	—	20.0	—	20.0	—	—	—	40.0



【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、他に比べ、女性の30～49歳で「子どもの人権について」の割合が高く、特に40～49歳で4割台半ばとなっています。また、男性の50～59歳で「労働者の人権について」の割合が高く、約4割となっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
男性 16～19歳	9	22.2	44.4	22.2	22.2	11.1	11.1	—	—	—	—
20～29歳	14	14.3	14.3	—	7.1	7.1	21.4	7.1	—	—	21.4
30～39歳	23	17.4	8.7	17.4	4.3	13.0	39.1	8.7	—	—	17.4
40～49歳	21	9.5	23.8	4.8	4.8	19.0	38.1	9.5	—	4.8	—
50～59歳	31	19.4	25.8	6.5	6.5	12.9	6.5	6.5	—	—	38.7
60～69歳	44	9.1	31.8	9.1	18.2	29.5	9.1	11.4	—	2.3	6.8
70歳以上	30	6.7	23.3	3.3	3.3	43.3	6.7	3.3	—	—	10.0
女性 16～19歳	11	18.2	18.2	27.3	—	9.1	18.2	—	—	—	—
20～29歳	23	30.4	30.4	13.0	17.4	4.3	26.1	4.3	—	—	21.7
30～39歳	43	32.6	11.6	14.0	7.0	14.0	41.9	4.7	—	—	7.0
40～49歳	73	23.3	23.3	5.5	6.8	16.4	45.2	1.4	—	—	13.7
50～59歳	54	31.5	24.1	3.7	—	16.7	22.2	1.9	—	—	16.7
60～69歳	61	31.1	26.2	1.6	1.6	34.4	18.0	9.8	—	1.6	8.2
70歳以上	28	21.4	17.9	7.1	—	57.1	7.1	7.1	—	7.1	3.6
選択しない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
16～19歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39歳	2	50.0	—	—	—	—	50.0	—	—	—	—
40～49歳	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
50～59歳	2	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
60～69歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

【性・年齢別（つづき）】

単位：％

区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について（性同一性障がい者、同性愛者など）	家庭におけるさまざまな人権について（夫婦間の暴力、親子間の虐待など）	個人情報保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
男性 16～19 歳	—	33.3	—	11.1	—	33.3	—	—	—	11.1
20～29 歳	14.3	35.7	7.1	14.3	7.1	21.4	—	—	—	7.1
30～39 歳	8.7	8.7	21.7	—	8.7	21.7	21.7	—	4.3	4.3
40～49 歳	19.0	4.8	9.5	19.0	9.5	23.8	—	9.5	4.8	9.5
50～59 歳	3.2	6.5	9.7	29.0	3.2	32.3	16.1	3.2	—	3.2
60～69 歳	2.3	6.8	18.2	22.7	2.3	18.2	4.5	6.8	—	11.4
70 歳以上	3.3	6.7	13.3	30.0	10.0	16.7	13.3	13.3	—	13.3
女性 16～19 歳	9.1	18.2	—	9.1	9.1	—	18.2	—	—	18.2
20～29 歳	8.7	13.0	13.0	13.0	—	17.4	13.0	—	—	8.7
30～39 歳	4.7	9.3	4.7	9.3	11.6	4.7	11.6	9.3	—	11.6
40～49 歳	2.7	8.2	9.6	15.1	1.4	19.2	13.7	—	1.4	12.3
50～59 歳	1.9	13.0	9.3	22.2	9.3	25.9	11.1	3.7	1.9	11.1
60～69 歳	1.6	8.2	13.1	18.0	1.6	18.0	8.2	3.3	3.3	9.8
70 歳以上	7.1	—	28.6	28.6	7.1	17.9	10.7	3.6	—	3.6
選択しない 16～19 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20～29 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30～39 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0
40～49 歳	—	—	—	100.0	—	100.0	—	—	—	—
50～59 歳	—	50.0	—	—	—	—	—	—	—	50.0
60～69 歳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70 歳以上	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

## 【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、親と子ども、孫からなる世帯で「障がい者の人権について」「在日外国人の人権について」の割合が高くなっています。また、夫婦と子どもからなる世帯で「子どもの人権について」の割合が、ひとり親と子どもからなる世帯で「労働者の人権について」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	女性の人権について	障がい者の人権について	在日外国人の人権について	同和問題について	高齢者の人権について	子どもの人権について	民族問題や人種差別について	HIV感染者等の人権について	ハンセン病患者・元患者の人権について	労働者の人権について
ひとり暮らし世帯	30	26.7	23.3	—	6.7	20.0	23.3	10.0	—	3.3	10.0
夫婦だけの世帯	128	18.8	20.3	9.4	6.3	28.1	15.6	10.2	—	2.3	13.3
夫婦と子どもからなる世帯	241	25.3	22.0	5.4	6.2	20.7	30.7	2.5	—	—	10.8
親と子ども、孫からなる世帯	33	21.2	39.4	21.2	6.1	24.2	24.2	9.1	—	—	6.1
ひとり親と子どもからなる世帯	24	12.5	16.7	8.3	8.3	8.3	20.8	4.2	—	4.2	33.3
その他	17	17.6	17.6	5.9	—	29.4	11.8	—	—	—	17.6

区分	犯罪被害者の人権について	さまざまな性に関する人権について(性同一性障がい者、同性愛者など)	家庭におけるさまざまな人権について(夫婦間の暴力、親子間の虐待など)	個人情報の保護について	子どもへの暴力防止プログラムについて	インターネット上の人権について	貧困問題について	生活保護に関する問題について	その他 具体的に	無回答
ひとり暮らし世帯	10.0	6.7	16.7	20.0	3.3	16.7	16.7	10.0	3.3	13.3
夫婦だけの世帯	3.9	7.8	17.2	25.8	6.3	18.8	10.9	4.7	0.8	6.3
夫婦と子どもからなる世帯	5.0	10.4	8.7	14.1	6.2	19.9	8.7	2.1	1.2	11.6
親と子ども、孫からなる世帯	3.0	15.2	9.1	15.2	—	9.1	12.1	9.1	—	12.1
ひとり親と子どもからなる世帯	8.3	4.2	12.5	16.7	—	29.2	20.8	8.3	—	12.5
その他	—	17.6	11.8	17.6	5.9	17.6	11.8	—	5.9	11.8

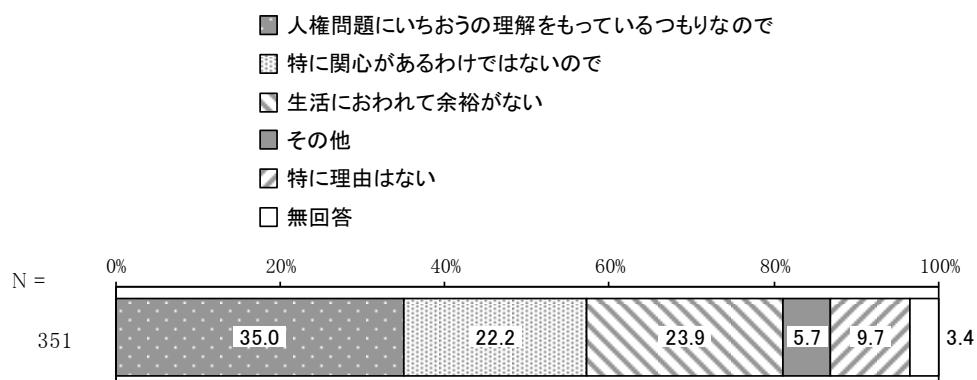
## (10) 意向がない人の理由

問 20 で「3 その気持ちはない」と答えた方におうかがいします。

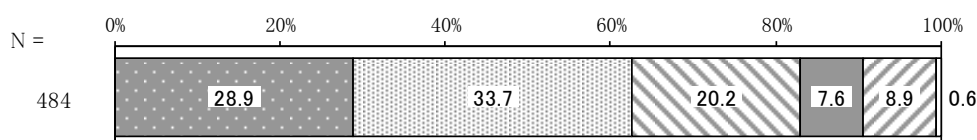
### 問 21－(2) それはなぜですか。(1つに○)

「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」の割合が 35.0%と最も高く、次いで「生活におわれて余裕がない」の割合が 23.9%、「特に関心があるわけではないので」の割合が 22.2%となっています。

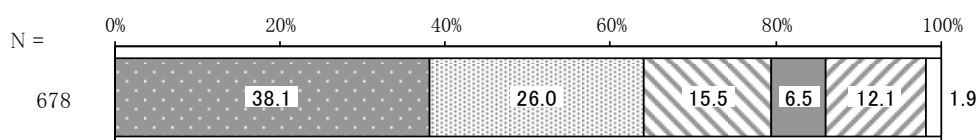
平成 25 年度調査と比較すると、「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」の割合が増加し、「特に関心があるわけではないので」の割合が減少しています。また、平成 16 年度調査と比較すると、「生活におわれて余裕がない」の割合が増加しています。



#### 【平成 25 年度調査】

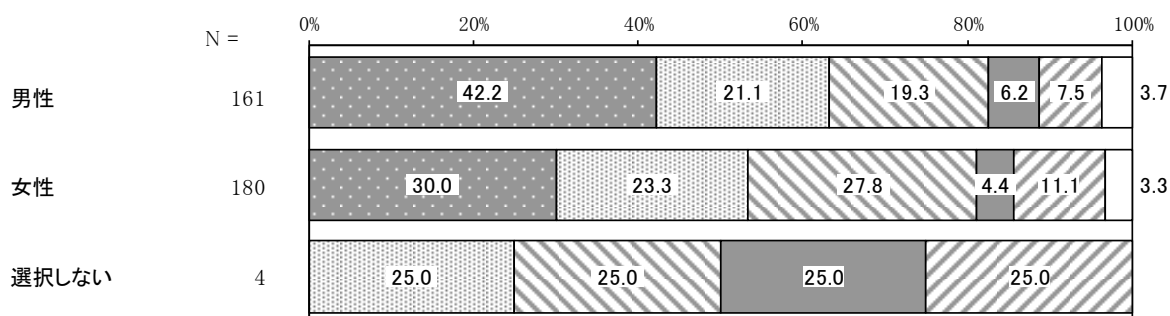


#### 【平成 16 年度調査】



#### 【性別】

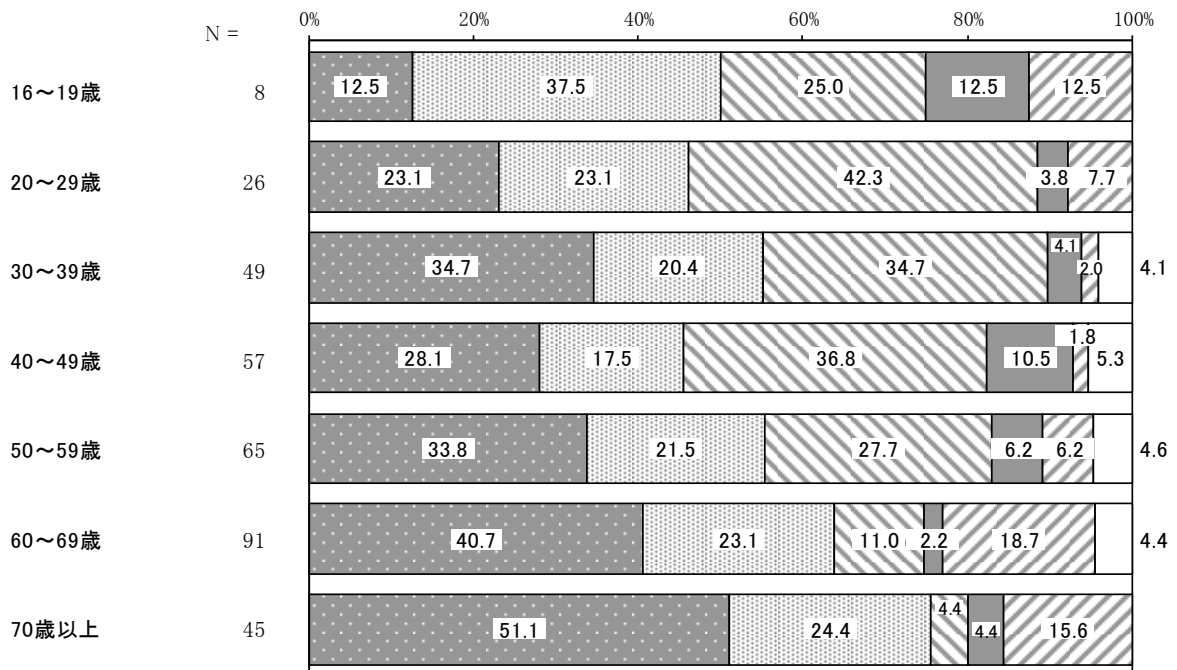
性別でみると、他に比べ、男性で「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」の割合が高くなっています。また、女性で「生活におわれて余裕がない」の割合が高くなっています。



**【年齢別】**

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「生活におわれて余裕がない」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、70歳以上で「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」の割合が高く、約5割となっています。

- 人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので
- ▨ 特に関心があるわけではないので
- ▩ 生活におわれて余裕がない
- その他
- ▨ 特に理由はない
- 無回答

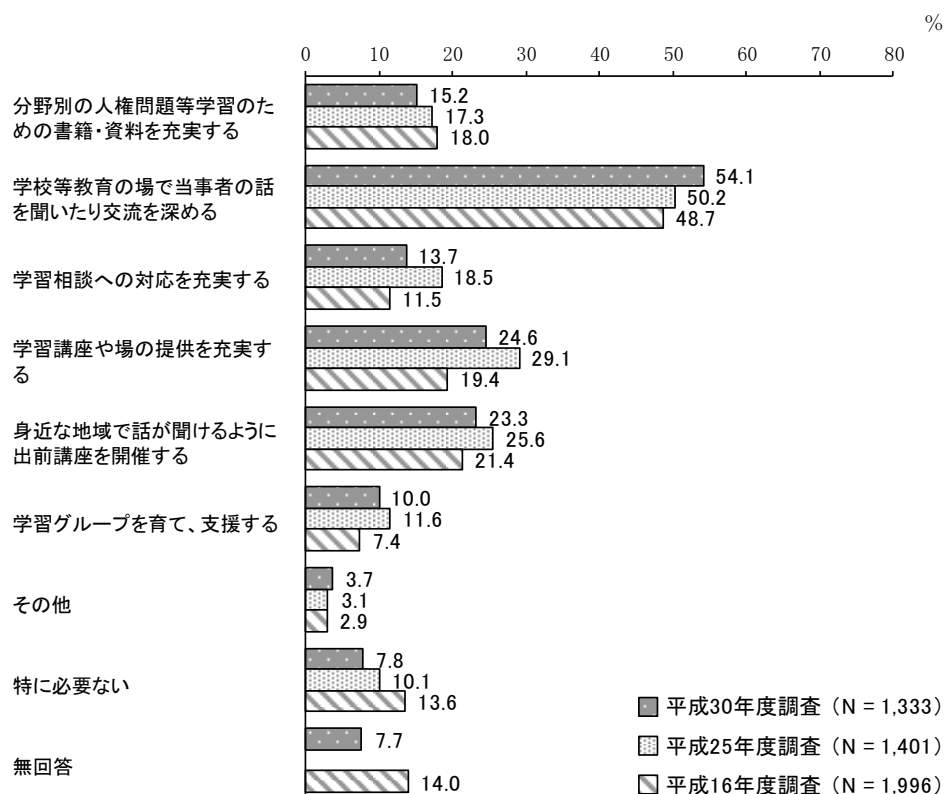


## (11) 人権学習を深めるための支援

問 22 人権学習を深めるための支援としては特にどのようなことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

「学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」の割合が 54.1%と最も高く、次いで「学習講座や場の提供を充実する」の割合が 24.6%、「身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する」の割合が 23.3%となっています。

平成 25 年度調査と比較すると、「学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」の割合が 3.9 ポイント増加しています。また、平成 16 年度調査と比較すると、「学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」「学習講座や場の提供を充実する」の割合が増加し、「特に必要ない」の割合が減少しています。



## ※参考

### 【奈良県調査】

具体的なご意見をいただいた方（特になし等は除く）は219名、性別の割合は男性42.4%、女性48.8%、回答しない1.3%、無回答が7.3%であった。年齢別での割合は18～19歳1.3%、20～24歳1.8%、25～29歳3.6%、30～34歳4.5%、35～39歳6.3%、40～44歳8.6%、45～49歳7.3%、50～54歳7.3%、55～59歳6.8%、60～64歳7.3%、65～69歳12.3%、70歳以上25.5%、無回答6.8%となっている。

主なご意見としては、219名の方から計234件いただいた。

代表的な意見として、

- ・まずは、行政に関わるものが人権問題について理解を深めることが必要である。
- ・相談窓口を充実させてほしい。
- ・人権・差別教育について市町村での取組方を統一してほしい。
- ・人権問題についてきちんとした調査研究が必要。単なる啓発では問題が上滑りする。
- ・人権問題や障害問題の研修や学習会は行政が積極的に行うべきである。
- ・教育・啓蒙による意識の向上と、法整備による人権保護が両輪だと思う。
- ・部落差別は過去のものとなっているのではないか。
- ・学校での人権教育、小さい頃の人権教育が大事である。
- ・子育てママが働きやすいようにしてほしい。
- ・子どもの権利がもっと守られるべき。
- ・高齢者が暮らしやすい社会になるために介護教育を実技演習を含め、中学生くらいから行った方がよい。
- ・障害者に対する理解促進に取り組んでほしい。障害者スポーツに対しても、行政がもっと広く理解し選手育成などにも力を入れて取り組んでほしい。
- ・同性婚を認めるべきである。

などがあった。

【性別】

性別でみると、他に比べ、男性で「分野別の人権問題等学習のための書籍・資料を充実する」「学習講座や場の提供を充実する」の割合が高くなっています。また、女性で「学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」「身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	分野別の人権問題等学習のための書籍・資料を充実する	学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める	学習相談への対応を充実する	学習講座や場の提供を充実する	身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する	学習グループを育て、支援する	その他	特に必要ない	無回答
男性	519	18.5	50.1	12.1	25.2	20.2	9.4	5.2	9.6	7.3
女性	765	13.1	57.3	14.5	24.4	25.4	10.1	2.7	6.5	7.5
選択しない	25	8.0	44.0	20.0	16.0	24.0	20.0	—	12.0	12.0



【年齢別】

年齢別でみると、20歳以上で年齢が下がるにつれ「学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」の割合が高くなっており、20～29歳で約7割となっています。また、他に比べ、70歳以上で「身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する」の割合が高く、約3割となっています。

単位：%

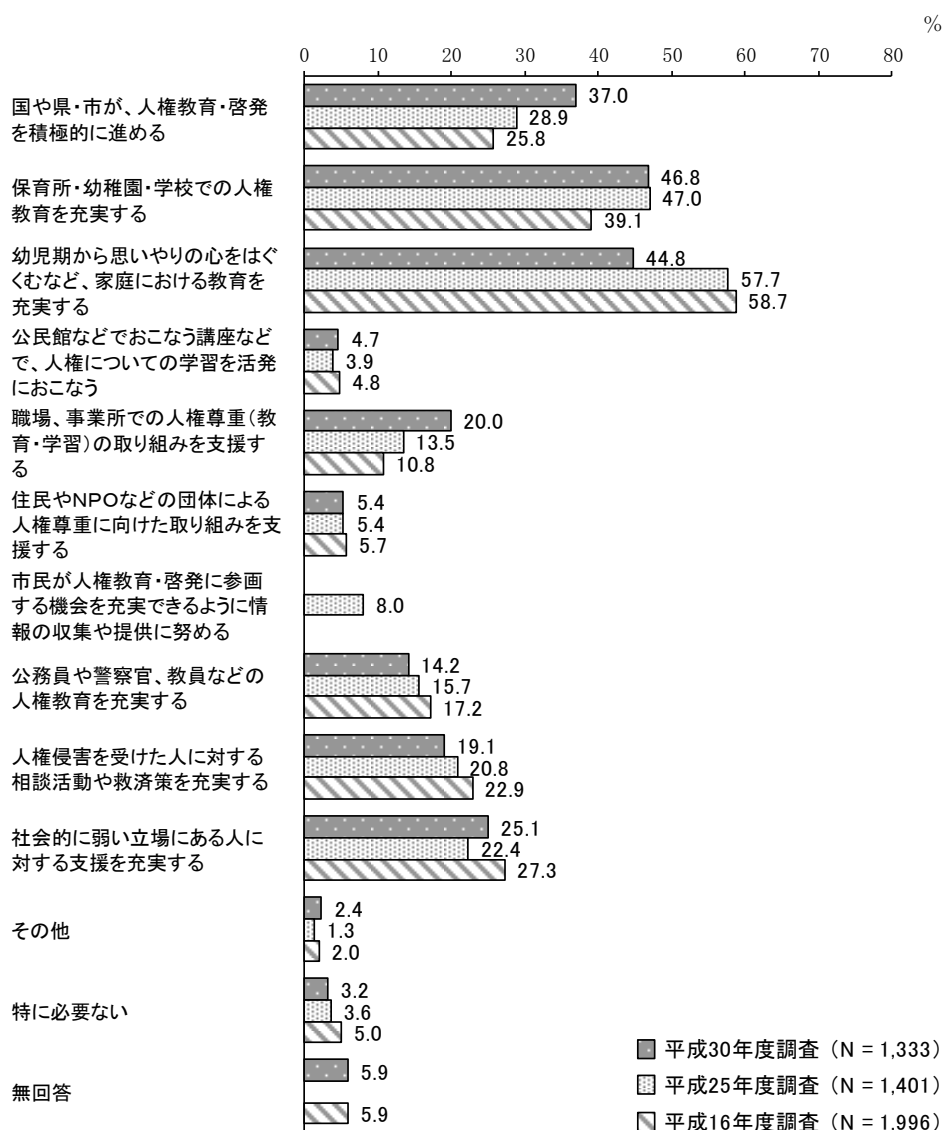
区分	有効回答数(件)	分野別の人権問題等学習のための書籍・資料を充実する	学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める	学習相談への対応を充実する	学習講座や場の提供を充実する	身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する	学習グループを育て、支援する	その他	特に必要ない	無回答
16～19歳	46	10.9	47.8	13.0	21.7	19.6	4.3	4.3	2.2	6.5
20～29歳	88	12.5	68.2	14.8	26.1	13.6	11.4	5.7	8.0	3.4
30～39歳	174	14.9	59.2	11.5	29.9	20.1	6.3	4.6	6.9	3.4
40～49歳	263	13.3	58.2	15.6	27.4	17.5	10.3	3.8	8.0	6.8
50～59歳	248	16.9	56.0	14.5	27.4	26.6	9.3	5.2	4.4	4.0
60～69歳	314	16.9	49.4	13.7	20.7	25.8	13.4	2.2	10.2	8.6
70歳以上	171	13.5	45.6	12.3	19.3	31.6	9.4	1.8	10.5	16.4

## (12) 人権が尊重される社会実現のための取り組み

問 23 あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、今後特にどのようなことに取り組んでいくことが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」の割合が46.8%と最も高く、次いで「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」の割合が44.8%、「国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める」の割合が37.0%となっています。

平成16年度調査、平成25年度調査と比較すると、「国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める」「職場、事業所での人権尊重(教育・学習)の取り組みを支援する」の割合が増加し、「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」の割合が減少しています。



【性別】

性別で見ると、他に比べ、女性で「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める	保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する	幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する	公民館などでおこなう講座などで、人権についての学習を活発におこなう	職場、事業所での人権尊重(教育・学習)の取り組みを支援する	住民やNPOなどの団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
男性	519	37.8	43.5	39.1	4.6	22.7	4.0
女性	765	36.5	49.4	49.4	4.7	18.0	6.1
選択しない	25	32.0	36.0	36.0	—	12.0	4.0

区分	公務員や警察官、教員などの人権教育を充実する	人権侵害を受けた人に対する相談活動や救済策を充実する	社会的に弱い立場にある人に対する支援を充実する	その他	特に必要ない	無回答
男性	17.0	18.3	24.5	3.9	3.9	5.6
女性	12.3	19.6	25.5	1.4	2.6	5.6
選択しない	16.0	24.0	20.0	4.0	12.0	12.0

【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、30～49歳で「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、30～39歳で「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」の割合が高く、約5割となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める	保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する	幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する	公民館などでおこなう講座などで、人権についての学習を活発におこなう	職場、事業所での人権尊重(教育・学習)の取り組みを支援する	住民やNPOなどの団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
16～19歳	46	37.0	41.3	34.8	—	13.0	2.2
20～29歳	88	35.2	51.1	37.5	2.3	33.0	6.8
30～39歳	174	36.8	55.7	52.3	2.9	19.5	5.2
40～49歳	263	36.1	53.2	45.2	5.3	20.9	5.7
50～59歳	248	35.9	49.2	44.4	3.6	29.4	4.8
60～69歳	314	38.2	40.1	44.3	5.4	15.3	5.4
70歳以上	171	39.2	37.4	46.2	7.6	8.8	5.8

区分	公務員や警察官、教員などの人権教育を充実する	人権侵害を受けた人に対する相談活動や救済策を充実する	社会的に弱い立場にある人に対する支援を充実する	その他	特に必要ない	無回答
16～19歳	28.3	10.9	21.7	4.3	2.2	6.5
20～29歳	11.4	22.7	26.1	3.4	5.7	1.1
30～39歳	10.9	18.4	21.3	3.4	2.9	4.0
40～49歳	15.2	17.9	21.7	3.4	2.3	4.9
50～59歳	12.1	23.8	25.0	2.0	1.2	4.4
60～69歳	13.1	18.8	28.0	1.6	5.4	6.1
70歳以上	19.9	17.0	28.7	0.6	3.5	10.5

【世帯構成別】

世帯構成別でみると、他に比べ、夫婦と子どもからなる世帯、親と子ども、孫からなる世帯で「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」の割合が高く、約5割となっています。また、夫婦だけの世帯、夫婦と子どもからなる世帯、親と子ども、孫からなる世帯で「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」の割合が高く、4割台半ばとなっています。

単位：%

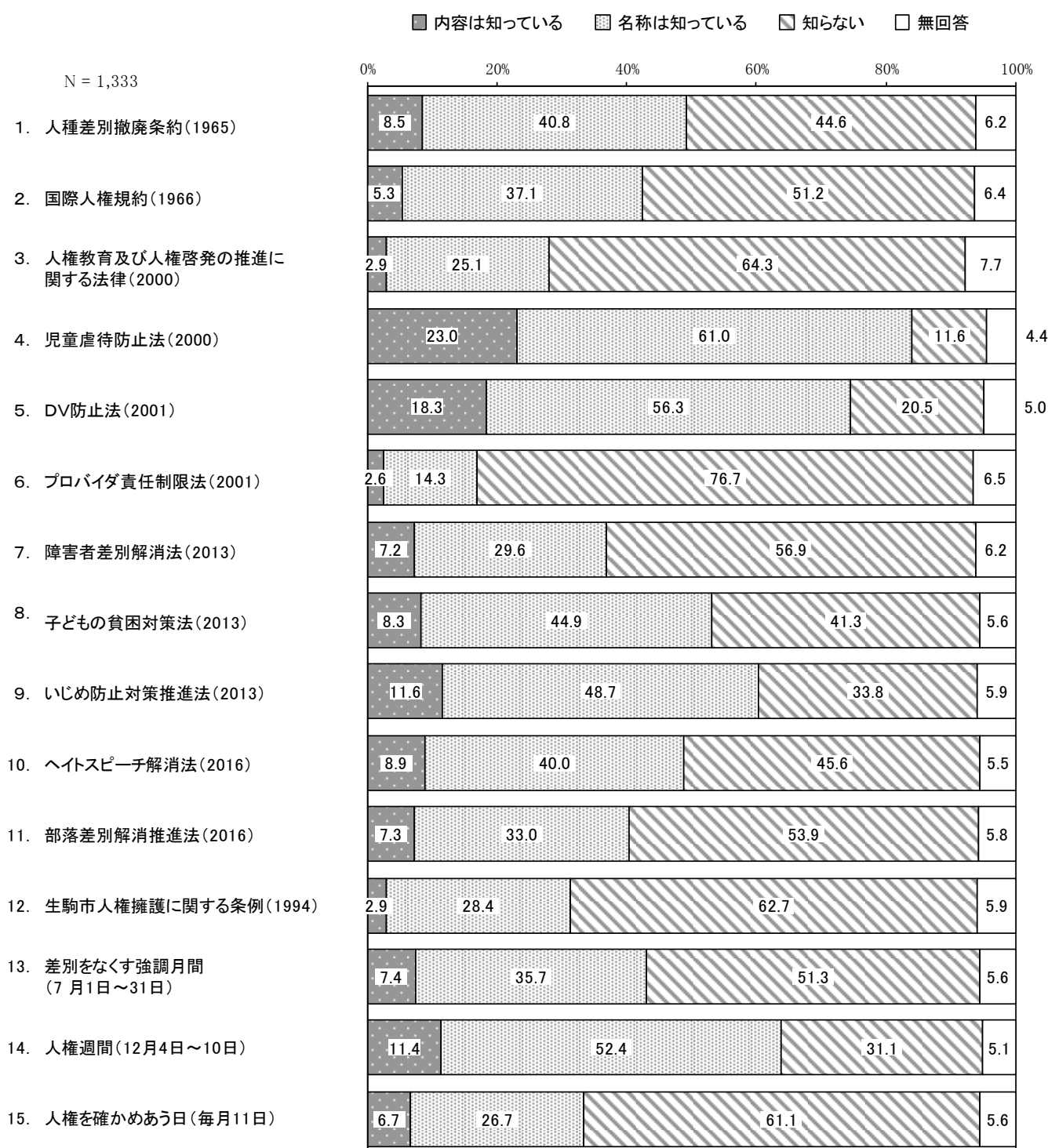
区分	有効回答数(件)	国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める	保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する	幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する	公民館などでおこなう講座などで、人権についての学習を活発におこなう	職場、事業所での人権尊重(教育・学習)の取り組みを支援する	住民やNPOなどの団体による人権尊重に向けた取り組みを支援する
ひとり暮らし世帯	85	42.4	36.5	35.3	10.6	14.1	4.7
夫婦だけの世帯	368	35.9	44.0	47.6	4.1	16.8	5.2
夫婦と子どもからなる世帯	636	36.9	50.3	46.2	4.1	22.0	5.7
親と子ども、孫からなる世帯	97	37.1	48.5	47.4	3.1	18.6	3.1
ひとり親と子どもからなる世帯	60	40.0	45.0	36.7	8.3	30.0	6.7
その他	58	34.5	46.6	36.2	1.7	15.5	5.2

区分	公務員や警察官、教員などの人権教育を充実する	人権侵害を受けた人に対する相談活動や救済策を充実する	社会的に弱い立場にある人に対する支援を充実する	その他	特に必要ない	無回答
ひとり暮らし世帯	16.5	15.3	23.5	3.5	8.2	11.8
夫婦だけの世帯	13.3	20.4	25.0	1.4	3.5	6.0
夫婦と子どもからなる世帯	14.3	20.3	25.3	2.4	2.2	4.4
親と子ども、孫からなる世帯	12.4	14.4	28.9	3.1	5.2	3.1
ひとり親と子どもからなる世帯	18.3	15.0	28.3	1.7	3.3	5.0
その他	15.5	19.0	13.8	8.6	3.4	12.1

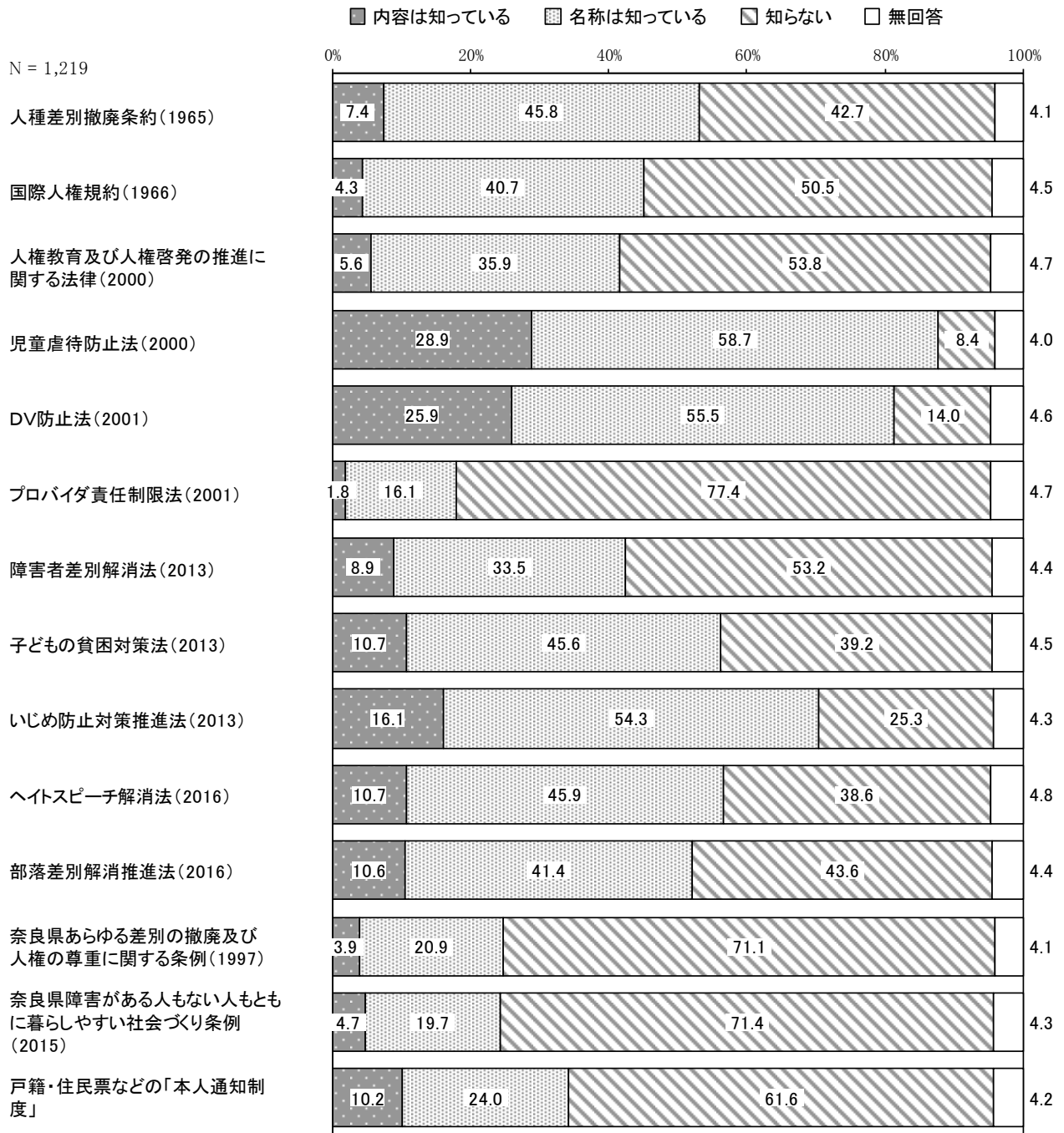
### (13) 人権に関する宣言や法律等の認知状況

問 24 あなたは、人権問題にかかわる次のような法律や条例などを知っていますか。  
1.～15.のそれぞれについて選んでください。(それぞれ1つに○)

4. 児童虐待防止法 (2000) で「内容は知っている」の割合が高く、約2割となっています。一方、6. プロバイダ責任制限法 (2001) で「知らない」の割合が高く、7割台半ばとなっています。奈良県調査と比較すると、4. 児童虐待防止法 (2000)、で「内容は知っている」の割合が低くなっています。また、3. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律 (2000)、5. DV防止法 (2001)、9. いじめ防止対策推進法 (2013)、10. ヘイトスピーチ解消法 (2016)、11. 部落差別解消推進法 (2016) で「知らない」の割合が高くなっています。

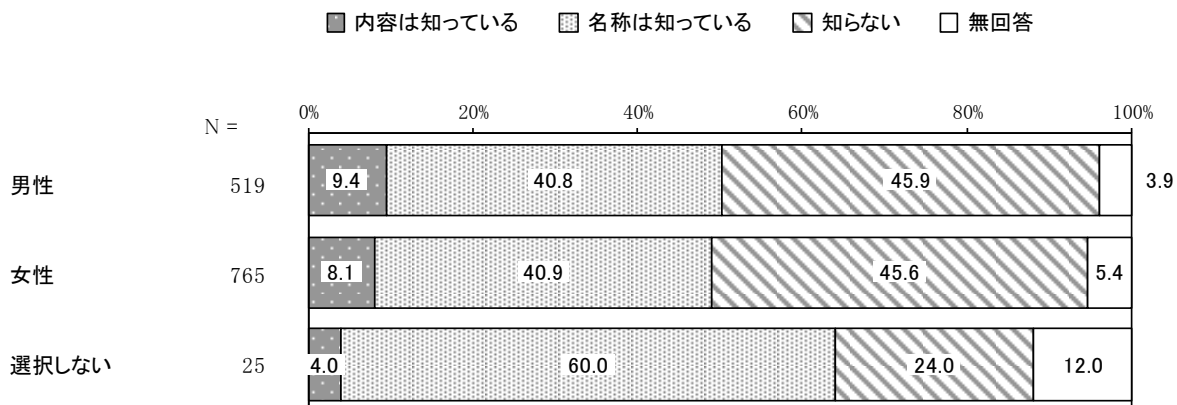


## 【奈良県調査】



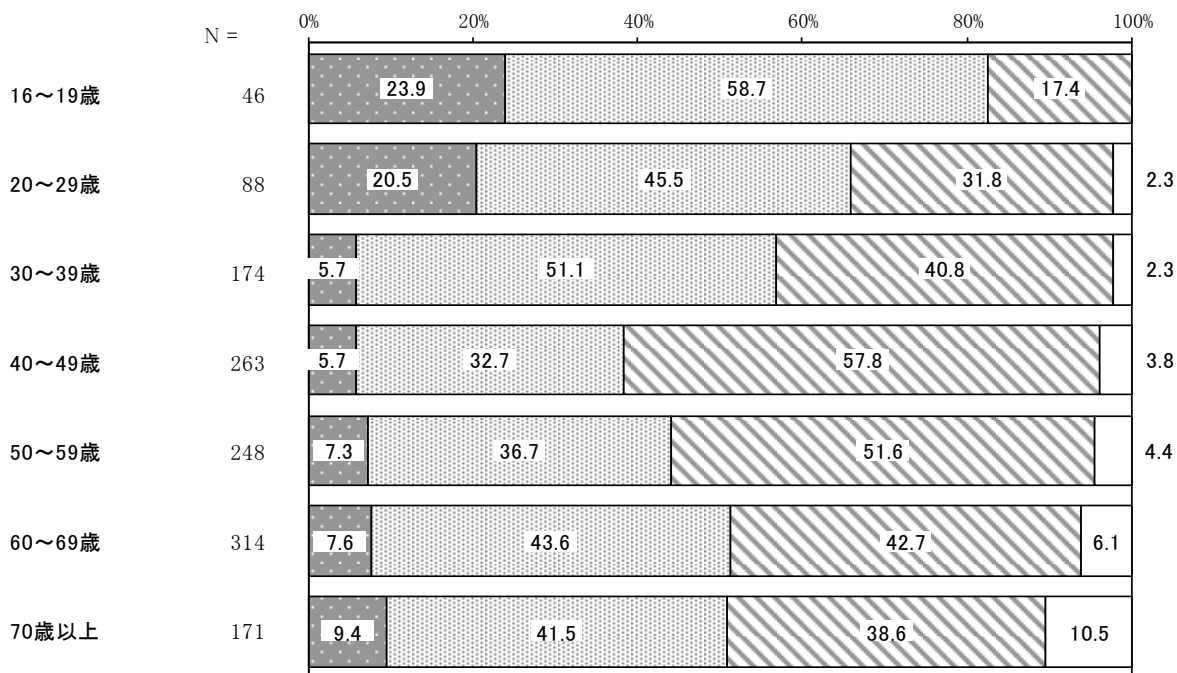
## 1. 人種差別撤廃条約（1965）

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



### 【年齢別】

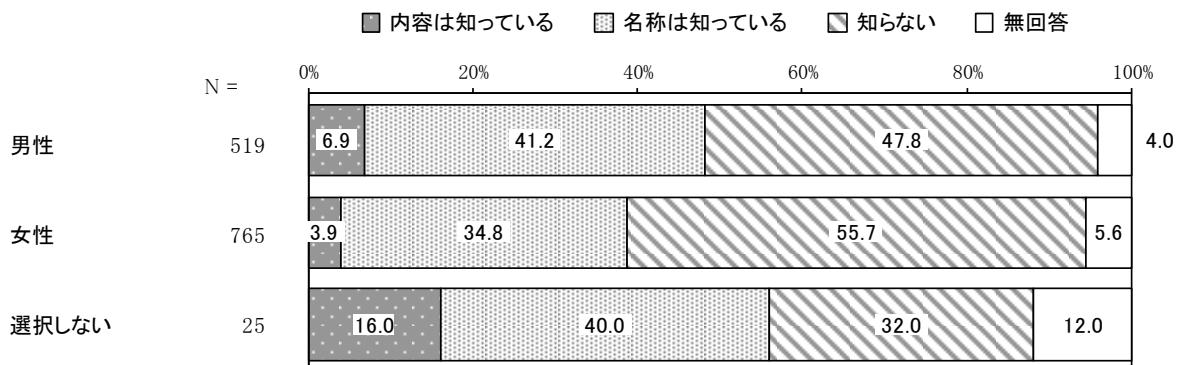
年齢別でみると、他に比べ、16～29歳で「内容は知っている」の割合が高く、約2割となっています。また、40～49歳で「知らない」の割合が高く、約6割となっています。





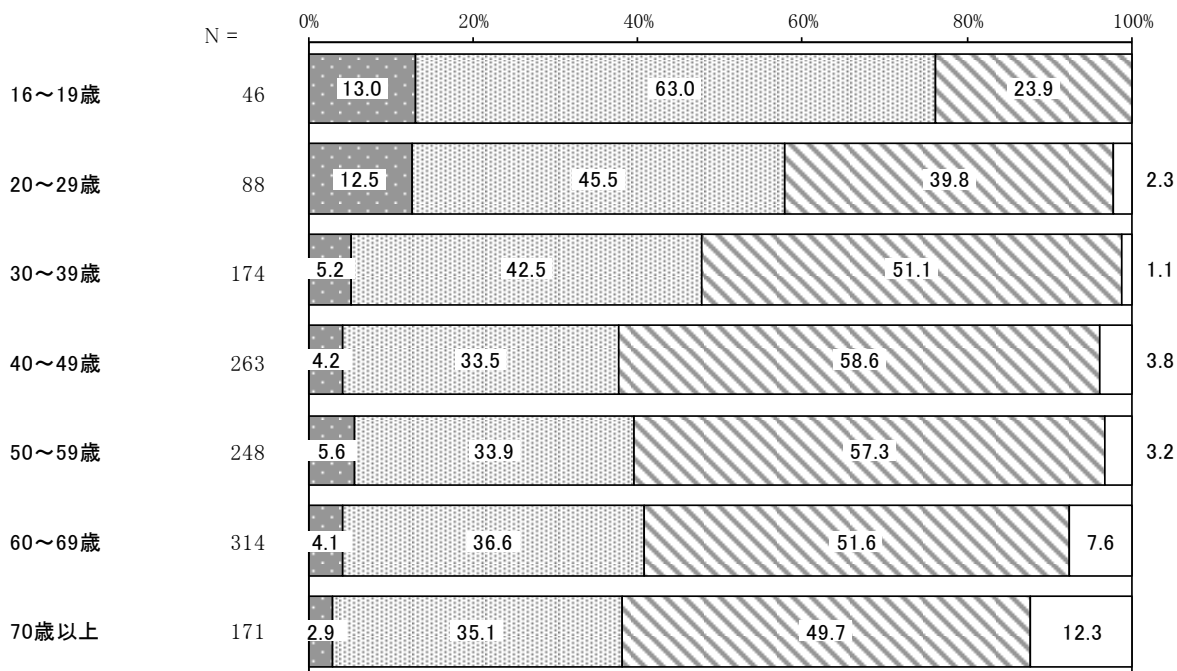
## 2. 国際人権規約（1966）

性別でみると、他に比べ、男性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。また、女性で「知らない」の割合が高くなっています。



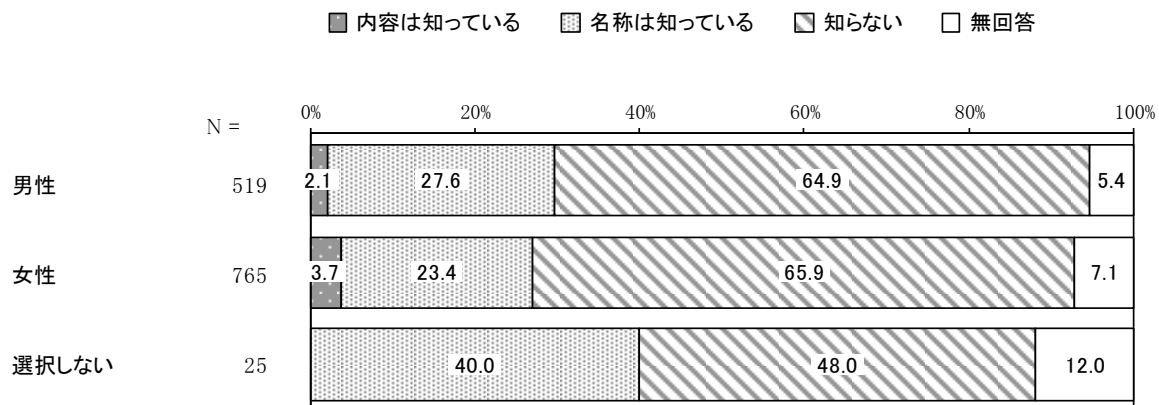
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、16～29歳で「内容は知っている」の割合が高く、約1割となっています。また、40～59歳で「知らない」の割合が高くなっています。



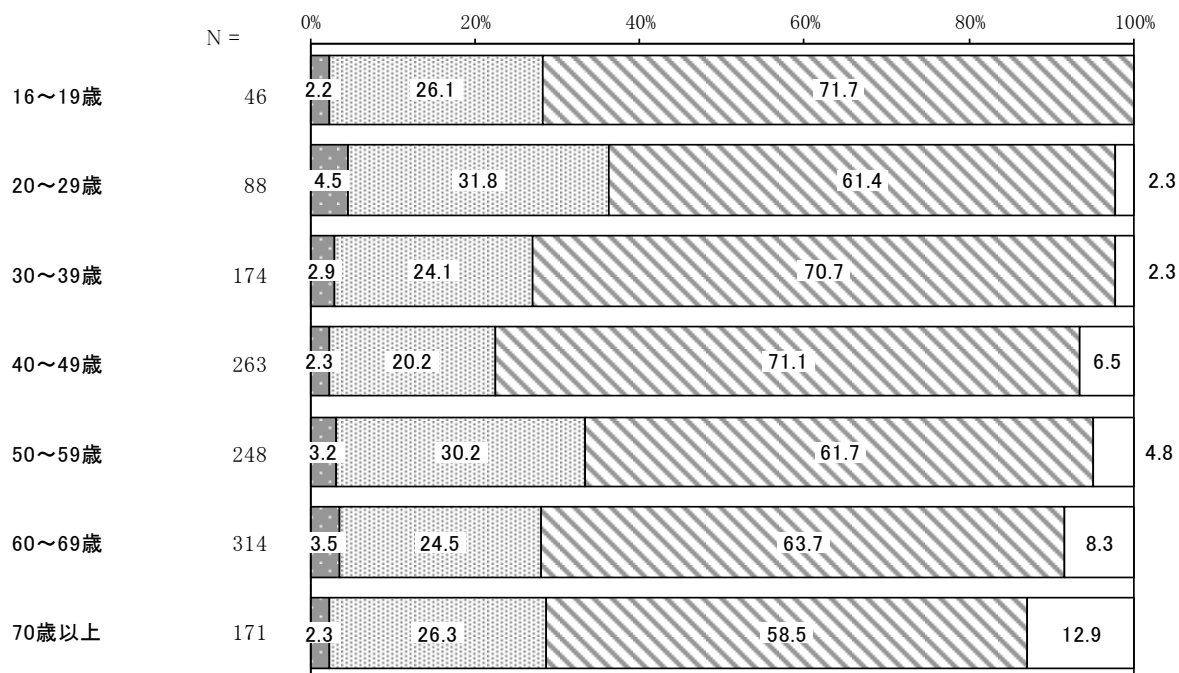
### 3. 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律（2000）

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



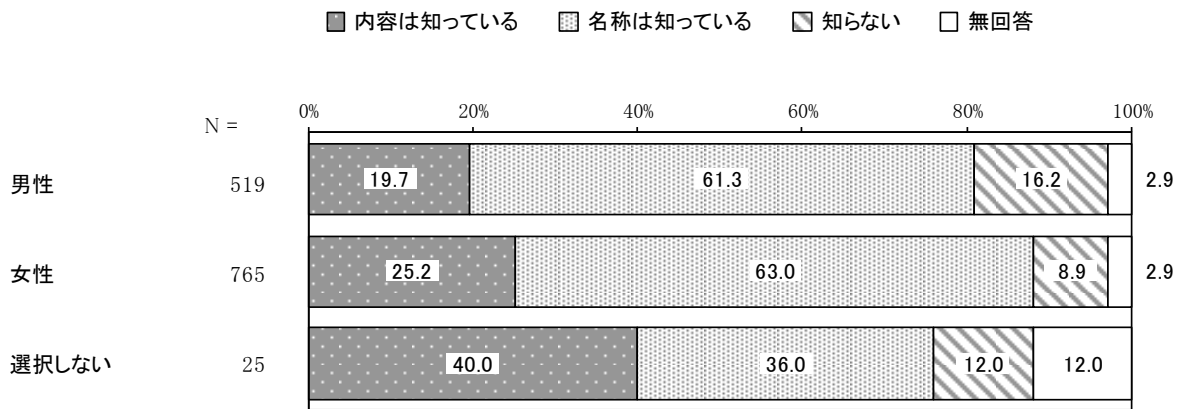
#### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳、50～59歳で「名称は知っている」の割合が高く、約3割となっています。また、16～19歳、30～49歳で「知らない」の割合が高く、約7割となっています。



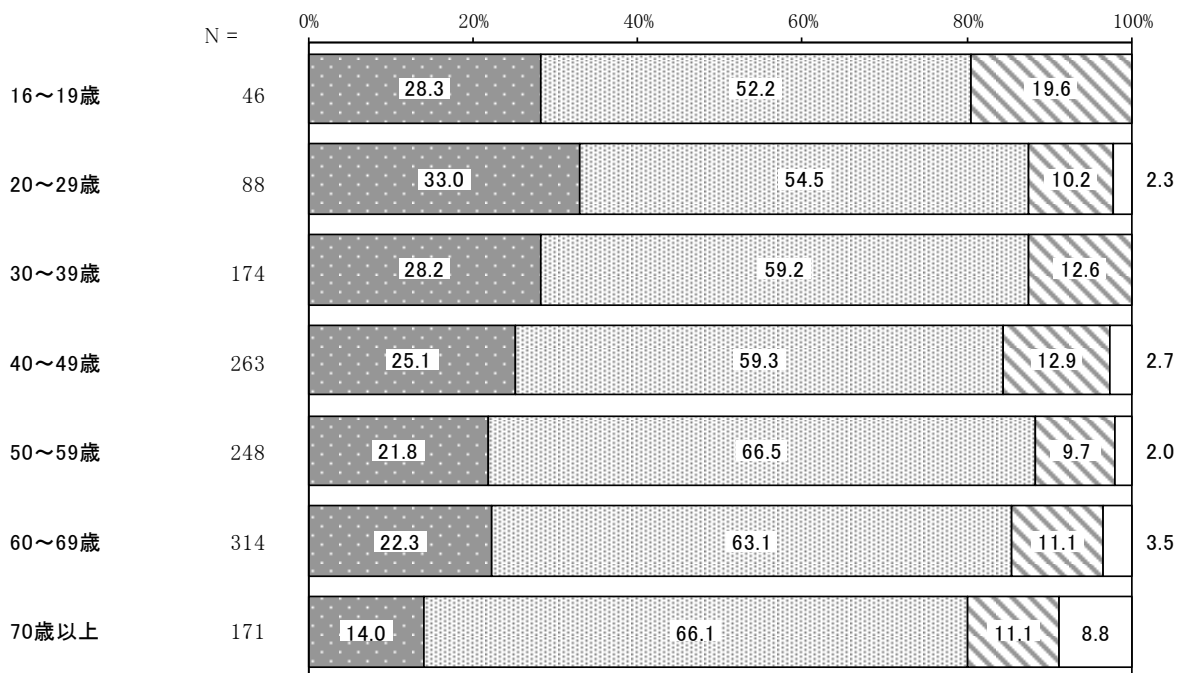
#### 4. 児童虐待防止法（2000）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「内容は知っている」の割合が高くなっています。



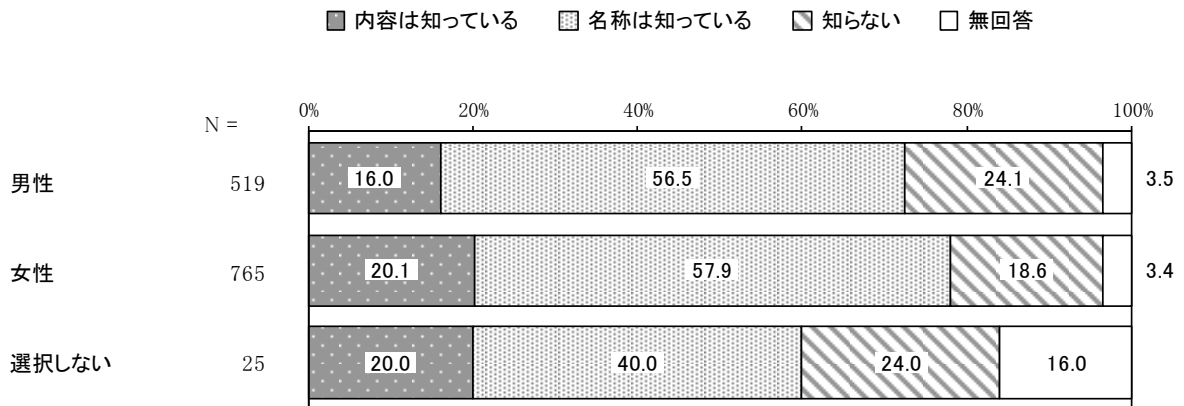
#### 【年齢別】

年齢別でみると、20歳以上で年齢が下がるにつれ「内容は知っている」の割合が高くなっています。また、他に比べ、16～19歳で「知らない」の割合が高く、約2割となっています。



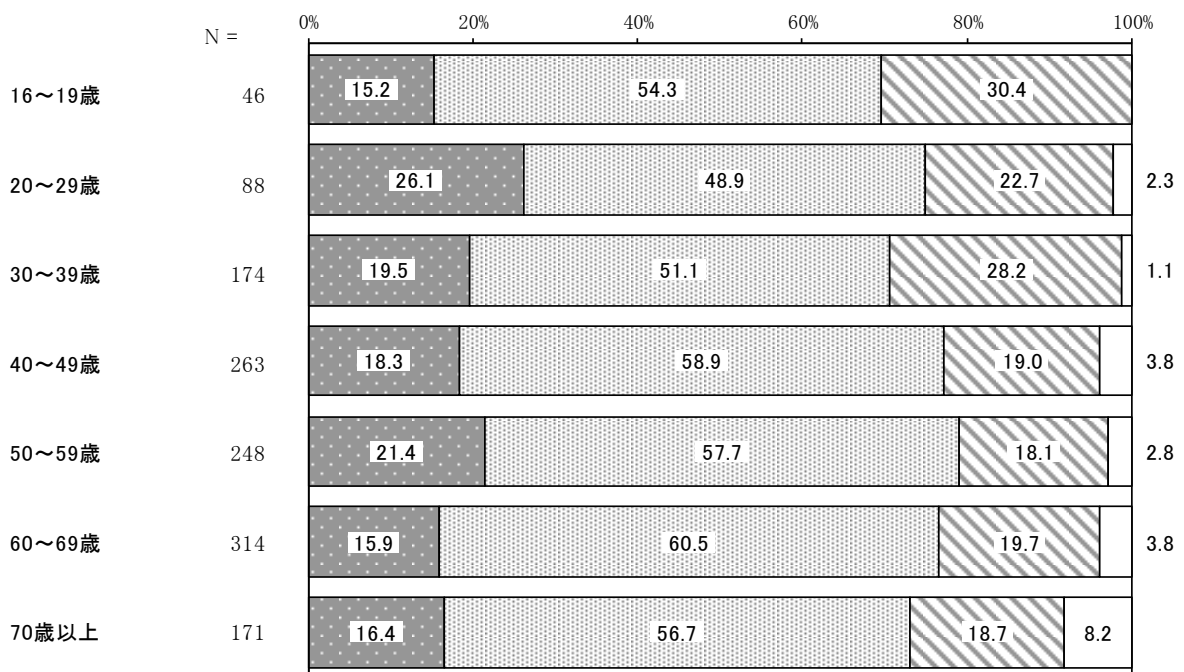
## 5. DV防止法（2001）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高く、2割台半ばとなっています。



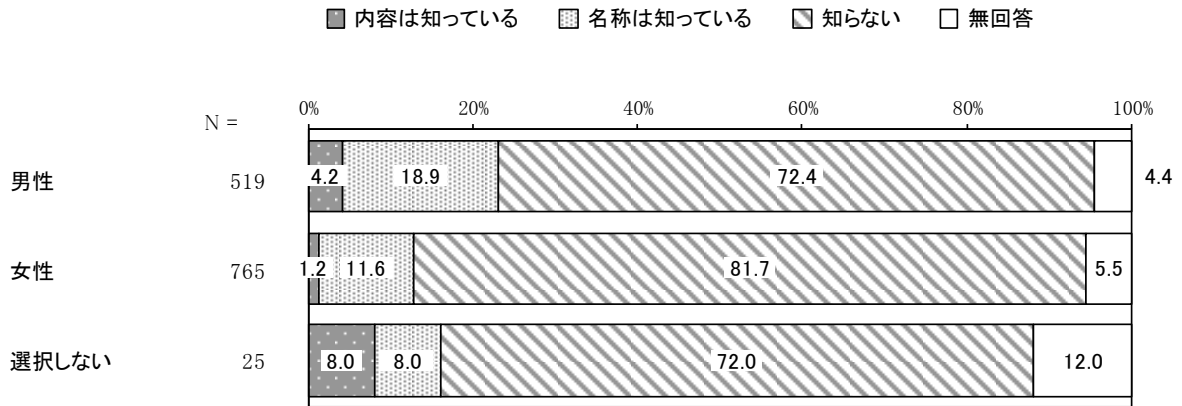
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「内容は知っている」の割合が高く、2割台半ばとなっています。また、60～69歳で「名称は知っている」の割合が、16～19歳、30～39歳で「知らない」の割合が高くなっています。



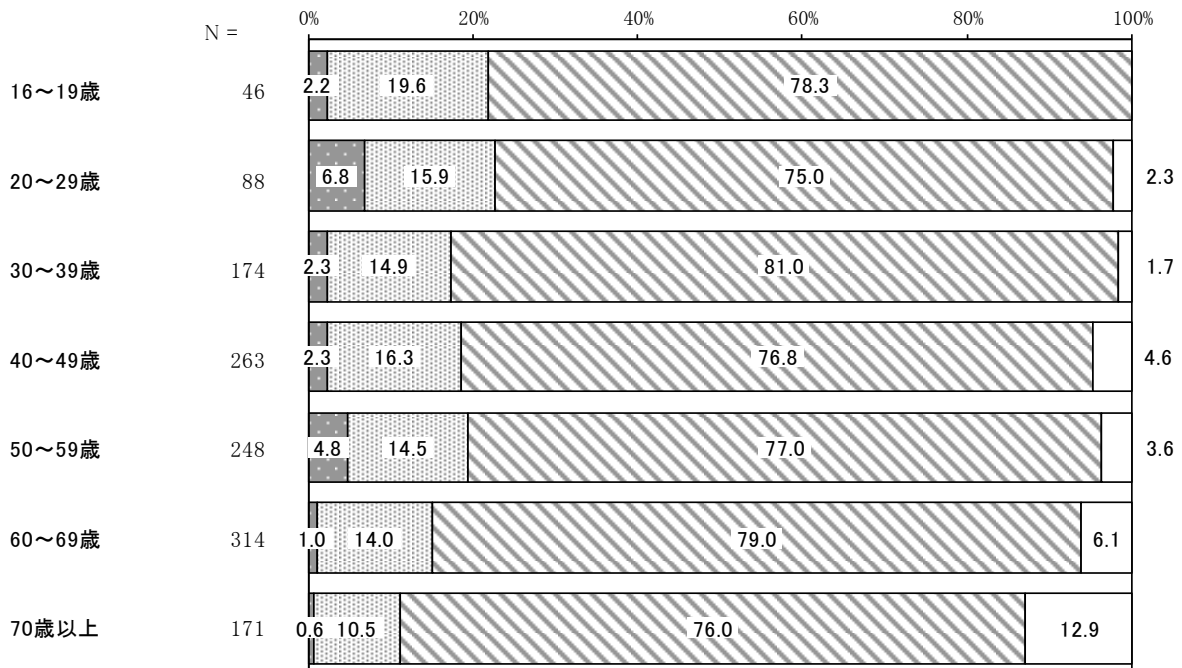
## 6. プロバイダ責任制限法（2001）

性別でみると、他に比べ、男性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。また、女性で「知らない」の割合が高くなっています。



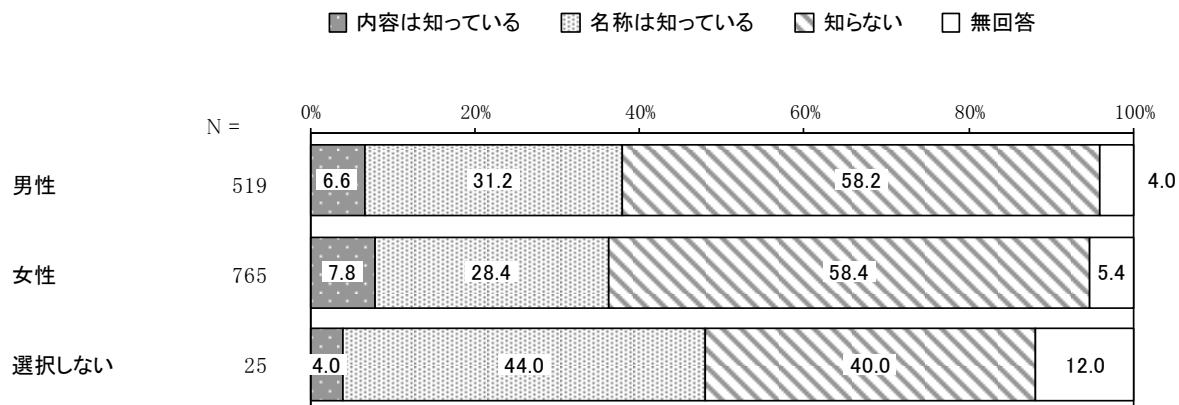
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、16～19歳で「名称は知っている」の割合が高く、約2割となっています。



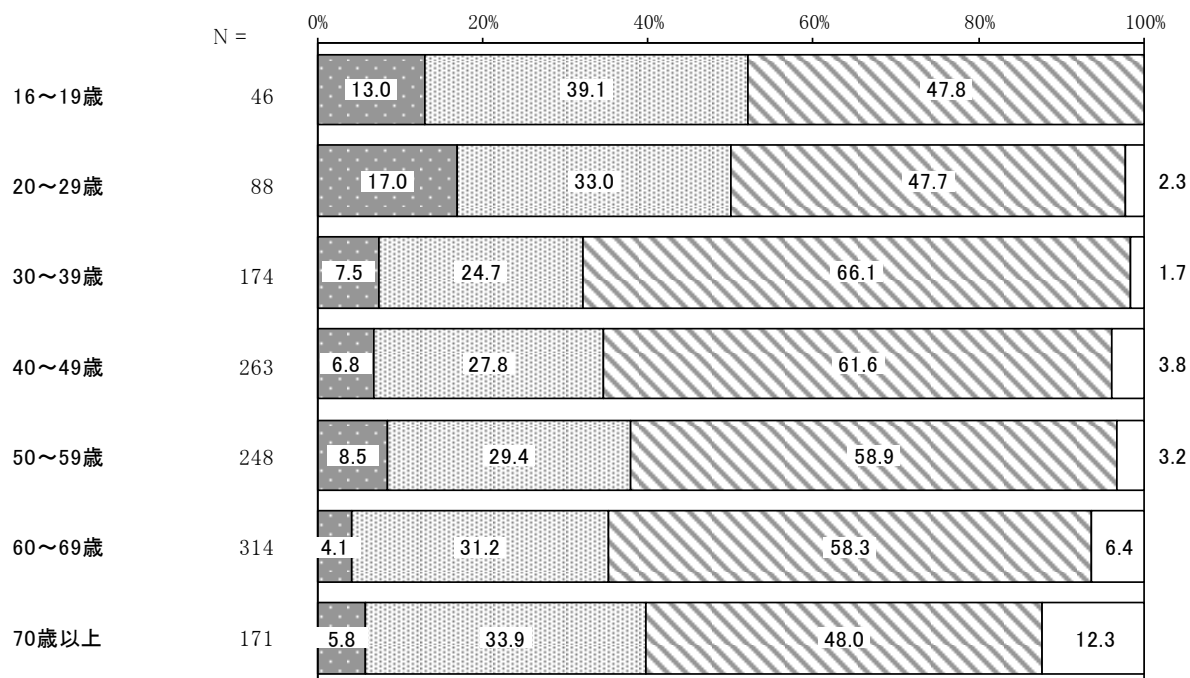
## 7. 障害者差別解消法（2013）

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



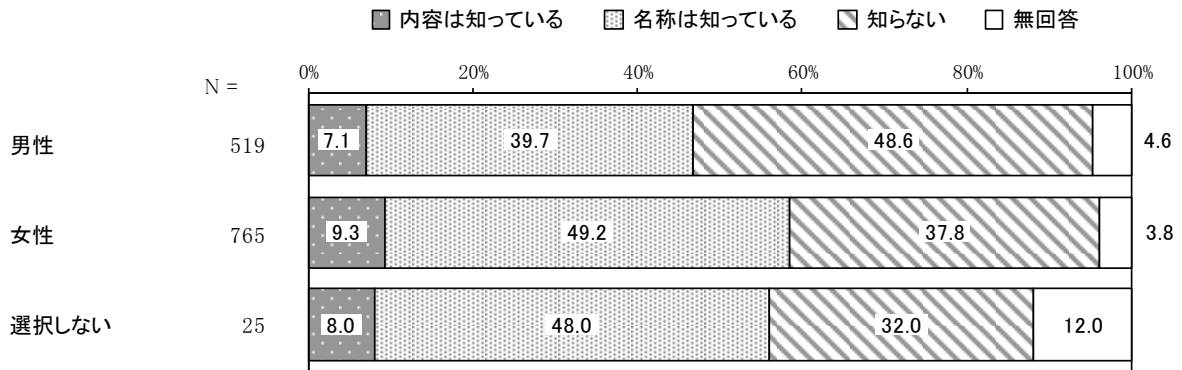
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「内容は知っている」の割合が高くなっています。また、16～19歳で「名称は知っている」の割合が、30～39歳で「知らない」の割合が高くなっています。



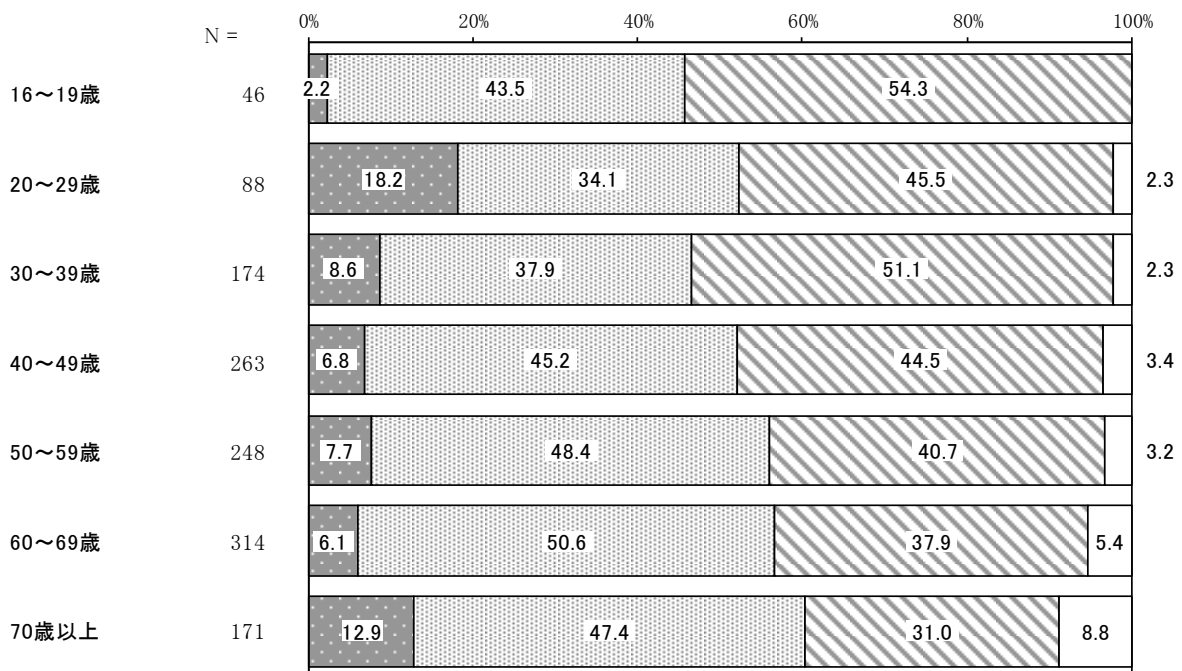
## 8. 子どもの貧困対策法（2013）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。



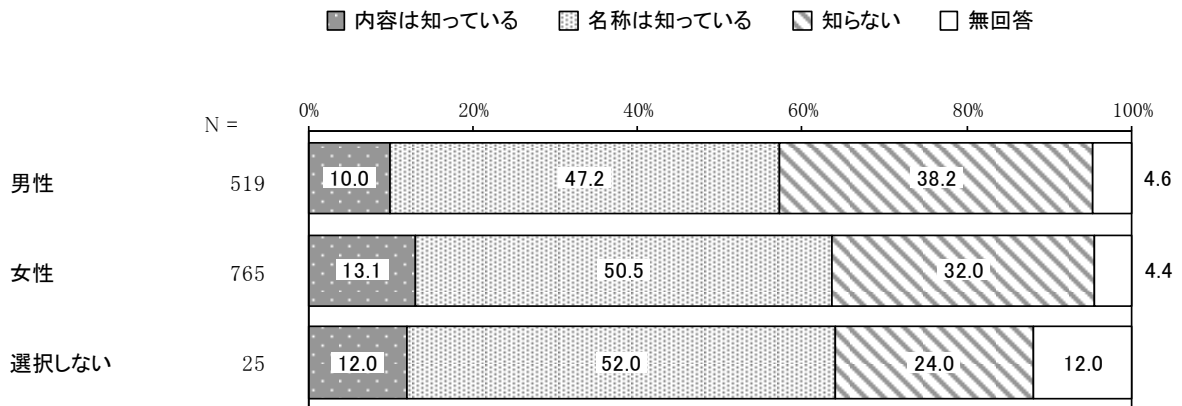
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、20～29歳で「内容は知っている」の割合が高くなっています。また、60～69歳で「名称は知っている」の割合が、16～19歳、30～39歳で「知らない」の割合が高くなっています。



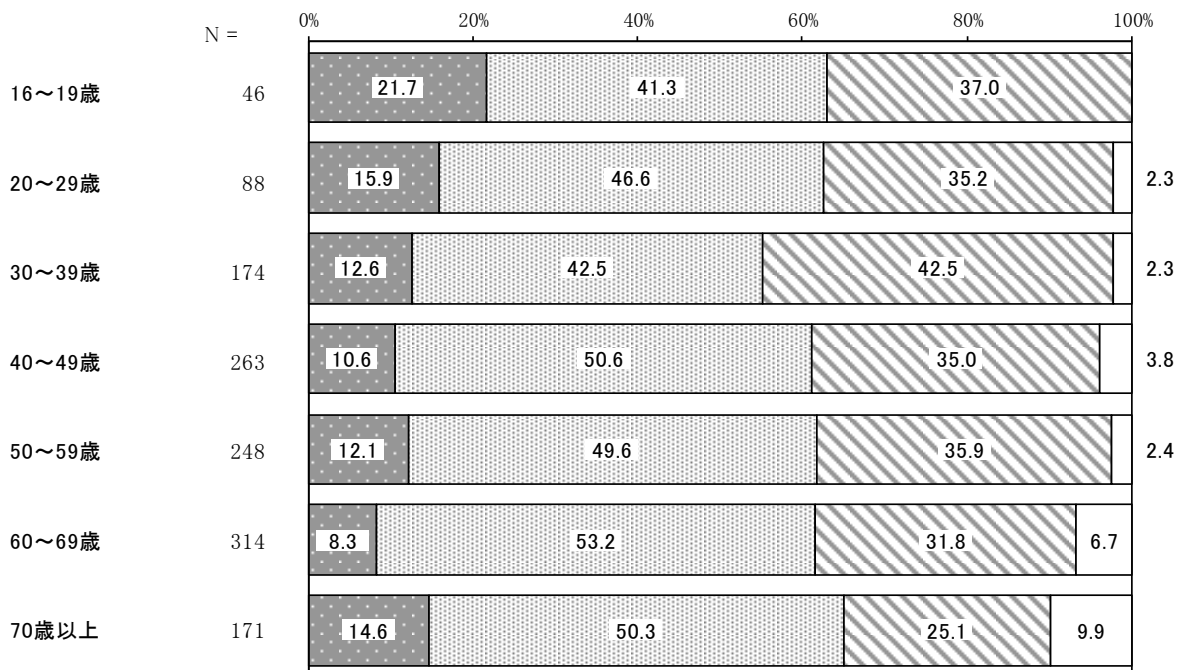
## 9. いじめ防止対策推進法（2013）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。



### 【年齢別】

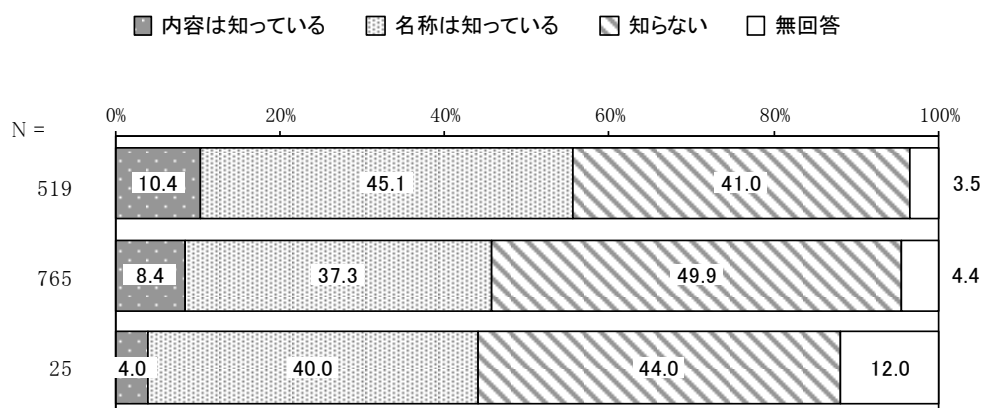
年齢別でみると、他に比べ、16～19歳で「内容は知っている」の割合が高くなっています。また、30～39歳で「知らない」の割合が高くなっています。





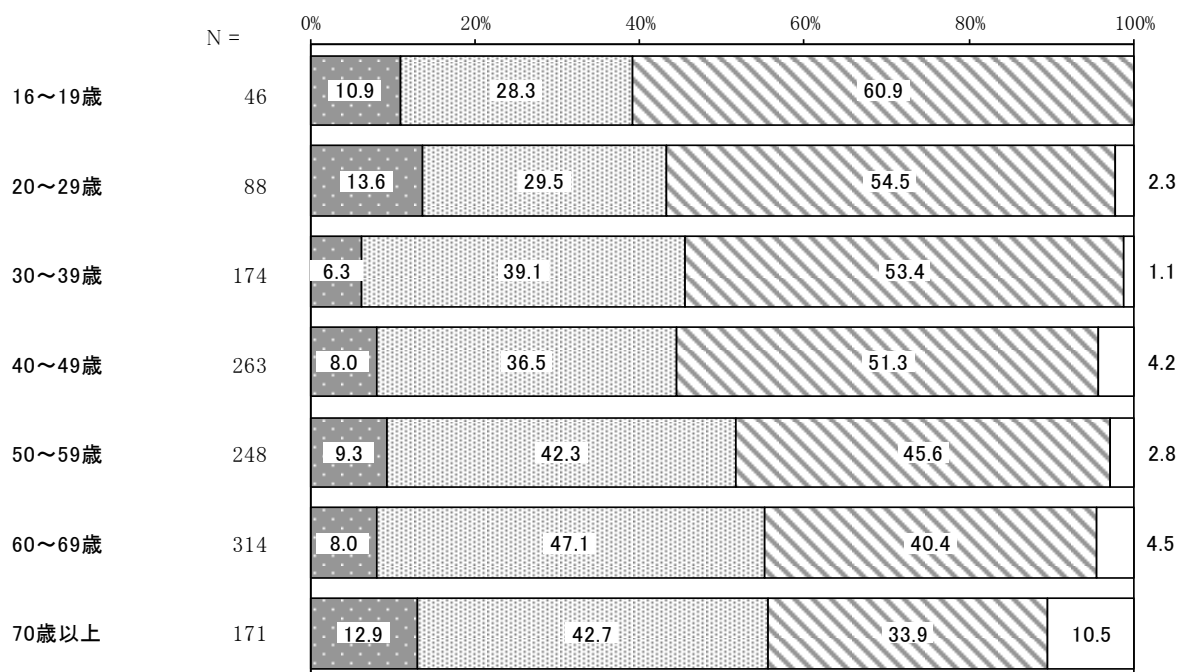
## 10. ヘイトスピーチ解消法（2016）

性別でみると、他に比べ、男性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。また、女性で「知らない」の割合が高くなっています。



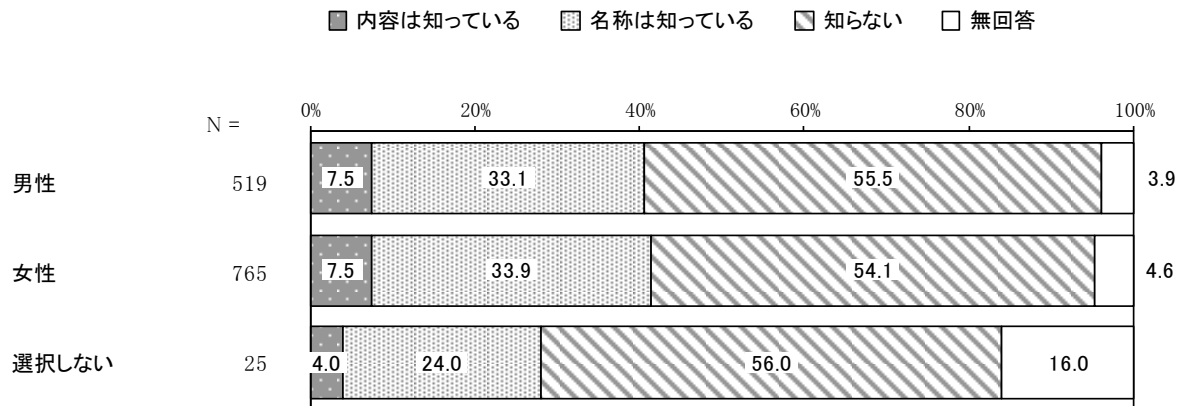
### 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「知らない」の割合が高くなっています。また、他に比べ、60～69歳で「名称は知っている」の割合が高くなっています。



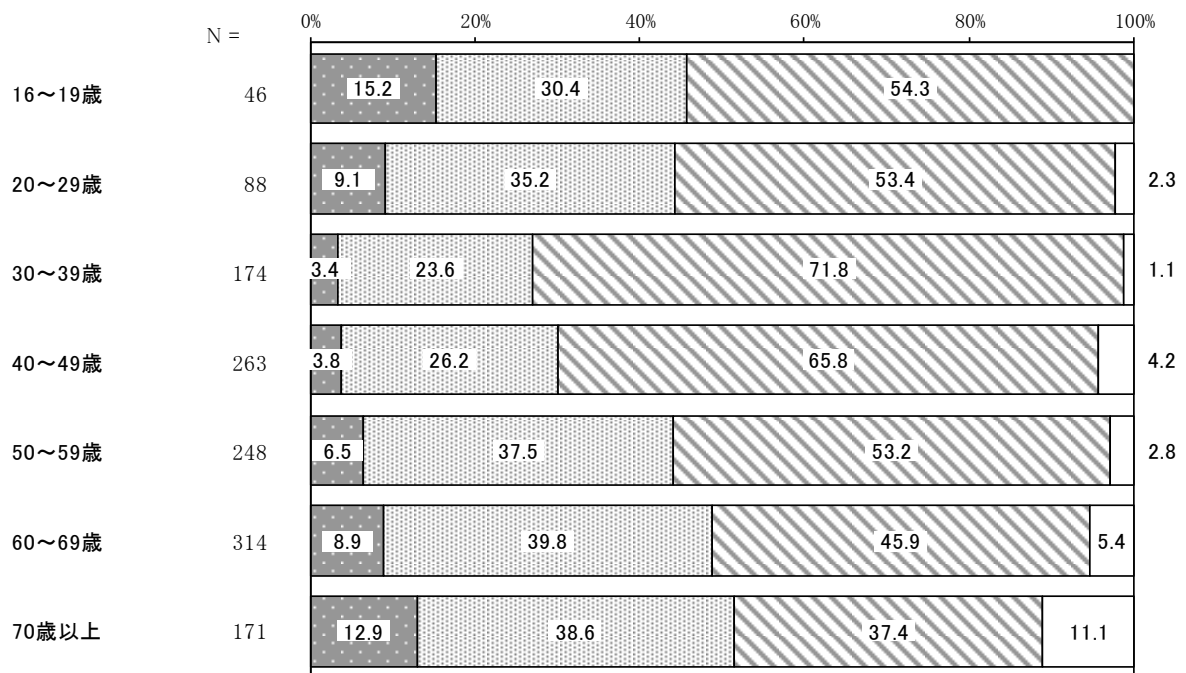
## 11. 部落差別解消推進法（2016）

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



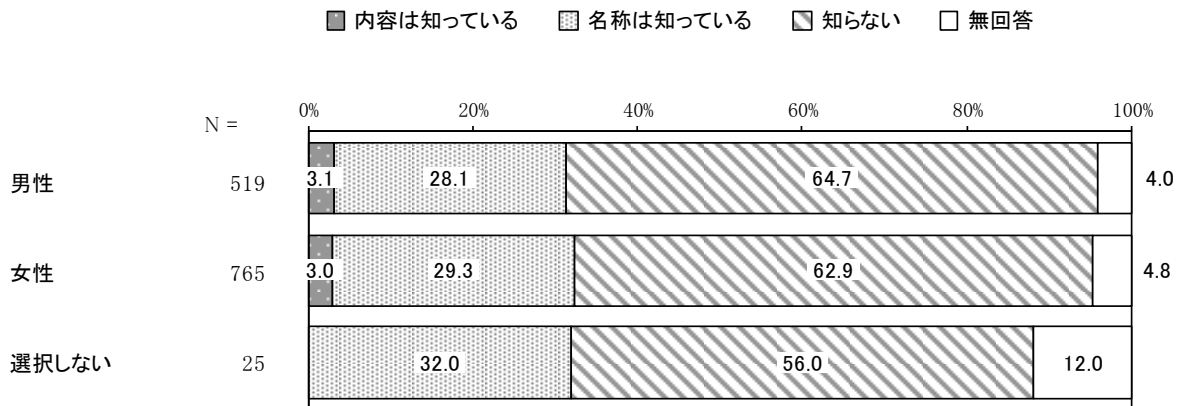
### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、16～19歳で「内容は知っている」の割合が高くなっています。また、30～49歳で「知らない」の割合が高くなっています。



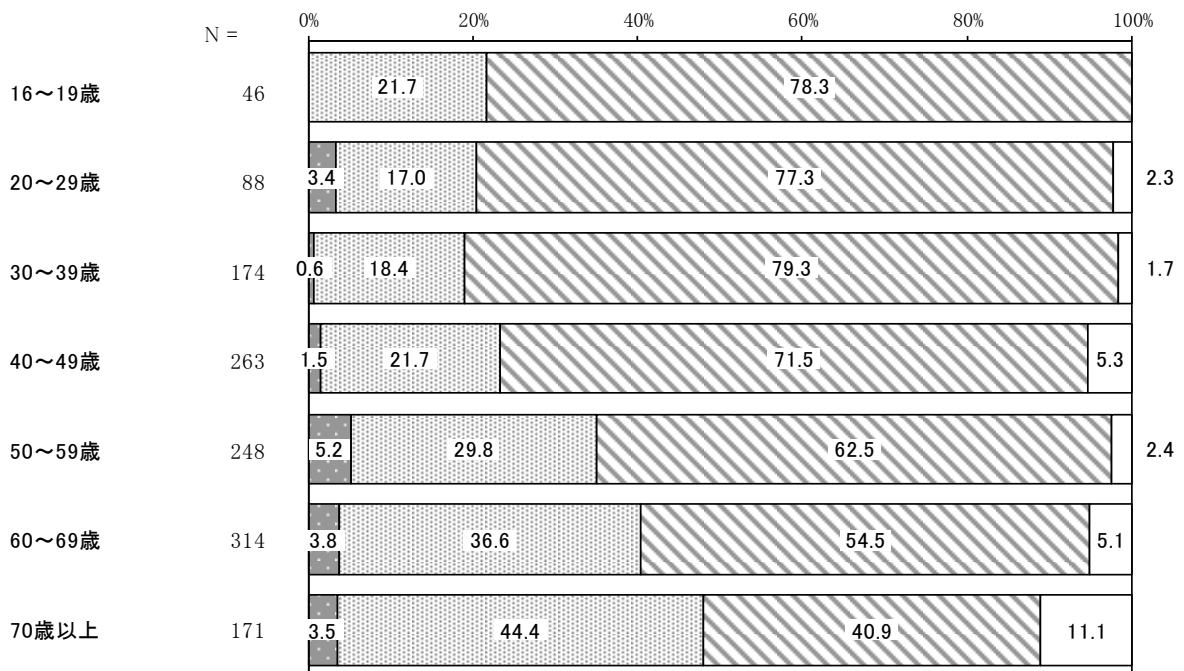
## 12. 生駒市人権擁護に関する条例（1994）

性別でみると、男性と女性で大きな差異はみられません。



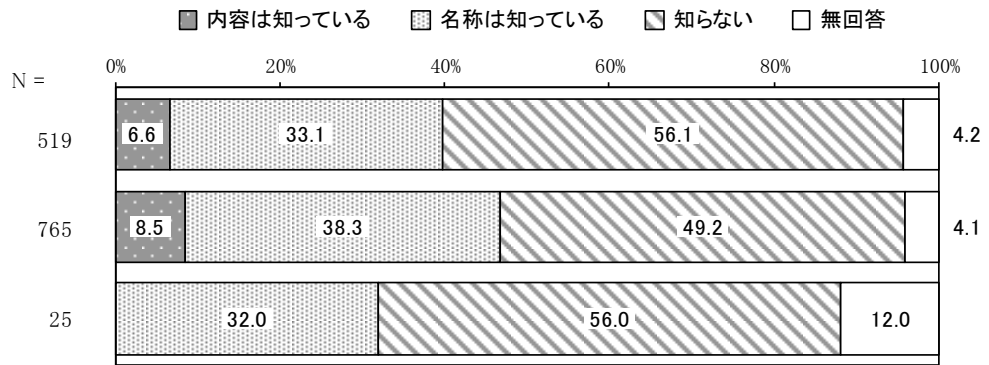
### 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「名称は知っている」の割合が高くなる傾向がみられます。



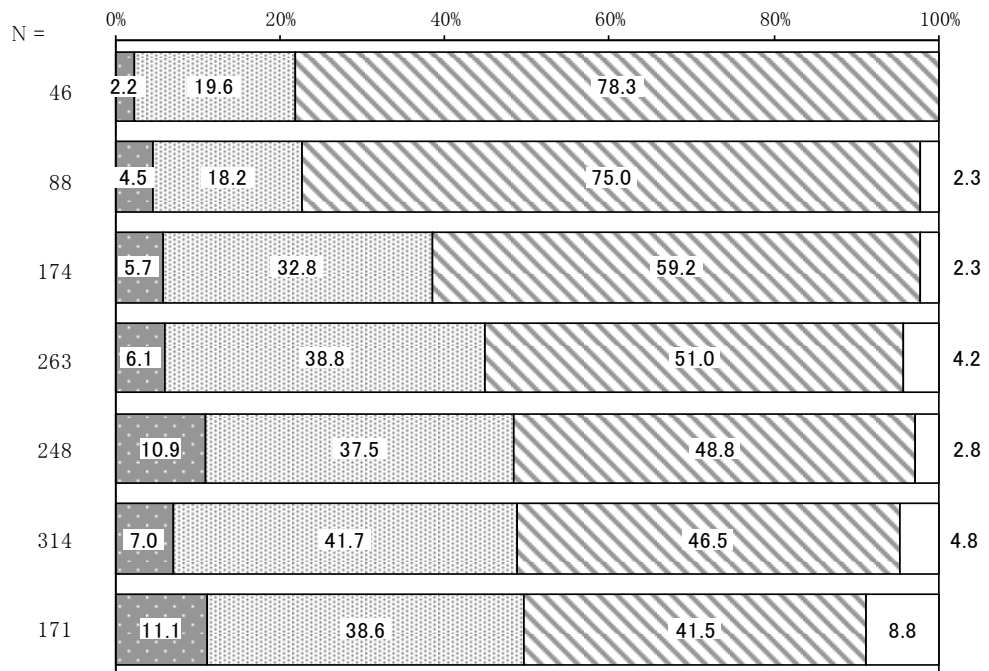
### 13. 差別をなくす強調月間（7月1日～31日）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。



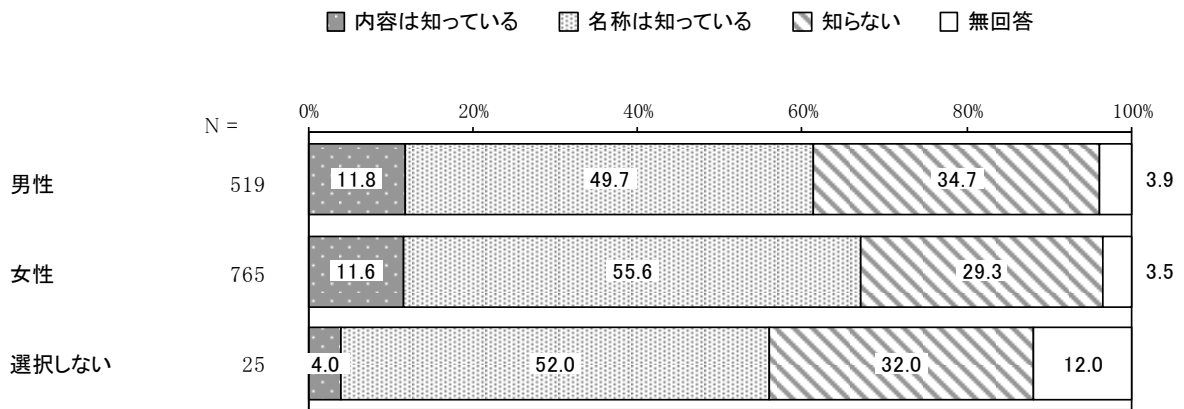
#### 【年齢別】

年齢別でみると、年齢が下がるにつれ「知らない」の割合が高くなっています。また、40歳以上で「名称は知っている」の割合が高く、約4割となっています。



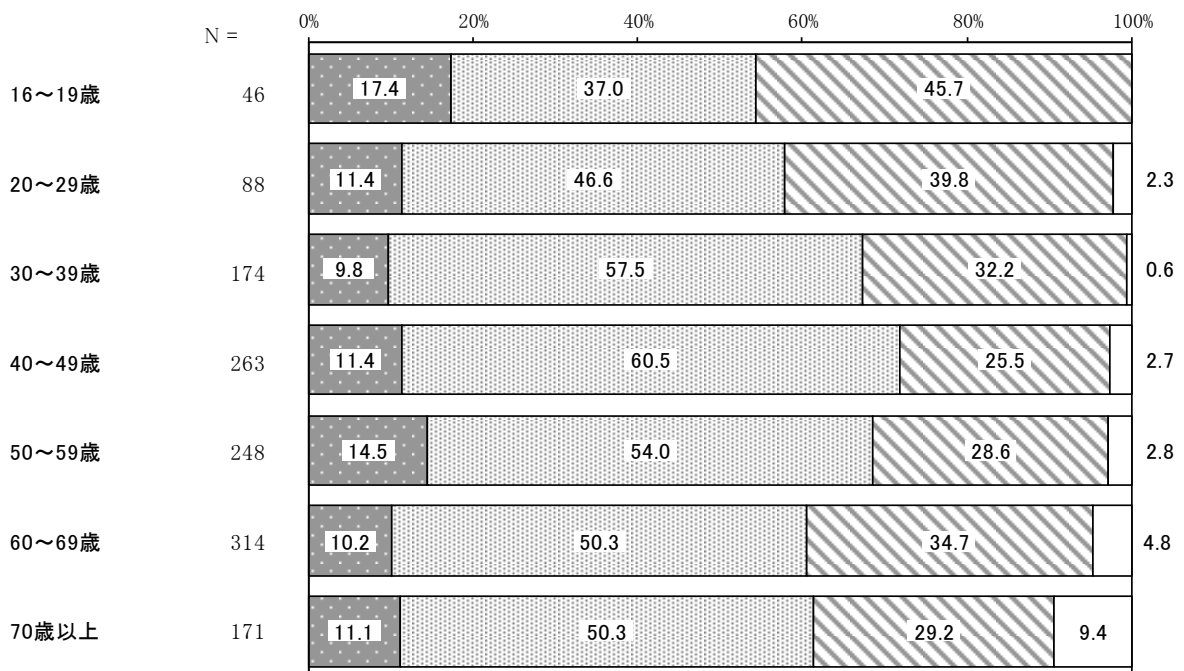
#### 14. 人権週間（12月4日～10日）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。



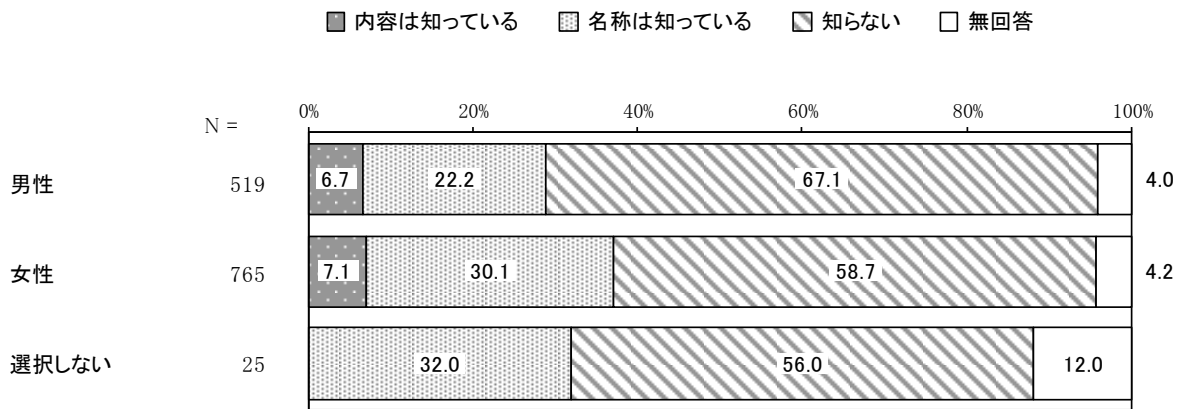
#### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、16～19歳で「内容は知っている」「知らない」の割合が高くなっています。また、40～49歳で「名称は知っている」の割合が高くなっています。



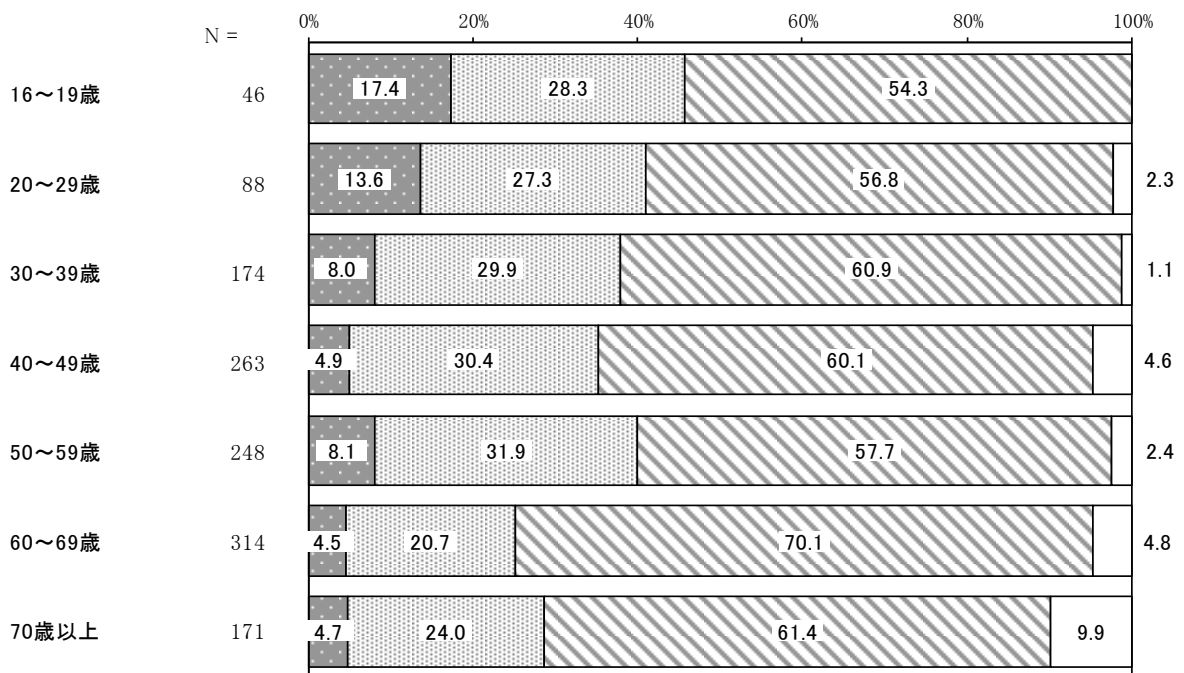
### 15. 人権を確かめあう日（毎月11日）

性別でみると、他に比べ、男性で「知らない」の割合が高くなっています。また、女性で「名称は知っている」の割合が高くなっています。



#### 【年齢別】

年齢別でみると、他に比べ、16～19歳で「内容は知っている」の割合が高くなっています。また、60～69歳で「知らない」の割合が高くなっています。



### Ⅲ アンケート調査のまとめ

#### ○ 市民の人権問題についての意識について

市民の人権問題や世の中の事柄や意見についての考えでは、「9. 国や自治体は、外国人に対するヘイトスピーチ（差別的な発言）を繰り返す団体に、毅然とした態度をとる必要がある」（生駒市（以下本市とする）：90.1%、奈良県：78.3%）、「12. 犯罪被害者のプライバシーが興味本位にとりあげられることは問題だ」（本市：94.3、奈良県：90.4%）で「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた“そう思う”の割合が高く、9割以上となっています。他の項目においても、奈良県と比較しても高くなっていることから、人権問題に対する市民の関心が高いことがうかがえます。

一方で、障がい者への人権問題については「障がいがあることを理由に乗り物への乗車や入店を断られるのは問題だ」（本市：86.2%、奈良県：81.6%）の割合が高くなっていますが、精神障がいのある方に対しては「精神に障がいがある人に対しては、なんとなく不安を感じる」（本市：76.4%、奈良県：80.8%）の割合が高いことがわかりました。【問1】

人権問題で関心があるものについては、「子どもに関する問題」（H30：56.4%、H25：38.5%）、「高齢者に関する問題」（H30：55.1%、H25：47.0%）、「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」（H30：54.7%、H25：36.1%）の割合が特に高くなっており、比較ができるすべての項目で平成25年調査に比べて割合が増加しており、市民の人権問題についての関心は様々な分野で高くなっています。【問2】

平成29年度内閣府人権擁護に関する世論調査（内閣府調査）と比較すると、「女性に関する問題」（本市：47.9、国：30.6%）、「子どもに関する問題」（本市：56.4%、国：33.7%）、「高齢者に関する問題」（本市：55.1%、国：36.7%）、「同和問題」（本市：25.9%、国：14.0%）、「在日外国人に関する問題」（本市：30.7%、国：15.0%）、「性同一性障がい者（身体的な性と心の性が一致しない者）に関する問題」（本市：25.3%、国：15.5%）、「性的指向（異性愛、同性愛、両性愛など）に関する問題」（本市：23.6%、国：15.0%）、「北朝鮮当局による拉致問題」（本市：49.4%、国：26.2%）の割合が高くなっており、国に比べても市民の意識は高いことがうかがえます。

一方で、「障がい者に関する問題」（本市：44.5%、国：51.1%）の割合が低くなっています。【問2】

人権尊重の意味については、人権が尊重されることについては、「個人として尊重される」（H30：68.4%、H25：59.1%）、「差別されない、平等である」（H30：65.5%、H25：56.2%）、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」（H30：53.2%、H25：45.0%）と市民の人権に対する理解は広がっています。【問4】

## ○ 身近に感じる人権問題について

人権についてどの程度身近に感じるかについては、「非常に身近に感じる」と「身近に感じる」をあわせた“身近に感じる”（H30：38.8%、H25：30.5%）、「あまり身近に感じない」と「まったく身近に感じない」をあわせた“身近に感じない”（H30：45.9%、H25：56.6%）となっており、人権問題を身近に感じている市民が増えています。【問3】

身近にあるものについては、「高齢者に関する問題」（H30：40.7%、H25：25.2%）が最も高く、次いで「子どもに関する問題」（H30：28.5%、H25：14.5%）、「女性に関する問題」（H30：24.8%、H25：8.2%）の割合が特に高くなっており、「障がい者に関する問題」（H30：23.7%、H25：11.5%）、「同和問題」（H30：9.1%、H25：3.8%）、「在日外国人に関する問題」（H30：11.0%、H25：4.2%）、「ハラスメントなど職場での問題」（H30：19.7%、H25：8.2%）、「非正規雇用など雇用形態の問題」（H30：20.9%、H25：12.8%）、「ワーキング・プアの問題」（H30：14.1%、H25：7.8%）、「プライバシー保護に関する問題」（H30：18.4%、H25：6.6%）、「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」（H30：14.1%、H25：5.0%）の割合が増加しており、人権意識の高まりの背景には人権問題が自分に近い問題であるとの認識が広まっていることが影響していると想定されます。【問2】

## ○ 人権侵害を受けた経験について

市民が人権侵害を受けた経験の有無、及びその内容については、自分が人権侵害を受けた経験が「ある」（H30：14.3%、H25：10.3%）の割合は増加しています。

性・年齢別でみると、男性の30～39歳（H30：29.0%、H25：24.1%）、女性の20～29歳（H30：28.3%、H25：20.0%）で「ある」の割合が高く、約3割となっています。男性で40歳から69歳で、女性では20～29歳、50～59歳で自分が人権侵害を受けた経験が「ある」の割合が増加しています。人権意識の高まりから、人権侵害を受けたと感じる人が増加していることも考えられます。【問5】

人権侵害の内容については、「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」（H30：39.8%、H25：42.1%）、「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」（H30：30.9%、H25：33.8%）「責任や義務のないことをやらされた」（H30：12.6%、H25：9.0%）の割合が特に高くなっており、職場での人権侵害にあったと回答した市民が多くなっています。

年齢別でみると、「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」（20～29歳：45.0%、30～39歳：42.4%、40～49歳：46.7%、50～59歳：41.7%）となっており、職場での人権侵害が大きな問題となっています。【問6—（1）】



## ○ 人権侵害を受けた際の対処について

人権侵害を受けた方の人権侵害を受けたときの対応については、「だまっけてがまんした（特になにもしなかった）」（H30：49.7%、H25：28.3%）の割合が最も高く、次いで「友人、同僚や上司に相談した」（H30：36.1%、H25：33.8%）、「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」（H30：27.2%、H25：29.0%）となっています。【問6－（2）】

人権侵害を受けながらも黙って我慢した理由としては、「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」（H30：31.6%、H25：39.0%）の割合が最も高く、次いで「我慢できる程度の事柄だった」（H30：26.3%、H25：17.1%）、「相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった」（H30：24.2%、H25：19.5%）、「人間関係を壊したくなかった」（H30：24.2%、H25：14.6%）となっています。特に、「過去に相談、訴えたりしたが役に立たなかった」（H30：23.2%、H25：9.8%）の割合が平成25年に比べ増加しています。

「受けた人権侵害」の内容によってその対応や相談相手の選び方に大きく影響すると考えられるが、一人で悩みを抱え込んでいる状況がうかがえます。【問6－（3）】

## ○ 人権問題の講演会や研修会への参加について

今まで人権問題の講演会や研修会への参加したことがあるかについては、「参加したことはない」（H30：56.2%、H16：47.6%）の割合が最も高く、次いで「学校やPTAがおこなったもの」（H30：21.9%、H16：24.0%）、「職場での研修会」（H30：18.6%、H16：14.9%）となっており、参加したことのない市民が増加している一方で、職場での人権問題に関する講演会や研修会へ参加している人が増えています。【問17－（1）】

今までに参加した講演会等の内容については、「同和問題について」（H30：45.1%、H16：72.6%）の割合が最も高く、次いで「障がい者の人権について」（H30：28.8%、H16：26.9%）、「個人情報の保護について」（H30：25.3%、H16：9.8%）となっています。【問18－（1）】

最近1年間の参加状況については、「参加したことはない」（H30：42.0%、H16：54.6%）の割合が最も高く、次いで「職場での研修会」（H30：25.1%、H16：14.6%）、「学校やPTAがおこなったもの」（H30：14.1%、H16：8.6%）となっており、職場、学校やPTAでの活動へ参加した人が増加しています。【問17－（2）】

最近1年間に参加した講演会の内容は、「障がい者の人権について」（H30：20.5%、H16：26.4%）、「個人情報の保護について」（H30：20.5%、H16：12.6%）の割合が最も高く、次いで「女性の人権について」（H30：19.4%、H16：27.0%）となっています。

平成16年度調査と比較すると、「労働者の人権について」（H30：10.3%、H16：5.0%）、「さまざまな性に関する人権について（性同一性障がい者、同性愛者など）」（H30：19.0%、H16：3.5%）、「個人情報の保護について」（H30：20.5%、H16：12.6%）の割合が増加しており、平成16年調査時に比べ、市民はさまざまなテーマでの人権問題への研修会、講演会に参加していることがわかります。【問18－（2）】

講演会等へ参加しての印象や感想は、「差別をしてはいけないと思った」(H30 : 36.5%、H16 : 46.8) が最も高く、次いで「人権問題は何かということがわかった」(H30 : 32.3%、H16 : 38.2%)、「人権問題を解決するため、自分も何かをしたいと思った」(H30 : 18.5%、H16 : 11.8%) となっており、人権講演会の開催等の人権の意識向上への効果がうかがえます。【問 18－(4)】

## ○ 人権啓発活動の認知度について

市民が見聞きしたことがある人権啓発活動は、「テレビ」(H30 : 62.0%、H16 : 49.6%) の割合が最も高く、次いで「市・県等のHP・広報紙」(H30 : 35.8%、H16 : 54.2%)、「ポスター・ステッカー」(H30 : 34.7%、H16 : 41.4%) となっています。

年齢別でみると、20歳以降で「テレビ」の割合が6割以上となっており、年齢が上がるにつれ「新聞」「市・県等のHP・広報紙」の割合が高くなっています。20歳から39歳で「インターネット」の割合が高くなっています。情報の入手として「テレビ」は各年代に共通したメディアとなっていますが、新聞や市の広報、インターネットでは年代による差がみられました。【問 19】

## ○ 人権問題に関する学習の意向について

人権問題に関する読書や学習の意向については、「わからない」(H30 : 36.2%、H16 : 33.4%) の割合が最も高く、次いで「できたらしてみたい」(H30 : 32.3%、H16 : 24.8%)、「その気持ちはない」(H30 : 26.3%、H16 : 34.0%) となっており、市民の学習意向については高まっています。

【問 20】

特に理解を深めたい人権問題は、「子どもの人権について」(H30 : 24.9%、H16 : 25.2%) の割合が最も高く、次いで「女性の人権について」(H30 : 23.0%、H16 : 26.1%)、「障がい者の人権について」(H30 : 22.6%、H16 : 29.4%)「高齢者の人権について」(H30 : 22.6%、H16 : 31.7%) となっています。

性別でみると、他に比べ、男性で「インターネット上の人権について」の割合が高くなっています。また、女性で「女性の人権について」「子どもの人権について」の割合が高くなっています。

性・年齢別でみると、男女ともに30歳から49歳で「子どもの人権について」の割合が高くなっています。また、男性の50～59歳で「労働者の人権について」の割合が高くなっています。さらに、男女ともに60歳以上では「高齢者の人権について」の割合が高く、性別や年代での理解を深めたい人権問題に差がみられました。【問 21－(1)】

人権問題の理解を深めるための学習の意向がない理由として、「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」(H30:35.0%、H25:28.9%)の割合が最も高く、次いで「生活におわれて余裕がない」(H30:23.9%、H25:20.2%)、「特に関心があるわけではないので」(H30:22.2%、H25:33.7%)となっています。

年齢別でみると、20歳から49歳で「生活におわれて余裕がない」の割合が高くなっています。年齢があがるにつれて「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」の割合が高くなる傾向となっています。【問21-(2)】

## ○ 人権学習を深めるために重要なことについて

人権学習を深めるための支援として重要なことについては、「学校等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」(H30:54.1%、H25:50.2%)の割合が最も高く、次いで「学習講座や場の提供を充実する」(H30:24.6%、H25:29.1%)の割合が、「身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する」(H30:23.3%、H25:25.6%)となっており、当事者との交流や学習の場を求める市民の割合が高くなっています。【問22】

## ○ 人権が尊重される社会を実現するための取り組みについて

人権が尊重される社会実現のため取り組みについては、「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」(H30:46.8%、H25:47.0%)の割合が最も高く、次いで「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」(H30:44.8%、H25:57.7%)、「国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める」(H30:37.0%、H25:28.9%)となっています。

年齢別でみると、他に比べ、30～49歳で「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」の割合が高く、5割台半ばとなっています。また、30～39歳で「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」の割合が高く、約5割となっています。

人権教育においては、幼いころから園や学校、家庭での教育への期待が高くなっています。また、国や県・市が啓発を積極的に行うことも必要との回答が増加しています。【問23】

## IV 自由意見

人権が尊重されていると思うときはどういうときですか。また、一人ひとりが人権について関心を持つために、家庭・地域で取り組んでいることや、人権問題についてのご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

分類回答	件数
啓発・研修	33
学校教育	14
家庭教育	8
インターネット	3
家庭や地域での取り組み	18
人権、男女・共同参画全般	11
同和問題	4
障がい者	15
高齢者	8
女性問題	11
子ども	10
外国人	3
犯罪被害者	2
労働	1
LGBT等	3
市行政等	20
アンケート	15
その他	65
回答者数	244

## (1) 啓発・研修

- ・ 皆一緒ではないということ。その人のことを尊重し、認め合うこと。高齢者、子ども、障がい者、外国人等にかかわらず普通の大人でも対象であるということを忘れずにしてほしい。(40代・女性)
- ・ 個人が、自分の意志で行動できる環境があること。しかし、何でも自分の思うようにできると思うことは間違っていると思います。みんな、我慢もしているし、言えないこともあるけど、「何か理由があるのかな」と思いやりをもって接すれば、相手を尊重するというところに少しでも近づけると思います。(50代・女性)
- ・ アンケートを書かせていただいて、今まで関心のなさに気づかされました。市民講座などがあれば、ぜひ参加して勉強したいと思います。(60代・女性)
- ・ 人間があまり器用ではないので、一つの事を一生懸命やる性格で、この10年、ボランティアで母校をよくするために頑張ってきた。でも地域の事にもいろいろとよくするため協力してきたが余り同和問題には縁がなかった。私も高齢者なので介護問題などには特に協力や講演に出ているが人権問題は遠い昔に学校で習い学んできた思い出がある。たまたま友達とハンセン病についてはよく語り合ったし、縁もあった。そして講演も何十回となく出た。三人の子どもがいるが子どもたちは小さい頃に同和問題や人権問題を学校で学び、素直に受け止め関心をもって成長している。同和の友達もいるし、外国人の友達もとても仲良くしている。まったくそのような人との付き合いを意識しなく、私としてはとても嬉しい。今後もきっとそのような方がいじめに合ったとしたら全力でかばうと思う。正しい目をもって育ててきた。(70代以上・女性)
- ・ 個人の意見が尊重されすぎず、バランスのとれた状態。要領やポジションキープの画策がない状態。但し、個人のコツコツとした努力と時間は認められるべき。その努力も条件、一般的な世間で判断しても迷惑をかけていないとされること。※迷惑の内容が一部の団体(実力者)独自の基準ではないことが必要。努力すべきところは、上に立つ人がバランスをもってそれぞれの人の情報と意見を聞き、本来のバランスをもって対応する事。それぞれの人も、人(一般世間)にちゃんとと言える内容であること。※独自の考えはそれぞれであり過ぎる世の中。経験の違いも年齢に関係なく起こるし、年齢からくる経験もあるし、それぞれ必要な部分をわかりやすく伝えたりできる人が必要。(50代・男性)
- ・ どのような時も人に対する思いやりを思って接していれば、差別などなくなると思います。人の話をよく聞き、一人ひとり尊重しましょう。(60代・女性)
- ・ 人はそれぞれ違った考え方、意見を持つ。「自分の考えが正しい」と他の意見をシャットアウトするのではなく、聞く耳を持つ、受け入れまた変えていく柔軟い心を持つ。なかなかうまくいかない時に、法律や条例が潤滑油の働きをし、解決しやすくしてくれるのでは。(60代・女性)
- ・ お互いの違いを知り、理解し、わかり合えない部分があっても、そのような考え方もあるんだなあと思え合うとき。人権問題、今のところ身近に感じる機会があまりなかったのですが、大事なことだと思うので、学ぶ機会があれば勉強していきます。(30代・女性)
- ・ 困っている人がいたら声をかけるなど、普通に人らしく生きていけば、特に人権を尊重しないといけないうことにならないと思います。それができなくなっているのは、便利すぎる世の中にしていっている弊害だと思います。各家庭で(親自身が問題なこともあります)、人を思いやることの大切さがわかるように話し合う時間をつくるのが、大切だと思います。(30代・男性)
- ・ 個人個人の考え方、生き方、それぞれの人生観の違いで、心の持ち方、とらえ方、すべて違うことを認めた上で、他人に対しても思いやりのあることが大切だと思いますので、一人ひとりにやさしさのある人であるよう接してもらいたいし、接していきたいと思います。(60代・女性)
- ・ 人権ということと少し違いかもかもしれませんが、「無視」ということが人権を無視することにもつながるのか、と思うので、最近、「見て見ぬふり」が多くなってきている中で地域での「声かけ」「意識する」などを一人ひとり気に掛けると、少しは変わってくるのではないかと思います。(50代・女性)

- ・ 身近なことで人権に関する問題に直面したことはあまりない。しかし、テレビ等で見る問題は考えさせられることがあり、もし身近で発生するとなると恐ろしいと思う。そのためこうした情報発信は必要だと思う。(50代・男性)
- ・ 人権が尊重されていると思うときは人々(障がいをもっている人、高齢者、子ども、女性と弱い人)がいきいきと生活していると思われるとき。常に笑顔で元気に過ごせることが尊重されているのではと思います。一人ひとりに関心を持たせるためには日頃から家庭や職場、学校、保育園での人の思いやりについて話し合うべきだと思います。人の嫌がることはどのようなことか、自分がされて嫌なことは何かなどについて話し、またそれがコミュニケーションが増えてお互いのことがたくさん知れてより一層よい関係を持つことができると思います。今日の出来事の一つとして発表できる環境が一番の取り組みだと思う。そうすると、その時によいこと、悪いことがわかり合えると思います。我が家では毎日今日楽しかったこと、嫌だったことを言い合っています。そして嫌だったことについては皆で考えこれからそれが嫌な思いにならないように毎日話し合っています。心配のない1日はまったくくないです。でも子どもたちの話を聞くと安心して1日が終わります。(30代・女性)
- ・ 自分以外の人を尊重し敬意を常にもって接することが大切だと思う。常に相手の気持ちを思いやり静かに穏やかにつき合っていきたいと思う(60代・女性)
- ・ 職場などあらゆる場所において悪口を言わないこと。やはり悪口を言われると傷つくし萎縮してしまう。市の方がこのアンケートのように人権問題について向き合ってくださいのおかげで学ぼうと意識が芽生えました。同じ市で暮らしている人たちに仲間意識をもっともってよい市をつくりたいと思うことが大事だと思いました。ありがとうございました。(30代・女性)
- ・ 通常の生活で人権が侵害されていると思ったことがあまりありません。周囲の人たちともお互いの違いを受け入れて個人を尊重しあえているように思います。ただテレビなどで取り上げられている問題、このアンケートにあった問題がいつ自分にふりかかるかもしれないので、正しい知識は身に付けていようと思います。また、子どもにも人権を尊重する大切さは伝えたいと思っています。(30代・女性)
- ・ 普通の状態であるときは人権が尊重されていると思うが、そうでない状況になったときに人権が無いと自分で思うことがある。普通とそうでない状況の違いが何かというところがあるので書きませんが、それぞれがかかえる問題により人権問題になると思います。特に取り組んでいることは無いが、人の気持ち、状況を理解することができる人間なら人権問題にならないと思う。やはり小さい頃の育てられ方が大人になって表れてくるんだと思う。(50代・男性)
- ・ 各自の思いやりで変化すると思う(70代以上・男性)
- ・ 子どもも私も普通に暮らしていると人権教育と言われても退屈な時間でしかない。人権がどのようなものを指すのか。人権が尊重されていないとはどのような状態を指すのかをまず知らせる必要があるのだと思う。いつまで経っても身近なものではなくTVやニュースの中の話でしかないと思う。(40代・女性)
- ・ 女性の問題、障がい者の問題、外国人への問題と分けずに、個人を大切にするという人間として当たり前ができない人がいるから問題になる。当然男で障がいもなくして日本人でも人権が侵害されていることはあるのですからそこでもう行政に差別されているように思う。救いがないと感じる人だっているかもしれない。個人、他人の価値観を尊重し個性をつぶさず相手のことを大切に思う考え方が身につくように教育するのではなく促してほしい。偉い人が言うから逆らえないというのもよくない。自分の意見を言えて上下の関係なしに対話できること、議論できることが人権尊重と差別徹底への第一歩であると思う。(20代・男性)
- ・ 押し付けではなく自分で考える学習がよいと思う(40代・男性)
- ・ 偏見を押し付けられなくなったとき。相手に女、夫、妻、部落出身などのレッテルを貼らずに1人の人としてみるのができたなら相手のことを否定することは無くなると思う。(10代・女性)

- ・ メディアで人権問題が取り上げられている番組などを目にした時はその問題について夫婦で話し合ったりしています（子どもはまだ幼児のため）。日々の生活が忙しいため自ら進んで人権問題と向き合う余裕はありませんが日々生活をしている中でメディアであったり外出した際に自然と人権問題に触れる機会があればよいなと思います。人権問題には興味、関心はあります。（30代・女性）
- ・ 人権問題は取り組みにくい上、今の地域との関わりの薄さではなかなか難しいと思います。まず家族の中で一人ひとりの人権を尊重することが一番最小、最大の課題だと思います。そして子ども会、地域、学校と小さいことなどから取り組んでいかないと講習会、講演会と言われてもなかなか参加しにくいと思います。小さい子、大人、障がい者のふれあいが身をもって体験することが大切なのかなと思います。今義母の介護の最中毎日向き合っていて、けんかもしますが一生懸命に接していると少しずつではありますが話も通じてくるように思います。離れていては何も起こりません。そばでふれあうことだと思います。体験することだと思います。（70代以上・女性）
- ・ 人権が尊重されている場においては特定個人がその生まれ育った環境等に関係なくその個人によりもたらされる行動の過程が結果その個人の持つ能力が正しく評価される場が私にとって人権が尊重される場であると思っています。しかし度が過ぎた能力主義による新たな差別が生み出されるという可能性があるということもあり、それらもケアできるという場合が人権が尊重されていると感じることがあると私は思っています。また一人ひとりが人権問題に関心を持つためには書を読んだり講演会に行くことも重要ではありますがそのようなことを押し付けずその人の自由意思において学んでいくことが大事であると思っています。（20代・男性）
- ・ 心から笑って過ごせるときが皆にとって人権が尊重されているのではないかと考えます（30代・女性）
- ・ 人権について関心を持つためには、子どもの頃から家庭や学校などで他者への思いやりや多様性への理解を学ぶことがとても大切であると考えます。（30代・女性）
- ・ 「人権」という言葉を意識せずに日々過ごしていることが尊重だと思います。（30代・男性）
- ・ 他者を尊重すること（40代・女性）
- ・ 人格・個性を認めることが、人権を尊重することだと思います。一人ひとりの自覚がいりません。その立場にならないと考えるのが難しいですね。いつもその人の立場に立って考え、行動していきたいです。（70代以上・女性）
- ・ 人権を守るには、憲法九条を守らなければならない、と強く思います。（70代以上・女性）
- ・ さまざまな立場の人、考えを持った人がいるので、すべての人が理解し合うことはすぐには難しいですが、さまざまな考えや立場の人がいる、ということを知ることがとても大切であり、人権問題解決についての第一歩になると思う。（30代・女性）
- ・ 常に自身の行動や言動が強制や押し付けになっていないか考えながら生活していくことが大切だと思います。（40代・男性）

## (2) 学校教育

- ・ 人権が尊重されていると感じたことはないが、尊重されていないと感じることもあまりないので、それが普通の感覚だと思う。誰もが普通の生活を送れるようにするためには、「人権が尊重されている」ということを自ら知る必要があると思う。小さい頃から家庭や学校などでもっと「人権」について教育すべきであると思う。「人は皆、一緒でない」ということを教えるべきだと思う。(30代・男性)
- ・ 子どもには、人にやさしく、外見で判断しない、悪口を言わない、へんなあだ名をつけないなど、教えているつもりです。子どもたちが笑顔で保育園や小学校から戻ると、人権が尊重されていると思います。最近、小学校のトイレが改修されましたが、子どもが「男子のは個室に入るとうんこつてばれるからいややねん。」と不満を行っていました。言われてみれば、男子も全部個室でもよいですよ。些細なことですが、お腹が弱いうちの子の人権、守られるか考えてしまいました。あと、私の職場は何年働いても時給が上がりません。正当に能力が評価されていないと感じます。人権に関係あるのかどうかわかりませんが、認められていない感があり、悲しくなりますが、訴えようもありません。(40代・女性)
- ・ 身近では、園や学校での人権教育は、充実しているように感じる(子どもの発言より)。ただ、全国的には、特にテレビ、インターネットなどマスコミが発信する情報に偏りがあり、過剰に擁護したりバッシングしたり、生きづらい世の中になっているように思う。(40代・女性)
- ・ 普通の人々が普段の生活で人権について意識することは少ないように思う。ですから、子どもの頃に学校等でしっかり理解できるようにすることが大事だと思う。大人になって、自分が人権問題にぶつかった時、対応、相談できるように。(30代・女性)
- ・ 私が小学生の頃は、学校全体が熱心で、道徳の時間にいろいろ教わっていたと思います。あのころは教わったから、普段の生活の中で何気なく知る人権の情報(TVで事件がとりあげられたり)をキャッチすると、一瞬でもそのことについて考えたりします。教わっていないと、情報をスルーしてしまうと思います。関心を持つためにはまず土台作りから。子どものころに教わる機会があるとよいのではと思います。(40代・女性)
- ・ 子どもは学校で道徳の授業があり、いろいろ学んでいると思いますが、今のところ家庭内でその話題が出たことはありません。まずは身近な家族間で人権の話が出るような環境づくりや学校等からの働きかけが、必要なのではないのでしょうか。(40代・女性)
- ・ 人権問題は、幼児期からの学級での学習が大切だと考えている。(70代以上・男性)
- ・ 誰もが持つコンプレックスと同じように、人と異なるということを相手が理解して波風たてない時、人権が尊重されていると感じます。当方は子どもがいるため、よく会話に、「あの子は〇〇ができないから」など、子どもがみたり、感じる違いが上がります。家では、親の意見を聞いた上で考えてくれているようです。とてもやさしい話をしてくれたりします。なので、子どものころに理解を深めてくれることは大切だと思います。学校教育でいろいろ教えてもらえるのは、とても望ましいと考えています。(40代・女性)
- ・ 子どもには小さい頃から障がい者については教えていますが身近に人種に関する差別等がない(都市と違って外国の方が少ない)ため、どのような差別なのかわかっていないと思います。学校でそのような差別等あまり教えていないのではないのでしょうか。(50代・女性)
- ・ 学校での話を子どもから聞きそのことなどを話したり子どもと考えや思いを出したりするような会話を心掛けている。(30代・女性)
- ・ 子どもが自主的に人権を学ぶことは現実的に難しいと思われるので授業内等で等しく学ぶ機会も増やすことはよいと思います。子どものときに学んだことは大人になっても忘れないと思うからです。(30代・女性)
- ・ 学校において教育指導、いじめについてもっと教師、学校側は考えるべきだと思う。(20代・男性)



- ・ 人権問題は難しい。ある程度学校等で話しを聞いたり、その方たちとふれあったり（障がい者等）、みんな一緒なんだという事を小さい間から何らかの形で伝えるなどはとても大切だと思う。家庭ではなかなか話し合えない部分を学校等でできちりと伝える。中・高でもそれは大切だと感じる。貧困、特に子どもの貧困については、地域ぐるみで取り組めるのが望ましいと思う。イメージ的に大阪などは進んでいるように見えるが、奈良の方はまだまだ伝わってこない様思う。子ども食堂等、役所や地域がもっと取り組むべきだと思う。（未記入・未記入）
- ・ 障がいのある人が、スーパーでかごの整理をしていたり、パン屋で働いているところを見たとき。高校で人権の授業があって、そのおかげで勉強することができたので、学校での人権についての授業は、これからも必要であると思います。（10代・女性）

### （3）家庭教育

- ・ 侵害されたときにはじめて、今まで尊重されていたんだと実感するように思う。無関心は怖いと思うが、あえて声を上げて尊重するように訴えるのも強制されているようで、それでよいのかなと思う。小さい子を持つ母親としては、十人十色いろんな人がいてよいんだよということと、困っている人には自分のできることをしてあげて、と教えていこうと思う。（30代・女性）
- ・ 自由参加できる場所。（フェスティバル、公開講座など）に参加できる時。私は子どもを産んで間もない（と言っても一年強ですが）小さな頃から教育することが大切だと思っているので、子どもには「いろんな仕事があるんだよ。働くってすごいんだよ」と教えています。子どもには汚い仕事や辛い仕事などに関わっている方にも尊敬の念が持てるような差別をしない大人になってほしいと思っています。（30代・女性）
- ・ 相手を理解しようという気持ちを育むことが大事。世の中にはいろいろな人がいて、多様な生活や考えを知り、認められる人を育てる家庭や学校教育を推し進めてほしい。（60代・女性）
- ・ 今現在尊重されていると思う。特に家庭で人権について取り組んだ事は無く、考え方は年代によって違いがあるとも感じます。各家庭では偏りが有る場合もあるので、いろいろな考え方が有る事も尊重しつつ、子どもや保護者には学校で、社会人には職場で、定期的に必要な知識を有識者に教えていただく機会を持ち、自然に広めていくのがよいのではないかと思います。問題が起きた時、相手の立場に立って考え、相談して解決したい。（50代・女性）
- ・ 「人権」を考えると幅広いのですね。子どもたちには「差別」についてかなり話し合います。先日はパラリンピックを見て最近ではテレビのジャンクスポーツに健常者と非健常者（こんな呼び方でよいのかわかりませんが）と一緒にテレビに出ているのを見ました。もっと世の中が例えばドラマなどに車いすの子がいてもよいと思います。差別のない世の中になればよいと思っています。「何も思わない」というのは、そのようなことです。個人として見る。腕がなくても足がなくても「かわいそう」と思うこと自体“エゴ”ではないでしょうか？と子どもたちに教えています。（40代・女性）
- ・ 人権、人権とさわぐと、それをふりかざす人が出てくる。さわぐべきだとは思わない。道徳教育、家庭での教育に任せるべきと考える。（50代・女性）
- ・ 家庭での教育が何より大切だと思う。学校で上から押し付け教育しても育つものではないと思います。（40代・女性）
- ・ 日常生活において、権利を行使できること。その際、第三者からの制限、圧力等がないこと。家庭では、テレビを見たり、子どもたちの学校での様子を題材にして教えたり、確認し合ったりしている。人権問題は認識不足によるものが、大半だと思う（自分もそうだが）。子どもの頃から正しい知識を得ることによって、正しい認識を持った大人になり、差別のない社会になるのではないかとと思う。（40代・男性）

#### (4) インターネット

- ・ インターネットやSNSの普及で無責任な発言をする人がいて、人権が必ずしも尊重されていると言いきれない。地域社会や職場での啓発活動に積極的に参加し、もっと関心を持ちたいと思った。(50代・男性)
- ・ インターネットによる人の批判。犯罪被害者のプライバシーのマスコミ対応。マスコミによる人への攻撃。(60代・女性)
- ・ インターネット社会になり、世間とのつながりがなくても個々で「つながりたい人とだけ」「同じ意見を持つ人だけ」とつながれるようになり、地域や学校や会社で今まで“あたり前”だったことが変化しているように思う。「よりよい社会を目指し〇〇をしましょう」→「どうしてそのような面倒なことをしなくてはいけないんだ。任意なら強制するな」というふうに。個人の人権の尊重がうるさく言われるようになり、逆にせちがらい世の中になってしまってるなあ実感します。もっと温かくやさしい世の中にするためには、幼稚園～中学校でしっかり取り組みが必要だと思いました。難しいでしょうが。(50代・女性)

#### (5) 家庭や地域での取り組み

- ・ 世の中が慌ただしく忙しいせい、皆が自分や自分の家族のことだけで精一杯で、人のことに構ってられない感じが、いろんな公共の場でのマナーの悪さ等々を見る毎に思い、感じます。どうしたらそれを改善することができるのか、ルールやマナーを知って、行動してもらえるのか、それしかないような気がします。(60代・女性)
- ・ 家族同士で会話をし、食卓をなるべく共にする。(10代・女性)
- ・ サークル活動、ボランティア活動、自治体活動などで、多数の人たちと争いなく、心穏やかに過ごすことができたとき。相手を思いやること、相手の立場に立って考えること、これが基本的なことだと思う。子どもが小さい時からの家庭教育は大切だと思うし、まずそこからスタートだと思う。世界平和にも、そこからつながっていく。(70代以上・女性)
- ・ 差別的な言動を見聞きしないとき。家庭内で差別的な言動は言わない。(70代以上・男性)
- ・ 夫婦二人で生活しているので、新聞などで読むくらいで、あまり感じない。生駒市にも、こども食堂があれば、支援したい。(60代・女性)
- ・ 「人権」というと少し難しく考えてしまうが、子連れで出先で困っていると、地域の方が笑顔でさっと手助けしてくださったり、「いいよ」「大丈夫だよ」と笑顔で言ってもらえるだけで、ホッとしたり、自分も、子どもも、ありのまま受けとめてもらえているんだと、温かい気持ちになる。改めて、助け合って大切だなと感じ、自分もまた、困っている人がいたら助けたいと思える。そのような連鎖が、みんなの笑顔につながっていくのかなと思った。(30代・女性)
- ・ 家庭、社会、地域の関わりの中で個人として精一杯生きてこられたと思う時で、今ではテレビや新聞等で意見をぶつけている。現実の厳しさも理解、対応できる人間になることも重要と思う。(60代・男性)
- ・ 家族間で何かをした際に「ありがとう」と言われるときに、人権が尊重されていると感じます(食器を洗ったときなど)。(30代・男性)
- ・ 家庭や学校、職場での教育や広報などを充実させる。実際に自分が被害者や人権を侵害されないと関心を持たないものだと思うが、まずは知ること＝知らせること、が大切だし、第一歩だと思う。被害者支援の機関や相談方法などを知らせることから始めることから実際の支援活動につながっていくのではないかなと思う。(40代・女性)
- ・ 住んでいる地域では人権が尊重されていると思う。市役所側も人権の問題によく取り組んでおられると思います。(70代以上・男性)

- ・ 地域での取り組みはわからない。自ら進んでは考えていない。(単に思い付きで行うことはある)  
(70代以上・男性)
- ・ 社会的弱者への思いやりが大切。人権問題解決は、理念的、啓発的教育、周知も大事だが、具体的な施策を通じて社会に浸透させていくのがよい。その環境を体験することで人権意識は高まっていく。人権意識の有無高低は自分だけではわかりづらい。高い事例(例えば先進外国の例)、具体的な他地区、他団体との比較等で改善がわかってくるもの。それらの例をよく学び、行政、教育、マスコミで社会に広げるべきと思う。(70代以上・男性)
- ・ 家庭→「自分がされて嫌なことは、人に対してしない」、このことが、他人に対しての人権を守ることになる。自分が聞かれて嫌なことは、他人に聞かない(プライバシーを守る)。我が家では、幼稚園の時から言い続けています。幼稚園、小学校、中学校でも指導いただいていますし、PTAでも、親に対しての話もあります。学校での指導を続けてほしいと思います。(50代・女性)
- ・ 学校と地域が1つになって子どもを育てていると実感できるとき(20代・女性)
- ・ 公共の場において、障がい者、高齢者、小さなお子さんなどが快適に利用できるよう、さまざまな工夫、配慮されている物や取り組みを見る時に思う。最も基本になるのは、家庭内におけるお互いを大切に思いやる心。愛。夫婦の間、親子の間における思いやり。心豊かな父や母を育てるためにも幼ない頃から教育者を通じて(道徳教育など)行うことも大切であろう。(50代・女性)
- ・ 学校や職場での人権教育が大事であると思う。(20代・男性)
- ・ 人には個性があるので、一人ひとりがその一人ひとりの個性に偏見を持たず、受け入れ、理解する必要があると私は思います。私の家では家族全員でテレビを見る機会が多いので、1つ1つのニュースの事件などに関して、家族とのコミュニケーションも兼ねて、意見を言い合っています。(団らん)。誰しもが潜在意識の中に必ず「思いやりの心」をもっていると私は考えているので、地域で人権への関心を深めるためには、様々なボランティアのポスターやチラシの配布をすると、それに関心を持つ人が増え、色んな個性を持った人と関わる機会をつくれると思います。私もボランティアに関心があるので、ぜひ身近にボランティアや幅広い世代が交流できるような楽しいイベントの場を設けていただければよいなと思います。私以外にもそのように思っている方が他にいらっしやると思うので、よろしくお願い致します。(20代・女性)
- ・ 地域安全推進委員の任に就き、特に下校時の子どもの安全や人権を守ることの定期的パトロールを実施している。高齢者や貧困者への支援がプライバシーの侵害にどの程度まで許容されるかがネックであると考えます。老若男女を問わず、人権問題に悩んで救いを求める人に対しては、個人的にも組織的にも手を差し伸べることは可能ですが、我慢して耐える人に対しては如何なる対応も出来ません。これらの人々に対しては地域毎に常日頃の近所付き合いを深めていくことが肝心と考えます。(60代・男性)

## (6) 人権、男女・共同参画全般

- ・ PTA の人権問題の講座の参加について：なぜ女性ばかり参加させられますか？PTA の役員は女性ばかりなのです。男性の参加も検討してください。(40代・女性)
- ・ フルタイムで働きはじめた1年半前から、自分一人の力で家事をこなすことはきつく、家族（夫、長女（今20歳）、長男（今18歳））に、洗濯、食器洗い、自治会会合、回覧版まわし、洗車等を少しずつ参加してもらった。女の人がいなければならない、という考え方は捨ててもらい、一緒に一つ屋根の下に生活している者が協力してやろう。と呼びかけて、今も分担して行っています。家族が自ら進んで家事をこなしてくれて、私自身が気持ちにゆとりがもてている時、大げさかもしれませんが、人権が尊重されているなど、と思います。男だから、女だから、長男だから、長女だから、こういう考えは私自身すごく嫌ですので、子育てする中でも気を付けてきたつもりです。今、こうして、毎日安心してくらせていることに感謝しています。(40代・女性)
- ・ 女性が働きやすい労働環境を整える企業の動きをみると、そのように思われます。ただ、それはビジネスでの勝機であると考えている面が強く、人権尊重という点から言えば、疑問符が付くものです。人権に関する考え方は、その人の思想のようなものであり、一朝一夕に変えることができるものではありません。こういった動きが増えて行っても、なかなか変わるのには時間を要すると思われれます。変えていくには、人権について考える機会を増やすことではないかと思えます。子どもであれば教育の現場に、大人であれば仕事の中にその問題を組み込む。機会を増やすことで意識が高まっていくこととなります。例えば、人権について素晴らしい取り組みをした企業を表彰し、大々的に宣伝するというのは方法の1つではないかと思えます。また、注意すべきなのは、人権に対し、意識を高めることが重要なのであって、特定の考え方が正しいとすることではありません。世間がダメだということからでは意味がありません。メディアの発言、ネット批判を見ていると、どうも安易に批判してしまっている気がします。各々に人権に対する考えが備わることで、意見は深まっていきます。安易な発言は、次の人権侵害を生み出すことにしかありません。考え方を広める場だけでなく、意見を話し合える場も必要なのではないかと思えます。(30代・男性)
- ・ 人権について深く考えないのは、いままでそれ程人権のことで被害を受けてことが無いかもしれません。それだけ自由に暮らせたのかも。でも、昭和の頃に比べれば、今の女性にはいろいろな可能性があり、うらやましく思います。会社でももっと責任のある仕事ができれば、もっと違った生活があったかも、また、それで今よりも幸せに暮らせたかはわかりません。今よりも悪いかもしれません。(70代以上・女性)
- ・ 私は専業主婦ですが、「女性が社会で活躍する」今の時代、働いている女性はえらいのか、パートに出て共働きしている夫婦がえらいのか。働く女性が増えていることは事実ですが、そのおかげで、専業主婦をバカにする風潮もあります。「女性が子育てをして当然」だと悪いのでしょうか。「子育てばかりして疲れないのか」そのように言われ、傷ついている専業主婦もいます。昔は女は家庭で男は外でお金を稼ぐ、という時代だったばかりに、今は女が外に出て働いていないと、「楽をしている」と思われます。好きで外で働く女性が多いのになぜでしょう。女が社会に出ることを手助けする社会（政府）も素晴らしいですが、女が家庭を守る昔ながらの風潮も大事にしてほしいです。小学2年生の子どもが1人いるので、まだまだ手をかけて育ててあげたい一心の女は、考え方を変えるべきなのか。決して専業主婦も楽じゃないのに、バカにされがちです。そのような世の中を変えてほしいものです。(20代・女性)

- ・ 他人が私の権利が侵害されていることについて、怒りや懸念を表明してくれた時。人権侵害というのは、案外当事者にとっては気付にくいものではないかと思う。周囲が「それおかしいよ」「もっと〇〇であるべき」と声を上げてくれると、自分って大切にされているな、と感じることにつながるように思う。我が家は、夫が主夫で妻の私が外で働く形を選択しているので、常日頃から子どもたちには、「男だから」「女だから」という古い性別役割分業の考えに縛られることなく、相手を尊重する気持ちを土台にした人間関係を築くことの大切さを伝えているつもりである。昨今では、権利には義務が伴うということが強調されすぎているように感じる。基本的人権は、特定の義務を果たした者に与えられるという類いのものではないはず。果たすべき義務はもちろんあるが、まず互いの権利を尊重し合う態度を身に付けるべきではないか。そして、権利を主張する側になる際も、誰かに何とかしてもらおうことだけではなく、自分の描く理想の社会に近づくために、自分に何ができるのかを考える視点を大切にしたい。(30代・女性)
- ・ 女性が社会進出してきたこと。人権尊重をうたわなくても人権が尊重されるというのが当たり前、全ての人が平等に暮らせる世の中になってほしいです。(30代・女性)
- ・ 人権とは一人ひとりの個性を尊重し、出身、家柄、学歴等で社会的な不利益を受けないことだと思います。このアンケートで少し気になるのは男女の就労に関する間ですが、私は男と女は体のつくりが違うわけですし、できれば男は男の役割、女は女の役割をもって社会を構成することがよいと考えています。決してどちらが上など下などそのような考えではありません。もう一つ外国人の参政権についてですがこれは人権の問題にあてはめるのはおかしいと思います。日本は日本の国益と文化を守っていかねばなりません。今の国際情勢を見ていると賛成することはできません。(50代・男性)
- ・ 正直人権が尊重されていると思うことが私の周囲ではあまり感じられません。電車でも女性専用車両はあるのに男性専用車両がなかったり社会でもまだまだ男性の方が有利だったりするのでそのようなのを無くしたほうがよいのかと考えます。そのためには当事者の話を聞いて交流を深めたり相談したりなど取り組んだ方がよいのかと思います。(30代・女性)
- ・ 高齢の方が、女性が働きに行くことについてなぜ働きに行くのかとおっしゃることが理解できません。これからの社会を考えると働かないと生活できないので働いているのに。以前、私が住んでいた地域では女性が働くのは普通のことでしたので大変おどろきました。(40代・女性)
- ・ 職場において特別男女差別は感じないこと。男女、年齢に問わず平等に健康、回復のための活動をしています。地域活動、ボランティア活動に取り組んでいます。(60代・女性)

## (7) 同和問題

- ・ 部落問題一辺倒だったころに比して、幅広く、偏りのない社会状況になったことは好ましい。行政が、特定の運動団体等に特別な配慮をすることがないよう期待する。憲法を暮らしの中に生かすような取り組みを期待したい。(60代・男性)
- ・ 私たちの世代は親から部落問題等教えられています。その故、教育の力は偉大です。子どもの頃からしっかり教育すべきと思っています。次の世代に引き継がれるからです。(70代以上・女性)
- ・ 同和問題は知らない親子が多くなっています。学校で無理に教える必要性はなく、自然に風化させるのも方法の一つではないでしょうか。知らせて差別の種を増やしているように思います。(40代・男性)
- ・ 人権が尊重されていると思うときは自分に関わる何かを新しく始めるときなどにどうしたいか、どうすればやりやすいか、どのくらい参加できるかなどの意見を組んでもらえるとそう感じます。私個人の考えですが同和問題や風評被害などについては知らなければ差別のしようもないですから必ずしも情報が風化したり忘れられることは悪いことではないかと思っています。(20代・女性)

## (8) 障がい者

- ・ 日本は、諸外国に比べて、社会的弱者の人権は守られていると感じています。自立できない重度の身障者等への支援は、さらに厚くしていくべきであるが、差別を利用して被害者を装い、ビジネス（いわば飯のタネ）にしている人たちを見極めるための施策が必要と考えます。(40代・男性)
- ・ 身体障がい有するため、活動ができません。(60代・男性)
- ・ うちにはダウン症の子ども(4歳半)がいます。療育手帳をもっていますが、外出すると親の近くにいないと、自分の思う方へ歩いて行くため、いつも手を繋がないとダメだし、自分の思うようにならないと座り込むため、目的地へ行くには、抱っこしないと進めません、ですが、テストでは、興味のある積木やおもちゃを出されて、座っていることができるからとAの判定は頂けず、B判定で、ほとんどの福祉が受けられません。また、療育手帳の判定からいただく特別児童扶養手当も、親の収入の上限があり、2年前からストップされてしまい0円です。ダウン症は親が高齢で産んだためになる確率が高い病気で、主人も今年51歳です。50歳超えれば、普通に働いていれば超えてしまう所得制限。20代の親と50代の親にその制限に差はありません。あと9年で定年。今、老後の蓄えをしないといけない時期に、目が耳が足がと子どもの病院や装具に大金が要り、通所施設にも使い、手当さえあればと毎日悩み暮れています。老後破産目前です。(40代・女性)
- ・ 私は障害者手帳2級をもっていますが、携帯料金が少し安くなるぐらいで(あまり出かけないので映画や美術館は行きません)、手帳をもって障害者認定されているだけだな、と少しむなしくなることがあります。勝手に言いますが、もう少しサービスがあれば助かるのですが、これは人権問題にはならないでしょうか。自分自身のことが一番身近だったので書かせていただきました。(40代・女性)
- ・ まだまだ障がい者に対する目があり、日常生活する中で困っている方を見かけたら、進んで自分ができる手助けをやっていけたらと思います。(60代・女性)
- ・ 日常生活において何事にも、また、誰にも束縛されず普通に生活できる時、人権が尊重されていると感じます。“言論の自由”と言われている昨今、人の事について行き過ぎた発言をよく目にしたり、聞いたり致します。何気なく言っていることが知らないうちに人を不愉快にさせているかも知れない場合があるかもしれません。自分自身の発言や行動に気を付けて過ごせて行けたらと思っています。障がい者の方の社会への進出は大変よいことだと思います。駅などで車椅子の人が一人で行動されている時、係員の人が手助けされている光景をよく目にしております。今までは、余り人に対して気に留めていなかったことも多く、これからはできるだけいろいろなことに関心を持ち視野を広げて日々生活していきたいと思っています。(70代以上・女性)
- ・ 障がい者に対して地域等で偏見を持たないような環境づくりが出来たら幸せに思います。(70代以上・女性)
- ・ 生まれつきに障がいがある方に子ども、孫があった時、またそばにいらっしゃる時は差別せず、人にやさしく、また困っている時は手を差し伸べる、また別の人からイヤな事を言ったりしたら、注意できる人間になりなさい。「人に言われて、イヤなことは絶対に言わない」と子ども、孫に小さな頃から言い聞かせてきています。(60代・女性)
- ・ 障がい内容を理解したうえで様々な対処とした上で接してもらえる時が主にそうだと感じます。(20代・男性)
- ・ 私は病気で足が不自由なため、車いす生活で、いろいろな方に助けていただいています。例えば、ゴミをまとめて、決まった日に出すのは隣の奥さんに出していただいています。ですから、生活能力が低くお世話になることばかりで、ことさらとりたててお伝えするような人権問題はなく、幸せなことに、日常を過ごしております。今のこのような状況に感謝しています。(70代以上・女性)

- ・ 本当に伸び伸びと過ごすことができる（人に迷惑をかけない範囲で）とき、人権が尊重されていると感じる。発達障がい者の就業サポートを充実してほしい。発達障がいの病院の混み具合がひどい。2か月待たないと受診できない。行政のサポートがほしい。例えば、学校で検査が受けられるなど。（40代・女性）
- ・ 人権問題について。日本は人権問題について相当遅れていると思う。精神病棟では身体拘束が常時行われている。去年だったか、ニュージーランド人男性が精神病棟に入れられ拘束されて死亡したこと。日本での報道は一切されていなく米国在住の娘から聞きやっと知ったこと。その英語教師の男性は言葉が通じないこと、勝手に拘束されてさぞ感情を害したに違いない。それで暴れてもっと拘束されてということで死亡されたと思う。拘束が今も日本標準とされているが文明社会でもっと人格尊重が徹底されていて日本も文明社会だと思って来日したに違いない。また一般病棟でも私の祖母が車いすごと廊下の手すりに縛り付けられていたこと。あちこち手を出し物を触ったり動いて階段から落ちて骨折予防のためだと言うが果たして拘束が許されているものか疑問に思っている。人権ということを考えて人格を尊重が日本では徹底されていないと思う。（60代・女性）
- ・ 私を理解し受け入れようという意思が伝わったとき、一人の人間として見てくれているんだと感じ安心する。人権が尊重されていると感じる。私が障がい＝個性と感じられるようになったのは今年3月の施設実習からである。以前は障がい＝未知（知らない、怖い）という考えをもっていた。実際に障がいをもっている方々と関わり理解を深めたことで考えが180度変わった。私だけではない、同じように障がいをもつ方々と関わりをもった友人も変わったと言っていた。どれだけ教科書や講義で障がいについて学んでも実際に会い関わらないといけないと感じた。それも一日だけでなくできるだけたくさんの日数。教科書の文字を読んだり話を聞くだけでは理解は浅い。もっと真剣に向き合い障がいをもつ方々やその家族を守るために地域の中で関わりをつくってほしい。（20代・女性）
- ・ ここ数年病気がちで入院生活が長く、地域社会とのかかわりが薄く、これといった意見を申し述べる程のことはありません。ただ、身体の一部に障がいと同等の状況が生じていることなどから、身体障がい者の立場になって考えることはあります。（60代・女性）
- ・ レストランなどで障がいの方が健常者と一緒に働いておられるのをみる時など嬉しくなる。人生において、いつ運命が逆転する時が来るかもしれない。どちらの立場でも、お互いに運命を共有できるよう、人権問題を飛び越え、お互いに思いやり、大切にしよう（愛）を持ちたいものだと思う。（30代・男性）

## (9) 高齢者

- ・ 近頃の老人デーサービス、児童デーサービス等の増加は喜ばしい。(家族の精神的負担が少なくなる) (60代・女性)
- ・ 高齢者の独居が増加の中、私どもの近所だけでも問題がある家があり、対処の方法がわからないと家族が困っている状態で、認知力低下による問題は大変今後とも大きな課題で、速急に方法を考えなければならないと思います。近所(私どもの家にもですが)に、物を預かってもらっているはずだと言ってくる。近所に、「やかましい」と包丁をもってやって来る。道で転倒し、動けなくなっている。行方不明になる。火災を起こす。最近ここ1年だけでも、身近での出来事です。介護福祉士、支援専門員であった経験者の私でも、手を差し伸べるには大変な事例ばかり。友人・知人も相談にのってほしい。どこにどのように相談をすればよいかわからない。これが皆の声です。経験者の私どもでも各々対処も対応も違うことや、自分の家族のことも仕事をしながら両親の面倒も見ながらですので、皆のすべての力になることができかねる状態。介護保険料を取るのであれば、見合った、わかりやすい、本当に困った方へのサービス提供、情報を考えてあげてほしいです。近所からの通報も「本人さまの話がなければ動けない」、この言葉で生駒の実態が伺えます。知人の沖繩では、すぐかけつけ対応する、近所の方の通報前に気づけなかったことをおわびします、と、とても心のこもった言葉で救われたという方もいます。今一度考えていただきたいです。(40代・女性)
- ・ 独居老人の多い所と老老介護、自分の親は、子どもたちがすすんでみてほしい。必ずあなたも歳をとります。目の前のこともできず、何が全体のことができますか。(60代・女性)
- ・ 老後のことを考え思うと不安になるときがある。お金のこと、健康のこと、収入もなくなり実際生活していけるか近所づきあいや友人等そして環境等誰とでも情報が交わって孤独から社交等考えて今までの人生を振り返って楽しく老後を過ごせたらよいと思っています。人の役に立つそしていろいろな勉強等ができて充実した生活を人として過ごしたい。しかし現実には老後の生活面、特にお金が不安です。病気になったり消費税があがったり、固定資産税いろいろと必要な必ず支払わなければならない経費等年金生活になっていく不安でいっぱいです。心の豊かさが人として他人への思いやり等につながっていけるのかなと思っています。税等に追われ不安に圧されて人権問題等を考える難しさを感じます。(60代・女性)
- ・ 街づくりは一番弱い人を基準に考えるべきだと思います。私は高齢の母を抱えています。医者通いするにしても大変です。少しの段差でも転倒の危険はあるし目が不自由な人はこの道を歩くの大変だろうなといういろいろ気になります。人は誰でも年を取るのでから人にやさしいまちづくりを期待します。子ども(小学生、中学生)等と関わる仕事をしています。つい先日顔にケガをしているので(女子生徒小6)どうしたのと聞くと男子生徒とケンカをしたと。韓国人と言われ自分の国へ帰れと言われたと言いました。男子生徒にいろいろ正しくないことを言っているのは周りの大人ではないかと思っています。大人の責任は重大ではないでしょうか。(60代・女性)
- ・ 介護に関して、地域でできそうな何かを考えることが大事だと思います。(70代以上・女性)
- ・ 介護施設において、送迎者の整備・点検・保険など、国や市で定められているのか。まったくされていないところがある。高齢者の看取りにおいても、本人・家族のあり方について、もっと最期をどう生きるか、大切に考えていただきたい。「命」というものに対し、軽い気がする。(50代・女性)
- ・ 高齢者が入れる施設が少ない。老人ホームが高い。(40代・女性)



## (10) 女性問題

- ・ 人権を勉強したほうがよいと思い、宅建業人権推進員の講習を受けて認定証をもらいました。好奇心や興味本位な心もありましたが、研修が終了したときには、思いやりの気持ちをもって人権を尊重できる人になりたいと思いました。その後、子どもに対する夫の暴力で、離婚して、私自身が少数マイノリティになりました。生駒市にひとり親家庭医療費助成していただいて、おかげさまで、生活保護や母子家庭手当を受けずに、パートの収入だけで、息子二人を育てることができています。ありがとうございます。息子たちを育てて、将来困っている人たちを3人で助けることができるように頑張ります。(40代・女性)
- ・ 自身が独身者ですから感じるのですが、たしかに子どものいる家庭に手厚くサポートすることで今後の将来が保たれているのかもしれませんが、単身者に対するサポートが何もないと感じます。女性だと賃金も安く、暮らしていくのが精一杯。尊重されていると感じることはありません。単身者についても何かしらのサポートがほしいです。子どものいる家庭との差が大きい。もし無理なら皆平等に何もしないしてほしい。(未記入・未記入)
- ・ 一人の男性としてセクシュアルハラスメント等、性に関する問題に関しては真摯に向き合いたいと思うし、自分は絶対にそのようなことはしたくないと強く感じているが、セクシュアルハラスメントの対象となる言動が多すぎ、かつ被害者の主観で決まるので、普通に人間関係、友人関係、恋愛関係を築こうとしても、該当するのではないかと混乱してしまうことがある。どのような行為がセクシュアルハラスメントにあたるのか、相手にセクシュアルハラスメントと感じられているか確認するためにはどうしたらよいのか等、セクシュアルハラスメントを事前に防ぐための講習会等をもっと開催してほしい。またあまりに過剰にセクハラだセクハラだと騒ぐと嫌悪感を煽ってしまいがちなので、守るべきことは全力で守りつつも、いたずらに騒ぎ立てるのではなく、冷静かつ真剣にセクシュアルハラスメントに対して取り組んでいくという雰囲気をつくってほしい。(10代・男性)
- ・ 人権が尊重されていると思うとき、とは常に意識して生活しているのでしょうか？女性差別はどのようなのでしょうか。セクハラ問題についてもそうですが、日本は外国に比べて遅れています。また、うわさ等なども日本文化の特徴だと思います。このアンケートでどのような取り組みをするのですか？(50代・女性)
- ・ “人権”という言葉は、本当はとてもすばらしいものだったのに、使い古されてしまったのか、この言葉がついていると、ちょっと参加をためらってしまいます。少し違ったアプローチの方法があってもよいのではないのでしょうか？この間、飲み会で居酒屋に行ったとき、自分はい料理の皿をまわしたり人にビールをついだりするために、気を使っていることに気づいた。男性陣がそのようなのはやめよう。と言って、気を使うことなくすごく楽しめた。体にしみついた“女はこうあるべき”がまだまだいっぱいありますね。(40代・女性)
- ・ 私自身では、結婚・出産・育児の中で仕事をさせてもらい、育児休業等はとても権利を守ってもらったと感じたことです。少子化で子どもを産みにくい環境であったり、仕事に戻るための制度があると、社会のために求められていることができると、充足感を味わうことができます。働いてはいるけれど、子どもを複数もって両立できることはありがたいことです。また、子どものこともですが、未来思考で考えると、LGBT、障害者、同和、外国人等も、少数ながら悩んでいる人がいるならば、相談できる窓口が気軽にあればよいのではと思います。(未記入・未記入)
- ・ 私が買い物の際、2・3回ストーカー行為の感じがした。その間回覧板をポストに入れなくて、車で帰ってきた際手渡しで何回か渡されたので気持ちが悪くなり、はっきりとポストに入れてくださいと強く言ったので、ポストに入れてもらえるようになった。親切心がこちらの負担になるので、難しい感じを受けた。(70代以上・女性)

- ・ 身近で感じたことについては職場でのパワーハラスメントがあります。経営幹部、支店長クラスへの人権、パワーハラスメントに関する講義、研修等を行いそういった各種の人権問題を抑制する仕組みが必要と感じます。また万が一人権問題が生じた場合その加害者については社会奉仕活動を通じて社会貢献させる仕組みをつくるなど法律を制定しよりよい社会を目指してほしいと思います。(40代・男性)
- ・ 普段は当然のものになっているので尊重されていると思ったことがない。ハラスメントについては会社で研修を年1回ではあるが重ねていることもあり常に意識するようになっている。(50代・男性)
- ・ 改めて人権について考えさせられたこのアンケートでした。日本に生まれて70年間、人権に守られて幸せに暮らして来たことに感謝する毎日です。最近のニュースは政治家のセクハラ問題が多く、女性の人権が守られていないように感じる事が多くあります。海外で暮らしたことがあるので、人種差別を受けた時の辛さ・悲しみは忘れられませんので、せめては日本にいる外国人に接する時はやさしくしようと思っています。一人ひとりが少しのやさしさを持ち、相手の気持ちを思う心があれば、世の中が変わってくると思いますが。(70代以上・女性)
- ・ 今国会でセクハラ問題が毎日のようにニュースになっていますが、〇の発言はあまりにもおそまつで、セクハラに対しての低い意識は世界に向けても、恥ずかしい日本をさらけだしているようです。国のトップがこれでは、この問題はなかなか解決しないと思います。OL時代、たくさんのセクハラを受けました。その時代はこのような言葉がなかったので、泣く泣く我慢をしていたのが思い出されます。女性の地位向上に立ち上がってほしいです。だれか。応援しますから。(50代・女性)

## (11) 子ども

- ・ 幼い子どもがいます。いじめや差別をしないよう、人の気持ちに立って考えるように教えています。(30代・女性)
- ・ 特に目立って人権が尊重されていると感じることはしない。人権や尊重という大きなくくりでとらえても現実、細々と生活している者にとっては、何ら関係のない様に思う。とにかく我が子はもちろん、子どもたちが平和にらせる様、子ども個人を守ることが第一だと考えている。弱い立場にいる者が、どうか心おだやかにすごせるように。(30代・女性)
- ・ テレビで流されていることを子どもたちとよく話したりしますが、自分の意見と違うことが多いです。今の教育で、ちゃんと伝わっているのでしょうか。(50代・女性)
- ・ 子どもたちにもっと人権に関する教育に力を入れて取り組んでほしいと思います。(30代・女性)
- ・ 人権については幼い時から家庭や教育機関で日常生活や教育として指導していくことが大切と考えている。互いを人として尊重し、思いやることでかなりの人権問題は解決していくのでは。そのような国民の集まりで県や市、国がきっちりと制度を整えていくことで多くの人救われるのでは。ただ、多忙な日常生活の中ではあまりじっくり考えることはない。(60代・女性)
- ・ 特に子どもがたまたま生まれてきた家が貧しかったり虐待を受けるのは何とかしたい。(70代以上・男性)
- ・ 大家族の中で子どもにかまってあげることも少なく、忙しい日々の中、子どもを育てるのに一生懸命でした。悪いこと、よいことは幼い時から厳しく言い聞かせました。子どもたちも家庭をもち、子育ての真っ最中です。孫たちも、元気いっぱい、明るいよい子です。わたくしも子どもに見守られる立場になりました。やさしい子どもの言葉を聞きたびに幸せを感じます。厳しくし過ぎたことの辛さもあります。幼児教育の大切さを知らされます。(60代・女性)
- ・ 本などを使って、子どもと子どもの人権について話をしています。(30代・女性)

- ・ 職場の同僚や近所の人たちと親しくあいさつし、決まった仕事以外のことも一緒にできる関係があるとき。親の精神的虐待を受けて育った子どもたち二人（成人）の支援をしています。養親になることも考えています。（50代・男性）
- ・ 家庭では、テレビを見ている時など（ドキュメンタリー）、弱い立場にある人の特集を見ている時など、折に触れ子どもに話をしたりしています。子どもが中学の時にいじめにあっていましたが、相手の親御さんがPTAだったりして、強く出れず、子どもに辛い思いをさせたことを、10年以上たった今でも後悔しています。いじめの問題は、人権侵害です。特に取り組んでいただきたい第一優先課題だと思います。みんなが笑顔であふれる生駒市であるよう、よろしく願い致します。（50代・女性）

## (12) 外国人

- ・ ヘイトスピーチを外国人に対するのは問題があるとする問は不適切でヘイトスピーチは日本人であれ、外国人であれダメなはずです。（70代以上・男性）
- ・ スポーツジムに毎日のように通っていますがその中には障がいの方や在日外国人の方もいらっしゃいます。年齢もまちまちですが和気あいあいでおしゃべりしたり一緒に汗を流したりしています。それぞれ目的等は違うかも知れませんがお互いを尊重して接することが大事ではと思います。（60代・女性）
- ・ 近い将来、外国の人達と共生する社会が来るでしょう。その時にとまどうことなく、温かく迎えられる様に法の整備（条例）が必要であると思います。お客さん扱いで税金の無駄使いは許されないと。同和問題はまだまだ根が深いですが、我々子どもたち（30代半ば）は歴史としてとらえ、意識することなく、友人であり隣人です。（60代・女性）

## (13) 犯罪被害者

- ・ このたび〇の女兒遺体事件の件で、本人は仕方がないことだと思いましたが、家族（兄弟）はこれから大変な思いをするのだと思うと、気の毒だと思います。一番に殺された女兒だと思います。その家族も、なんとも、どうしたらよいのか、どう思えばよいのかつらい事件が多すぎます。（70代以上・女性）
- ・ 20年以上前のことだったと思いますが、テレビである犯罪被害者の方のインタビューを見て衝撃を受けたことがあります。その方はお子さんを殺されました。その方は、被害者は悲しみに打ちひしがれる上に、報道等によりみじめな思いをさせられると話されていました。この20年で変わってきているところもあるかと思いますが、犯罪者の人権ばかりが尊重されてきたのかなと感じます。犯罪被害者になってしまうことは、誰にでも起こりうることであると思います。それならば、少しでも犯罪を犯すような人間を減らすべきだと思います。そのためには、子育ての中で、思いやりや人を尊重する心も育ててはいけないと感じています。家庭内だけでなく小学校等にも、被害者になった方の意見を聞く機会等があればと思います。また、子どもの貧困や家庭崩壊により犠牲になる子どもたちの問題には、行政にも積極的に取り組んでいただきたいと感じます。（40代・女性）

## (14) 労働

- ・ 人権が尊重されていると考えると、同一会社内の賃金システムも同じにする必要があると思います。「営業」だからサービス残業、長期間出張を強要、出張の移動日（飛行機など）は休日ではないと怒られるなど、個人のプライベート時間を会社側が無理やりに取りられていると考えています。サービス残業（特に営業職）をなくすことは、人権が尊重する一つの考え方だと思います。（30代・男性）

## (15) LGBT等

- ・ ○私や周りの友人たちが、同性愛の友人に特に意識することなく普通に接していること。○隣近所で高齢者が増えています、安易に接しないということも人権尊重と考えています。触れられたくないということも考慮するべきだと思います。○LGBTを単に同性愛と括ってしまうのではなく、様々な19種類の形があることだけでも世間に知ってもらえたらと思います。（60代・女性）
- ・ 子どもといる時、障がいのある方や同性愛と思われる方（例えば男性が女性の服装をしている等）に対して、子どもが疑問を親に投げかけてきた時に、何も不思議に思うことはないようにしている。また、親が障がいのある方や同性愛者を奇異な目で見ず、周りの人間と同時に接することが大切だと思う。（20代・女性）
- ・ パートナーシップ制度の導入の検討（40代・選択しない）

## (16) 市行政等

- ・ 日本は保守性が強い国だと思いますので、市（公共団体）を中心に、学校機関や職場などでも、人権学習の機会を継続的に設けるべきだと思います。異なる考えにも寛容な人が増え、差別的な言動を行う人が少しでも減る社会になることを望みます。（20代・女性）
- ・ 一般の人との違いだけでいじめや差別を受けるような問題は、絶対に間違っていると思う。一人ひとりが他人の人権を尊重する大切さを学べるように政策を行っていくべきだと思う。（10代・男性）
- ・ 過剰な主張をする過激派に惑わされず、多様性を肯定できるように、教育を充実させてほしい。差別するには、それなりの理由がある場合もあると思う。例えば、分煙のように、双方の意見を酌み、摩擦をなくす方向に、対策してほしい。（30代・男性）
- ・ 人権問題なのかどうかはわかりませんが、大阪の各地を何度か引越して、奈良に初めて来ましたが生駒は住みたい町にもランキングされる町で、ウキウキしてましたが、何が驚いたかと言うと、自治会に入るのにかなりの高額がいるということでした。大阪では、自治会に入っていましたが入会金がある自治会なんてなかったので、それが当たり前だと思っていたのに、生駒ではお金がいる。それも高級クラブでも入るのかのような高額、びっくりしました。一体何に使われているのでしょうか。毎月自治会費いるのは当然だとは思いますが、入会金は訳がわかりません。ですから自治会入っていません。自治会に入っていないことで、市のことは何の情報も入ってきません。ご近所からも孤立しているのかも？（60代・女性）
- ・ 本当の自分を出しても誰からも非難されないとき。生駒市は人権については積極的に取り組んでいる印象をうけるので、今のままでもよいのでは。（全体として）誰もが読みやすい広報、配布物にするため市や学校からのものはUDフォントを使用してほしい。だいぶ読みやすくなります。あと、発達障がいの子に対する支援は手厚くしてほしいと思う。（40代・女性）
- ・ 市役所から、がん検診、健康診断などのお知らせを受けた時。ごみ収集などきちんと行われていることなど、たいへんありがたく思っております。日頃安心して暮らしていただけるのは、人権が尊重されているからだろうと感謝しています。（70代以上・女性）

- ・ 日本が複雑すぎて人権が尊重されていると感じにくい。精神的病になりやすい環境にいるので人権を尊重と問われてもピンときにくい。市単位でどうこうしてもできないことでできることをはっきり国に働きかけた方がよいと考える。(30代・男性)
- ・ もっと市民(国民)に人権に関する問題点を発して行くべき。どのようなことが人権問題に関わるのかを具体的に出さないと理解できていない人が大半だと思います。何処で誰がどのような形で旗を振っているのか知りません。奈良県で一番積極的な市民部、人権施策課になるよう頑張ってください。(50代・男性)
- ・ いろんな人権問題をわかりやすく身近なこととして広報いこまで漫画等にして取り上げるとよいと思います。(70代以上・女性)
- ・ 受動喫煙対策これからもがんばってください。ぴっくり通り内での喫煙は逃げ道がないためとても迷惑しています。生駒駅北側喫煙所は雨天時にATMの前で吸われることが不快です。屋根をつけると煙の逃げ道がさえぎられるというなら悩ましいですが(30代・男性)
- ・ 生駒市は若い人から高齢者まで女性が暮らしやすい街になってほしい。(70代以上・男性)
- ・ 生駒市が人権について調査をし、取り組み、前向きな姿勢、政策を考えていることに感銘を受けました。どんどんよくなって行く生駒市の未来に市民として希望が持てるようになって来たことを実感致します。世界各国何十カ国見て来ましたが、世界中みてもこの様に市民の人権を考える国と市は見当りません。すばらしいです。(70代以上・女性)
- ・ 差別のない住みやすいまちづくりを願います。(50代・女性)
- ・ 市主催の人権講座で感銘する話を聞いた時は充実した気持ちになり、生き方について考えます。固い、難しい話でなく、リラックスして聞ける人権講座をたくさん開いてほしいと思います。(70代以上・女性)
- ・ ここで書くべきことではありませんが、どこへ言うべきかわからなかったのです。近鉄「菜畑」駅が最寄り駅なのですが、エレベーターがなくエスカレーターも時間があったりして、ママさんや荷物がたくさんある人が苦勞しています。生駒は子どもの住みやすい社会や、高齢者の方にやさしい社会を目指しているのであれば、バリアフリー対応すべきでしょう。なぜなにも対応しないのか、疑問です。(30代・女性)
- ・ 行政レベルでのとりくみを希望します。弱者が安心して生活できるよう支援していける社会であってほしいと思っています。(50代・女性)
- ・ 人権に対する意識を高めるために研修や講演会を開催することも大切であるが、最も大切なのは、幼少の頃からの教育の積み重ねではないかと思う。教育現場で知識を教えるよりも、こうした人権意識を高める教育を日頃から取り入れることが大事だと思う。(40代・女性)
- ・ 何か問題が起こるとみんなで解決が大事。市や地方行政の協力も大事。子ども育て中の家々もだが、高齢になる人々の生活も大事にと、市でのサービスも希望します。たとえば、ゴミ袋、働き中は有料でも家族数減り年寄り夫婦には、安くしたり無料にしたりと。ゴミ代金が必要になり、かなりどの店舗でも売れているようす。まちのためには仕方ないが、年金生活になると心配。若者もだが、年輩組にも、長く市民税支払っている者への軽負担にと。ゴミや市民税、介護保険で厳しいとよく聞くので、本籍地に戻らない。住みやすい生駒市にしてください。(60代・女性)
- ・ 少しの困難があっても、日々健康で自由に体を動かせ、自分の意思で物事を決めて行動できることが当たり前になっている時は、「人権」など考えることなく過ごしている。一旦我が身に不都合がふりかかった時、はじめて我が身と周りのことに気づくことが多い。生まれて親や他の人の援助を受けないと生きていけない人、乳幼児、高齢者、障がい者は特に「人権」を守られなければならないと思っている。今は、格差が広い範囲におよび、社会的に守られなければならない人たちが数多くいることも確か。そのため政治家こそ真摯にそのことに目を向け、私利私欲に走ることなく心豊かに暮らせる生駒市にしてもらいたい。(60代・女性)

- ・ 家庭では、「自分がされて嫌なことは人にしない」と常に言っている。環境分野ではあるが、喫煙による数々の健康被害の問題を受けて、生駒市は、生駒駅周辺を禁煙にと取り組んでいるが、「人が健康に過ごせる権利」「きれいな空気を吸う権利」を重視し、生駒市全体を禁煙にするぐらいの取り組みをすべきだと思う。(40代・未記入)

## (17) アンケート

- ・ このようなアンケートが来た時に、特に気にせず生活ができていると振り返ることができたとき。どのような人も気にならないような生活ができるように、お願いします。(30代・男性)
- ・ 世界一列皆兄弟を聞かせていただいております。ですから差別に関しては何も言うことはありません。(60代・女性)
- ・ アンケートの紙のわりには封筒が小さい(40代・男性)
- ・ このアンケートが何かのお役に立つのかわかりませんが、紙のムダ、時間のムダになることがなく、結果を正確に集計し生駒市が集計結果からよりよい市になってくれるよう、お祈りいたします。集計し、いこまちに載せて終了、ということにはしないでくださいね。(20代・女性)
- ・ 問7～問16まで○は3つというのは少なすぎる。「選ぶ」という感じになってしまった。ほとんどに○をつけたいのに。多分、すべてはできないので優先順位をつけるためだと思うが、政治の場では、選ばれなかった項目は「問題なし」とする場合があるので、もう少し考えたアンケートにしてほしかった。(60代・女性)
- ・ このようなアンケートを自治体から受けたことがなかったので、このアンケート依頼がきた時点で市として取り組みに懸ける思いを実感した。いつか子どもをもった時に、人権を尊重できる人間であってほしいと思う。家庭内で、人権に関するニュースをみたり、他国との違いについて話したりすることで取り組みたい。公共の施設が様々な人を受け入れられるようになっていけばよいと思う。(配慮ある看板(案内)、相談窓口の開設、イベント、ワークショップの開催など)生駒市は図書館が魅力的だと思うので、そこを活かしてイベントをしたり、障がい者雇用をテーマにしたビジネスプレゼン、まちおこしプレゼン企画大会などを通して課題解決するための難しさや視点を実感できる取り組みもおもしろいかもしれない。(30代・女性)
- ・ 人権は大切だと思いますが、だいたいもう教育されて育った世代です。あえて伝えようとしても、知りたいと思う心がなければ伝わっていない。行政としてお金をかけてまでしても、ごく一部だけにか伝わりません。無理してたたきこまなくてもよいのかも。(30代・女性)
- ・ このような意見調査が行われていることを知ったとき(50代・女性)
- ・ このアンケートについて。ご主旨は大変すばらしく尊重されているものですがアンケート内容が複雑すぎて、多項目で選択するのに苦労しました。表記が抽象的で理解しにくい内容のものが多かった。もう少し簡略にして的を得た内容から選択したいです。10項目以上から3つを選択するなど労力と能力がいります。まずはこのアンケートをもとに今後活動されると思いますがアンケートや講演内容をもう少し平易にして頂けたらと思います。逆に平易な表現ほど内容が豊かになることもあると思います。(70代以上・女性)
- ・ アンケートの質問項目の設定が一方的、特定の視点に偏りすぎであり、勧誘尋問になっているように思われ、極めて不当である。各問題の質問には逆差別を懸念する視点からの質問項目が切り捨てられている。(40代・男性)
- ・ アンケートを記入していて。人権についてわかっているように思っていたのに何もわかっていないことがわかりました。(70代以上・男性)
- ・ なぜアンケートの実施をしたのか目的が不明。まずは生駒市としての考え、取り組みの説明が必要では。(60代・男性)

- ・ 回答項目に直接人権に関わりがないものが紛れている。項目間の均等性を欠き、また人権の理解を妨げる恐れがある。(20代・男性)
- ・ 今回のアンケートに答えながら、いかに自分が人権問題について知らないことが多いかということを実感しました。人権が尊重されていると特別に思ったことは無いですが、逆に人権が無視されていると感じた覚えもありません。それだけ人権に関する意識が薄いということなのか、自分でも答えが出ないです。今回のこのきっかけを機に、普段の生活の中での人権を意識してみようと思います。(30代・選択しない)
- ・ 今まで、普通に幸せに生活できたと実感できる時点で、私の人権は守られてきたんだなと思います。ただ、ひとつ間違えれば簡単に人権は侵害され、つらい立場に追いやられるということも、なんとなくだが認識しています。(40代・女性)

## (18) その他

- ・ 日頃、人権について問題意識をもって生活していません。人権が尊重されなければならない社会とはどのような社会なのでしょう。アンケートの課題となったそれぞれの内容についても、わざわざ問題提起することが問題に感じます。実体験がない私にとりましては、すべてにおいてもっとフリーに自由な社会であること、一人ひとりの人権は守られお互いを尊重できる社会があるのではないのでしょうか？今、どのような問題が生駒市において課題となっているのか？実生活を過ごしている私にはあまり実感がありません。高齢者となった私共ですが、健康に過ごし、幸福な日々を送っております。生駒の市民であることを誇りに感じております。(60代・女性)
- ・ 今まで生きてきて、自分の人権が侵害されていると思ったことはありません。これからも続けてくれるように願います。(50代・女性)
- ・ 日本人を意識すること、特に歴史をよく理解すること。(60代・男性)
- ・ 普段生活をしていて、「人権が尊重されている」とわざわざ実感する機会など無く、侵害されたと感じた瞬間しか意識していなかったことに気付きました。まだまだ社会には無意識のうちに人権を侵害してしまう人、されている人、意識的に人権を侵害する人々がはびこっています。おそらく、今回「この人権侵害はあるか」という質問に対し、「無いな」と思った項目に対する意識が私は低いのかなと思います。こうやって自己の人権に対する意識の有無が確認できたのはたいへんありがたく、とてもよい機会になったと思います。このような取り組みをこれからも続けていっていただけると嬉しいと思います。人権に対する意識を統一することは難しくとも、よく考えることのできる機会があるのはとてもありがたいことです。ただ、人権問題と騒がれるよりそっとしておいてほしい人々もきっといるでしょう。人権問題の対象と判定されるのをよく思わない人々もいるでしょう。そういった存在が多くいることもわかってほしいです。(10代・女性)
- ・ 基本的人権を制限、制約するような憲法改定の動きがあることが大問題だ。マスコミの報道姿勢（興味本位、視聴率対策を思えるような過剰なプライバシー侵害、あとはほったらかしの報道）＝これこそが問題。(60代・男性)
- ・ 個人の意思が尊重されているとき。家庭内では自分の進路決定の際に家族から強要されることはまったくなく、すべて自分で決めることができた。外国人にしても障がい者にしても、その人本人がある程度はやりたいことができる環境が必要だと思う。具体的な対策ではないが、差別や人権侵害を受けることが少ない人たちが少しでも譲り合うことが大切だと感じた。(10代・男性)
- ・ 国のトップが人権を損なうような言動が多く、全国に発信されているような今の状態では、日本の民主主義は非常にあぶないと思う。やはり、現実問題として、法律の整備が望ましいと思う（抜け道がないような）。(60代・男性)

- ・ 人権に対する意識や理解が深まることは非常によいことではあるが、人格のない者ほど、やたらと人権を主張したがる傾向がある反面、本当に困っているにもかかわらず声を上げることができていない弱者を救済する仕組みを構築することが急務だと考えます。(50代・男性)
- ・ 人権、人である以上、これを侵害されることは不条理なことであり、これを是正し、ゆがみや歪みなき社会にしていく取り組みは、弛まぬ取り組みがあつてのこと。行政が取り組む必要を感じます。広島から転勤でこちらに来ましたが、広島の前爆記念、8月6日をあまり取り上げられない空気に、地域の差を感じました。逆に、人権など差別をなくそうという看板やポスターが多いなど感じましたが、具体的に何かを(違和感)感じたことはありません。ただこちらでは地域で格差のようなものがあるとちらりと聞いたくらいです。大阪市に関してはよく聞きます。東北の放射能汚染、原発の再稼働、核のゴミ、そこの住んでおられた人々が苦しんでいるだろうと思われる。生駒市は、再生エネに積極的に取り組んでおられると見受けられ、さらに加速されることを望みます。(50代・女性)
- ・ もっと人権尊重が必要であるということが身につく環境にする必要があると思う。人権尊重の大切さが身につけていなかったら、後追いでしかないのでは。(60代・男性)
- ・ 日本国憲法の基本は①基本的人権の尊重②国民主権③平和主義ですが、基本的人権は、誰もが自由に幸せに生きることを邪魔されない権利、つまり生まれながらにもっている権利と位置づけされております。具体的には平等権、自由権、社会権、請求権、参政権などがありますけれども、これらに違反して社会問題になって大きなニュースとして伝えられる日がたびたびあつて、基本的人権の尊重がどこかに忘れ去られている昨今であります。中学生の頃に憲法を習った記憶がありますが、成長するにつれ、必要性が増大しますので、日本国憲法を再勉強する機会を設けて、人権教育の一環として取り上げることが必要なのでは。と思うのだが。人種を問わず、お互い安心と安全の中で、平和に生きられる時が、人権が尊重されていると感じる時と、私は思っております。(70代以上・男性)
- ・ 国会での答弁を見て、これからもっと人権の意識は薄くなり、弱肉強食の社会になっていくのだろうと不安を感じている。社会の模範となるべき人(政治家、官僚)が嘘つきではどうしようもないですね。(60代・女性)
- ・ 人権が侵害されたと感じることなく生活できていることが、尊重されている証だと思います。今、法を犯していないのに生きることが辛い方がいらっしゃるのなら、何かしらの人権が侵害されているのかもしれない。そういった方々のお話に耳を傾けることで、今後の課題が見えてくるように思います。(40代・女性)
- ・ 自分がやりたいことができているとき尊重されていると感じる。初等教育で人権問題を学んでいるので、再学習する必要性はない。(20代・男性)
- ・ 審判的な態度をしないうで受け入れられた時。(50代・男性)
- ・ 三審制などのように自ら身を守ることを自らで決めることができる時。国や都道府県、市町村がどれだけポスターやインターネットで、人権問題について訴えても、人が見なければ訴えても意味がないと思うので、HPなどに記載することも重要だが、駅など人が多い場所で目に見えるように訴えかけるのが、必要だと思う。例) CM、道から見える看板、駅前のポスターなど。人間は自ら見ようとするよりも、自然に目に入ってくる方が情報量が多いと思う。そのため、各人で見てもらうより、見せるようにすれば「人権」について多少なりとは関心が高まると思う。(20代・男性)
- ・ この生駒市に引越ししてから一度も自分が、人権を侵害されていると思ったことがないので、よい所だなと思っています。(70代以上・男性)
- ・ 尊重が過ぎると逆差別になることも感じます。(50代・女性)
- ・ 一人ひとりのお互いの考え方を変えないと人権問題は解消の方向には向かっていかないとはいけません。(20代・男性)



- ・ 政治家のモラルの低さ。DV 被害に女性が気づけない社会。嫌なことに声を上げられない社会、議員の定数も女性が少なすぎる。暮らしになっているのは女性であるのに、男性議員ではそこがわからない。高齢化、一人暮らし、不安が多すぎる。地域での助け合い。これしか方法がない。地域自治会への援助、活性化が重要だと思う。このアンケートでも女性差別、モラルの低さがわかります。私のような厳しい意見をする人間を排除しないでください。日本は今、前代未聞の差別社会です。そこで男性もとまどっているのは事実。このアンケートにも人権意識の低さがわかります。生駒市民として残念ですが、選んで頂けて幸いです。(50代・女性)
- ・ ①丁寧な対応をしてもらえた時。②あった出来事や、ニュースについて話題に出し、話しやすいようにする。(40代・女性)
- ・ 人生は自己責任。(70代以上・男性)
- ・ 地域とのつながりがまったくないので、他人の人権も自分の人権もよくわからない。(50代・女性)
- ・ 職員の方、お仕事ご苦労さまです。今後とも、情熱をもってお仕事に取り組んでください。少しでも社会がよくなることを願っています。善意の隣人には一言のお礼も述べられないお母さんは、困ったものだと思います。社会や、人の助け合いを分断しますね。(60代・男性)
- ・ プライバシーの保護等が過剰に主張されていて、普通の生活やコミュニケーションや地域のつながりが阻害されてしまっていると思う。(40代・男性)
- ・ 地域においては、自治会への若者の加入が減少。老人会は会員が減少し、新規会員が入会せず、消滅してくる。これらの原因は、情報過多で社会において個人で生活できるようになってきていること。つまり、協働や連帯がなくても単独で生きていける。会としては、役員などの煩わしい責任を負わされるのが嫌だという個人が増えている。今格差社会が進み、個人・利己主義が横行する社会となっている。集団内における負け組の無気力、虚無感が孤立、孤独死の増加原因であると思う。人は生まれたところで一生生きていける社会が最高だと思う。(60代・男性)
- ・ 日本は諸外国に比べ言論・行動が自由であり、若者は海外へ行き、百聞は一見に如かずを体験してはじめて日本のよさがると思うので、大いに海外へ行くべきである。(井の中の蛙)ではなく、見聞を広めるべきである。(70代以上・男性)
- ・ 保護も必要だが、過剰にならないことも必要。法整備も必要だが、まず全国民に日本国憲法を学ばせた後に個別の問題を解決していかなければ、やっつけ仕事にしかならないと思う。(50代・男性)
- ・ 自分が幸福を感じた時が一瞬でもあれば、人権を尊重されていると思う。(20代・女性)
- ・ 少数者にスポットを当てること、人権も大切ですが、正しく生活している人々の権利も大切と思います。少数者のために過剰反応して、大多数が不利益を受けないことを、合わせて考えていってほしいです。国・市町村の発展が大切。豊かな所には争いは減ると考えますので、発展の停滞をしたり、ムダな設備費、行事が増えないようにしてください。(40代・男性)
- ・ 個々が考える力をつけることが大事であって、人権は学校で教えられるものではありません。ましてや、強制されるものであってはならないと思います。以上。(50代・男性)
- ・ 何不自由なく生活できている時。困ったことがあれば、それを助けてくれる人がいる時、人権が尊重されていると思う。そのような社会にするためには、小さい時から人を思いやる心をはぐくむことが大切であり、家庭・学校での教育、マスメディア等により、正しい情報が世の中に広められることが大切だと思う。(50代・男性)
- ・ 信頼されていると思えた時に尊重されていると思える (30代・女性)
- ・ 近所であることないこと広げられ数年に渡り嫌がらせを受けてきました。人権ってなんなんでしょう。(40代・男性)
- ・ 自分のまたは家族のプライバシーが守られているとき。また相談ができる場所があるとき。(60代・女性)
- ・ 人権について知っているつもりでしたがまったく理解できていないことがよくわかりました。ゆっくり勉強したいと思います。(60代・男性)

- ・ 人権問題にかこつけて自分がしていること以外の問題についての差別発言をする人がいることが残念。一人ひとりがごく普通に皆と付き合いをしていけば人権問題が起こらないと思う。しかし実際は根が深く見えない部分が多すぎる。(50代・男性)
- ・ 昔から比べるとかなり人権問題は進んで来たと思えるが最近ではマスコミがひどい。古くから臭いものには蓋とって見えなくしてきているが見えなくしすぎている。よいことも悪いこともすべて情報提供することがいろいろな意見が得られると思う。差別は人への尊敬か思いやりが欠けて出てくることであり、また人間として生きていく上で何かしらの不平不満は出てくるものである。それらすべてを無くすことは不可能であり少なくともどこかでしわ寄せが出てくるようになる。隔離してさわらせないようにして人の知識から消すことができても雑草のようにまた生えてくるのです。むしろ差別しないようにしましょうと言っていることで差別という認識が生まれてくるわけで差別とは何ぞやということについてよいことも悪いこともすべて情報を提供し皆で議論することがよいのではないかと思う。The RED Pill などの少数意見の映画の上映(40代・男性)
- ・ 私どもは高齢者の家族ですが子ども食堂などの風景をテレビ等で拝見しますと胸が痛みます。DV被害等でひとり親の世帯が多いのでしたらこれは本当に困ったことだと心配しています。的外れなことを書いてしまいましたでしたが若い方たちが希望の持てるようになってほしいと思います。(70代以上・女性)
- ・ 社会に必要とされていると感じたとき(40代・女性)
- ・ 近年人権、個人情報とさわぎすぎ。今は何もかも同じ状況でもっと普通の常識的考えでよいと思う。(60代・男性)
- ・ トップが堂々と嘘をつきそのとりまきも全員嘘をつく。そのような国、地方自治体の職員が記録したこと実もすべて否認。その職員の人権無視。一方道徳教育を推進。そのようなバカな話がありますか。子どもには第一に嘘をつかないことを繰り返し教えました。今の日本の現状は本当にひどい状態です。事実の一つ。正しいことは正しい。間違っていることは間違っていました、すみませんと言える社会が必要だと思います。(未記入・未記入)
- ・ 人権侵害が起きていてそれを回復するために活動している人のことが正当に報道されているのを見たとき。例えばスポーツ部員の会見を正当なものとして報道されているTV等をみると日本は正常と感じる。一方でセクハラなどの問題に理解を示さない。自身は具体的な活動をするには無いが家庭内や職場では課題として取り上げている。人権問題は長い時間をかけてでも人々の意識を向上させていくべきものである。教育、広報など行政での取り組みが重要と考える。また絶えず努力をし続けたいといつの間にか毀損されてしまうものなので特に地域の行政には期待することは大きい。(50代・男性)
- ・ 人権が尊重されていると普段から意識して生活をしていないため、正直難しい質問と感じました。ですからこそ人権が尊重され侵害もされていないとも感じました。(40代・男性)
- ・ 人権という名の下に何か特権をもっているような言動が見られ、少々逆差別的なところがある。人権があるなら責任もあるのでは。(60代・男性)
- ・ すべての人々が生命と自由を確保しそれぞれの幸福を追求する権利、人間らしく生きる権利、生まれながらにもっている権利、日常の思いやりの心によって守られなければならない。国民一人ひとりには憲法によって侵すことのできない永久の権利として基本的人権が保証されていて十分に尊重されなければならない。すべてが理想通りに平等にできるわけではない。人権の尊重が大切であることが一人ひとり生活するうえで重要である。(60代・男性)
- ・ 障がい者や女性、子どもが差別されたりするのはおかしい。これらの人が住みやすい社会をつくらしてほしい。これらの人々への支援などもう少し考えなければならない。政治家の人はそのようなのを考えてほしい。(10代・女性)

- ・ 人権が軽視されていると思うようなことばかりが目立つように思います。自己の権利や自由を主張しすぎるがために、他人の権利や自由を奪っているのではないかと思います。権利や自由の裏側にある義務や責任、マナーやモラルといった観点が軽視されているがためではないでしょうか。市民一人ひとりがしっかりと自己の義務や責任を果たし、さらにはマナーやモラルについて考える様になれば自然と人権が尊重される社会になるのではないかと思います。行政側には声高に権利だけを主張している人と、本当に困っている人の見極めと、毅然とした対応をお願いします。(40代・男性)
- ・ 人権が尊重されていると思うとき。選挙に行ける時(参政権)20歳以上(18歳)なら誰でも行くことができるから。他には人権問題について深く考えずに過ごしています。いつも開かれている市役所の相談窓口があると思うだけでも心強く安心感を持ちます。質問の内容がむずかしく、答えるのに時間がかかりました。遅くなってすみません。(70代以上・女性)
- ・ 75歳なので人権問題といえば同和教育が思い出されますが、現在は人権の問題が多方面に広がりすぎて解らないです。(70代以上・男性)
- ・ 人権が尊重されていると思うときは、例えば外で歩いていても障がい者でも通りやすく道が整備されていたり、日常でどの人でも過ごしやすい環境が整えられていると気づいたときです。自分が実際に目にして人権が尊重されているとわかる機会というのは少ないですが、社会的弱者がどう扶助されているかなどや男女の権利を平等にするための取り組みを理解することは、人権について関心を持つために必要であると思います。一人ひとりが人権に関心をもつためには、人権平等についてまず考える機会をつくっていくことが大事であるのではないのでしょうか。(20代・女性)
- ・ 人権が尊重されていると思う時は。電車にある女性専用車両、優先座席(点字ブロック等々)。職場の育児休暇、介護休暇制度、障がい者雇用制度等。駐車場にある障がい者専用スペース。公的な生活保護受給制度、公共施設にある障がい者専用トイレやスロープ等の設備。人権について、家庭・地域で取り組んでいること。自治会で人権委員を設け、市の人権学習への参加による啓蒙活動。人権問題について。国や自治体の公的職務に従事している人、教育者、政治家等、一定の権限(権力)を有する大人が、真剣にこの問題に向き合うべきと感じる。公的な場で平気で嘘をつく(組織を守るためか)のは、子どもらの教育上、よろしくないと思う。今の日本の制度では、個人より組織や権力者が優先(優遇)されているように思う。平等な社会だとも思うが、この平等であるが故に差別を生んでいるように思う。もっと個性を重視した社会になるような仕組みが必要と感じる(義務教育により平均的な人材を育てるのもよいが、より専門性の高い人材教育の充実等)。(40代・男性)
- ・ 日本人全員、島崎藤村の「破戒」を読むべき。(70代以上・男性)
- ・ 「人権について」ということなら、一番にやめるべきは、戦争です。人権問題の中に入れてほしい、最もひどい人権侵害だと思う。(50代・女性)
- ・ 収入が少ないため、生活に補助が少しでも考慮されていることは、ありがたいです。(40代・女性)
- ・ 責任なき権利の主張が普通にある。人権の問題の以前の話。でも、これは説明や話をして理解を得るのは難しいと思う。なので、成功者(成功者とは自己責任で解決した人、もちろん、周りの人にも協力を得ていると思うが)に話してもらうことで、前向きに考えてくれる人が増えると思う。問題はたくさんあると思われませんが、できるだけ簡単に取り上げてほしい。素直な子どもと親をからめた環境で考える場をつくってほしい。たぶん親は、大人だけの環境で学ぶよりも、子どもの意見や感想を聞く方が、大きな刺激を受けるはず。人権問題ってまだまだわかりません。ごめんなさい。取り上げられているのは大変だと思います。ありがとうございます。(40代・男性)
- ・ 私は規則を守っている限り、その人の人権は保証されるべき、と考えます。つまり、法や規定、もしかしたらマナーも含まれるのかもしれませんが。これを守っている限り、会社や自治体、国はその人を守らなければなりません。逆に言えば規則を守らない人にまで人権を“手厚く”保証する必要は無いということです。もちろん最低限の権利までも侵害するものであってはならないのは言うまでもありませんが。(60代・男性)

- ・ 安全で自由な雰囲気、市民も外国からの居住者も安心して住めるまち。(60代・女性)
- ・ 常に相手の立場を尊重し、理解した対応ができ、思いやりを感じる時。(60代・男性)
- ・ 国と国およびグループ、会社がもっとルールを守り、してはいけないこととやってもよいことをもっと知ることが必要ではないか。(70代以上・男性)
- ・ 弱い立場にあるから助けなければならない、という考え方をしている人がいるが、一人で少しでもがんばってやっていけるような仕組みをつくってあげた方がよい気がする。(20代・男性)
- ・ 根拠のない話だけで他の人に話さない。(50代・女性)
- ・ 人権が尊重されていると思うときは特になく、家庭や地域で取り組んでいることも特には無いと思っています。(10代・男性)
- ・ 若者が関心を持つような工夫をしてください。すべては若者にかかっている。(20代・男性)
- ・ 人権に関する法律のところで、名称は知っているが内容まで知らないというものが、私も他の方も多いと思うので、国や県・市が周知させることが大切ではないかと思う。(50代・女性)